

特別史跡

一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 20

第 82・102・104・125 次調査

2 0 2 2

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

序 文

今回の報告書は、一乗谷川左岸に立地する城戸ノ内町字齊藤・平井に所在する二つの武家屋敷跡（第82・102・104次調査）と月見槽跡（第125次調査）の成果をまとめたものです。

第82次調査では、南側の第24次と東側の第25次調査区と一体となり、土塁で区画された武家屋敷の様相が明らかになりました。遺構は、土塁石垣、礎石建物、土蔵に加え、鍛冶関連の建物と鍛冶炉、複式構造のカマド等が見つかり、これまでの近接する調査区の成果を再検討すると、庭や馬匹に関連する施設を備えた屋敷と考えられます。全体的に遺物量が少ない中において、「慶尚」の文字を入れた朝鮮象嵌壺は注目されます。

第102・104次調査区は両地区が一体となって、土塁で区画された大規模武家屋敷であったことが明らかになりました。屋敷の規模と字名「齊藤」から、朝倉義景の側室である小少将の父、斎藤兵部少輔の屋敷である可能性が指摘されます。

この内、第102次調査では、遺構は少ないものの、これまでの調査成果と合わせて、南の矩折部から北にのびる幹線道路を確認することができました。遺物は、土師質皿と中国製陶磁器に加え、釘、和鋏、双鶴菊菊文花鏡など、武家屋敷の特徴を示す遺物が出土しました。

また、第104次調査では、武家屋敷の中心部に相当し、北側で大型石積施設、西側で大規模礎石建物、南側で溝に区画された礎石建物や土蔵などが確認されました。遺物は大量の陶磁器に加え、漆塗りの兜髹、大袖、草摺などの甲冑類が良好な状態で出土し、貴重な成果を得ることができました。

第125次調査では、月見山の尾根と山裾を発掘調査しました。調査面積は限定的でしたが、尾根上で土塁や堀、山裾で庭の遺構の一部を確認することができました。今後の追加調査に大きな期待が寄せられます。

本書によって示された武家屋敷の構造や武士の暮らしが今後の戦国時代研究に寄与するものとなれば幸いです。

最後に、本書の作成にあたり、文化庁をはじめ関係機関、地元の皆様から多くのご支援をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。

令和4年3月

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
館長 西澤弘純

例 言

- 1 本書は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館が特別史跡・一乗谷朝倉氏遺跡(福井県福井市)における計画的な発掘調査の成果を報告したものであり、第20冊目にあたる。発掘調査事業概要は「1. 事業概要」で報告する。
- 2 本書で報告する調査は、国庫補助事業として、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館が平成5年(1993)度から同19年(2007)度までに実施したものである。各調査次の発掘調査期間、主な担当者は下記のとおりである。
第82次 平成5年(1993) 4月1日～同年8月22日 吉岡泰英 月輪 泰
第102次 平成10年(1998) 4月1日～同年12月20日 南洋 一郎 佐藤 圭 宮永 一美
第104次 平成11年(1999) 4月8日～同年12月24日 南洋 一郎 水村伸行 宮永 一美
第125次 平成19年(2007) 10月1日～同年12月20日 川越光洋
- 3 本書を刊行するための出土遺物整理作業は、平成30年(2018)度から令和3年(2021)度まで福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館で実施した。
- 4 本書は、発掘調査の記録類をもとに、鈴木篤英(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館主任)が編集・作成を担当した。木製品の樹種分析については渡邊英明(同館学芸員)が担当した。
- 5 本書で、各調査次の発掘調査・整備事業概報(以下、概報と略)や、これまでの成果発表の中で齟齬がある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。
- 6 本書の遺構写真撮影は発掘調査担当者による。遺物写真撮影は鈴木が担当した。その他、本書作成に関わる業務は下記に委託した。
航空写真測量業務：アリア航測株式会社 遺構全体図デジタルトレース業務：株式会社エヌ・エム調査設計
遺物保存処理業務：元興寺文化財研究所 X線遺物撮影業務：株式会社吉田生物研究所
- 7 写真図版・挿図・表の遺物番号は符合する。写真の縮尺は不同である。
- 8 遺構の検出については、上層遺構を検出・記録した後、上層遺構を回避する形で下層遺構の検出・記録を行った。よって、各調査次の遺構全体図は、上層遺構と下層遺構の一部が混在した形で表記している。調査区全体の層位断面は現地でも保存しているが、挿図中からは除外した。
- 9 本書における水平レベルの表示は海拔高(m)を示し、方位は座標北を用いた。挿図中の方位、座標は日本測地系国土地院直角座標第VI系を使用した。挿図中の標高や座標の数値については、測量全体図から算出した。建物の規模については、柱の中心を想定して計測し、石積施設、井戸、溝の規模は内寸で計測した。今回の報告書作成においては、調査次の記録類の整合性を得るため、遺構や遺物の性格や出土地点については既報告を参考にしつつも、改めて再整理、再検討を行った。その結果、1次記録資料の遺物台帳や遺物実測図に記載されたグリッドは、第102次調査においては北・東方向へ1グリッド分ずれ、第104次調査においては東へ1グリッド分ずれて記載されていることになり、これらの資料については今後の扱いに注意されたい。
- 10 本書で用いた遺構の略記号は次の通りである。
SA:上層石垣、SB:建物、SD:溝、SE:井戸、SF:石積施設、SK:土坑または土坑群、SI:門、SS:道路、SV:石垣・石列、SZ:暗渠、SX:石敷遺構または不明遺構、SG:庭、X:遺物出土地点、P:埋藏土坑
- 11 本書に掲載した調査に関する図面・写真および遺物は、一括して福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館に保管してある。
- 12 発掘調査では、地元・地権者の方々の参加・協力を得た。遺物整理作業は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館の整理作業員(令和2年度からは会計年度任用職員)が行った。

目 次

I. 事業概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法および組織	1
3. 発掘調査および本報告書作成年度における組織	3
II. 調査の概要と経過	
1. 調査の概要	5
2. 調査日誌	8
III. 第 82 次調査【城戸ノ内町字斉藤】	
1. 遺構の概要	11
2. 第Ⅰ区域	12
3. 第Ⅱ区域	14
4. 第Ⅲ区域(第 25 次調査)	16
5. 第Ⅳ区域(第 24 次調査)	18
6. 遺物	23
IV. 第 102・104 次調査【城戸ノ内町字斉藤】	
1. 遺構の概要	47
2. 第Ⅰ区域(第 102 次)	49
3. 第Ⅱ又城(第 102 次)	50
4. 第Ⅲ区域(第 104 次)	52
5. 第Ⅳ区域(第 104 次)	55
6. 第Ⅴ区域(第 104 次)	57
7. 第 102 次調査遺物	61
8. 第 104 次調査遺物	77
V. 第 125 次調査【城戸ノ内町字斉藤・八地谷・雲正寺(月見櫓地区)】	
1. 遺構の概要	125
2. 遺構	126
3. 遺物	128
V. ま と め	
1. 第 82 次調査	131
2. 第 102・104 次調査	131
3. 第 125 次調査	132

写真図版目次

- PL. 1 第 82 次調査 城戸ノ内町字斉藤
(1)第 82 次調査区遠景(南から)
(2)第 82 次調査区遠景(東から)
- PL. 2 第 82 次調査第Ⅰ区域 城戸ノ内町字斉藤
(1)第Ⅰ区域遠構全景(西から)
(2)第Ⅰ区域遠構全景(北東から)
- PL. 3 第 82 次調査第Ⅰ区域 城戸ノ内町字斉藤
(1)第Ⅰ区域遠構全景(南から)
(2)第Ⅰ区域遠構全景(北から)
- PL. 4 第 82 次調査第Ⅰ区域 城戸ノ内町字斉藤
(1)SA4260、SD4269、SX4315(西から)
(2)SB4274、SX4316・SK4317(東から)
(3)SX4316 羽口(東から)
(4)SX4316(東から)
(5)SX4303(北から)
(6)SX4303 南北断面(西から)
- PL. 5 第 82 次調査第Ⅰ区域 城戸ノ内町字斉藤
(1)SK4309・4313(東から)
(2)SX4310～4313(東から)
(3)SX4310・4311、SE4277(西から)
(4)SE4276(西から)
(5)SX4280(西から)
(6)SX4281(西から)
- PL. 6 第 82 次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字斉藤
(1)第Ⅱ区域遠構全景(南から)
(2)第Ⅱ区域遠構全景(南から)
- PL. 7 第 82 次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字斉藤
(1)第Ⅱ区域遠構全景(北から)
(2)第Ⅱ区域遠構全景(北から)
- PL. 8 第 82 次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字斉藤
(1)SA4260、SV940、SD4268(東から)
(2)SD4268、SZ4319(西から)
(3)SZ4319(西から)
(4)SD4268・4270、SV940・4263(北西から)
- PL. 9 第 82 次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字斉藤
(1)SB4273(東から)
(2)SB4273(南から)
(3)SB4273(西から)
(4)SX4291・4292、SD4271(西から)
(5)SD4271(西から)
(6)SD4271・4272(南から)
(7)SD4272 西端(東から)
- PL. 10 第 82 次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字斉藤
(1)SD4271・4272、SX4289・4290・4302、SV4266(東から)
(2)SD4271・4272(東から)
(3)SD4272(西から)
- PL. 11 第 82 次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字斉藤
(1)SX4290(北から)
(2)SX4289、SV4266、SD4271(東から)
(3)SX4279(南西から)
(4)SE4275(西から)
(5)SX4299、SB4300(北西から)
- PL. 12 第 82 次調査第Ⅱ・Ⅲ区域(第 25 次調査区)
城戸ノ内町字斉藤
(1)X001:T28 土師器皿(西から)
(2)X002:SB4273 土師器皿(北から)
(3)第Ⅲ区域遠構全景(北から)
- PL. 13 第 82 次調査第Ⅲ区域(第 25 次調査区) 城戸ノ内町字斉藤
(1)短折部SA892・893(北から)
(2)短折部SA892・893(東から)
(3)SD901、SZ4319(北東から)
(4)SD901、SZ4319(東から)
(5)短折部SA893(南から)
(6)短折部SA892、SZ914(西から)
(7)SZ914(南から)
- PL. 14 第 82 次調査第Ⅳ区域(第 24 次調査区) 城戸ノ内町字平井
(1)第Ⅳ区域遠構全景(北東から)
(2)SA265、SS260(北から)
(3)SA265、SS260(南から)
- PL. 15 第 82 次調査第Ⅳ区域(第 24 次調査区) 城戸ノ内町字平井
(1)第Ⅳ区域遠構全景(東から)
(2)第Ⅳ区域遠構全景(北西から)
- PL. 16 第 82 次調査第Ⅳ区域(第 24 次調査区) 城戸ノ内町字平井
(1)SA857、SB831・832、SK886(南から)
(2)SR831・832、SK886(東から)
(3)SI821(東から)
(4)SX854(南から)
(5)SE849(北から)
(6)SF851(南から)

- PL 17 第 82 次調査第Ⅳ区域(第 24 次調査区) 城戸ノ内町字平井
 (1)SB837・SG829(南から)
 (2)SB837・SG829(西から)
- PL 18 第 102・104 次調査 城戸ノ内町字斉藤
 (1)第 102・104 次調査区遠景(南から)
 (2)第 102・104 次調査区遠景(南東から)
- PL 19 第 102・104 次調査 城戸ノ内町字斉藤
 (1)第 102・104 次調査区遠景(南東から)
 (2)第 102・104 次調査区遠景(東から)
- PL 20 第 102・104 次調査 城戸ノ内町字斉藤
 (1)第 102・104 次調査区遠景(南から)
- PL 21 第 102 次調査第Ⅰ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)第Ⅰ区域遺構全景(北から)
 (2)第Ⅰ区域遺構全景(北西から)
- L 22 第 102 次調査第Ⅰ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)第Ⅰ区域遺構全景(北から)
 (2)第Ⅰ区域遺構全景(西から)
- PL 23 第 102 次調査第Ⅰ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)SX4758(北東から)
 (2)SD4755・4756(北東から)
 (3)SE4811(北東から)
 (4)SE4751(西から)
 (5)SA893・4760、SI4750、SD4752・4753、SX4765、SE4751(東から)
- PL 24 第 102 次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)第Ⅱ区域遺構全景(北から)
 (2)第Ⅱ区域遺構全景(東から)
- PL 25 第 102 次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)SA4763、SS260(北西から)
 (2)SA4760・4763、SS260、SX4761(北から)
 (3)SA4760・4763、SS260、SX4761(南から)
- PL 26 第 102 次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)SB4767(北から)
 (2)SI4762(西から)
- PL 27 第 104 次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)第Ⅲ区域遺構全景(北東から)
 (2)第Ⅲ区域遺構全景(東から)
 (3)SS260、SA4780(南から)
 (4)SS260、SA4780(北から)
- PL 28 第 104 次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)第Ⅲ区域遺構全景(北から)
 (2)第Ⅲ区域遺構全景(北東から)
 (3)第Ⅲ区域遺構全景(南東から)
 (4)第Ⅲ区域遺構全景(東から)
 (5)第Ⅲ区域遺構全景(北東から)
- PL 29 第 104 次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)SA4783(南東から)
 (2)SA4783(北西から)
 (3)SA4781(北東から)
- PL 30 第 104 次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)SA4781・4782、SS260(南から)
 (2)SI4817(東から)
 (3)SI4817(西から)
 (4)SI4817(南から)
 (5)SI4816(西から)
 (6)SI4816(東から)
- PL 31 第 104 次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)SD4809(南東から)
 (2)SD4808(東から)
 (3)SD4810(南西から)
 (4)SZ4845(北東から)
 (5)SZ4845(北西から)
 (6)SZ4844(西から)
- PL 32 第 104 次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)SF4813(南西から)
 (2)SF4814(西から)
 (3)SF4815(南西から)
 (4)SF4815(南西から)
 (5)SX4834(東から)
- PL 33 第 104 次調査第Ⅳ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)第Ⅳ区域遺構全景(北東から)
 (2)SD4805・4848、SK4819(東から)
 (3)SD4848、SX4835(南東から)
 (4)SX4835(南から)
 (5)SB4790(南から)
- PL 34 第 104 次調査第Ⅳ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)X001-003:SD4848 甲冑出土状況(南西から)
 (2)同(北西から)
 (3)X001:草摺 401-405(南東から)
 (4)X002:大櫓 406-409(東から)
 (5)X003:兜籠 397・398(北東から)
 (6)X004:SD4848 草摺 416(北東から)
 (7)X005:SD4805 兜籠 399・400(西から)
- PL 35 第 104 次調査第Ⅴ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)第Ⅴ区域遺構全景(南東から)
 (2)第Ⅱ区域遺構全景(東から)
- PL 36 第 104 次調査第Ⅴ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)第Ⅴ区域遺構全景(南西から)
 (2)SB4789(北から)
- PL 37 第 104 次調査第Ⅴ区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)SB4786(南西から)

- (2)SB4786(南西から)
 (3)SB4786(南東から)
 (4)SB4846・4847、SD4792・4793・4765・4850(南西から)
- PL.38 第104次調査第V区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)SD4797・4798・4801、SB4789(西から)
- PL.39 第104次調査第V区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)SD4798、SZ4843(西から)
 (2)SD4794～4796(西から)
 (3)SD4794～4796(南から)
 (4)SD4753・4792・4765、SF4826・4827(西から)
- PL.40 第104次調査第V区域 城戸ノ内町字斉藤
 (1)SE4812(西から)
 (2)X006:SB4789 板材(北から)
 (3)X007:SD4793 土師器皿(北から)
- PL.41 第125次調査 城戸ノ内町字斉藤・八地谷・雲正寺
 (1)第125次調査区涼景(南東から)
 (2)1トレンチ(北東から)
 (3)1トレンチ南西端石組遺構(北から)
 (4)2トレンチ(南から)
 (5)2トレンチ(南東から)
- PL.42 第125次調査 城戸ノ内町字斉藤・八地谷・雲正寺
 (1)3トレンチ設定(北から)
 (2)3トレンチ北端断面(南から)
 (3)3トレンチ(北東から)
 (4)3トレンチ(南から)
- PL.43 第125次調査 城戸ノ内町字斉藤・八地谷・雲正寺
 (1)4トレンチ設定(南西から)
 (2)4トレンチ(南西から)
 (3)5トレンチ西端(西から)
 (4)5トレンチ東端(東から)
 (5)6トレンチ設定(西から)
 (6)6トレンチ東端(西から)
- PL.44 第125次調査 城戸ノ内町字斉藤・八地谷・雲正寺
 (1)6トレンチ(南東から)
 (2)6トレンチ(南から)
 (3)6トレンチ東端(東から)
 (4)6トレンチ東端(南から)
 (5)8トレンチ(南東から)
 (6)9トレンチ東端(南東から)
 (7)9トレンチ(南西から)
- PL.45 第82次調査 第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器
 (1)第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器
- PL.46 第82次調査 第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器
 第Ⅰ区域遺構出土土器
 (1)第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器
 (2)SA4260 出土土器
- (3)SA4260、SB4274、SE4277 出土土器
 (4)SK4309 出土土器
- PL.47 第82次調査 第Ⅱ区域遺構出土土器、土製品
 金属製品
 (1)SB4273、SX4309・4290 出土土器
 (2)SX4288、SF4278 出土土器
 (3)SE4275・SB4273 出土土器
 (4)SD4270 出土土器
 (5)SD4272 出土土器
 (6)SD4271、SA893 出土土器
 (7)土錘、土製円盤、竊羽口
 (8)鉄錐、鉄釘、火箸、筒金具、幹、笄
- PL.48 第82次調査 金属製品、石製品、木製品、銭貨
 (1)笄、鉄錐、彈丸
 (2)小札
 (3)砥石
 (4)バンドコ、茶臼
 (5)蓋、漆器端、折敷
 (6)銭貨
- PL.49 第82次調査 金属製品
 第102次調査 第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器
 (1)銭貨
 (2)第Ⅰ区域包含層出土土器
- PL.50 第102次調査 第Ⅰ・Ⅱ区域遺構出土土器、土製品、金属製品、石製品
 (1)SB4776 出土土器
 (2)SI4750 出土土器
 (3)SD4752 出土土器
 (4)SD4753 出土土器
 (5)SD4755 出土土器
 (6)SD4755、SX4759、SA4763、SI4762 出土土器
 (7)SS260 出土土器
 (8)土製円盤、形象品
 (9)銅鏡
 (10)和鉄、兜飾金具、彈丸
 (11)駒石、砥石、石硯、茶臼、バンドコ
- PL.51 第102次調査 石製品、銭貨
 第104次調査 第Ⅲ区域包含層出土土器
 (1)獅子・狛犬
 (2)銭貨
 (3)表土、第Ⅲ区域包含層出土土器
- PL.52 第104次調査 第Ⅲ～Ⅴ区域包含層出土土器
 (1)第Ⅲ区域包含層出土土器
 (2)第Ⅳ区域包含層出土土器
 (3)第Ⅴ区域包含層出土土器
- PL.53 第104次調査 第Ⅲ・Ⅳ区域遺構出土土器

- (1)SA4782 出土土器
 (2)SA4784 出土土器
 (3)SA4783、SS260、SA4760・4780 出土土器
 (4)SI4817、SD4808 出土土器
 (5)SI4816 出土土器
 (6)SF4813 出土土器
 (7)SF4815 出土土器
 (8)SX4834・4842 出土土器
 (9)SX4840、SB4790 出土土器
- PL.54 第104次調査 第IV・V区域遺構出土土器
 (1)SD4806 出土土器
 (2)SB4788 出土土器
 (3)SB4786 出土土器
 (4)SB4787 出土土器
 (5)SB4846 出土土器
 (6)SB4791 出土土器
 (7)SB4797 出土土器
- PL.55 第104次調査 第V区域遺構出土土器
 (1)SD4797 出土土器
 (2)SD4798 出土土器
 (3)SD4798 出土土器
- PL.56 第104次調査 第V区域遺構出土土器
 (1)SD4798 出土土器
- PL.57 第104次調査 第V区域遺構出土土器
 (1)SD4798 出土土器
 (2)SD4794 出土土器
 (3)SD4796・4796・4753 出土土器
 (4)SD4796 出土土器
 (5)SD4793 出土土器
 (6)SD4765 出土土器
- (7)SS4823 出土土器
 (8)SS4824 出土土器
 (9)SD4801 出土土器
- PL.58 第104次調査 第V区域遺構出土土器、土製品
 (1)SD4801 出土土器
 (2)上錘
 (3)土製円盤、蓋、仏像
 (4)青磁鉢、茶研
- PL.59 第104次調査 金属製品、甲冑
 (1)小札、鉾金具、紅玉、貴金具、煙管、金匙、鉄蒔、小柄
 (2)切羽、鉄釘、蓋
 (3)X003 出土兜袴
 (4)X003・X005 出土兜袴
- PL.60 第104次調査 甲冑
 (1)X001 出土草摺
 (2)X002 出土大袖
- PL.61 第104次調査 甲冑
 (1)X002 出土大袖
- PL.62 第104次調査 甲冑
 (1)X004、その他出土草摺
 (2)X003 出土兜袴、X001 出土草摺X線写真
- PL.63 第104次調査 甲冑、木製品、石製品
 (1)X002 出土大袖、X004 出土草摺X線写真
 (2)漆器椀、曲物、刺物容器、花入、硯箱、箱、棹子
 棧、木柄、砥石、石硯
- PL.64 第104次調査 石製品、ガラス玉、銭貨
 (1)石白、茶臼、石盤、バンドコ、ガラス玉
 (2)銭貨

挿図目次

- 第1区 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査地点 …… 2
 第2区 第82・102・104・125次調査区と周辺の調査
 区位置図 …… 6
 第3区 第82・102・104・125次調査位置図 …… 7
 第4区 第82次調査風景 …… 8
 第5区 第102次調査風景 …… 9
 第6区 第104次調査風景 …… 10
 第7区 第82次調査位置図 …… 11
 第8区 第82次調査遺構全体図 …… 折込
 第9区 第82次調査a-a'・b-b'・c-c'・d-d'・e-e'
 遺構断面図 …… 折込
 第10区 第I区域SX4280 …… 13
 第11区 第I区域SA4260、SB274、SX4309・4313・4316・
 4317・4280、SE4276、第II区域SB4273、SF940・
 4261・4262、SX4279・4290、SD4270~4272・折込
 第12区 第II区域SX4279 …… 15
 第13区 第III区域短折部SA893、東側土壘石垣SA892・17
 第14区 第IV区域SI1942、S2913、SD902、828 …… 18
 第15区 第IV区域SI821 …… 19
 第16区 第IV区域SA836・846・844・840・857、SB831・
 832・838・856・841~843・869・837、SG829、
 SX873・874、SE847~850、SF851 …… 折込
 第17区 第82次調査 第I・II区域包含層出土土器…24
 第18区 第82次調査 第I・II区域包含層出土土器…25
 第19区 第82次調査 第I・II区域包含層出土土器…26
 第20区 第82次調査 第I・II区域包含層出土土器…27

第 21 图	第 82 次调查 第 I、II 区域包含層出土土器 第 I 区域遺構出土土器	28	第 45 图	第 102 次调查 第 I、II 区域遺構出土土器	67
第 22 图	第 82 次调查 第 I 区域遺構出土土器	29	第 46 图	第 102 次调查 土製品、金属製品、骨角製品、 石製品	68
第 23 图	第 82 次调查 第 I、II 区域遺構出土土器	30	第 47 图	第 102 次调查 石製品、錢貨	69
第 24 图	第 82 次调查 第 II 区域遺構出土土器、土製 品、金属製品	31	第 48 图	第 104 次调查 表土、第 III 区域包含層出土 土器	81
第 25 图	第 82 次调查 金属製品、石製品	32	第 49 图	第 104 次调查 第 III 区域包含層出土土器	82
第 26 图	第 82 次调查 石製品、木製品	33	第 50 图	第 104 次调查 第 III~V 区域包含層出土土器	83
第 27 图	第 82 次调查 木製品、錢貨	34	第 51 图	第 104 次调查 第 V 区域包含層・遺構出土 土器、第 III 区域遺構出土土器	84
第 28 图	第 82 次调查 錢貨	35	第 52 图	第 104 次调查 第 II 区域遺構出土土器	85
第 29 图	第 102、104 次调查位置图	48	第 53 图	第 104 次调查 第 III、IV 区域遺構出土土器	86
第 30 图	第 102、104 次调查遺構全体图	折込	第 54 图	第 104 次调查 第 V 区域遺構出土土器	87
第 31 图	第 102 次调查第 I 区域 a-a'、第 II 区域 b-b'、 c-c' 遺構断面图	折込	第 55 图	第 104 次调查 第 V 区域遺構出土土器	88
第 32 图	第 104 次调查第 III~V 区域 d-d'、e-e'、f-f'、 g-g'、h-h' 遺構断面图	折込	第 56 图	第 104 次调查 第 V 区域遺構出土土器	89
第 33 图	第 I 区域 SI4750、SG4758、第 II 区域 SB4767、 SI4762	51	第 57 图	第 104 次调查 第 V 区域遺構出土土器	90
第 34 图	第 III 区域 SF4813	54	第 58 图	第 104 次调查 第 V 区域遺構出土土器	91
第 35 图	第 III 区域 SA4780・4781、SI4817、SZ4814、 SD4808・4810、SF4814・4815	55	第 59 图	第 104 次调查 第 V 区域遺構出土土器、土 製品	93
第 36 图	第 IV 区域 SD4848 周辺甲冑 X001~003	56	第 60 图	第 104 次调查 土製品、金属製品、甲冑	94
第 37 图	第 III 区域 SA4780・4760・4785、SS260・ SI4816・4818、SX4834・4836、第 IV 区域 SB4790、SD4804~4806、SD4847、SX4833・ 4847	折込	第 61 图	第 104 次调查 土製品、金属製品、甲冑 X003 出土兜袴	95
第 38 图	第 V 区域 S1~5	58	第 62 图	第 104 次调查 甲冑 X005 出土兜袴、X001 出 土草摺	96
第 39 图	第 V 区域 SB4789・4788・4786・4846・4787、 SD4850・4797・4798・4791~4796・4753・ 4793、4792・4801、SS4823・4824・4849、 SF4826・4827、SE4812、X006~008	折込	第 63 图	第 104 次调查 甲冑 X001 出土草摺、X002 出 土大袖	97
第 40 图	第 V 区域 X008:SIM4801 硯箱	59	第 64 图	第 104 次调查 甲冑 X002 出土大袖、X004 出 土草摺	98
第 41 图	第 102 次调查 第 I 区域包含層出土土器	63	第 65 图	第 104 次调查 甲冑 X004 他出土草摺、木製 品	99
第 42 图	第 102 次调查 第 I 区域包含層出土土器	64	第 66 图	第 104 次调查 木製品、石製品	100
第 43 图	第 102 次调查 第 I、II 区域包含層出土土器	65	第 67 图	第 104 次调查 石製品	101
第 44 图	第 102 次调查 第 II 区域包含層出土土器、第 I 区域遺構出土土器	66	第 68 图	第 104 次调查 石製品、錢貨	102
			第 69 图	第 104 次调查 錢貨	103
			第 70 图	第 125 次调查位置图	125
			第 71 图	第 125 次调查 1~9 トレンチ平面图	127
			第 72 图	第 125 次调查 1・2・9 トレンチ出土土器	129
			第 73 图		

表 目 次

第 1 表	第 82 次调查主要遺構観察表	22	第 4 表	第 102 次调查出土遺物観察表	69
第 2 表	第 82 次调查出土遺物観察表	36	第 5 表	第 104 次调查出土遺物観察表	103
第 3 表	第 102、104 次调查主要遺構観察表	60	第 6 表	第 125 次调查出土遺物観察表	129

I. 事業概要

1. 調査の目的

戦国大名朝倉氏の拠点である特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡は、5代103年間にわたって営まれた城下町の遺跡であり、朝倉館を中心として山城、城戸、武家屋敷、町屋、寺院等の遺構が一体となって保存されており、国民共有の文化遺産として、永久に保存するため、特別史跡に指定して公有地化を進めている。

発掘調査で検出した遺構は保護するだけでなくとどまらず、その調査成果を広く公開し、衆国者の歴史認識の醸成に資することを常に重視し、遺跡の中に自身を置いて「歴史と生きた対話」ができる史跡公園の完成を目指している。

既に、一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査と整備が着手されて半世紀以上を時が過ぎたが、不断の調査の積み重ねが一乗谷の町並みの規模や構造、そこで生きる人々の暮らしぶりを多様な角度から解明してきた。計画的な発掘調査の成果に基づいて環境整備が実施され、適切な維持管理のもとに遺跡を公開するという基本理念は多くの関係者の努力によって今日まで一貫している。

一乗谷朝倉氏遺跡の調査は、昭和42年(1967)度、旧足羽町教育委員会が事業主体として始め、昭和46年(1971)度から福井県教育委員会が発掘調査と環境整備事業実施し、福井市が用地取得と遺跡の管理を担当して事業を進めてきた。同年7月に278haという広大な区域が国の特別史跡に格上げ指定されると、県は昭和47年(1972)3月に「朝倉氏史跡公園基本構想」を策定し、さらに「基本構想」に基づく事業遂行の指導体制の万全を期すため、「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査研究協議会」を発足させた。同年3月、福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所を設置し、以後5ヶ年計画等を策定して、発掘調査と環境整備を継続的に実施してきた。

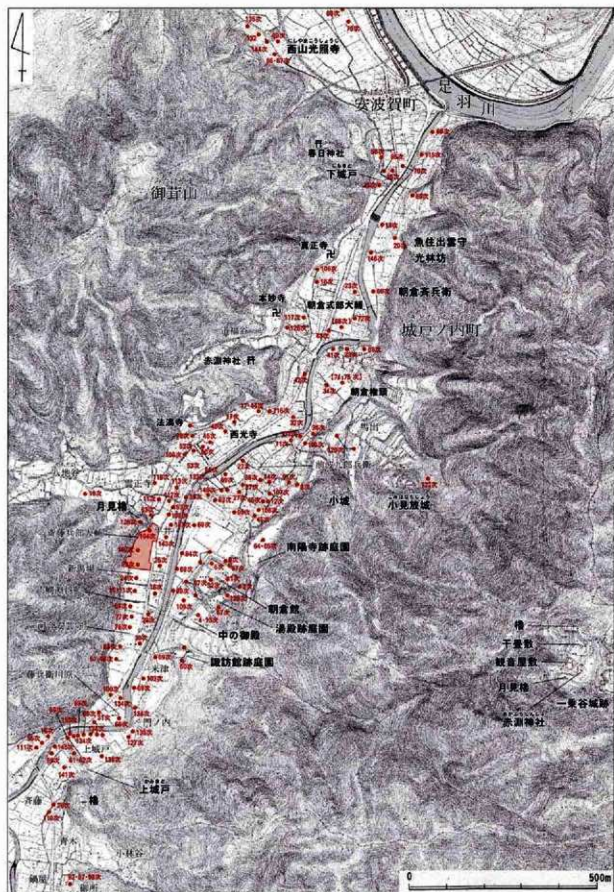
その後、平成3年(1991)に4つの庭園が国の特別名勝になり、平成19年(2007)に出土遺物2,343点が重要文化財に指定され、令和元年(2019)に至り、日本遺産に認定されるなど、遺跡の価値は大きく同心円を描いて広く発信されるようになった。

現在の一乗谷における発掘調査は、「計画調査」と「現状変更に伴う調査」に対応しており(第1回)、計画調査の成果については、複数次にわたる調査区の遺構が一定の面積にまとまると、正報告書を刊行してきた。現状変更を前提とした道路・河川整備・中山間事業等に伴う発掘調査については、事業別に報告書を刊行してきた。また、史跡内の「個人宅地の新・改築等に伴う発掘調査」については、研究協議会へ報告し、各年度の「発掘調査整備事業概報」で報告を行ってきた。調査次数は令和3年度の段階で154次に至る。本書では、昨年度につき、重臣屋敷の遺構に焦点をあて、第82・102・104・125次の調査成果について報告する。

2. 調査の方法および組織

一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査・環境整備は、国庫補助事業として県が直接実施しており、その実施機関として、福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所(昭和47年(1972)4月1日～昭和56年(1981)8月19日)、福井県立朝倉氏遺跡資料館(昭和56年8月20日～平成3年(1991)3月31日)、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館(平成4年(1992)4月1日～現在、以下、資料館に略)が設置され、組織を改変して現在に至る。

平成24年(2012)度、県の機構改革によって、資料館は教育庁から知事部局に移管され、発掘調査、遺物整理の業務は、一時、福井県教育庁歴史文化財調査センターが朝倉氏遺跡グループを設置して対応したが、平成29年(2017)度から再び発掘調査・遺物整理は資料館の業務となった。なお、資料館の業務については、「朝倉氏史跡公園基本構想」に基づいて設置された福井県朝倉氏遺跡研究協議会(旧福井県朝倉氏遺跡調査研究協議会)から適切な指導と助言を得て進めている。



第1図 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査地点(縮尺1/10,000)

3. 発掘調査および本報告書作成年度における組織

【発掘調査】

平成元年度

福井県朝倉氏遺跡調査研究協議会

会長	青園謙二郎(福井テレビ副会長)
委員	石井 進(東京大学教授)
委員	木原啓吉(千葉大学教授)
委員	小林健太郎(滋賀大学教授)
委員	近藤公夫(奈良女子大学教授)
委員	重松明久(中津女子短期大学学長)
委員	田畑貞太(千葉大学教授)
委員	玉置伸吾(福井大学教授)
委員	坪井清足(大阪文化財センター理事長)
委員	平井 壘(東京工業大学教授)
委員	石田 昇(朝倉氏遺跡保存協会長)
委員	藤田武信(城戸ノ内区長)

平成2年度

福井県朝倉氏遺跡調査研究協議会

会長	青園謙二郎(福井テレビ副会長)
委員	石井 進(東京大学教授)
委員	木原啓吉(千葉大学教授)
委員	小林健太郎(滋賀大学教授)
委員	近藤公夫(神戸芸術工科大学教授)
委員	田畑貞太(千葉大学教授)
委員	玉置伸吾(福井大学教授)
委員	坪井清足(大阪文化財センター理事長)
委員	平井 壘(昭和女子大学教授)
委員	松浦義則(福井大学教授)
委員	石田 昇(朝倉氏遺跡保存協会長)
委員	畑田岳雄(城戸ノ内自治会会長)

【遺物整理・報告書刊行】

平成30年～令和3年度

福井県朝倉氏遺跡研究協議会

会長	小野正敏(国立歴史民俗博物館名誉教授・中世考古学)
副会長	高妻洋成(奈良文化財研究所副所長・保存科学)
委員	池上裕子(成蹊大学名誉教授・中世史)
委員	久保智康(京都国立博物館名誉館員・美術工芸)
委員	富島義幸(京都大学大学院教授・建築史)
委員	小野健吉(大阪観光大学教授・遺跡整備)
委員	小浦久了(神戸芸術工科大学教授・都市計画)
委員	杉本 宏(京都芸術大学教授・庭園整備)
委員	中井 均(滋賀県立大学名誉教授・城郭考古学)
委員	岸出 清(社)朝倉氏遺跡保存協会長)
委員	網谷克彦(元福井県陶芸館長・考古)
委員	吉田 智(福井県教育博物館長・歴史)

(網谷委員の任期は令和2年1月24日まで。中井委員の任期は令和2年1月25日から)

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

平成 30 年度

館長	向出宏二 (事務)
副館長	月輪 泰 (考古)
次長	下山淳子 (事務)
主任	川越光洋 (考古)
主任	宮永一美 (歴史)
主任	田中祐二 (考古)
主任	有馬香織 (歴史)
主査	松本泰典 (考古)
主査	熊谷 透 (建築)
主査	藤田若菜 (庭園)
学芸員	石川美咲 (歴史)
学芸員	渡邊英明 (保存科学)
学芸員	大竹桃子 (史跡整備)
	藤井亜衣 (事務) (福元町朝倉文化振興課)
非常勤	花川洋介 (事務)
非常勤	眞保弘恵 (事務)
非常勤	富阪昌代 (事務)

令和元年度 (6月より)

館長	向出宏二 (事務)
副館長	月輪 泰 (考古)
次長	下山淳子 (事務)
主任	鈴木篤英 (考古) (前職 美濃県文化財調査センター)
主任	川越光洋 (考古)
主任	宮永一美 (歴史)
主任	宮崎 認 (考古)
主任	田中祐二 (考古)
主任	有馬香織 (歴史)
主査	熊谷 透 (建築)
主査	藤田若菜 (庭園)
学芸員	石川美咲 (歴史)
学芸員	渡邊英明 (保存科学)
学芸員	大竹桃子 (史跡整備)
	(兼務) 藤井亜衣 (事務) (文芸文化振興課)
非常勤	花川洋介 (事務)
非常勤	眞保弘恵 (事務)
非常勤	富阪昌代 (事務)

令和 2 年度

館長	西澤弘純 (事務)
総括	川越光洋 (考古)
次長	下山淳子 (事務)
主任	鈴木篤英 (考古)
主任	宮永一美 (歴史)
主任	宮崎 認 (考古)
主任	田中祐二 (考古)
主査	酒井健治 (歴史)
主査	熊谷 透 (建築)
主査	藤田若菜 (庭園)
主査	高橋史弥 (民俗)
学芸員	石川美咲 (歴史)
学芸員	渡邊英明 (保存科学)
学芸員	大竹桃子 (史跡整備)
考古学研究室	月輪 泰 (考古)
歴史学研究室	花川洋介 (事務)
考古学支援員	眞保弘恵 (事務)
歴史学支援員	富阪昌代 (事務)

令和 3 年度

館長	西澤弘純 (事務)
副館長	松村昌治 (事務)
副館長	(調査・研究) 川越光洋 (考古)
主任	鈴木篤英 (考古)
主任	宮永一美 (歴史)
主任	宮崎 認 (考古)
主任	田中祐二 (考古)
主任	窪田裕美 (美術工芸)
主査	酒井健治 (歴史)
主査	熊谷 透 (建築)
主査	藤田若菜 (庭園)
学芸員	石川美咲 (歴史)
学芸員	渡邊英明 (保存科学)
学芸員	藤井佐由里 (遺跡保存)
学芸員	藤田理紗 (史跡整備)
考古学研究室	月輪 泰 (考古)
歴史学研究室	白木明博 (事務)
考古学支援員	眞保弘恵 (事務)
歴史学支援員	富阪昌代 (事務)
発掘調査支援員	北野左近 (考古)

発掘作業には、地元の方々の参加・協力を得た。遺物整理作業については、資料館整理作業員(令和2年度から会計年度任用職員)が行った。

II. 調査の概要と経過

1. 調査の概要(第2・3図)

第82次調査【城戸ノ内町字齊藤】 調査区は城戸ノ内町字齊藤に所在し、朝倉館跡から一乗谷川を挟んで東へ約120m隔てた水出に立地し、標高51.8mを測る。調査面積は1,920㎡を対象とした。調査期間は平成5年(1993)4月1日～同年8月22日である(第2図)。

東側の第25次調査区、南側の第24次調査区と第10・11次調査区を照合した結果、土塁石垣で区画された武家屋敷の全体像を把握することができた。遺構は、第82次調査において遺構は、土塁石垣2、道路1、礎石建物2、掘立柱建物1、溝3、埋堯土坑群1、鍛冶炉2、カマド3、石列4、井戸3、石を用いた不明遺構31など検出し、過去の調査区の遺構を含めると、武家屋敷全体が土塁石垣7、門2、道路1、通路1、礎石建物9、掘立柱建物3、溝9、暗渠4、埋堯土坑群1、土坑3、鍛冶炉2、カマド3、石列4、井戸7、庭1、橋5、石積施設2、石を用いた不明遺構37等で構成されていることが明らかになった(第3頁)。武家屋敷全体は、外寸で北辺66m以上×東辺63m×南辺62m以上×西辺73m以上を測り、敷地面積約4,600㎡以上の規模と推定される。

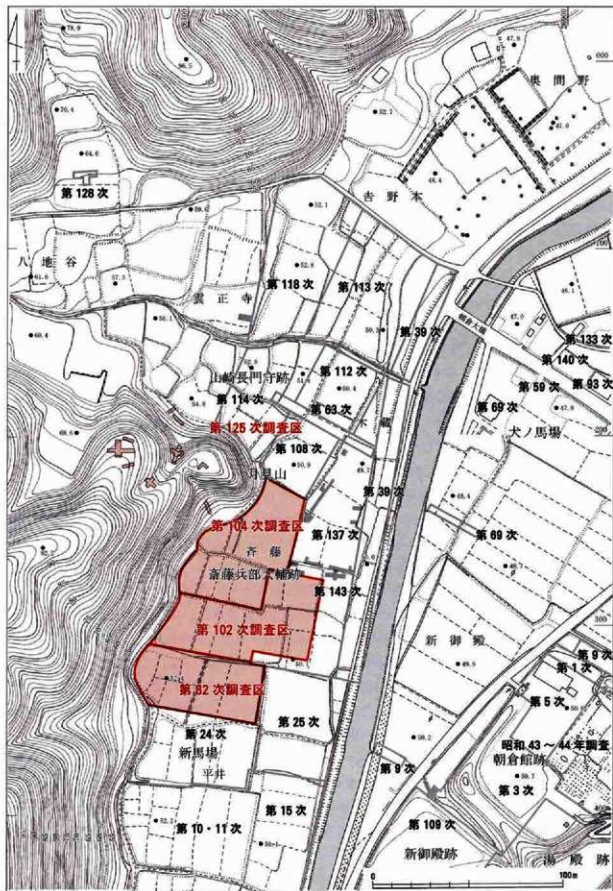
武家屋敷の北半分は鍛冶工房や倉庫を主体とした遺構が集中し、井戸や埋堯土坑群もこれらに伴うものと考えられる。特殊な遺構としては、複式構造をもつ石組のカマドが3基検出され、大量の湯を沸かす行為にどのような背景があったか注意される。南半分の遺構は同町字平井に所在し、「一乗谷古絵図」(文1)の「新馬場」に相当すると考えられ、山裾の礎石建物は屋内に馬を繋いでいたと推定される空間を備え、東側に馬欄や厩舎に準ずるような建物が確認できた。また、庭や四阿も検出されたことは、ここが居住を目的とした場所ではなく、馬匹飼育の一方で、情報交換や交渉の場としての役割を担った施設であった側面をうかがわせる。

第102・104次調査【城戸ノ内町字齊藤】 第102・104次調査区は城戸ノ内町字齊藤に所在し、朝倉館跡から一乗谷川を挟んで東へ約100m隔てた畑地に立地し、第102次調査区で標高50.2m、第104次調査区で標高50.4mを測る。第102次調査は、調査面積は2,300㎡を対象とし、調査期間は平成10年(1998)4月1日～同年12月20日である(第2図)。第104次調査は、調査面積は2,00㎡を対象とし、調査期間は平成11年(1999)4月8日～同年12月24日である。

第102次、104次調査の成果を照合した結果、西側の山裾において、土塁石垣や道路で区画された3つの武家屋敷が確認されるに至った。3つの武家屋敷跡A・B・C(Ⅱ武家屋敷Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)は、南北道路SS260と東西道路SS4822で仕切られ、そのうち南北道路SS260の西側を占める大規模武家屋敷Aの全体像が明らかになった意義は大きい。主要な遺構は、第102次調査の第Ⅰ・Ⅱ区域において、土塁石垣2、門2、道路1、礎石建物1、溝5、井戸3、庭1、石敷遺構2等を検出し、第104次調査の第Ⅲ～Ⅴ区域において、土塁石垣7、門2、道路2、通路3、礎石建物6、溝18、暗渠2、井戸1、石積施設5、石敷遺構4等が検出された。大規模武家屋敷Aは外寸で北辺17m以上×東辺98m×南辺50m以上×西辺109m以上を測り、敷地面積約3,700㎡以上の規模をもつと推定された。字「齊藤」の地名が「一乗谷古絵図」の「さいとう齊藤兵部大輔跡」に由来する可能性が高いこと、立地・規模から見て、大規模武家屋敷Aは、5代朝倉義景の側室であるこしやうしょう少将の父君、「齋藤兵部少輔」の屋敷と有力視される。多くの外国製陶磁器や調度品に加え、稀有な甲冑の出土もこれを裏付けている。

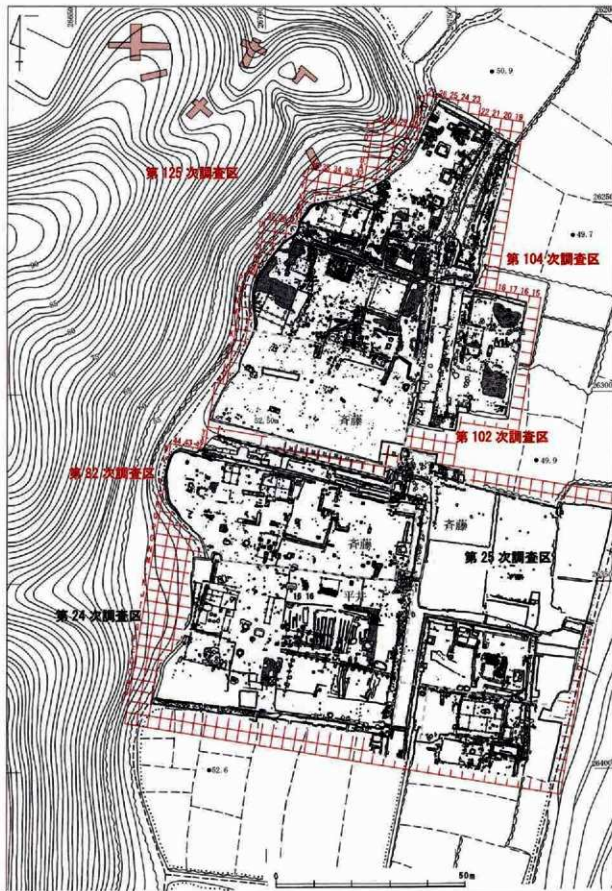
第125次調査【城戸ノ内町字齊藤】 第125次調査区は、城戸ノ内町23字齊藤・35字八地谷・17字雲正寺にかかり、「一乗谷古絵図」では「月見山」と記されている。調査区は山林尾根を対象にトレンチ調査を行い、総面積は500㎡を測る。調査期間は平成19年(1991)10月1日～同年12月20日である。調査の結果、第1トレンチから板石で仕切り、礫石を充填した遺構の一部が検出され、庭の存在が示唆された。

Ⅱ. 調査の概要と経過



第2図 第82・102・104・125次調査区と周辺の調査区位置図(縮尺1/2,000)

1. 調査の概要



第3図 第82・102・104・125次調査位置図(縮尺1/1,000)

2. 調査日誌

第82次調査 平成5年(1993)4月1日～8月22日

- 4月1日 調査開始。表土剥ぎ。
 5月18日 基準杖設置。
 5月25日 調査区南半部から遺構検出。遺構面は小砂利混濁色土で整地されていることを確認。
 5月26日 4-d'断面精査。旧石垣SV940、SD4268検出。井戸SE4275、土器石垣SA892内で暗渠SZ913検出。
 6月27日 調査区北東側で石列SV940、SD4270検出。
 5月28日 石列SX4290～4292確認。周辺に床土直下の炭混黒色土が広がり、土器器量多く出土。
 6月31日 石敷SX4296、溝SD4272検出。
 6月1日 c-c'断面東側精査。SB4273、石列SX4299・4030検出。地山は固くしまり、砂利・焼土・炭が混じる。Q35グリッドから鉄塊玉出土。
 6月3日 整地土の下で井戸SE4276検出。遺物希薄。下層遺構と考える。SB4273北東側で伏せた状態の鉢が出土。Q37で蒸入れ出土。
 6月7日 調査区西側精査。井戸SE4277、埋焼遺構SX4313、土器石垣SA4260、鍛冶炉SX4313検出。石敷SX4308・4310は後世のもの判断。
 6月11日 4-d'断面西側精査。整地土は砂利混黒濁色土。土器器量を多く含有。SX4289～4292・4302検出。
 6月17日 調査区南側精査。溝SD4272、石敷SX4301、井戸SE849検出。整地土は黒濁色土。
 6月23日 礎石建物SB4273東側精査。
 6月28日 SE4276の底面で井枠検出。木製品多数出土。SD4272東西端確認。
 7月9日 SE4275の底面で井枠検出。遺物希薄。調査区北東精査。SV940検出。
 7月26日 下層遺構のSD4271、SX4288周辺の炭混暗濁色土の整地層から土器器量多く出土。
 7月27日 SX4288・4289に含まれる柱穴がSD4271を跨ぐような建物と推定。
 7月29日 調査区北東側精査。第25次調査で検出した南北道路屈折の西側を調査。SA893、SV940・4262・4263、SD4268、SZ4319精査。
 8月2日 調査区最北側のSD4268を良好な状況で検出。
 8月9日 掘立柱建物SB4274、鍛冶炉SX4313、井戸SE4277精査。埋焼遺構SX4309は橋前流大梁を据えたと推定される5基の土坑で構成。
 8月10日 石積遺構SF4271から完形の土器器量4点出土。SB4273内で土鉢、水漏れ出土。
 8月12日 下層遺構SX4318・4303精査。石敷遺構SX4281は半円形の炉と推定。
 8月13日 調査区中央精査。カマFSX4280検出。筋谷石を用いた複式構造を確認。焼土土坑SX4317から銭貨5枚出土。鍛冶炉SX4316から輪の羽口、鉋滓出土。
 8月19日 a-a'断面U32～26の範囲を深く下げる。断面でカマFSX4279を検出。T32グリッドで火炉出土。
 8月22日 器材撤収。調査一旦終了。以降、補足調査を実施。
 9月6日 下層確認のため4-d'断面とa-a'断面U27～23の範囲を深く下げる。
 10月9日 カマFSX4279精査。SX4306埋焼2基検出。
 11月17日 空中写真測量



第4図 第82次調査風景

第102次調査(第Ⅰ・Ⅱ区域)

平成10年(1998)4月1日～12月20日

- 4月2日 調査区北壁H29～391に沿って排水溝掘削。
- 4月8日 本日から16日まで第100次調査区埋め戻し作業、第82次調査排土除去作業。西山光照寺の石造物の搬出作業を併行して実施。
- 4月21日 本日から5月1日まで調査区南壁側の園路を除去。
- 5月26日 本日から6月23日まで第Ⅰ区域表土剥ぎ。
- 7月1日 本日から14日まで第Ⅱ区域表土剥ぎ。
- 7月21日 本日から24日まで第Ⅱ区域南側調査。礫・コンクリリ片がコンクリリ片を組みめた塊の広がりを確認。
- 7月28日 本日から8月12日まで第Ⅱ区域北側調査。調査区全体に基本杭設置。実習生第Ⅱ区域a-e'断面精査。本日から18日まで第Ⅱ区域北側半分調査。遺構・遺物確認できず。
- 8月20日 第Ⅱ区域b-b'断面精査。
- 8月21日 本日から28日まで第Ⅱ区域南側調査。表土を剥くと礫石で埋められていたが、礎石造物SD467検出。
- 9月3日 第Ⅰ区域南西側の表土剥ぎ。朝倉墓所の調査も着手。
- 9月4日 第Ⅰ区域南西側の表土剥ぎ。朝倉墓所の調査では、石塔下において遺構は確認できず。
- 9月8日 第Ⅱ区域東側の表土剥ぎ。排水溝掘削。併行して実施した朝倉墓所の調査は本日終了。
- 9月9日 第Ⅱ区域d-e'断面精査。015～19グリッド周辺は攪乱の礫石が約50cmの厚さで堆積しており、この部分の遺構面の有無は最終段階で確認することにする。
- 9月10日 第Ⅰ区域a-a'断面を延長した東側123～20の層位を確認。門S14750、第Ⅱ区域土塁石垣SA4760検出。
- 9月11日 第Ⅱ区域土塁石垣SA4760精査。石垣の石材が道路SS260上に大量に崩落。
- 9月29日 第Ⅱ区域土塁石垣SA4763の南端で門S14762検出。笏谷石の平石を9枚確認。
- 9月30日 第Ⅱ区域道路SS260検出。笏谷石の石列SX4761精査。SS260精査。SX4761の範囲を確認。
- 10月6日 荒天。SS260の崩落していた石を除去。
- 10月7日 SS260精査。全面で砂利の広がりを検出。排水が悪く調査困難。
- 10月9日 第Ⅰ区域排水溝掘削。表土剥ぎ作業。
- 10月15日 第Ⅱ区域から第Ⅰ区域へベルコン設置。器材移動。運末に台風接近。器材をまとめる。
- 10月20日 第Ⅰ区域土塁石垣SA593、S14750、井戸SE4751精査。
- 10月22日 第Ⅰ区域東側の遺構精査。S14750、SD4752、SX4765の周辺とSB4766東側に砂利の広がりを確認。
- 10月26日 第Ⅰ区域中央C-K30・31グリッドの遺構精査。遺物は北半部で若干出土。
- 10月28日 第Ⅰ区域石組溝SD4755・4756検出。遺物多し。
- 10月30日 第Ⅰ区域西側の遺構精査。遺構・遺物密度は希薄。
- 11月4日 第Ⅰ区域溝SD4755・4756精査。
- 11月6日 第Ⅰ区域石組SX4758精査。巨石を用いた石敷遺構であり庭の可能性あり。周辺から柱穴4基検出。
- 11月9日 第Ⅰ区域石組SX4758の北西から角柱検出。
- 11月18日 荒天のため午後から光照寺の石仏約150体洗浄作業。
- 12月8日 第Ⅱ区域のH23～21グリッド深掘りをして下層確認。
- 12月10日 第Ⅱ区域の再測量のためL-R20グリッドの石垣洗浄。
- 12月14日 空掘準備の清掃作業。
- 12月20日 器材撤収・洗浄。調査終了。



第5図 第102次調査風景

第104次調査(第Ⅲ・Ⅳ区域)

平成11年(1990)4月1日～12月20日

- 4月2日 調査開始。表土剥ぎ作業。
- 5月14日 第Ⅲ区域精査。礎石建物SB4790検出。
- 5月17日 溝SD4804、石置SX4834検出。
- 5月19日 土置石垣SA4780・4785検出。門SI4816検出。
- 6月3日 調査区西側精査。礎石建物SD4788検出。
- 6月4日 第Ⅳ区域精査。溝SD4801・4802・4797検出。
- 6月5日 併行する溝SD4797・4800検出。
- 6月8日 溝SD4802検出。034・35グリッド周辺の焼土から土師器皿、陶磁器出土。
- 6月9日 交差する溝SD4795・4796検出。
- 6月10日 道路SS4823上の焼土から遺物多く出土。
- 7月2日 土置石垣SA4760、暗渠SZ4843精査。
- 7月6日 第Ⅲ区域精査。SB4790の北東側で黒漆塗りの小札出土。
- 7月8日 溝SD4808の下層から石積施設SF4814検出。
- 7月9日 土置石垣SA4781・4783検出。道路SS260、溝SD4810検出。
- 7月27日 石積施設SF4813周辺精査。土置石垣SA4780検出。
- 8月2日 土置石垣SA4781と47890の間で門SI4817検出。
- 8月19日 第Ⅳ区域精査。土置石垣SA4760、礎石建物SB4846に伴う道路SS4824、溝SD4797・4798検出。
- 9月1日 SB4846と周囲の溝SD4798・4760・4793・4794精査。水村・宮永は奥田宅の現状変更調査に対応。
- 9月2日 第Ⅲ区域SX4834で大量の礎石が集中。第Ⅳ区域SD4794～4796の切り合いを確認。いずれも焼土、土師器皿多く出土。SB4789は土蔵と推定。
- 9月9日 SB4789西辺、S33グリッドで炭化した板材と土師器皿1点出土。
- 9月17日 T35グリッドから土製親善菩薩像出土
- 9月27日 第Ⅲ区域X30で黒漆塗りの小札出土。W30グリッドで書香函物1点出土。第Ⅳ区域S35グリッドのSD4801から黒漆塗りの箱(蓋)が出土。
- 9月30日 第Ⅲ区域SX4839・4841、石積施設SF4813～4815、門SI4816・4817、溝SD4805・4806精査。
- 10月4日 第Ⅲ区域土置石垣SA4783、暗渠SZ4844・4845精査
- 10月8日 第102次調査第Ⅱ区域北側の最終的な遺構面を再確認するため不要な礎石の除去作業を行う。
- 10月25日 第Ⅱ区域SM4769、SB4767精査。
- 11月1日 第Ⅲ区域SA4783北辺検出。
- 11月16日 第Ⅱ区域埋め戻し用の山砂準備・移動作業。
- 12月20日 器材撤収・洗浄。調査終了。

第125次調査 平成19年(2008)10月1日～12月20日

- 10月1日 調査準備。器材搬入。
- 10月4日 調査区の設定と確認作業。岡田会長と日程調整。
- 10月16日 試掘開始。
- 11月8日 基準坑設定。1～3トレンチ掘削中。
- 11月9日 1トレンチで焼土直下から砂利敷からなる組石面検出。
- 11月14日 3トレンチ断面から竈跡の可能性を検討。水村確認。
- 11月29日 9トレンチ地表下2mで黄褐色土下から焼土層を確認。焼土層、巨石、整地層を確認。
- 12月14日 7・9トレンチ掘削。8トレンチ掘削
- 12月20日 器材撤収・洗浄。調査終了。

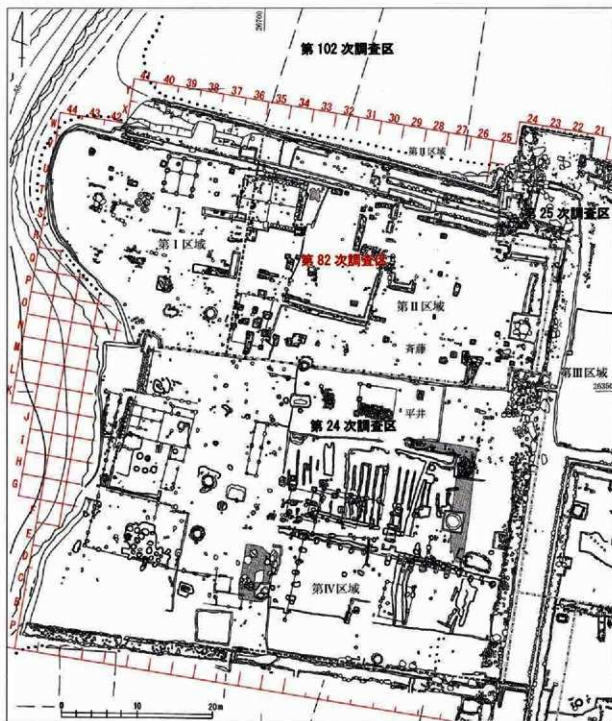


第6図 第104次調査風景

Ⅲ. 第82次調査[城戸ノ内町字齊藤・平井]

1. 遺構の概要(PL1-17 第7-16図 第1表)

第82次調査は、城戸ノ内町字齊藤に所在し、第24次調査区の同町字平井を含めて、ひとつの武家屋敷跡の北半分を構成していることが明らかになった。武家屋敷跡は、朝倉館跡から南西へ約115m隔てた一乗谷川左岸の水田に立地し(第7図)、標高51.8mを測り、南西の山裾から北東の一乗谷川にかけて緩やかに傾斜する地形に築かれていた。



第7図 第82次調査位置図(縮尺1/500)

調査面積は1,920㎡であり、調査期間は平成5年(1993)4月1日～同年8月22日までを要した。航空測量は同年11月17日に実施した(文2)。第82次調査区は、北側を第102次調査区(文2)、東側を第25次調査区(文3)、南側を第24次調査区(文3)・第10・11次調査区の一部(文4)と接しており、各調査区と照合した結果、ようやく土塁石垣で台形に区画された「馬場」を備えた武家屋敷跡の全体像をつかむに至った(第8図)。

調査当時の水田畦畔を基にした区割りでは「9MIM-P地区」と称したが、本報告書では、武家屋敷全体の様相を把握するため、前述した周辺調査区を含めて、第82次調査第I～IV区域と改めて区分した。第I区域は、第82次調査区東半、第II区域は第82次調査区西半の区域、第III区域は第25次調査区西側で構成され、宇齊藤に含まれる。第IV区域は第24次調査区と第10・11次調査区の一部で構成され、宇平井に含まれる。

調査の方法は、地形に沿って、任意の1辺3mの方形グリッドを東西方向に22～44、南北方向に0～Yの番号を付して設定し、遺構の記録、遺物の採集に用いた(第8図)。また、遺構の分布・密度・前後関係を把握するため土層観察用のアゼを4本設定し、調査区内の東西方向についてはa-a'断面(T44～22)、b-b'断面(Q42～22)、南北方向についてはc-c'断面(N-X35)、d-d'断面(O-X27)で観察を行った(第9図)。

遺構は、第82次調査の第I・II区域において、土塁石垣2、道路1、礎石建物2、掘立柱建物1、溝3、埋瓦土坑群1、鍛冶炉2、カマド3、石列4、井戸3、石を用いた不明遺構31など検出し、第III・IV区域の遺構を加えると、武家屋敷が土塁石垣7、門2、道路1、通路1、礎石建物9、掘立柱建物3、溝9、暗渠4、埋瓦土坑群1、土坑3、鍛冶炉2、カマド3、石列4、井戸7、庭1、橋5、石積施設2、石を用いた不明遺構37等で構成されていることが明らかになった(第8図)。武家屋敷全体は、外寸で北辺66m以上×東辺63m×南辺62m以上×西辺73m以上を測り、敷地面積約4,600㎡以上の規模と推定される。

遺構の時期については土塁石垣構築前がⅠ期、土塁石垣構築後町並み整備がされた時期がⅡ期、朝倉氏滅亡期をⅢ期とし、Ⅲ期は前後関係で小期2期に区分した(第1表)。以下、主要な遺構の概要を述べる。

2. 第I区域(PL.1～5 第8～11図)

第I区域は第82次調査区の東側を占め、0-Y36～44の範囲に相当する(第8図)。遺構の層位はa-a'断面、b-b'断面、c-c'断面で観察した(第9図)。

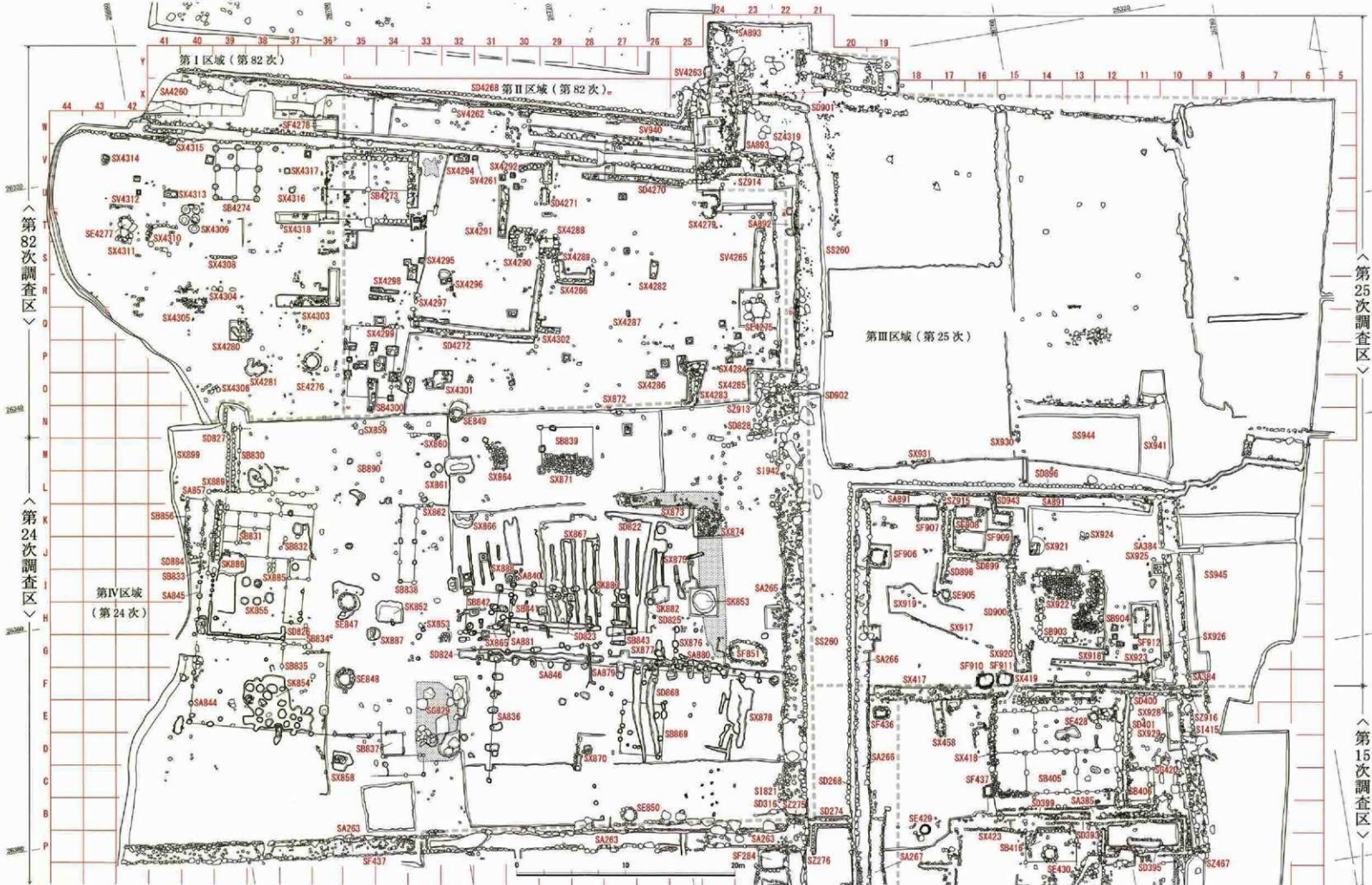
土塁石垣

SA4260(PL.2～4 第8・11図) V-Y36～41に位置。武家屋敷の北側土塁石垣である。第I区域においては調査前段階で西側の山裾に幅3.0～4.0mの高さ2.0mの土塁が認められた。主軸はN82°Wに向き、全長約52m、基底幅4.5～4.9mを測る。下層のSF4278の存在から、当初、土塁は存在せず、北端の石列SV4262までが屋敷の敷地であり、段差は約0.7m程度であったと考える。

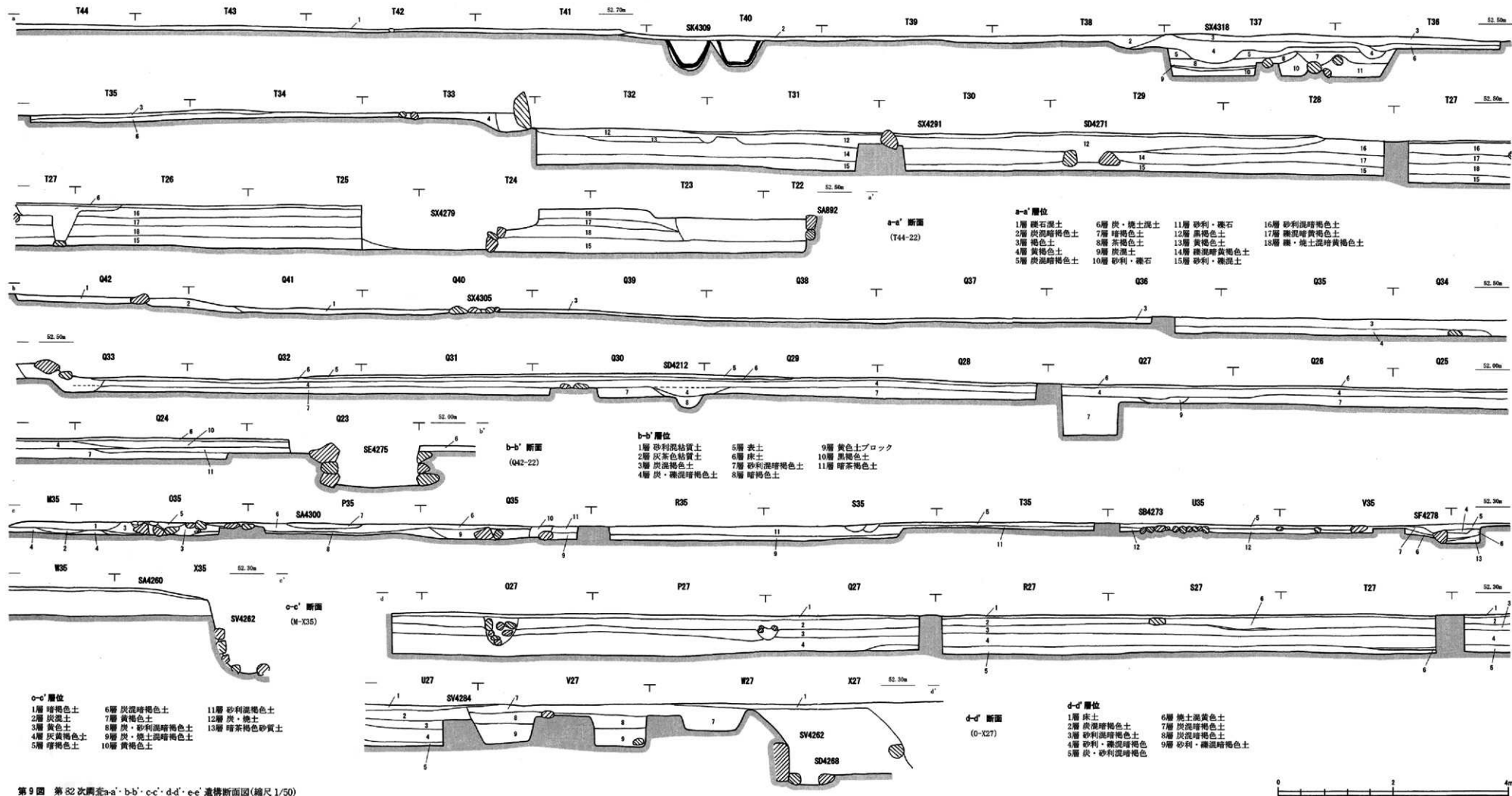
石列SV940はSV4262から南側に2.4m隔てて構築されるが、SV940は土塁石垣SA893の南端を形成しており、この段階では、北側の102次調査区の武家屋敷の南側土塁石垣として構築されたと考える。最終的に、さらに南側に約2.1m拡張して、石列SV4261を構築した段階で、SA4260は北側土塁石垣として完成したと考える。

建物

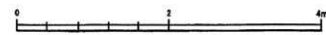
SB4274(PL.2～4 第11図) U-V38・39に位置。方形の掘立柱建物であり、桁行3間、梁間2間が検出された。主軸はN10°Eに向き、桁行4.5m、桁間寸法1.0～1.8m、梁間3.8m、梁間寸法1.9mを測る。床面積は約17㎡を測る。柱穴は径0.5m、深さ0.4mを測る。東西両側の南側の桁間は共に短く、南辺に棟持柱をもつので、南側は幅1.0mの土間のような構造を有していたと考える。SB4273などⅢ期に属する遺構の整地土で覆われている点から時期はⅡ期と考える。周辺に鉾津が散見され、西側へ3.0m隔てた地点に鍛冶炉SX4313が検出されていることから鍛冶を営む上層の可能性が高い。



第8图 第82次調査遺構全体図 (縮尺 1/300)



第9図 第82次調査a-a'-b-b'-c-c'-d-d'-e-e' 連続断面図(縮尺1/50)



井戸

SE4276(PL.5 第11回) P36・37に位置。石組の井戸である。10～40 cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.1m、内寸短軸1.0m、深さ3.7mを測る。円形に組まれた石組の底部には、礫層面を掘り込んで、角材が方形に組まれていた。井戸底面では中央には、小山を「合欠き」に加工した長さ86 cm、幅38 cm、厚さ1.5 cmを測るツマの板口材を方形に組んだ井桁が検出された。遺物は木製品が大量に含まれ、蓋259、漆器皿259・260、桶262、曲物263・264、木刀265、折敷266～273、棒煎串274、箸275～280が出土し、その他、火箸216・217、鉄釘220～222・224～227、魚骨、鱗等が出土した。時期はⅡ期と考える。

SE4277(PL.5 第8回) T42に位置。石組の井戸である。10～40 cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.9m、内寸短軸0.8m、深さ1.9mを測る。上面に0.8m大の巨石を2個配置していた。円形に組まれた石組の底部には井桁などは確認できなかった。井戸上面の南側には、10～30 cm大の角礫を長さ1.5m、幅1.0mの範囲で敷き詰めた石敷遺構SX4311が付属し、洗場と考える。時期はⅢ期で北側の石列SV4312、石敷遺構SX4310も関連施設と考える。遺物は越前焼159～161、鉄袖天目碗162・水瓶163木刀、265、バンドコ257が出土した。

土坑

SK4309(PL.5 第11回) T・U40に位置。旧SX4309である。越前前焼の大甕5個体(P1～5)を南北方向に2列に配置した埋壘土坑群である。SB4274から南西へ1.5m隔てて構築されていた。主軸はN10°Eに向き、SB4274と同じくする。土坑は円形を呈し、径0.6～0.8m、深さ0.5～0.7mを測るが、P1・4では土坑の底面は確認できなかった。いずれも越前焼大甕の胴部上位～底部が検出された。SB4274に伴う貯水施設と考える。遺物は朝鮮象嵌壺164、越前焼大甕165～169が出土した。時期はⅡ期と考える。

SK4317(PL.4 第11回) V37に位置。旧SX4317である。SB4274から東へ3.0m隔てて構築されていた。径0.5m、深さ0.3mの方形土坑である。銭貨「嘉定通寶」321～325が5枚出土した。時期はⅡ期と考える。

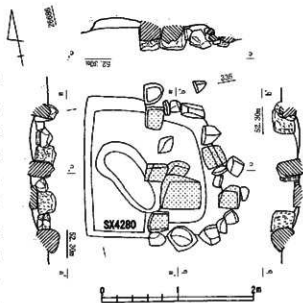
鍛冶炉

SX4313(PL.5 第11回) U41に位置。SB4274の西側に構築され、30 cm大の石と50 cm大の石が直線状に配置されていた。鉾澤・焼土の散布が確認され、鍛冶炉と考える。時期はⅡ期と考える。

SX4316(PL.4 第11回) U37に位置。鍛冶炉と考える。浅い皿状の小穴であり、径0.5m、深さ0.1mを測る。底面は黒色に焼き締まり、遺物は鑢羽口212・213の他、鉾澤・焼土が確認された。時期はⅡ期と考える。

カマド

SX4280(PL.5 第10・11回) Q38・39に位置。2ヶ所の焚口を有する複式のカマドと考える。25～50 cm大の石を東側に奥壁として半円形に配置し、西側中央に30 cm大の石を2石用いて仕切りとしていた。主軸はN10°Eに向き、長軸1.9m、短軸1.2mを測る。焚口の手前の平坦面は長さ1.8m、幅0.9m、深さ0.25mを測る。平坦面中央には灰を集める歪楕円形の土坑が検出され、深さは0.2mを測る。石材には笏谷石が8石あり、南側の焚口に60 cm大の笏谷石の板石が据えられていた。周辺に柱穴は確認できず、屋外の施設と見られる。時期はⅢ-2期と考える。



第10図 第I区域SX4280(縮尺1/50)

SX4281(PL.5 第11図) P38に位置。第I区域南側に構築された半円形の石組であり、西側に1ヶ所の焚口を有する単房式のカマドと考える。25～50cm大の石を東側に半円形に配置し、主軸はN10°Eに向き、長軸1.0m、短軸1.0mを測る。焚口手前には不定形の平坦面が設けられ、長さ1.5m、幅0.8m、深さ0.25mを測る。内部には炭化物が堆積していた。時期はⅢ-2期と考える。遺物は銭貨285が出土した。

3. 第Ⅱ区域(PL.6～12 第8・9・11・12図)

第Ⅱ区域は第82次調査区の東側を占め、0-X22～35の範囲に相当する(第8図)。遺構の層位はa-a'断面、b-b'断面、c-c'断面、d-d'断面で観察した(第9図)。

上墓石垣

SA4260(PL.6～8 第11図) V-Y25～35に位置。第I区域から続く武家屋敷の北側土塁石垣である。第Ⅱ区域におけるSA4260は、北側に溝SD4268、南側に溝SD4270を配置し、東側で第Ⅲ区域の矩折部SA893と接続する。SD4268・4270は、それぞれSA893内の暗渠SZ4319・914に接続するが、S2914に関しては矩折部構築後に設けられた可能性もある。時期はⅡ～Ⅲ期と考える。

建物

SB4273(PL.9 第11図) T-Y33～36に位置。調査区北側中央で検出された長方形の礎石建物である。耕作土を除去した段階で、礎石の一部が既に水田床土上で確認された。50cm大の石を用い、「上台受け」をもつ構造から葦と推定する。礎石の根石は残存し、内部に焼土面の広がりを確認した。建物は、桁行4間、梁間3間の規模を有し、通常ならば、主軸はN80°Wに向き、桁行7.6m、桁間寸法1.7～1.8m、梁間5.7m、梁間寸法1.9m、床面積43㎡を測る建物と観察されるが、建物を東西で二分するように、建物北辺と南辺の中央に40～80cm大の平坦な石が据えられ、それらを結ぶ軸線上の中間点にも礎石を配置されていた。また、北辺から1.3m北へ突出した位置にも、棟持柱を据えたと考えられる礎石が検出されており、この軸線が棟通りなら主軸がN10°Eに向く建物の可能性もある。入口は、礎石の配置状況から東辺中央に想定される。時期はⅢ-2期と考える。遺物は青磁盤187が出土した。

SB4300(PL.11 第8図) 0-Q34・35に位置。旧SX4300である。SB4273と第24次SB831の中間に存在し、SB4273から南へ9.0m隔てた地点で検出された礎石建物である。大きな破壊を受け、当初は、不明遺構としていたが、再度検討した結果、桁行3間、梁間2間の礎石建物と想定された。主軸はN15°Eに向き、桁行6.6m、桁間寸法1.8～2.6m、梁間4.4m、梁間寸法1.8～2.6m、床面積29㎡を測る。時期はⅡ期と考える。

区画溝

SD4271・4272(PL.9・10 第11図) SD4271はQ-V29・30に位置。SB4273の敷地の東辺区画溝である。30～50cm大の石を溝の外側のみ直線状に並べ底石はない。Q30でSD4272東端と接続する。主軸はN17°Eに向き、長さ16.0m、幅0.5mを測る。SD4272はQ30～33に位置。SB4273の敷地の南辺区画溝である。SD4272と同一構造であり、主軸はN75°Wに向き、長さ11.4m、幅0.5mの規模をもつ。西端には50cm大の平石2枚を階段状に設置していた。共に時期はⅢ期と考える。遺物はSD4271から土師器小皿199・200、SD4272から土師器小皿194～198、絆234が出土した。

石敷遺構

SX4291・4292(PL.9 第11図) SX4291はT-U31に位置。SB4273東辺から東側へ9.0m隔てて構築された石敷遺構である。30～50cm大の石を直線状に並べ、主軸はN10°Eに向き、長さ5.5mの規模をもつ。SX4291はV30に位置。20cm大の石を直線状に並べた石敷遺構である。主軸はN90°Wに向き、長さ2.5mを測る。SX4291の北端と接していたと考える。SB4273と並存すると考える。時期はⅢ-1期と考える。



第11图 第I区域SA4260、SB4274、SX4309·4313·4316·4317·4280、SE4276、第II区域SB4273、SV940·4261·4262、SX4279·4290、SD4270~4272(输尺1/100)

SX4266(PL.10・11 第11図) IHSV4266である。R・S28・29に位置。SD4271の東側から1.5m隔てて構築された石敷遺構である。30～50cm大の石をコの字状に配し、北側に開く。主軸はN80°Wに向き、コの字の長辺で3.2m、短辺2.0mを測る。時期はⅢ期である。

SX4290(PL.10・11 第11図) S・T29・30に位置。大きく破壊を受け、石材が散逸しているが、東側のSX4288と合わせて、本来、長方形の石敷遺構を構築していたと考える。20～50cm大の石を長方形に配し、主軸はN75°Wに向き、長軸5.5m、短軸2.0mを測る。SD4271が横断しないことから、排水よりも通路として使用することが優先されたと考える。SX4290の東半分には1間×1間の掘立柱建物の柱穴が検出され、SB4273への物資の出入を管理・監視する施設等が置かれた可能性がある。時期はⅢ期である。遺物は磁石254が出土した。

カマド

SX4279(PL.11 第11・12頁) T・U24・25に位置。第Ⅱ区域の東側で検出された。西側の2ヶ所に焚門を有する複式のカマドと考える。

東側に25～50cm大の石を配置して奥壁を構築し、北から南にかけて3の字状に石を配置していた。南側の奥壁には長さ60cm、幅50cmの板石が立てられていた。西側中央には20～30cm大の石を7石積んで仕切りとし、カマドの心材としていたと考える。主軸はN10°Eに向き、長軸2.3m、短軸1.7mを測る。

二つ焚門の手前には不定形に窪んだ平坦面が設けられ、長さ1.9m、幅0.9m、深さ0.25mを測る。全体的に石は十分な熱を受けて変色していた。石材の内、3石は笏谷石であった。時期はⅠ期と考える。

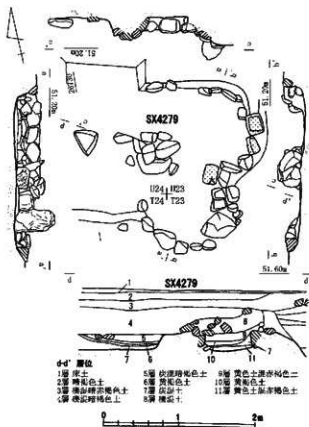
周辺を精査しても、覆屋などの痕跡は確認できず、SX4280と同様、屋外に設けられた施設と見る。

溝

SD4270・4271・4272(PL.8～10 第11図) SD4270はV25～28に位置。矩折部内のSZ914に接続する石組排水溝である。東西長10.0m、内寸幅0.8mを測る。SD4271はQ-V29・30に位置。南北長17.0m、内寸幅0.5mを測るかSX4290で一旦断絶する。SD4272はQ30～33に位置。東西長14.0m、内寸幅0.5mを測る。SD4271・4272はSB4273の敷地の区画溝と考える。SD4272の西端には基石が据えられていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

井戸

SE4275(PL.11 第8図) Q・R23に位置。石組の井戸である。10～50cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.4m、内寸短軸1.3m、深さ3.2mを測る。上面で60～80cm大の大石を4石検出した。円形に組まれた石組の底部は、礫層面を掘り込んで石積を行い、井戸底面中央には、小口を「合欠き」で加工した長さ136cm、幅18cm、厚さ0.5cmを測るマツの板目材を方形に組み、井桁を設けていた。時期はⅢ期と考える。遺物は、土器類182～186・188・206～208・210・211、銭貨281・282・286・298・307・310・318・331・334・337が出土した。



第12図 第Ⅱ区域SX4279(縮尺1/50)

4. 第Ⅲ区域(PL.12-13 第8-13図)

第Ⅲ区域は、第82次調査区の東側に接する第25次調査区(旧9MIM-P地区)の西側に属し、第82次調査区のグリッド上ではB-Y21～24の範囲がこれに相当する(第8図)。城戸ノ内町字齊藤に所在し、調査期間は昭和52年(1977)8月3日～同年11月5日である(文3)。SA893、SA892、SS260等が主に関連する遺構となる。

矩折部

SA893(PL.12-13 第8-13図) V-Y22～24に位置。道路SS260の内側に沿って、東側土塁石垣がクランク状に屈曲する部分である。「矩折」とは「見通しを避ける」という意味をもつ「遺書讀」である。

SA893は、W24で一旦、石垣に仕切られていたが、武家屋敷の北側土塁石垣として整備される段階で、東側に約5m張り出して、東側石垣土塁SA892の北端と接続したようである。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。SS260西側に面したa-a'間では、南側から暗渠SZ4319までは1.0～1.2mの巨石を3石配置し、4石目は1.2m大の直方体の石を直立させていた。2段目の石は1.1m大の石が1石残るのみであった。SS260南側に面したb-b'間では、東側に120cm大の石を直立して据え、西側の暗渠SZ914までは60～80cm大の石を6石配置していた。

SD901(PL.13 第13図) X22・23に位置。SA893の東側排水口から北へ0.8m流れた後、SS260を横断して東へ屈曲する石組排水溝である。SA893側はクランク状の溜槽の様相を呈す。東西長4.0m、内寸幅0.6mを測る。北側石垣土塁の外側を通るSD4268がSA893内で暗渠となり、これに接続する。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SZ4319(PL.13 第13図) X23に位置。SD901の暗渠であり、長さ約95cm、幅約70cm、厚さ12cmを測る長方形の板石が2石残存していた。板石は凝灰岩である。板石を4石SD902に架橋し、幅約2.7mを測る暗渠として、SS260の中央に設けられていたと考える。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SZ914(PL.13 第13図) V24に位置。北側石垣土塁の内側を通るSD4270の水を最短距離で排水するため、SA893内を斜めに横切る形で構築された暗渠である。SS260に面した排水口は、SA893基底部B面の西端に設けられ、排水口は内寸幅22cm、内寸高20cmを測る。排水はSD901までそのまま流れていたようである。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

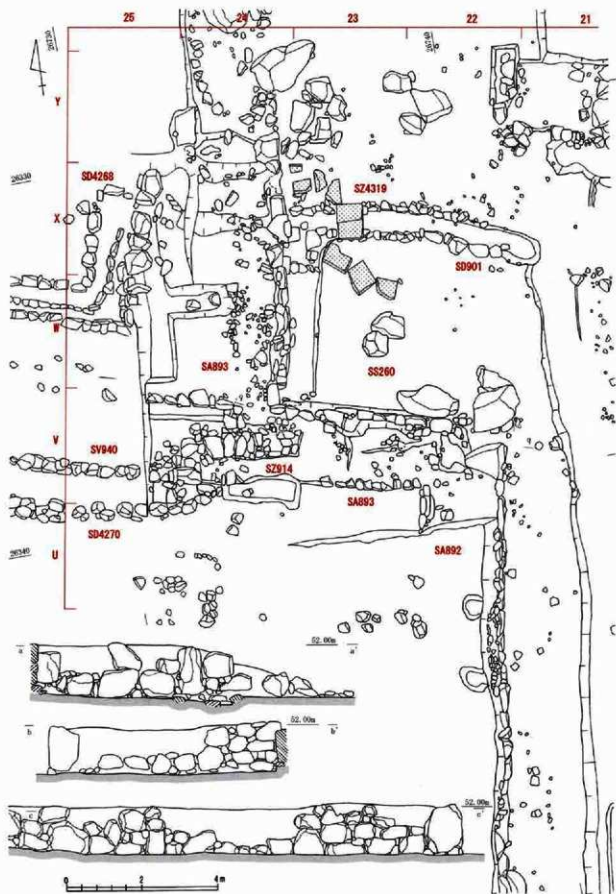
土塁石垣

SA892(PL.12-13 第8図) O-U22に位置。東側土塁石垣の基壇を検出した。北端に120cm大の石を直立して据え、基底部に40～70cm大の石を横役に直線状に並べ、内寸2.0m間隔で60～130cm大の巨石が押入されていた。本来は、基底部から2～3段の石を積み上げ、内部に小砂利と上で盛土をしていたと考える。主軸はN10°E1に向き、北端からS1942まで長さ約17.5m、幅約2.3m、高さ約1.4mを測る。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

道路

SS260(PL.12-13 第8図) 北からK-C23、V21～23、A-X20・21に位置。北側の矩折部から、南側の第Ⅳ区域SA2651に沿って直線状に南下する基幹道路である。路面上には1cm大の砂利が敷かれていた。北に向かって1/63のゆるやかな勾配をもつて下る。道路面は3面あり、第15次調査区のSS260上で検出したSD273とSD271の切り合いからも新旧2面があることが確認された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SS260を北側から概観すると、矩折部から北へ5m隔てた位置において、SD901が幅約5.0mのSS260を東西に横断しており、これを境とする幅約2.0mの東西道路が想定された。南下して、矩折部で2段階に屈折した後は大きな破壊を受けており、K-V20・21の範囲においては、東側で土塁石垣、溝などは確認できず、この区間の道路幅は不明である。K20・21付近に至ると、東側に位置する武家屋敷跡の西側土塁石垣SA266とSD896が検出され、幅約4.0mの規模を測る道路であることが判明した。第Ⅳ区域南側土塁石垣SA263の東端付近では、SD274が東端幅に沿って2.5mほど北上した後、東へ屈曲し、SS260横断後、SD896へと接続していた。



第13图 第Ⅲ区域矩折部SA893、东侧土墙石垣SA892(缩尺1/100)

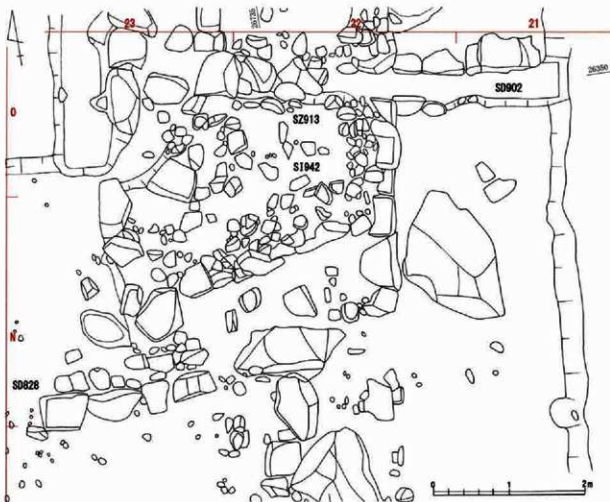
SS944 (PL.12 第8図) 北からL-N11～20に位置。L-N11～20付近で南北道路SS260に直交する大型の東西道路である。道路北側の境は土塁石垣のSA894、道路南側の境は幅0.6mを測る石組排水溝SD896と考えられ、全長30m以上、最大幅は7.5mを測る。SS944には砂利を含む砂質土が充填されていた。「朝倉始末記」の「永祿十一年五月十七日朝倉屋形へ御成御門役辻園ノ事」の条によれば、橋と併記される「通」は東西の道路を表記する場合に用いられており、朝倉館と対面し、その規模から「大橋ノ通」と有力視される道路である。

5. 第IV区域 (PL.14～17 第8・16図)

第IV区域は、第82次調査区の南側に接する第24次調査区(旧9MIM-P地区)と第10・11次調査区(旧9M1J-Q地区)の一部(文6)で構成され、第82次調査のグリッド上ではP-N21～42の範囲がこれに相当する(第8図)。城戸ノ内町字平井に所在し、武家屋敷南半の様相を示す。「一乗谷古絵図」では「新馬場」に含まれる点が注意される。第24次調査は全体で2,200㎡を調査し、調査期間は昭和52年(1977)5月1日～同年7月31日を要した(文3)。以下、既報に再検討を加えて主要遺構の概要を述べる。

土塁石垣・門

SI942 (PL.14 第8・14図) M・N22・23に位置。旧SX942である。北側をSA892、南側をSA265に挟まれ、SA892側のSD902とSA265側のSD828の石組排水溝に挟まれている。内寸全幅3.0m、奥行き2.5mの規模を測る。内部には10cm大の石を含んだ砂質土が敷き固められていた。調査時はN・021付近から西側の山裾に延びていた土塁石垣の一部と想定され、Ⅲ期の段階で取り除かれたとされた。



第14図 第IV区域SI942、SZ913、SD902・828(縮尺1/50)

改めて検討すると、SS260に面した部分には50 cm大の石が直線状に3石配置され、内側には、30～60 cm大の石を用いて、全幅約5.5 m、奥行き約1.5 mの張出部を1段設けていた状況が読み取れ、Ⅲ期で土塁を除去した後、門を形成していた可能性もある。周辺に100～200 cm大の巨石が散乱し、南北道路SS260と東西道路SS940の交差点に面していることも傍証となるのではないかと考える。

SA265(PL.14 第8回) D-M21・22に位置。東側土塁石垣の基壇である。門SI942の隣に北端の石とし240 cm大の石を横位に据えた後、基底部に40～100 cm大の石を直線状に並べ、基底部から2～3段の石を積み上げていたと考える。石材は一乗谷の凝灰角礫岩である。K-M22の範囲は100～220 cm大の石が用いられたようだが、以降、SI821までは30～60 cm大の石を用い、巨石を所々に配置するような石垣は見られない。主軸はN10° Eに向き、北端からSI821を含めた長さは34.5 m、幅約2.3 m、高さ約1.1 mを測る。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SA263(PL.14 第8回) P22～42に位置。東半部は第10・11次調査で検出された南側土塁石垣の基壇である。西側のA28～42付近までは、30～50 cm大の石を土塁石垣内外に直線状に配置し、2～3段の石積が良好な状況で検出されたが、SD316と並列する東側は80～140 cm大の巨石が8石検出されたものの大きな破壊を受けていた。主軸はN80° Wに向き、全長約62.0 m、幅約1.8 m、高さ約1.6 mを測る。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

門

SI821(PL.14・16 第15回) C・D22に位置。東側土塁石垣SA265の南側に構築された門である。東側の南北道路SS260に向かってハの字に開口する。主軸はN10° Eに向き、門の外側内寸幅4.0 m、内側内寸幅2.6 m、奥行き2.3 mを測る。SS260より0.2 m高い。北側には70 cm大の石を1石、南側には80 cm大の直方形の石を1石据え、その間に20～40 cm大の石を直線状に4石並べていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

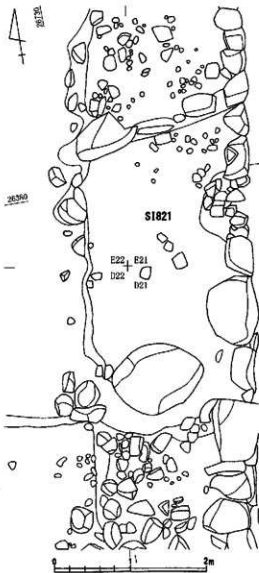
橋列

SA836(PL.15 第16回) C-G31に位置。径0.6～1.0 m大の歪楕円形の小穴が直線状に並び、桁行6間が検出された。主軸はN13° Eに向き、桁行寸法11.0 m、桁間寸法1.5～3.0 mを測る。SA846と同一の遺構であり、SA846が直交する。時期はⅠ期と考える。

SA846(PL.15 第16回) G22～30に位置。径0.6～0.8 m大の歪円形の小穴が東西に直線状に並んで検出された。橋と考える。主軸はN75° Wに向き、桁行11間、桁行寸法26.0 m、桁間寸法1.6～3.4 mを測る。SA836と接続する。時期はⅠ期と考える。

SA844(第16回) E-G40、E35-40に位置。径0.3～0.6 m大の歪円形の小穴がL字状に並んで検出された。橋と考える。

西辺橋列は主軸がN13° Eに向き、桁行3間、桁行寸法8.0 m、桁間寸法1.8～2.0 mを測る。南辺橋列は、主軸がN77° Wに向き、桁行9間、桁行寸法16.8 m、桁間寸法1.6～2.0 mを測る。北辺橋列はSA835で仕切られ、全体で1辺約8 mを測る



第15回 第Ⅳ区域SI821(縮尺1/50)

正方形の櫓を構成している。櫓内南東側には越前焼大甕16～18個分を乱雑に据えた埋土土坑群SK854が5.0×6.0mの範囲で検出された。これらは馬匹飼育に関連する遺構群と考えることもでき、時期はⅢ期と考える。

SB840(PL.15 第16図) G-I28～30に位置。径0.5～0.8mの垂円形の小穴が9字状に並んで検出された。櫓と考える。西辺櫓は主軸がN13°Eに向き、桁行2間、桁行寸法6.3m、桁間寸法2.8～3.2mを測る。北辺櫓は、主軸がN77°Wに向き、桁行4間、桁行寸法7.7m、桁間寸法1.8mを測る。時期はⅠ期と考える。

土 塼

SB857(第16図) J-L35に位置。SB831の西辺に構築された土塼の基壇と考える。主軸はN15°Eに向き、長さ5.5m、幅0.8mを測る。外側に20～30cm大の石、内側に40～50cm大の石が並列する。時期はⅢ期と考える。

建 物

SB831・832(PL.15 第16図) H-K36～39に位置。第24次調査区の西側山裾で検出された礎石建物である。桁行3間、梁間3間が検出された。主軸はN75°Wに向き、桁行4.2m、桁間寸法1.4m、梁間4.0m、梁間寸法1.4mを測る。SB831東辺には、SB832が桁行2間、梁間2間、桁行寸法4.0m、梁間寸法4.0mの規模で接続し、SB832の北側に3.0m×0.9m、南側に1.95m×1.95mの弧出部が付属する。よって、全体的に建物東辺は梁間2間、西辺は3間となっている。床面積はSB831・832と合わせ計約39㎡を測る。

建物南側はSB826とSB834でコの字に溝で区画され、正方形の空間を伴うことが判明した。この空間は南北7.0m×東西6.5mの規模を測る櫓と考えられ、空間内の大型土坑SK886や越前焼大甕が不規則に配置された埋土土坑群SK854(HSX854)は馬匹飼育に関連する遺構と考える。時期はⅢ期と考える。

SB838(第16図) I-K33・34に位置。SB831・832から東側へ8.5m隔てた位置にある礎石建物である。南北方向に長い建物であり、桁行4間、梁間1間が検出された。主軸はN13°Eに向き、桁行7.9m、桁間寸法1.4～2.2m、梁間1.5m、梁間寸法1.5mを測る。障壁または馬をつなぐ施設の可能性もある。時期はⅢ期と考える。

SB856(第16図) I-L40に位置。IFXS856である。SB831から西側へ1.8m隔てた位置にある礎石建物である。南北方向に長い建物であり、桁行5間、梁間1間が検出された。主軸はN13°Eに向き、桁行6.5m、桁間寸法1.0～2.0m、梁間1.7m、梁間寸法1.7mを測る。SB838と同様な建物と考える。時期はⅢ期と考える。

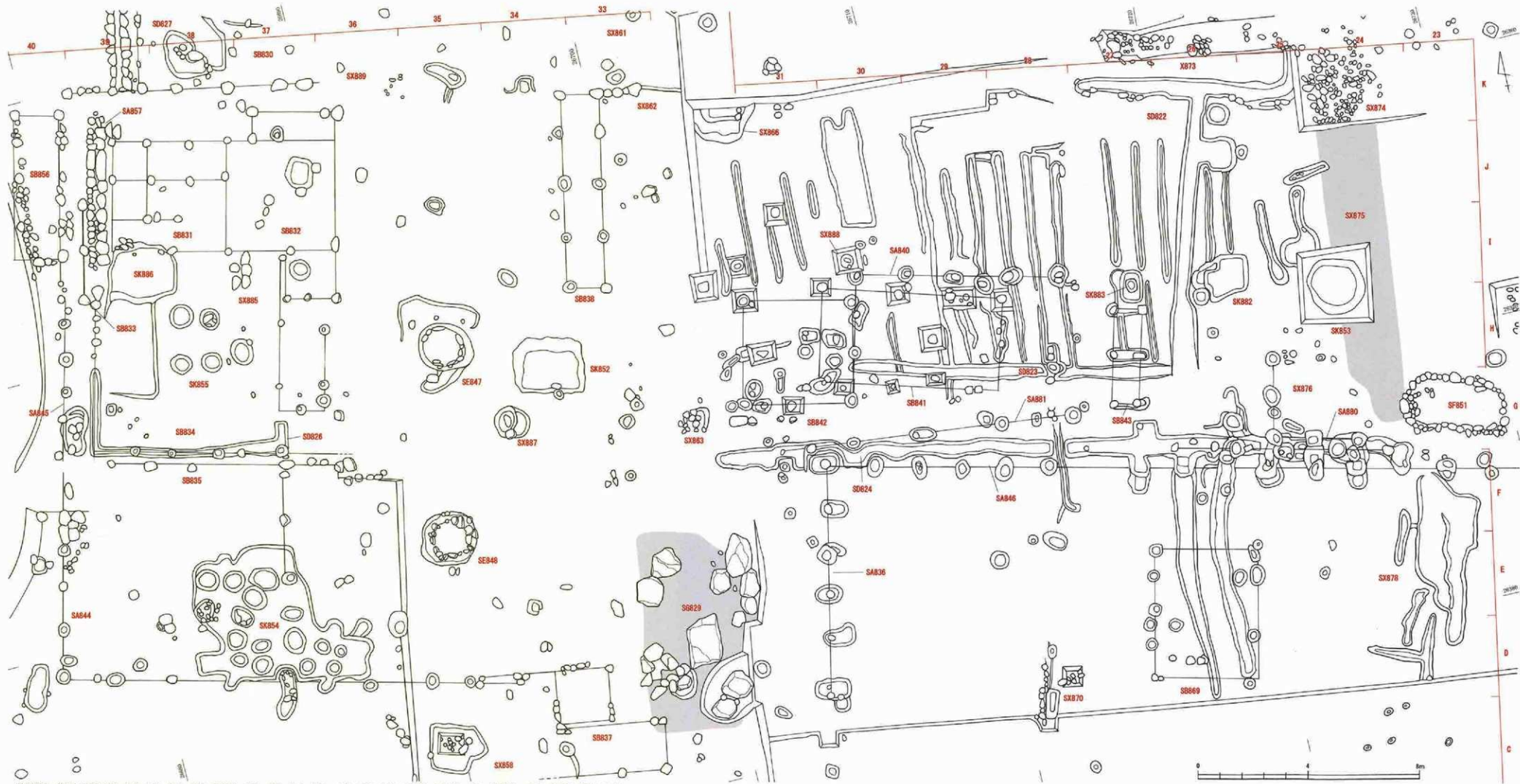
SB841(PL.15 第16図) H-I28～30に位置。第Ⅳ区域中央に位置する礎石建物である。平面形は長方形を呈し、桁行3間、梁間2間が検出された。主軸はN75°Wに向き、桁行6.8m、桁間寸法1.8～2.8m、梁間3.4m、梁間寸法1.6～1.8m、床面積は約23㎡である。時期はⅡ期と考える。

SB842(PL.15 第16図) H-I30～32に位置。第Ⅳ区域中央に位置する小規模な掘立柱建物である。平面形は方形を呈し、桁行2間、梁間1間が検出された。主軸はN11°Eに向き、桁行3.8m、桁間寸法1.9m、梁間4.0m、梁間寸法4.0mを測る。床面積は約15㎡である。SB840が櫓として付属したと考える。時期はⅠ期と考える。

SB843(第16図) H-I27に位置。SB842から東側へ9.5m隔てた位置。桁行2間、梁間1間が検出された。主軸はN11°Eに向き、桁行3.5m、桁間寸法1.5～1.8m、梁間1.1m、梁間寸法1.1mを測る。馬をつなぐ施設と考える。時期はⅠ期と考える。

SB869(第16図) I-L40に位置。IFXS869である。第Ⅳ区域南東に位置する掘立柱建物である。桁行4間、梁間1間が検出された。主軸はN12°Eに向き、桁行4.8m、桁間寸法1.0～1.4m、梁間3.8m、梁間寸法3.8mを測る。時期はⅠ期と考える。

SB839(第8図) L-M28・29に位置。第Ⅳ区域北端に位置する方形の礎石建物である。南半分は石敷遺構SX871を伴う。北東側が削られているが、SX871の規模から、桁行4間、梁間2間の規模と推定される。主軸はN12°Eに向き、桁行4.8m、桁間寸法1.0～1.4m、梁間3.8m、梁間寸法1.9mを測る。時期はⅢ-2期である。



第16图 第IV区域SA836·846·844·840·857·SB831·832·838·856·841~843·869·837·SG829·SX873·874·SB847~850·SP851(幅尺1/100)

SB837(PL.17 第16回) D・E33・34に位置。SA844の東端に隣接する。「西阿」と見られる小規模な礎石建物である。平面形は方形を呈し、桁行1間、梁間1間が検出された。主軸はN17°Eに向き、桁行1.8m、桁間寸法1.8m、梁間1.8m、梁間寸法1.8mを測る。床面積は約3㎡と狭小だが、南西側の桁行4.4m以上、梁間3.8mを測る礎石建物の一室の可能性もある。庭SG829と並存する「草庵風茶室」と見る。時期はⅢ-1期と考える。

庭

SG829(PL.17 第16回) D-F32～33に位置。SB837の東に構築された平庭である。南北8.0m、東西5.0mの範囲に「白砂」が敷かれ、北端には礫混黄色土が広がっていた。北東隅には、1.5m大の巨石が「立石」、他の50～100cm大の大石が「伏石」として配置されていた。南西隅には、海石を用いた方形の石組が「踏躰縁遺構」として配置され、内部には焼土が堆積していた。時期はⅢ-1期と考える。

通路

SX873・874(第16回) J・K24～27に位置。西側のSX873と合わせて、L字状の石敷通路が復元できた。SX873は東西通路として、主軸がN84°Wに向き、長さ9.5m、幅1.4mを測る。SX874は、南北通路としてSX873東端から南に向かって、石積施設SF851まで直線状に延び、東側土塁石垣SA265と平行していたと考える。主軸はN11°Eに向き、長さ15.0m、幅2.4mを測る。時期はⅢ期と考える。

井戸

SE849(PL.16 第8回) N32に位置。石組の井戸である。10～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.8m、内寸短軸0.8m、深さ1.7mを測る。円形に組まれた石組の底部は、礫層面を掘り込んでそのまま石積を行い、井戸底面には、板目材を方形に組んだ井桁を設けていた。時期はⅠ・Ⅱ期と考える。遺物は15世紀前半の土師器Ⅲが多く出土した。

SE847(第16回) I361に位置。石組の井戸である。10～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.8m、内寸短軸1.7m、深さ3.0mを測る。円形に組まれた石組の底部は、礫層面を掘り込んでそのまま石積を行い、井戸底面には、板目材を方形に組んだ井桁を設けていた。時期はⅢ-2期と考える。遺物は越前焼の壺・壺・播鉢、土師器Ⅲ、青磁酒壺蓋、青磁・白磁皿等が出土し、陶磁器類は井戸外で出土した破片と接合する個体が一定量うかがえた。特殊なものでは、金属製品として鋳物製鉄鍋、銅製の茶釜蓋・一輪挿し花瓶、銭貨6枚、木製品として漆器碗、曲物、「いえ」と墨書された木札3枚が出土した。

SE848(第16回) F35に位置。石組の井戸である。10～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.9m、内寸短軸0.8m、深さ1.5m以上を測る(深度が深く、未完掘)。時期はⅢ-2期と考える。遺物は、越前焼壺・壺、土師器Ⅲ、灰軸皿・香炉が出土した。

SE850(第16回) B26に位置。南側土塁石垣SA263の中央からやや東寄りに位置。石組の井戸である。10～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.8m、内寸短軸0.8m、深さ3.8mを測る。上面は巨石に覆われ、井戸内には礫石が多く崩落していた。井戸底面に井桁は設けておらず、遺物はほとんど確認できなかった。時期はⅡ期と考える。

石積施設

SF851(PL.16 第16回) M48に位置。東側土塁石垣SA265に沿って構築された大型石積施設であり、20～40cm大の石を底面から約11°の勾配をもって5～7段積み、平面形は長楕円形を呈す。主軸はN70°Wに向き、内寸長軸3.2m、内寸短軸1.5m、深さ1.2mを測る。底面東側に長軸1.1m、短軸0.6m、深さ0.1m、底面西側に長軸1.6m、短軸1.1m、深さ0.2mの浅い窪みをもつ。覆土は上層に砂質土、下層に炭化層が堆積していた。時期はⅢ-2期と考える。第34・46・65次調査で頻例がある。特殊な形状から馬匹関連遺構と考える。

第1表 第82次調査主要遺構観察表(PL.1～15 第6～14区)

第I区域

NO	グリッド	遺構	種類	下層				写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	IV期		
1	V-Y 36~41	SA4280	土器石垣					PL. 2 PL. 3	第8図 第11図
2	U-V 38~39	SB4274	掘立柱 建物					PL. 2 PL. 4	第10図
3	P36~37	SE4276	井戸					PL. 5	第8図
4	T42	SE4277	井戸					PL. 5	第8図
5	T-U40	SK4309	土坑					PL. 5	第11図
6	V37	SK4317	土坑					PL. 4	第11図
7	U41	SK4313	竈治炉					PL. 5	第11図
8	U37	SK4316	竈治炉					PL. 4	第11図
9	Q38~39	SK4280	カマド			---		PL. 5	第10図 第11図
10	P38	SK4281	カマド			---		PL. 5	第11図

第II区域

NO	グリッド	遺構	種類	下層				写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	IV期		
11	V-Y 25~35	SA4280	土器石垣					PL. 2 PL. 3	第8図 第11図
12	U-V 38~39	SB4273	礎石建物			---		PL. 2 PL. 4	第11図
13	Q-Q 34~35	SB4300	礎石建物					PL. 11	第8図
14	Q-V 29~30	SD4271	区画溝					PL. 9 PL. 10	第11図
15	Q33~31	SD4272	区画溝					PL. 9 PL. 10	第11図
16	T-U31	SK4291	石版遺構					PL. 9	第11図
17	V30	SK4292	石版遺構					PL. 9	第11図
18	R-S 28~29	SK4266	石版遺構					PL. 10 PL. 11	第11図
19	R-S 28~29	SK4290	石版遺構					PL. 10 PL. 11	第11図
20	T-U24	SK4279	カマド					PL. 11	第11図 第12図
21	V25~28	SD4270	石組排水溝					PL. 12	第11図
22	Q-V 29~30	SD4271	区画溝					PL. 13	第11図
23	Q33~33	SD4272	区画溝					PL. 14	第11図
24	Q-R23	SE4275	井戸					PL. 11	第8図

第III区域

NO	グリッド	遺構	種類	下層				写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	IV期		
25	V-Y 22~24	SA893	短折部 土器石垣					PL. 12 PL. 13	第8図 第13図
26	X22~23	SD901	短折部 石組排水溝					PL. 13	第13図
27	X23	SD4319	短折部 石組排水溝					PL. 13	第13図

NO	グリッド	遺構	種類	下層				写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	IV期		
28	V24	SZ914	短折部 石組排水溝					PL. 13	第13図
29	Q-U22	SA892	土器 石垣					PL. 12 PL. 13	第8図
30	R-S 28~29	SS260	道路					PL. 12 PL. 13	第8図
31	L-N 11~20	SS944	道路					PL. 12	第8図

第IV区域

NO	グリッド	遺構	種類	下層				写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	IV期		
32	M-N 22~23	S1942	土器石垣 門			---		PL. 14	第8図 第14図
33	D-M 21~22	SA265	土器石垣					PL. 14	第8図 第14図
34	P21 ~42	SA263	土器石垣					PL. 14	第8図
35	C-D22	S1821	門					PL. 14 PL. 16	第15図
36	C-G31	SA836	楕円			---		PL. 15	第16図
37	G22~30	SA846	楕円			---		PL. 15	第16図
38	G22~30	SA844	楕円					PL. 15	第16図
39	G-I 28~30	SA840	楕円					PL. 15	第16図
40	J-L35	SA857	土塚					-	第16図
41	H-K 36~39	SB831 SB832	礎石建物					PL. 16	第16図
42	J-K 33~34	SB838	礎石建物					-	第16図
43	J-L40	SB856	礎石建物					-	第16図
44	H-I 28~30	SB841	礎石建物					PL. 15	第16図
45	H-I 30~32	SB842	掘立柱 建物					PL. 15	第16図
46	H-127	SB843	礎石建物					-	第16図
47	J-L40	SB869	掘立柱 建物			---		-	第16図
48	L-M 28~29	SB839	礎石建物					-	第16図
49	D-E 33~34	SB837	礎石建物					---	PL. 17 第16図
50	D-F 32~33	SG829	庭					---	PL. 17 第16図
51	J-K 24~27	SK873 SK874	道路					-	第16図
52	K32	SE849	井戸					-	第16図
53	I35	SE847	井戸					-	第16図 第16図
54	F35	SE848	井戸					-	第16図
55	B26	SE850	井戸					-	第16図
56	M48	SF851	石積施設					PL. 16	第16図

6. 遺物 (PL.45-49 第17-28図、第2表)

第82次調査の遺物は、1~339を掲載した。内訳は第I・II区域の土器(陶磁器類)1~201、土製品202~213、金属製品214~250、石製品251~258、木製品259~280、銭貨281~339である。詳細は第2表に記し、以下、特徴的なものの概要を述べる。

第I・II区域包含層出土土器(PL.45・46 第17~21図)

土器器小皿は浅鉢形B類、浅皿形C類、浅皿形C類(小型品)、杯形C類(文6)で占められた。盤形D類は見られない。38・39・43・46・47・49・50~54には口端部にスガが付着し、灯明皿として使用された痕跡を残す。24・25は底部中央が凹むハソ皿である。27の底部には径0.5cmの穿孔があり、小型の容器に少量の液体を入れるのに使用したと考える。59は土師質の香炉の獣脚と考える。瀬戸美濃の鉄釉煮 70は口端部に突帯がめぐり、突帯に押印斜行文を施している。茶入 71は底部に回転糸切り痕が残る。水滴 72は体部上位に把手がうつ付き、体部中に注口をもつ。灰釉碗 77・79は体部に粗い線刻蓮花文があり青磁碗の模倣品と考える。捏鉢 80~82の底部周縁には3つの粘土塊の脚が付く。瓦質土器の火鉢 83~85は短く立ち上がる口縁部の上下に突帯をめぐらせ、突帯内に三角柱状文の押印が充填されている。青磁花入 114は頸部に縦方向の連続綾杉文と3段の雷文を突帯、第24次調査747、第15次調査破片と同一個体と考える。香炉 117には算木文が彫刻されている。白磁皿 128は内面底部周縁が円形に露胎し、赤色塗彩がされていた。

第I区域遺構出土土器(PL.46 第21~23図)

SB4274 出土(PL.46 第22図) 中国瑠璃釉煮 156は濃紺青色の釉が外面にかかる。高台は削出高台である。SK4309 出土(PL.46 第22・23図) 越前焼大甕 165~169が出土した。165・167・168には笠状のヘラ記号、169にはT字状のヘラ記号が刻まれる。朝鮮象嵌壺 164は粉青沙器の壺であり、白象嵌で2~4条の線を描き、間に蓮弁文・半弧文を描く。胴部上位の四角形の枠中に縦方向に「慶尚」の文字が並列する。

SE4275 出土(PL.47 第24図) 柴付皿 188は底面に褐釉の魚文が配される。

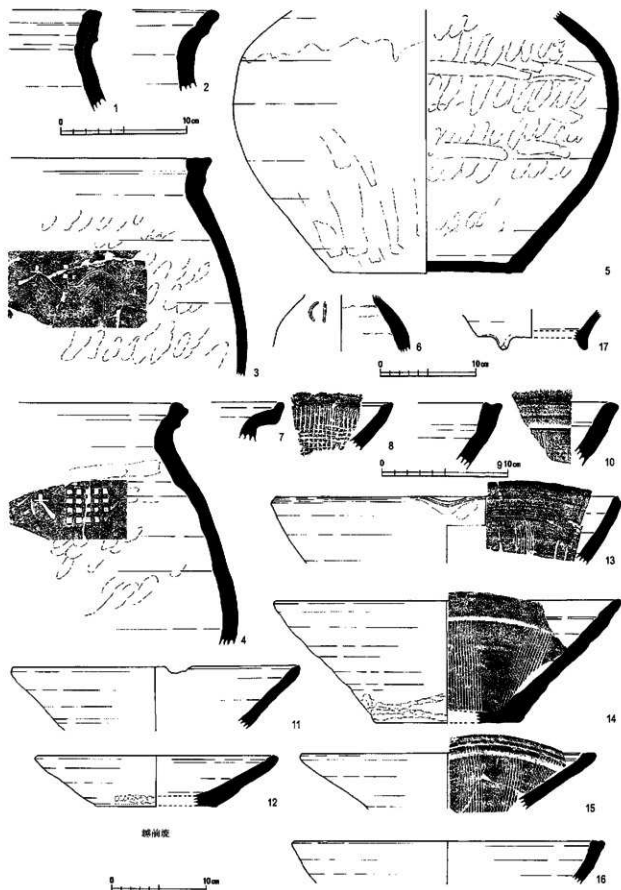
土製品(PL.47 第24図) 十鉢 202~205は大型品であり、棒巻き付け技法で成形している。202はヘラケズリで重量を調整した痕がある。土製円盤 206~211は越前焼の破片を円形に粗く打ち欠いたもので、209を除き、第II区域SE4275から出土した。盤上遊戯の駒として用いられたと考える。共存する10枚の銭貨との関連がうかがわれる。

金属製品(PL.47 第24~25頁) 火箸 217は長さ42.7cmを測る稀有な人形品である。銅製品であり、第I区域SE4276から出土した。上端を環状に曲げ、S字状金具を2つ繋げている。鞘 233・234は木葉形に2つの円孔をもつ銅製品であり、2本の紐をまとめる金具である。小札 247~250は鉄板に黒漆を厚く盛り、札頭の形状から247・248は本小札、249・250は伊予札に分類される。

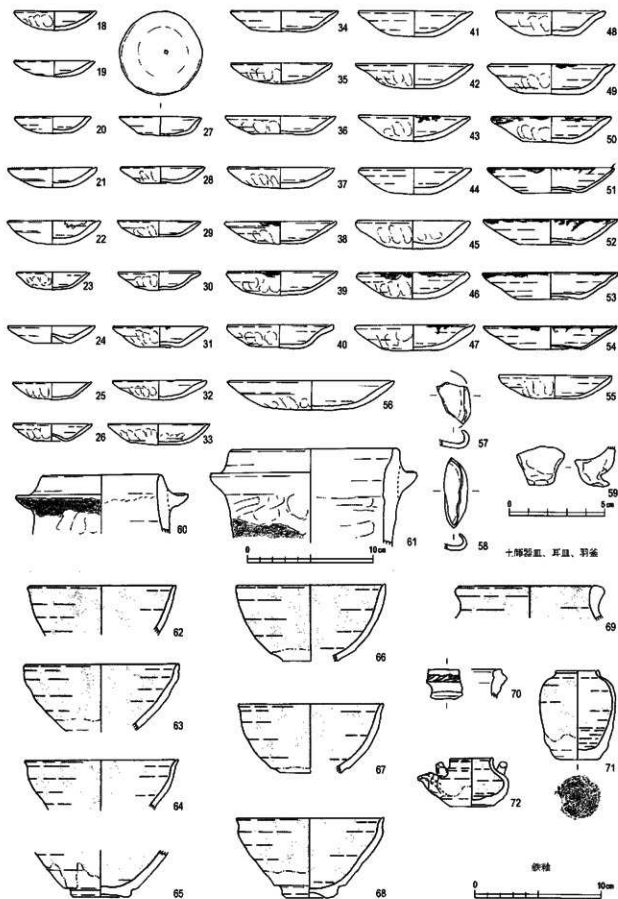
石製品(PL.48 第25・26図) バンドコ257はO形バンドコの蓋である。第I区域SE4277から出土した。SE4277は洗場を備えた井戸であり、摩耗しているため、道具として転用したとも考えられる。

木製品(PL.48 第26・27頁) 第I区域SE4276のものが主体を占める。漆器皿 259・261は黒漆地に朱漆で閉扇文を描く。法量もほぼ同じだが、260はカツラ属、261はハンノキ属であり、樹種を異にする。SE4276では、蓋 259、桶 262、曲物 264、折敷 266~273、箸 275~280に加え、木刀 265、棒齋串 274も含まれ、これらは井戸祭祀に使用された可能性もある。

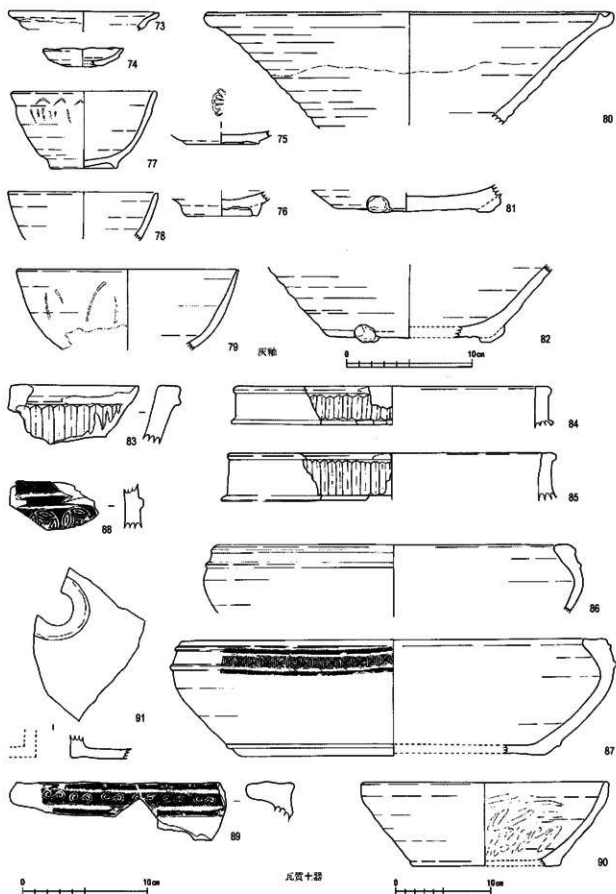
銭貨(PL.49 第27・28図) 銭貨 281~339が出土した。第I区域SK4317で5枚(嘉定通寶 321~325)、第II区域SE4275で10枚(開元通寶 281・282、景德元寶 286、治平元寶 298、元豐通寶 307、元祐通寶 310、紹聖元寶 318、洪武通寶 331、永樂通寶 334、不明 337)が出土した。SK4317のものは地鎮具と考える。



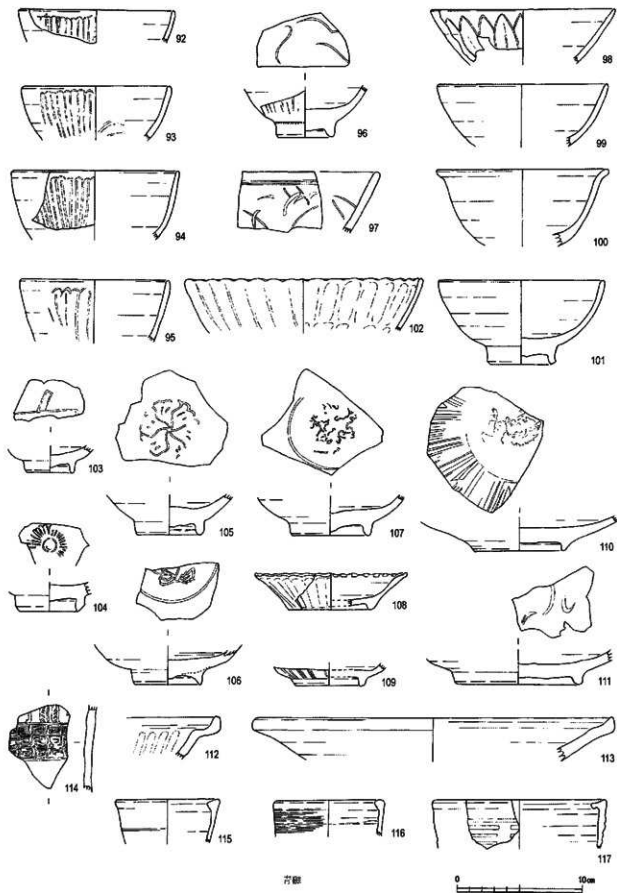
第17圖 第82次調査 第I・II区域包含層出土土器(縮尺1/3, 1/4)



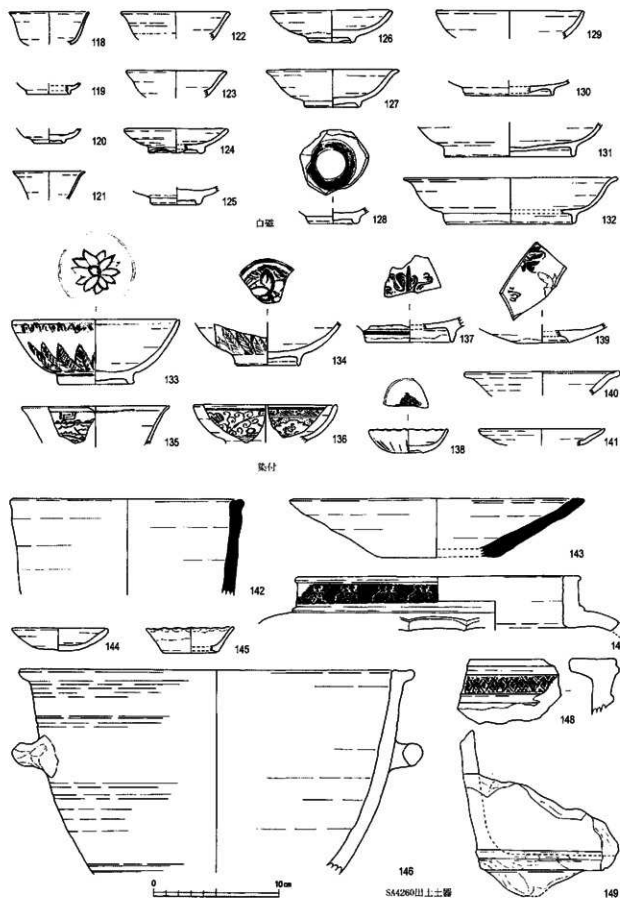
第18图 第82次调查 第I·II区域包含器出土土器(縮尺1/3、1/4)



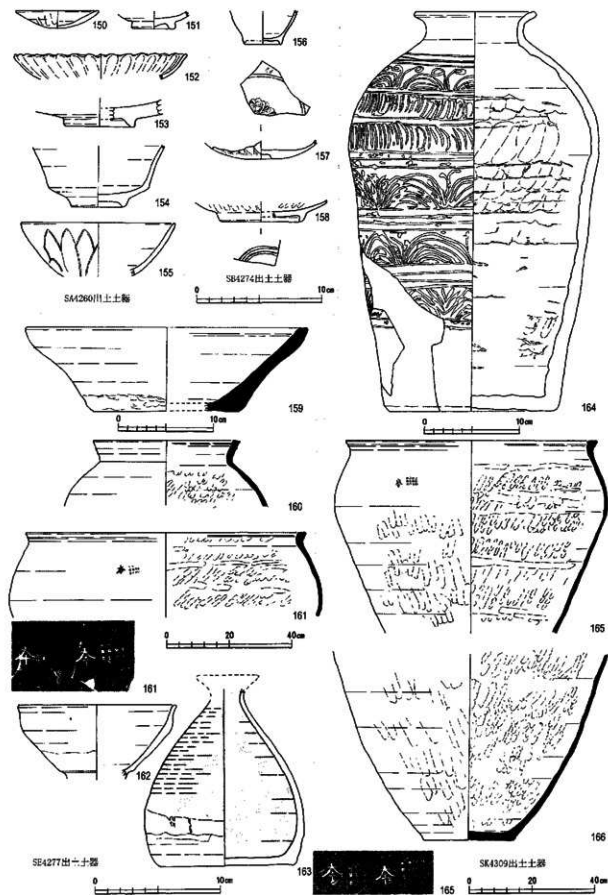
第19图 第82次调查 第1·II区域包含层出土土器(缩尺1/3、1/4)



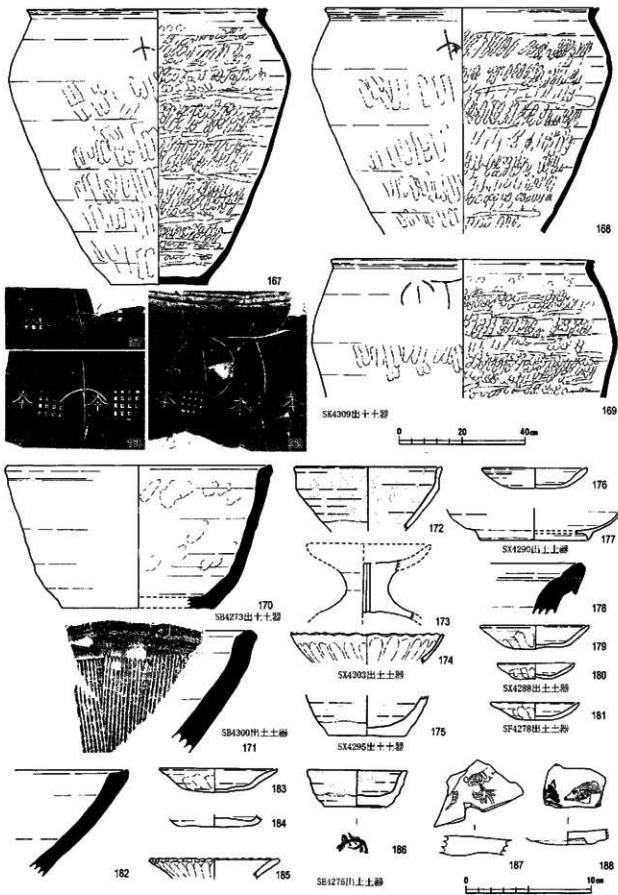
第20图 第82次調査 第I・II区域包含層出土器(縮尺1/3)



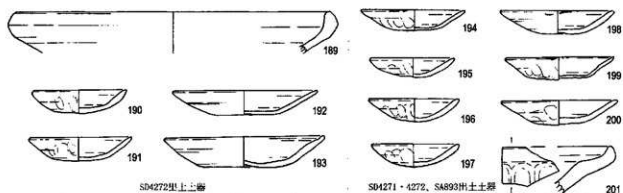
第21图 第82次調査 第I・II区域包含層出土土器、第I区域遺構出土土器(縮尺1/3)



第22图 第82次調査 第I区域遺構出土土器(縮尺1/3、1/4、1/12)

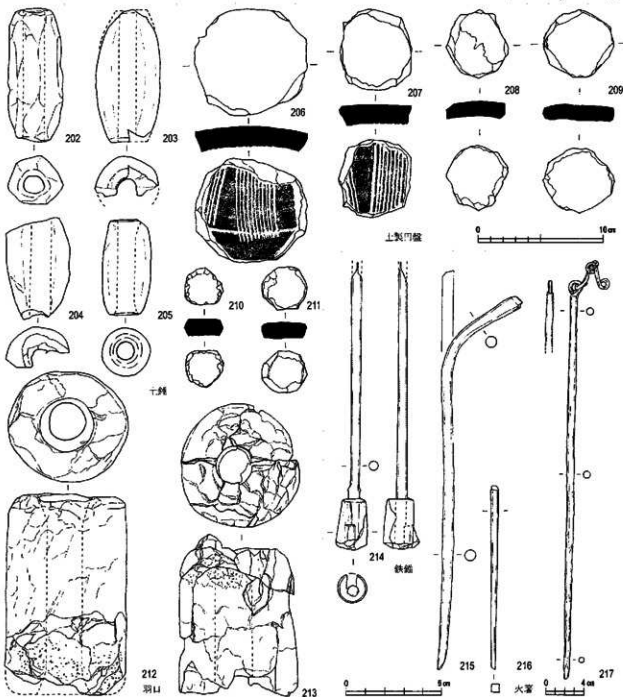


第23图 第82次調査 第I・II区域遺構出土土器(縮尺1/3、1/4、1/12)

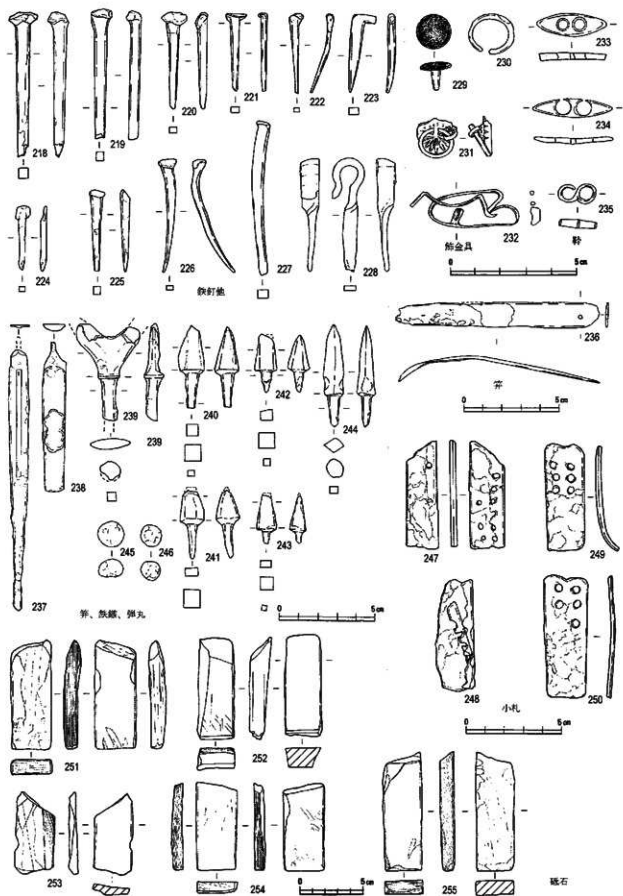


SD4272里上土器

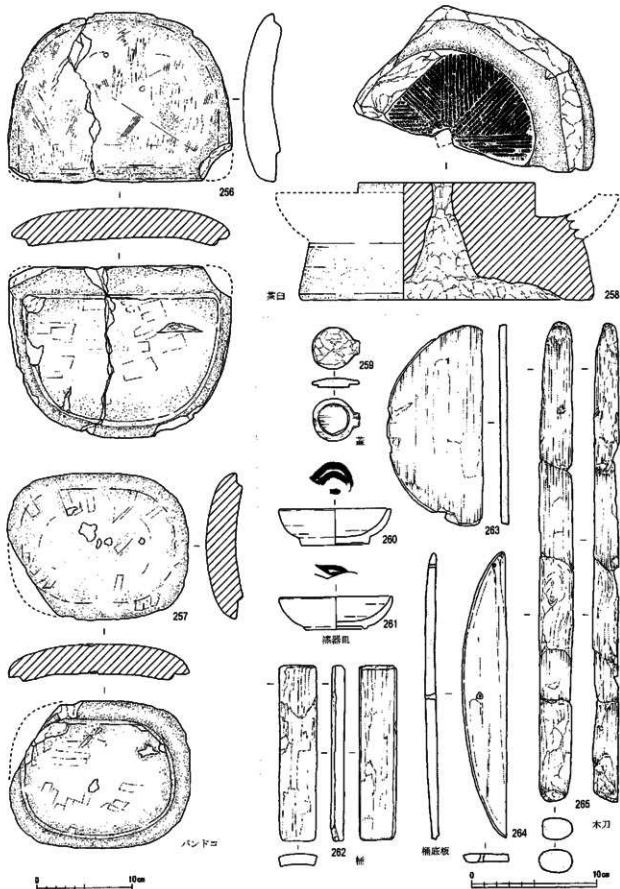
SD4271・4272, SA893出上土器



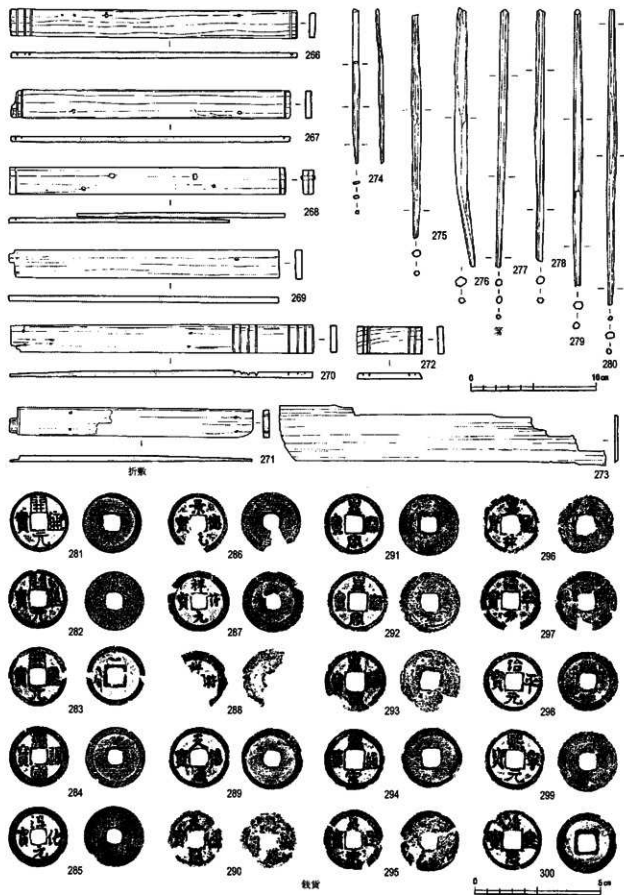
第24图 第82次調査 第Ⅱ区域遺構出土土器、土製品、金属製品(縮尺1/2、1/3、1/4)



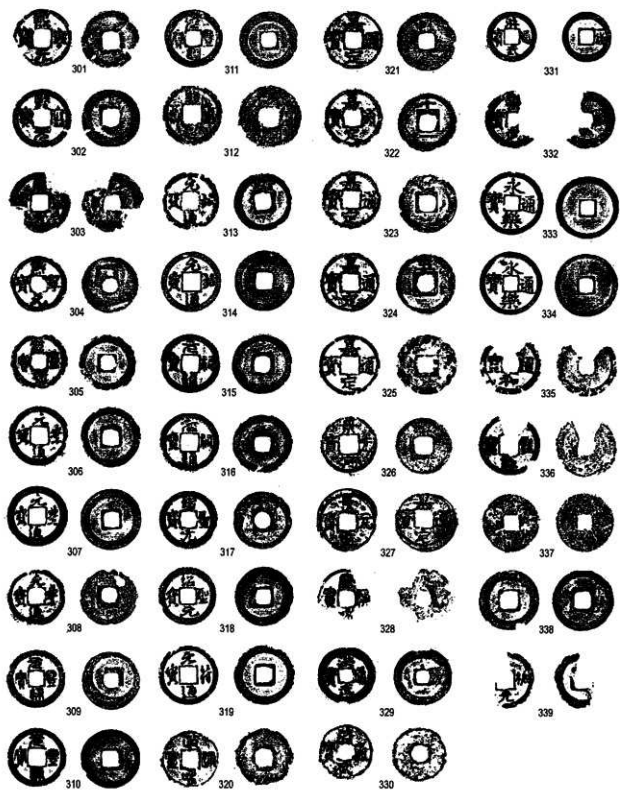
第 25 圖 第 82 次調査 金屬製品、石製品(縮尺 1/2、1/3、2/3)



第26圖 第82次調査 石製品、木製品(縮尺1/3、1/4)



第 27 圖 第 82 次調査 木製品、銭貨(縮尺 1/3、2/3)



銭貨



第28圖 第82次調査 銭貨(縮尺2/3)

第2表 第82次調査出土遺物観察表(Pl.45～51 第17～28回)

第I・II区域包含層出土土器(Pl.45～46 第17～21回)

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
1	甕形鉢 大甕	-	焼: やや不貞 淡灰茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: やや外傾して短く立ち上がる/ 口縁部内側に段をもつ/口唇部は丸く収める	外: 1) 胴部: ココナテ/胴部上段ナテ 内: 1) 口縁部: ココナテ/胴部上段ナテ	第3区域 005/26/灰土
2	甕形鉢 大甕	-	焼: 良好 淡赤茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: やや外傾して立ち上がる/ 口縁部内側に段をもつ/口唇部は丸く収める	外: 1) 口縁部: 胴部ココナテ/胴部の沈線がのこる 内: 1) 口縁部: 胴部ココナテ	第3区域 P22・23/砂利混焼褐色土 7/灰土
3	甕形鉢 大甕	-	焼: 良好 淡灰茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: やや外傾して短く立ち上がる/ 口縁部内側に段をもつ/口唇部は平直	外: 1) 口縁部: ココナテ/胴部ト段ナテ/2) 胴部の ヘウタリ 内: 1) 胴部: ココナテ/胴部上段直線段ナテ	第3区域 740/灰土
4	甕形鉢 大甕	-	焼: 良好 明灰茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: やや外傾して短く立ち上がる/ 口縁部内側に段をもつ/口唇部は平直	外: 1) 胴部: 胴部中位ココナテ/胴部上段2 段直線のヘウタリ 内: 1) 口縁部: ココナテ/2) 胴部: ココナテ/胴部上 段直線/胴部上段ナテ	第3区域 S22・23/砂利混焼土 724/灰土
5	甕形鉢 中甕	高: 27.0 径: 40.5 底: 20.0	焼: 良好 赤茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/4	胴部: 中位で大きく肩がゆる な直線・平直	外: 1) 胴部: ナテ/直線半調整 内: 1) 胴部: 直線3段・ココナテ	第3区域 129/灰度暗褐色土 130/灰土
6	甕形鉢 小甕	高: 5.0 径: 14.2	焼: 良好 淡赤茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	胴部: 上位で大きく肩がゆる な直線	外: 1) 胴部: 上位ナテ/直線のヘウタリ 内: 1) 胴部: 直線3段	第3区域 138/灰度暗褐色土 838/灰度暗褐色土
7	甕形鉢 中甕	-	焼: 良好 明灰茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: 胴部から直線して立ち上る/ 口唇部内側に段をもつ/口唇部 は丸く収める。	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ 内: 1) 口縁部: 胴部直線ナテ/シャープな 上上げ	第3区域 P22・23/砂利混焼褐色土 4/灰土
8	甕形鉢 中甕	-	焼: 良好 淡赤茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: 直線状に胴の外方へ立ち上る/ 口唇部丸く収める	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ/底部同様に 直線ナテ 内: 1) 口縁部: 胴部直線ナテ/幅2.5cm・11条 の線/直線部直	第3区域 138/灰土
9	甕形鉢 中甕	-	焼: 良好 淡赤茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: 直線状に胴の外方へ立ち上る/ 口唇部丸く収める	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ 内: 1) 胴部: 胴部直線ナテ	表上
10	甕形鉢 中甕	-	焼: 良好 明赤茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: 直線状に胴の外方へ立ち上る/ 口唇部丸く収める	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ 内: 1) 胴部: 胴部直線ナテ/幅1.5cm・7条 のヘウタリ部と直線部がのこる	第3区域 K25/灰土下赤色土
11	甕形鉢 中甕	口: 30.6 高: 6.6	焼: 良好 暗灰色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: 直線状に胴の外方へ立ち上る/ 口唇部内側に段をもつ	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ/口唇部の一部を打 ち抜いて口に平直する 内: 1) 口縁部: 胴部直線ナテ/シャープな上 上げ	表上 1/灰土・陶片
12	甕形鉢 中甕	口: 25.8 高: 5.4 底: 12.9	焼: 良好 赤茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: 直線状に胴の外方へ立ち上る/ 口唇部丸く収める	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ/底部同様に 直線ナテ 内: 1) 胴部: 胴部直線ナテ 外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ	第3区域 K29/灰土下赤色土
13	甕形鉢 中甕	口: 37.1 高: 7.0 底: 30.5	焼: 不貞 灰色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: やや内傾して胴の外方へ立ち上る/ 口唇部内側に段をもつ	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ 内: 1) 口縁部: 胴部直線ナテ/幅2.5cm・7条 のヘウタリ部と直線部がのこる	第3区域 140/灰度暗褐色土 V41・42/1) 土質灰土
14	甕形鉢 中甕	口: 30.6 高: 13.0 底: 18.0	焼: 良好 暗灰色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: 直線状に胴の外方へ立ち上る/ 口唇部丸く収める	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ/底部同様に 直線ナテ 内: 1) 胴部: 胴部直線ナテ/幅3.1cm・12条 の線/1) シャープな上上げ	第3区域 129/灰土下赤色土 外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ
15	甕形鉢 中甕	口: 31.0 高: 6.0	焼: 良好 暗灰色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: 直線状に胴の外方へ立ち上る/ 口唇部内側に段をもつ	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ 内: 1) 胴部: 胴部直線ナテ/幅2.5cm・9条 の線/1) シャープな上上げ	第3区域 S35/灰土 外: 1) スス付着
16	甕形鉢 中甕	口: 33.0 高: 4.5	焼: 良好 赤茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	1) 胴部: やや内傾して胴の外方へ立ち上る/ 口唇部内側に段をもつ	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ 内: 1) 胴部: 胴部直線ナテ	第3区域 U28/灰度褐色土
17	甕形鉢 中甕	高: 4.3 径: 11.9	焼: 良好 赤茶色	輪郭脱 白色灰子 残存 1/10以下	胴部: 外傾して直線状に上方へ立ち上る/ 口唇部丸く収める	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ 内: 1) 胴部: 胴部直線ナテ	第3区域 142・43/灰土
18	1) 甕形 小甕	口: 6.6 高: 1.6	焼: 良好 淡褐色	輪郭脱 残存 1/1	1) 胴部: 内傾して胴の外方へ立ち上る/ 口唇部丸く収める	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ 内: 1) 口縁部: 胴部直線ナテ	第3区域 729
19	2) 甕形 小甕	口: 6.2 高: 1.3 底: 2.3	焼: 良好 白褐色	輪郭脱 残存 1/1	1) 胴部: 内傾して胴の外方へ立ち上る/ 口唇部丸く収める	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ 内: 1) 口縁部: 胴部直線ナテ	第3区域 R・S35/灰土下暗褐色土 1) 灰土に付着
20	2) 甕形 小甕	口: 6.0 高: 1.4 底: 2.0	焼: 良好 暗褐色	輪郭脱 残存 1/1	1) 胴部: 内傾して胴の外方へ立ち上る/ 口唇部丸く収める	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ 内: 1) 口縁部: 胴部直線ナテ	第3区域 R・S35/灰土下暗褐色土 1) 灰土に付着
21	2) 甕形 小甕	口: 7.0 高: 1.3 底: 2.6	焼: 良好 暗褐色	輪郭脱 残存 4/5	1) 胴部: 直線状に胴の外方へ立ち上る/ 口唇部丸く収める	外: 1) 胴部: 胴部直線ナテ 内: 1) 胴部: 胴部直線ナテ	第3区域 132/灰土下暗褐色土 1) 1) 灰土に付着 口唇部2) 所に直線的 の付着

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点	
							備 考	備 考
22	土師器 小皿	口: 7.2 高: 2.9 底: 2.2	焼: 良好 色: 白褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:内湾して斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に設けられ 底面:平底	外:口縁部ヨコナテ/体部一底部ナテ 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 729 片1枚に含む 内:赤色化粧土	
23	土師器 小皿	口: 6.0 高: 1.3 底: 2.6	焼: 良好 色: 褐色肌	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部一底部ナテ後部狭 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 309/7出土灰褐色土 片1枚に含む	
24	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.6 底: 2.8	焼: 良好 色: 褐色肌	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部一底部ナテ 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 #42/7出土灰褐色土 片1枚に含む	
25	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.4 底: 2.5	焼: 良好 色: 白褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部ヨコナテ/体部一底部ナテ後部 狭 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 100/7出土灰褐色土 片1枚に含む	
26	土師器 小皿	口: 6.2 高: 2.4 底: 3.0	焼: 良好 色: 淡褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部ヨコナテ/体部一底部ナテ後部 狭 内:口縁部ヨコナテ/底面ナテ	第Ⅱ区域 729	
27	土師器 小皿	口: 6.5 高: 1.5 底: 3.5	焼: 良好 色: 淡褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部一底部ナテ 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 130/7出土 片1枚に含む 底面:径2.5mmの窪み	
28	土師器 小皿	口: 6.4 高: 1.5 底: 3.4	焼: 良好 色: 淡褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部内側に設けられ 底面:平底/中央凹	外:口縁部ヨコナテ/体部一底部ナテ後部 狭 内:口縁部ヨコナテ/底面ナテ	第Ⅱ区域 137/7出土 片1枚に含む	
29	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.3 底: 3.2	焼: 良好 色: 淡褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部内側に設けられ	外:口縁部ヨコナテ/体部一底部ナテ後部 狭 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 100/7出土灰褐色土 片1枚に含む 内:赤色化粧土	
30	土師器 小皿	口: 6.8 高: 1.5 底: 2.8	焼: 良好 色: 淡褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部外方へ湾出/口唇部内側に受口状の 設けられ 底面:平底	外:口縁部ヨコナテ/体部一底部ナテ後部 狭 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 129/7出土灰褐色土 片1枚に含む	
31	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.6 底: 3.3	焼: 良好 色: 褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部一底部ナテ後部狭 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 100/7出土砂粒混土 口高部一部土片付	
32	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.3 底: 3.5	焼: 良好 色: 褐色肌	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部一底部ナテ 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 122 / 22/静原上 片1枚に含む 口唇部一底土片付	
33	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.7 底: 4.0	焼: 良好 色: 褐色	輪郭残 軟質 4/5	口縁部:内湾して斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に設けられ 底面:平底	外:口縁部一底部ナテ後部狭 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 309/7出土灰褐色土 片1枚に含む	
34	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.7 底: 4.4	焼: 良好 色: 白褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部内側に設けられ 底面:平底	外:口縁部一底部ナテ 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 100/7出土灰褐色土 片1枚に含む	
35	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.6 底: 3.8	焼: 良好 色: 白褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に設けられ 底面:平底	外:口縁部ヨコナテ/体部一底部ナテ後部 狭 内:口縁部一底部ヨコナテ	第Ⅱ区域 729/7出土褐色土 片1枚に含む	
36	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.5 底: 4.8	焼: 良好 色: 淡褐色	輪郭残 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部ヨコナテ/体部一底部ナテ後部 狭 内:口縁部ヨコナテ/底面ナテ	第Ⅱ区域 729	
37	土師器 小皿	口: 8.6 高: 1.9 底: 4.6	焼: 良好 色: 褐色	輪郭残 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部一底部ナテ後部狭 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 100/7出土灰褐色土	
38	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 3.3	焼: 良好 色: 淡褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に設けられ 底面:平底	外:口縁部ヨコナテ/体部一底部ナテ後部 狭 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 100/7出土灰褐色土 片1枚に含む	
39	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.9 底: 4.6	焼: 良好 色: 褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に設けられ 底面:平底	外:口縁部ヨコナテ/体部一底部ナテ後部 狭 内:口縁部一底部ヨコナテ	第Ⅱ区域 209/7出土褐色土 片1枚に含む 口唇部一底土片付	
40	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.8 底: 4.6	焼: 良好 色: 白褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部外方へ湾出/口唇部内側に受口状の 設けられ 底面:平底	外:口縁部一底部ナテ後部狭 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 729 片1枚に含む	
41	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 4.0	焼: 良好 色: 褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部ヨコナテ/体部一底部ナテ 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 100/7出土灰褐色土 片1枚に含む	
42	土師器 小皿	口: 9.2 高: 2.0 底: 3.5	焼: 良好 色: 褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:内湾して斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部内側に設けられ 底面:平底	外:口縁部一底部ナテ後部狭 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 100/7出土灰褐色土 片1枚に含む	
43	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 3.5	焼: 良好 色: 褐色	輪郭残 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部内側に設けられ 底面:平底	外:口縁部一底部ナテ後部狭 内:口縁部一底部ナテ	第Ⅱ区域 101/7出土褐色土 片1枚に含む 口唇部一底土片付	
44	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 3.5	焼: 良好 色: 褐色	輪郭残 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部一底部ナテ 内:口縁部一底部ヨコナテ	第Ⅱ区域 #42/7出土灰褐色土 片1枚に含む	

No	器種	法 章	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
70	瀬戸式 白磁 意		焼: 良好 色: 良好	胎土 1/10以下	口縁部: 広く上方へ立ち上がる/口縁部 下に凹み状の突起がめぐる	外: 口縁部凹線ナ 内: 口縁部凹線ナ	第1区域 129/床1
71	瀬戸式 白磁 意	口: 3.2 高: 7.0 底: 3.0	焼: 良好 色: 黒茶色	線彫 1/1	口縁部: 広く上方へ立ち上がる 体部: 直線状で縁部と段で取り出す 底縁: 平削	外: 口縁部一体部下位凹線ナ/直線縁 糸取り直 内: 口縁部一体部下位凹線ナ	第1区域 538/16土 体部下位底縁
72	瀬戸式 白磁 意	口: 3.2 高: 3.8 底: 3.4	焼: 良好 色: 濃褐色	線彫 1/2	口縁部: 広く上方へ立ち上がる 体部: 直線状/フラスコ体/体部中に盛り 上げ/直上段に2つの把手が付く/体部 底に1/2平削	外: 口縁部一体部下位凹線ナ/直線縁 糸取り直 内: 口縁部一体部下位凹線ナ	第1区域 105/土1、器蓋陶土 体部1/位底縁
73	灰輪 小皿	口: 12.0 高: 1.6	焼: 良好 色: 灰緑色	線彫 1/10以下	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部外反/口縁部は丸く収める	外: 口縁部一体部下位凹線ナ 内: 口縁部一体部下位凹線ナ	第1区域 340/床1下底縁 土体部一定底縁
74	灰輪 小皿	口: 6.4 高: 1.5 底: 2.8	焼: 良好 色: 灰緑色	線彫 1/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部外反/口縁部は丸く収める	外: 口縁部一体部下位凹線ナ 内: 口縁部一体部下位凹線ナ	第1区域 939/土1
76	灰輪 皿	高: 1.3 底: 5.3	焼: 良好 色: 灰緑色	線彫 1/1	底縁: 凹み高台	外: 体部下位~直線凹線ナ 内: 直線凹線ナ	第1区域 137/床1
76	灰輪 皿	高: 1.8 底: 3.8	焼: 良好 色: 濃褐色	線彫 1/2	体部: 内湾して外方へ開く 底縁: 凹山台/底縁中央段凹凸	外: 直線凹線ナ 内: 直線凹線ナ	第1区域 543/床1 外: 高台底縁にも輪あり
77	灰輪 皿	口: 11.6 高: 6.2 底: 5.5	焼: 良好 色: 淡灰黄色	線彫 1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部で上方に深く凹みして外反/口縁部 は丸く収める	外: 口縁部一体部下位凹線ナ/直線縁 文がめぐる/体部下位凹線ヘラケスリ 内: 口縁部一体部下位凹線ナ	第1区域 1029/床1 1029/体部底縁土 直線縁の線
78	灰輪 皿	口: 12.0 高: 4.0	焼: 良好 色: 灰緑色	線彫 1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める	外: 口縁部一体部下位凹線ナ 内: 口縁部一体部下位凹線ナ	第1区域 739
79	灰輪 皿	口: 17.8 高: 6.5	焼: 良好 色: 黄緑色	線彫 1/5	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口 縁部は丸く収める	外: 口縁部一体部下位凹線ナ/直線縁 文がめぐる/ 内: 口縁部一体部下位凹線ナ	第1区域 1029/床1下底縁 陶土 外: 体部下位底縁
80	灰輪 皿	口: 32.6 高: 9.0	焼: 不良 色: 口内	線彫 1/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部凹線がめぐる	外: 口縁部一体部下位凹線ナ 内: 口縁部一体部下位凹線ナ	第1区域 839/床1下底縁 陶土 外: 体部下位底縁
81	灰輪 皿	口: 2.2 高: 12.5	焼: 良好 色: 灰緑色	線彫 1/10以下	底縁: 凹線に胎土層の影あり	外: 体部下位凹線ヘラケスリ/直線縁 糸取り 内: 直線ナ	第1区域 841~843 外: 内: 体部下位底縁
82	灰輪 皿	口: 6.0 高: 12.7	焼: 良好 色: 灰褐色	線彫 1/10以下	底縁: 直線状に斜め外方へ立ち上がる 底縁: 凹線に胎土層の影あり	外: 体部下位凹線ナ/直線縁 ヘラケスリ/底縁に凹線ヘラケ スリ/底縁に凹線ヘラケ スリ/底縁に凹線ナ	第1区域 137/25/床1
83	瓦質土器 大鉢		焼: 良好 色: 灰黄色	線彫 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部: 突帯がめぐる/三角状押印文が めぐる	外: 直線凹線ナ 内: 直線凹線ナ 外: 直線凹線ナ	第1区域 729/30/陶輪土
84	瓦質土器 大鉢	口: 26.0 高: 3.9	焼: 良好 色: 灰黄色	線彫 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口 縁部平削/口縁部上・下溝に突帯がめぐる 突帯の間に二角状押印文がめぐる	外: 直線凹線ナ 内: 直線凹線ナ 外: 直線凹線ナ	出土区域不明
86	瓦質土器 大鉢	口: 24.8 高: 3.0	焼: 良好 色: 灰黄色	線彫 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口 縁部平削/口縁部上・下溝に突帯がめぐる 突帯の間に三角状押印文がめぐる	外: 直線凹線ナ 内: 直線凹線ナ 外: 直線凹線ナ	第1区域 935
86	瓦質土器 大鉢	口: 37.4 高: 7.8	焼: 良好 色: 灰黄色	線彫 1/10以下	口縁部: 内湾して突帯/口縁部平削/口 縁部上・下溝に突帯がめぐる 体部: 体部下位~上段に直線状に斜め外 方へ立ち上がる	外: 直線凹線ナ 内: 直線凹線ナ 外: 直線凹線ナ	第1区域 949 第2区域 929/砂利混陶土
87	瓦質土器 大鉢	口: 44.8 高: 12.0 底: 12.0	焼: 良好 色: 灰褐色	線彫 1/1	口縁部: 内湾して突帯/口縁部平削/口 縁部上・下溝に突帯がめぐる/突帯間に 三角状押印文がめぐる 体部: 体部下位~上段に斜め外方へ 立ち上がる	外: ア 内: ア 外: シヤープな仕上げ	第1区域 132 外: シヤープな仕上げ
88	瓦質土器 大鉢		焼: 良好 色: 黒色	線彫 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口 縁部下溝に突帯がめぐる/突帯の下に内文 字の押印あり	外: ア 内: ナ 外: シヤープな仕上げ	第1区域 822~23/床土下底縁 陶土
89	瓦質土器 大鉢		焼: 良好 色: 黒色	線彫 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/外 方へ開く/口縁部に2つの把手に線彫に 十字状押印文がめぐる	外: 直線凹線ナ 内: 直線凹線ナ 外: シヤープな仕上げ	第1区域 929/砂利混陶土 822~23/土1
90	瓦質土器 大鉢	口: 26.2 高: 5.9 底: 15.8	焼: 不良 色: 淡灰色	線彫 1/5	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/底縁: 平削	外: 口縁部一体部下 内: 口縁部一体部下	第1区域 828~29/砂利混陶土 6/内、器入付帯
91	瓦質土器 大鉢		焼: 良好 色: 暗灰色	線彫 1/10以下	底縁: 凹線状の影部のみ残存	外: ア 内: ア	出土区域不明
92	青磁 碗	口: 12.1 高: 2.9	焼: 良好 色: オリーブ	線彫 1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる	外: 体部に直線凹線文	第1区域 141/床1下底縁陶輪土 932~34/陶土
93	青磁 碗	口: 11.8 高: 4.1	焼: 良好 色: オリーブ	線彫 1/5	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる	外: 体部に直線凹線文	第1区域 932
94	青磁 碗	口: 13.0 高: 5.8	焼: 良好 色: オリーブ	線彫 1/5	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる	外: 体部に直線凹線文	第1区域 81~839/床1下底縁 陶土
95	青磁 碗	口: 11.8 高: 5.0	焼: 良好 色: オリーブ	線彫 1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる	外: 体部に直線凹線文	第1区域 129

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
96	青磁 碗	高: 4.0 底: 5.2	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/8	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部に放射状花文/底部に斜行刺目文 内:成瀬に龍雲文	第1区域 Q25/成瀬緑褐色土 外:高台地盤露出
97	青磁 碗		焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる	外:口縁部に条紋/体部に放射状花文 内:体部に龍雲文	第1区域 137/赤土
98	青磁 碗	口: 14.8 高: 4.8	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/10以下	口縁部:やや内湾して斜の外方へ立ち上がる	外:体部に龍雲文	第1区域 146/赤土下層土
99	青磁 碗	口: 13.4 高: 5.0	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/8	1) 縁部:やや内湾して斜の外方へ立ち上がる		第1区域 Q31~32/赤土
100	青磁 碗	口: 13.6 高: 8.2	焼: 良好 色: 灰緑色	陶製 1/6	1) 縁部:やや内湾して斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部やや外反		第1区域 Q28~29/赤土下層土 成瀬緑褐色土 外:紫色不貞
101	青磁 碗	口: 13.0 高: 6.6 底: 4.8	焼: 不良 色: 緑灰白色	陶製 1/2	口縁部:やや内湾して斜の外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部下段縁ヘックスリ/底段縁ヘ ラックスリ	第1区域 Q29/赤土下層土 成瀬緑褐色土 外:ヘックスリ/六角一 切彫刻
102	青磁 碗 花文	口: 19.0 高: 4.0	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/8	口縁部:が湾して外方へ立ち上がる/ 底は丸く収め、帯い流線に成形した中央 に十字	外:1) 縁部に龍雲花文 内:口縁部に龍雲花文	第1区域 330/赤土下層土 成瀬緑褐色土
103	青磁 碗	高: 2.0 底: 3.8	焼: やや不良 色: オリーブ	陶製 1/5	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底面に龍文	第1区域 124/赤土 外:高台地盤一層露出
104	青磁 碗	高: 2.2 底: 4.6	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/6	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底面に放射状花文	第1区域 Q29/成瀬緑褐色土 外:高台地盤一層露出
105	青磁 碗	高: 3.2 底: 5.0	焼: 良好 色: 灰緑色	陶製 1/4	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:成瀬に龍雲文	第1区域 Q33/成瀬緑褐色土 外:高台地盤一層露出 外:成瀬緑褐色土
106	青磁 碗	高: 3.2 底: 5.2	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/5	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底面に龍雲文	第1区域 Q40/赤土 外:高台地盤一層露出 /紫色不貞
107	青磁 碗	高: 2.3 底: 6.0	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/5	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:成瀬に放射状花文	第1区域 不明 赤土 外:高台地盤一層露出
108	青磁 碗 花文	口: 12.0 高: 3.0 底: 6.6	焼: 良好 色: 白褐色	陶製 1/8	口縁部:外反して外方へ立ち上がる/ 底は丸く収め、口縁部に斜行して成沢に 成形した中央に十字		第1区域 335/成瀬緑褐色土 外:高台地盤露出
109	青磁 碗 花文	高: 1.8 底: 5.4	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/10以下	体部:湾して斜の外方へ立ち上がる/ 中央に丸を入れる 底部:削出高台		第1区域 R32/成瀬緑褐色土 外:高台地盤一層露出
110	青磁 碗	高: 2.8 底: 7.0	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/8	体部:湾線状に斜の外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底面に龍雲文/体部に放射状の線 文	第1区域 不明 赤土 外:高台地盤一層露出
111	青磁 碗	高: 2.8 底: 9.6	焼: 不良 色: 淡緑灰色	陶製 1/20以下	体部:やや内湾して斜の外方へ立ち上がる 底部:削出高台	内:底面に龍雲文	第1区域 不明 赤土 外:高台地盤一層露出 外:成瀬緑褐色土
112	青磁 碗		焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/10以下	1) 縁部:やや湾して斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部は帯い流線に成形	内:体部に龍雲文	第1区域 R29/成瀬緑褐色土
113	青磁 碗	口: 28.0 高: 3.5	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/10以下	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部は垂口状に成形	内:体部に龍雲文	第1区域 Y38/成瀬緑褐色土 Y39/赤土下層土
114	青磁 碗 花文		焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/10以下	底部:やや外反しながら上方へ立ち上がる	底部:タテ方又は斜行線文を横断、下段 に3段の雲文を彫刻	第1区域 535/赤土 成瀬R114の遺体と同一体
115	青磁 香炉	口: 8.0 高: 3.4	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/10以下	口縁部:寸量形/やや外湾して直線状に上 方へ立ち上がる/口縁部内側突出/口縁部 平直	外:体部中央に1本の線	第1区域 535/成瀬緑褐色土
116	青磁 香炉	口: 5.8 高: 3.0	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/10以下	口縁部:寸量形/直線状に上方へ立ち上がる/ 口縁部内側突出/口縁部丸く収める	外:口縁部一体部がキレ	第1区域 Y39/成瀬緑褐色土
117	青磁 香炉	口: 13.8 高: 3.9	焼: 良好 色: オリーブ	陶製 1/10以下	1) 縁部:寸量形/直線状に上方へ立ち上がる/ 口縁部内側突出/口縁部丸く収める	外:口縁部一体部がキレ	第1区域 不明 赤土
118	白磁 杯	口: 6.2 高: 2.6	焼: 良好 色: 明白色	陶製 1/8	1) 縁部:縁や外反して斜の外方へ立ち上 がる/ 口縁部は丸く収める		第1区域 Q31/赤土 内:成瀬緑褐色土
119	白磁 杯	高: 1.0 底: 2.2	焼: 良好 色: 明白色	陶製 1/10以下	底部:削出高台		第1区域 535/赤土下層土 成瀬緑褐色土
120	白磁 杯	高: 1.3 底: 2.4	焼: 良好 色: 明白色	陶製 1/8	底部:削出高台		第1区域 R31/赤土下層土 成瀬緑褐色土 内:成瀬緑褐色土
121	白磁 杯	口: 5.6 高: 2.4	焼: 良好 色: 明白色	陶製 1/10以下	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部やや外反/口縁部は丸く収める		第1区域 Y40/赤土下層土 成瀬緑褐色土
122	白磁 杯	口: 8.6 高: 2.2	焼: 良好 色: 白褐色	陶製 1/6	口縁部:縁や外反して斜の外方へ立ち上 がる/ 口縁部は丸く収める		第1区域 Q31/成瀬緑褐色土

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残灰	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
123	白磁 罎	口: 8.0 高: 2.2	焼: 良好 色: 明白色	楕圓 1/8	口縁部・縁やかに内湾して外方へ立ち上る 口唇部は丸く収める		第1区域 S34/瀬庭塔橋出土
124	白磁 罎	口: 8.6 高: 1.9 底: 4.1	焼: 良好 色: 明白色	楕圓 1/6	口縁部・縁やかに内湾して外方へ立ち上る 口唇部は丸く収める 底部: 側面高台/斜り高台		第1区域 Q26/瀬庭塔橋出土
125	白磁 罎	高: 1.4 底: 3.8	焼: 良好 色: 淡白褐色	楕圓 1/6	底部: 側面高台		第1区域 T32/床土下層褐色土 濠庭塔橋 外: 底面一帯高台露出
126	白磁 罎	口: 9.4 高: 2.4 底: 3.3	焼: 良好 色: 透白色	楕圓 1/5	口縁部・縁やかに内湾して外方へ立ち上る 口唇部は丸く収める 底部: 側面高台/斜り高台		第1区域 R26・27/瀬庭塔橋褐色土 外: 底面一帯高台露出
127	白磁 罎	口: 16.4 高: 4.1	焼: 不良 色: 淡褐色	楕圓 1/3	口縁部・縁やかに内湾して外方へ立ち上る 口唇部は外反する/口唇部は丸く収める 底部: 側面高台		第1区域 T20/床土下層褐色土 T29/灰褐色土 T30・31・R26・27/床土 外: 底面露出
128	白磁 罎	高: 1.3 底: 3.9	焼: 良好 色: 白色	楕圓 1/6	底部: 側面高台		第1区域 R26・27/瀬庭塔橋褐色土 外: 底面一帯高台露出
129	白磁 罎	口: 11.6 高: 2.2	焼: 良好 色: 明白色	楕圓 1/10以下	口縁部・縁やかに内湾して外方へ立ち上る 口唇部は丸く収める		第1区域 137/濠庭
130	白磁 罎	高: 1.3 底: 6.9	焼: 良好 色: 明白色	楕圓 1/8	底部: 側面高台		第1区域 外: 高台露出
131	白磁 罎	高: 2.8 底: 10.0	焼: 良好 色: 明白色	楕圓 1/9	口縁部・縁やかに内湾して外方へ立ち上る 底部: 側面高台		第1区域 Q25/床土下層褐色土 T27・28/床土 P28/床土下層褐色土 外: 高台露出露出
132	白磁 罎	口: 16.9 高: 3.7 底: 10.0	焼: 良好 色: 明白色	楕圓 1/5	口縁部・縁やかに内湾して外方へ立ち上る 口唇部は外反する/口唇部は丸く収める 底部: 側面高台		第1区域 R26・27/瀬庭塔橋褐色土 外: 底面露出
133	染付 罎	口: 13.1 高: 5.2 底: 5.9	焼: 良好 色: 灰白色	楕圓 2/3	口縁部・縁やかに内湾して斜め外方へ立ち上る/口唇部は丸く収める 底部: 側面高台	外: 口縁部上位に鳥居の彫刻2・或は文様/体部に鳥居の彫刻/底部に鳥居 内: 口縁部に鳥居/底面に鳥居/底面中央に鳥居文	第1区域 S38/床土下層褐色土 外: 高台露出露出
134	染付 罎	高: 3.3 底: 7.0	焼: 良好 色: 青白色	楕圓 1/9	口縁部・縁やかに内湾して斜め外方へ立ち上る 底部: 側面高台	外: 体部に鳥居の彫刻 内: 底面に鳥居/底面中央に鳥居文	第1区域 S38/床土下層褐色土 外: 高台露出露出
135	染付 罎	口: 11.8 高: 3.2	焼: 良好 色: 透明白色	楕圓 1/10以下	口縁部・縁やかに内湾して斜め外方へ立ち上る/口唇部は丸く収める	外: 口縁部に鳥居彫刻1・雲文/体部に鳥居 内: 口縁部に鳥居彫刻 内: 口唇部に鳥居彫刻	第1区域 P22・23/瀬庭塔橋褐色土
136	染付 罎	口: 11.4 高: 3.0	焼: 良好 色: 透白色	楕圓 1/10以下	口縁部・縁やかに内湾して斜め外方へ立ち上る/口唇部は丸く収める	外: 口縁部に鳥居彫刻1/体部に鳥居 内: 口縁部に鳥居彫刻・斜行線文字/体部にアラベスク文	第1区域 S39/長閑塔橋褐色土
137	染付 罎	高: 2.0 底: 6.8	焼: 良好 色: 透灰青色	楕圓 1/10以下	底部: 側面高台	外: 高台に鳥居彫刻 内: 底面にアラベスク文	第1区域不明 表土 外: 高台露出露出
138	染付 罎	口: 6.2 高: 1.8 底: 2.5	焼: 良好 色: 白色	楕圓 1/10以下	口縁部・縁やかに内湾して斜め外方へ立ち上る/口唇部は丸く収める。花卉状に成形 底部: 側面高台	外: 体部に花卉状の彫刻	第1区域 T29・30/床土下層褐色土 外: 底面一帯高台露出
139	染付 罎	高: 1.5 底: 6.0	焼: 良好 色: 淡青色	楕圓 1/6	口縁部・縁やかに内湾して斜め外方へ立ち上る 底部: 側面高台	内: 底面に鳥居の文様・雲輪の象文	河上区域不明 表土 外: 高台露出露出
140	刷毛描 罎	口: 12.4 高: 2.0	焼: 良好 色: 青赤灰色	楕圓 1/9	口縁部・縁やかに内湾して斜め外方へ立ち上る/口唇部は丸く収める/口唇部内縁が1段に凹む	外: 口縁部一帯刷毛描ナメ 内: 口唇部一帯刷毛描ナメ	第1区域 Q29/床土下層褐色土
141	刷毛描 罎	口: 9.8 高: 1.3	焼: 良好 色: 透明灰色	楕圓 1/10以下	口縁部・縁やかに内湾して斜め外方へ立ち上る/口唇部は丸く収める	外: 口縁部一帯刷毛描ナメ 内: 口唇部一帯刷毛描ナメ	第1区域 031・32/床土下層褐色土
142	刷毛描 罎	口: 24.8 高: 10.0	焼: 良好 色: 淡褐色	楕圓 1/10以下	口縁部・縁やかに内湾して斜め外方へ立ち上る/口唇部は丸く収める	外: 口縁部一帯刷毛描ナメ 内: 口唇部一帯刷毛描ナメ	第1区域 137・41/SA4269 T40/床土下層褐色土
143	刷毛描 罎	口: 31.9 高: 6.3 底: 12.5	焼: 良好 色: 緑灰色	楕圓 1/10以下	口縁部・縁やかに内湾して斜め外方へ立ち上る/口唇部は丸く収める 底部: 側面高台	外: 口縁部一帯刷毛描ナメ 内: 口唇部一帯刷毛描ナメ	第1区域 S26/SA4269 第1区域 S29/床土下層褐色土
144	上塗り 罎	口: 7.2 高: 1.8 底: 3.3	焼: 良好 色: 褐色	楕圓 1/1	口縁部・縁やかに内湾して斜め外方へ立ち上る 底部: 側面高台	外: 口縁部一帯刷毛描ナメ 内: 口唇部一帯刷毛描ナメ	第1区域 R26/SA4269 口唇部に透け
145	上塗り 罎	口: 7.0 高: 2.0 底: 4.0	焼: 不良 色: 淡灰緑色	楕圓 1/10以下	口縁部・縁やかに内湾して斜め外方へ立ち上る 底部: 側面高台	外: 口縁部一帯刷毛描ナメ 内: 口唇部一帯刷毛描ナメ	第1区域 137・41/SA4269 外: 底面露出

No	器種	法量	説成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
146	瀬戸壳焼 鉄舟	口: 31.0 高: 16.2	焼: 良好 色: 黒灰色	新砂粒 焼成 1/6	1) 縁部:内湾して外方へ開く/口縁部は外方へ加幅/口縁部は平縁	外:1) 縁部一部が下位製磁ナガ/縁部上へ中・下位に交互に貼る/縁部中央に下縁状の把手が下方に付く 内:口縁部一部が下位製磁ナガ	第1区域 R31~32/S34200 R11/流・焼土遺物土 第102次調査出土
147	瓦質土器 火鉢	口: 30.0 高: 6.8	焼: 良好 色: 淡灰色	新砂粒 白色粒子 散在 1/10以下	1) 縁部:直縁状に上方へ立ち上がる/口縁部は半平/口縁部上・下縁に突帯がのこる/突帯の間に花文のスタンプがのこる	外:口縁部ココナテ/縁部上段に透孔あり 内:1) 縁部ココナテ/縁部取取り シャ・ブな仕上げ	第1区域 R32/S44260
148	瓦質土器 火鉢		焼: 良好 色: 黒色	新砂粒 白色粒子 散在 1/10以下	口縁部:直縁状に上方へ立ち上がる/口縁部は半平で内側に突帯/口縁部上・下縁に突帯がのこる/突帯の間に花文のスタンプがのこる	外:1) 縁部黒色磨研 内:口縁部黒色磨研	第1区域 R32/S44260
148	瓦質土器 土壺		焼: 良好 色: 黒色	新砂粒 散在 1/10以下	体形:直縁状に外湾して上方へ立ち上がる 底形:平底/四隅に鋭い三角状の脚部が付く	外:口縁部黒色磨研 内:口縁部黒色磨研	第1区域 R32/S44260
150	土曜器 小皿	口: 6.5 高: 1.4 底: 2.2	焼: 良好 色: 白緑色	新砂粒 散在 1/1	1) 縁部:直縁状に外方へ立ち上がる/ 口縁部内側に段あり 底形:平底	外:1) 縁部→底縁ナゲ後湾 内:1) 縁部→底縁ナゲ	第1区域 P32/S44276 片・流に付く
151	白磁 皿	高: 1.4 底: 2.2	焼: 良好 色: 白色	焼成 1/10以下	体形:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる 底形:扇出高台		第1区域 R31・32/S44290 外・底部→縁部ナゲ磨研
152	白磁 梅花皿	口: 13.6 高: 2.0	焼: 良好 色: 明白色	焼成 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口縁部は丸く起る。口縁部を花文状に成形する	外:1) 縁部に健康花文 内:1) 縁部に健康花文	第1区域 R37~41/S44200
153	白磁 皿	高: 2.3 底: 5.3	焼: 不良 色: 透白色	焼成 1/10以下	体形:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる 底形:扇出高台		第1区域 R29~37/S44280 外:高台側面高台
154	白磁 杯	高: 4.8 底: 4.0	焼: 良好 色: 透白色	焼成 1/4	体形:体形下段で即直し。やや外反して立ち上がる 底形:扇出高台		第1区域 R38/S44260 R37/流上 外・底部→高台側面高台
155	青磁 梅花碗	口: 12.1 高: 4.4	焼: 良好 色: オリーブ	焼成 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる	外:口縁部→縁部健康花文	第1区域 R37~41/S44280
156	中国 磁器 磁器	高: 2.7 底: 3.0	焼: 良好 色: 淡紺白色	焼成 1/4	体形:やや内湾して上方へ立ち上がる/口縁部で即直る 底形:扇出高台		第1区域 U38/S44274 外・底部→高台側面高台
157	会付 皿	高: 1.5 底: 3.0	焼: 良好 色: 透明白色	焼成 1/8	体形:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる 底形:磨研底	外:体形下段に鉄紐の遺物文 内:底縁部に外側の磨研底・中央に磨研文	第1区域 U38/S44274 外・底部→高台側面高台
158	白磁 梅花皿	高: 1.6 底: 6.2	焼: 良好 色: 透明白	焼成 1/8	体形:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる 底形:扇出高台	外:体形下段に健康花文/底部に健康磨研 内:体形下段に健康花文	第1区域 U38/S44274 外・底部側面高台
159	磁器 鉢 鉢	口: 30.0 高: 8.9 底: 15.5	焼: 良好 色: 淡灰色	新砂粒 白色粒子 散在 1/5	口縁部:やや外反して外方へ開く/口縁部は湾く凹む/口縁部内側は内湾の段をもつ 体形:上段で張る	外:1) 縁部ココナテ/縁部ナゲ 内:口縁部ココナテ/縁部磨研底	第1区域 T42/S4277 S48・R08/流土
160	磁器 地味 茶碗	口: 47.2 高: 21.3	焼: 良好 色: 淡灰色	新砂粒 白色粒子 散在 1/10以下	1) 縁部:外湾して外方へ開く/口縁部は湾く凹む/口縁部内側は内湾の段をもつ 体形:中段で大きく開く	外:1) 縁部ココナテ/縁部ナゲ/シャ・ブな仕上げ 内:1) 縁部ココナテ/縁部上へ中位製磁底	第1区域 T42/S4277 U10/R38/R309-P1 R37・340/流土
161	磁器 地味 大壺	口: 88.4 高: 8.9 底: 27.5	焼: 良好 色: 紅灰色	新砂粒 白色粒子 散在 1/10以下	口縁部:直縁状に外方へ開く/口縁部は湾く凹む/口縁部内側は内湾の段をもつ 体形:上段で張る	外:口縁部ココナテ/縁部ナゲ/縁部上段にへう気/シャ・ブな仕上げ 内:口縁部ココナテ/縁部ナゲ/縁部上段にへう気/シャ・ブな仕上げ	第1区域 T42/S4277 U40/R38/R309-P1 U40/流土 外:縁部上段磨研底・ヤキムラ
162	瀬戸壳焼 鉄舟 八角碗	口: 12.4 高: 6.0	焼: 良好 色: 透黒灰色	焼成 1/3	口縁部:直縁状に外方へ立ち上がり。口縁部で上方に内湾/口縁部は湾く外反し丸く起る	外:口縁部→縁部中位製磁ナゲ 内:口縁部→縁部中位製磁ナゲ	第1区域 T42/S4277 外:縁部下位磨研底
163	瀬戸壳焼 鉄舟 衣箱	口: 14.0 高: 10.0	焼: 良好 色: 透灰色	焼成 4/8	底形:→底部・磨研底/体形下段で立ち上がる 底形:平底	外:底部→体形下段製磁ナゲ/底部取取り 内:底部→底部取取りナゲ	第1区域 T42/S4277 外・底部→体形下位磨研底/底部で物を積むナゲ
164	物珍 磁器 壺	口: 13.0 高: 42.7 底: 17.9	焼: 良好 色: 透灰色	焼成 8/6	口縁部:緩く外反して立ち上がる/口縁部は丸く起る 体形:中位・縁部上段で張る/口縁部は湾く凹む	外:体形上段に「番向」の象嵌2/体形下段に中位製磁文1段・ユシ月形象嵌2段・平行象嵌磨研底/体形下段に下位に平行象嵌文2段・平行象嵌磨研4段 内:縁部上段→下段に磨研底成形・磨研底	第1区域 T40/S4308 T42/S4277 R31・32/S44280 S42・R37/流土 全体透磁 外・底部磨研底
165	磁器 地味 大壺	口: 86.0 高: 61.5	焼: 良好 色: 透灰色	新砂粒 白色粒子 散在 1/8	口縁部:直縁状に外方へ開く/口縁部は半平/口縁部中央にへう気/口縁部上段で張る 体形:上段で張る/下段で張る	外:口縁部ココナテ/縁部ナゲ/縁部上段にへう気/縁部中央にへう気/ヘウナゲ 内:縁部ココナテ/縁部ナゲ/縁部上段に2段の磨研底・磨研底・ユシナゲ	第1区域 R38/S4309-P1 T42/S4277 U40/流土 外・底部

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
166	越前焼 大甕	高: 88.0 高: 63.0 底: 28.8	焼: 良好 色: 灰赤褐色	磁粉粒 白色粒子 軟質 1/4	胴部: 上段で幅が広がる/下段で窄まる 底部: 平底	外: 胴部中へ下段ヘラナゲ 内: 胴部中へ下段に6段の輪筋のみ・西側 底・ヒビナゲ/底ナゲナ	第1区域 U39/S34309-73・P1 337・33/S34330
167	越前焼 大甕	口: 36.8 高: 89.2 底: 37.6 底: 30.8	焼: 良好 色: 灰赤褐色	磁粉粒 白色粒子 軟質 3/5	口縁部: 広く外側に立ち上がる/口蓋部 は平底/口縁部中央に段あり/口蓋部内側に 沈み 胴部: 上段で大きく広がる/下段へ底辺にかけ て窄まる	外: 口縁部ヨコナゲ/胴部トナゲ/胴部上 段に口縁部のヘラ記号と押印文(ヒビナゲ) /中位へ下段ヘラナゲ/底ナゲナ 内: 口縁部ヨコナゲ/胴部は幅13.0cmの輪 筋を6段・段長1輪筋のみ・接合部ヒビナ ゲ・筒底部/上段へ下段底辺6段/底ナゲ ナ	第1区域 T49/S34309/74・P1 836/S34278 337-41/S34280 第2区域 T22/S34281/輪筋土 329/S34268 外: 胴部上段底辺 内: 胴部中位へ下段底辺
168	越前焼 大甕	口: 67.0 高: 72.5 底: 31.8	焼: 良好 色: 赤褐色	磁粉粒 白色粒子 軟質 1/6	口縁部: 広く外側に立ち上がる/口蓋部 は浅く凹む/口縁部中央に段あり/口蓋部 内側に段あり 胴部: 上段で大きく広がる/上段へ底辺にかけ て窄まる	外: 口縁部は口縁部/胴部トナゲ/胴部上 段に口縁部のヘラ記号と押印文(ヒビナゲ) /中位へ下段ヘラナゲ 内: 口縁部ヨコナゲ/胴部は幅10.0cmの輪 筋を6段/段長1輪筋のみ・接合部ヒビナ ゲ・筒底部/上段へ下段底辺6段	第1区域 T49/S34309/74・P1・P5 T42/S34277 337-41/S34280 第2区域 T・105/S34273 外: 半身残欠・ヤキムク
169	越前焼 大甕	口: 63.8 高: 44.8 底: 37.0	焼: 良好 色: 明褐色	磁粉粒 白色粒子 軟質 1/2	口縁部: 広く外側に立ち上がる/口蓋部 は浅く凹む/口縁部中央に段あり/口蓋部 内側に段あり 胴部: 上段で大きく広がる/上段へ底辺にかけ て窄まる	外: 口縁部ヨコナゲ/胴部上ヨコナゲ/胴 部上段に口縁部のヘラ記号と押印文(ヒ ビナゲ)/中位へ下段ヘラナゲ 内: 口縁部ヨコナゲ/胴部は幅10.0cmの輪 筋を6段/段長1輪筋のみ・接合部ヒビナ ゲ・筒底部/上段へ下段底辺6段	第1区域 T49/S34309/75・P1 T42/S34277 336/S34278 第2区域 T・328/S34260
170	越前焼 大甕	口: 28.3 高: 18.0 底: 16.4	焼: 良好 色: 灰赤褐色	磁粉粒 白色粒子 軟質 4/5	口縁部: 直線状に外側に立ち上がる/口 蓋部は浅く凹む 胴部: 中部で窄まる	外: 口縁部-全体トナゲナ 内: 口縁部-胴部トナゲ/胴部トナゲ/胴部 トナゲ	第1区域 T34/S34273 S27/上下段底辺輪筋土 第2区域 T26/底土灰底辺輪筋土 外: 底面・ヤキムク
171	越前焼 大甕	口: 28.3 高: 18.0 底: 16.4	焼: 良好 色: 灰赤褐色	磁粉粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に外へ立ち上がる/口蓋部は中 や上段に高角/口蓋部内側に凹む	外: 口縁部-全体トナゲナ 内: 口縁部-胴部トナゲ/胴部トナゲ/胴部 トナゲ	第1区域 T60/S34269 外: 口蓋
172	越前焼 大甕	口: 11.8 高: 3.1	焼: 良好 色: 灰赤褐色	磁粉粒 白色粒子 軟質 1/3	口縁部: 直線状に外へ立ち上がる/口蓋部 は浅く凹む/口蓋部は浅く外側に丸く収める	外: 口縁部-全体トナゲナ 内: 口縁部-胴部トナゲ	第1区域 F・337/S34303 外: 底面
173	瓦葺十部 瓦葺	口: 28.3 高: 2.3	焼: 良好 色: 黒色	磁粉粒 白色粒子 軟質 1/10以下	胴部: 縦向きに内側して外へ立ち上がる/底 面に9mmの穿孔/体形: 筒形	外: 受部へ尖り型開色顔 内: 受部へ尖り型開色 ジョーヤを仕上げ	第1区域 F・437/S34303
174	白磁 輪花皿	口: 12.9 高: 2.3	焼: 良好 色: 白色	磁粉粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部: 内側に立ち上がる/口蓋部は丸く収 める/底面: 浅く凹む/底面: 浅く凹む/底面: 浅く凹む	外: 体形に浅く開色顔 内: 体形に浅く開色顔	第1区域 S27/S34283 第2区域 Q26・/S34298
175	白磁 輪花皿	高: 3.3 底: 6.0 底: 6.0 底: 6.0	焼: 良好 色: 赤褐色	磁粉粒 白色粒子 軟質 1/10以下	胴部: 平直/内側に立ち上がる	外: 体形に浅く開色顔 内: 体形に浅く開色顔	第1区域 S35/S34255 S36/濃淡開色土 外: 底面-体形トナゲ
176	土師器 小甕	口: 8.2 高: 1.7 底: 4.3	焼: 良好 色: 白褐色	磁粉粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外へ立ち上がる/ 口蓋部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部-底面トナゲ/胴部トナゲ 内: 口縁部-底面トナゲ	第2区域 T50/S34290 T50/灰黒褐色土 片口状に凹む
177	白磁 皿	口: 2.6 高: 8.6	焼: 良好 色: 明白色	磁粉粒 軟質 1/9	胴部: 縦向きに内側して外へ立ち上がる/ 底面: 浅く凹む	第2区域 T50/S34290 T50/灰黒褐色土 外: 高台溝開色土	
178	越前焼 大甕	口: 8.8 高: 1.9 底: 4.3	焼: 良好 色: 赤褐色	磁粉粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: 外側に立ち上がる/口蓋部トナゲ は平底/口縁部中央に段あり/口蓋部内 側に沈み	外: 口縁部ヨコナゲ 内: 口縁部ヨコナゲ/シヤベラ仕上げ	第2区域 S・228/S34258 S・129/灰黒褐色土
179	土師器 小甕	口: 8.8 高: 1.9 底: 4.3	焼: 良好 色: 赤褐色	磁粉粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外へ立ち上がる/ 口蓋部は丸く収める/底面: 平直	外: 口縁部-底面トナゲ/胴部トナゲ 内: 口縁部-底面トナゲ	第2区域 T29・30/S34288 T29・30/灰黒褐色土 片口状に凹む
180	土師器 小甕	口: 6.0 高: 1.3 底: 2.6	焼: 良好 色: 灰褐色	磁粉粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外へ立ち上がる/ 口蓋部は丸く収める 底部: 平直/中央凹む	外: 口縁部-底面トナゲ/胴部トナゲ 内: 口縁部-底面トナゲ	第2区域 T29/S34288 T29・30/灰黒褐色土 片口状に凹む
181	土師器 小甕	口: 7.0 高: 1.5 底: 2.3	焼: 良好 色: 褐色	磁粉粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外へ立ち上がる/ 口蓋部内側に段あり/口蓋部は丸く収める	外: 口縁部-底面トナゲ/胴部トナゲ 内: 口縁部-底面トナゲ	第2区域 Q36/SF4278 外・内: 口縁部平直 底面

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
182	磁器焼 鉢鉢	-	染: 良好 色: 褐色	磁砂粒 白色灰子 軟質 1/10以下	1) 胎部: やや内湾して外方へ開く/1) 胎部は広く内湾	外: 1) 胎部-一部部中位回転ナナ/シャープな柱ナナ 内: 口縁部-一部部中位回転ナナ	第Ⅱ区城 R22/S24275 内: 土蔵
183	土師器 小皿	口: 9.3 高: 2.0 深: 4.5	染: 良好 色: 淡紫褐色	磁砂粒 軟質 4/5	1) 胎部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口縁部内側に段あり/口唇部は丸く収める	外: 1) 胎部-一部部ナナ後部隆起 内: 口縁部-一部部ココナテ	第Ⅱ区城 R22/S24275 片1) 残に歪む
184	土師器 小皿	高: 1.0 深: 6.0	染: 良好 色: 褐色	磁砂粒 軟質 1/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口縁部内側に段あり/口唇部は丸く収める	外: 胎部ナナ 内: 底面ナナ	第Ⅱ区城 R22/S24275 片1) 残に歪む
185	白磁 花瓶	口: 19.2 高: 1.6	染: 良好 色: 透明白色	焼成 1/8	1) 胎部: 直線状に外方へ立ち上る/1) 胎部は筒状にして後方に流れる	外: 口縁部-一部部輪状文 内: 1) 胎部に蓮花文がのこる	第Ⅱ区城 R22/S24275 024/凍土下砂利層上
186	灰引 壺	口: 8.0 高: 3.0 深: 5.0	染: 良好 色: 淡褐色	軟質 1/4	胎部: 下部の穴縁部を研磨して平直な口唇部をつくる/帯を斜にした再出品 胎部: 平直	外: 口縁部-一部部下位回転ナナ/胎部内転 内: 1) 胎部-一部部回転ナナ	第Ⅱ区城 R22/S24275 外: 新橋下段敷
187	青磁 鉢	-	染: 良好 色: 差りナナ	陶質 1/10以下	胎部: 平直	内: 胎部に輪状文	第Ⅱ区城 T35/S24273 R31-32/凍土
188	磁石 鉢	高: 1.0 深: 3.8	染: 良好 色: 青白色	陶質 1/10以下	胎部: 胎部高台/滑り差	内: 胎部中央に角形の凸文、毛線の凸文	第Ⅱ区城 R22/S24275 外: 高台掘地層崩落
189	瓦葺土師 磁鉢	口: 24.9 高: 3.3	染: 良好 色: 褐色	磁砂粒 白色灰子 軟質 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ開く/口唇部は 凸部	外: 口縁部ナナ 内: 1) 胎部ナナ	第Ⅱ区城 R29-30/S24270 外: ヤキムナ
190	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.8 深: 2.6	染: 良好 色: 褐色	磁砂粒 軟質 1/1	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上る/ 口唇部は丸く収める 胎部: 平直	外: 口縁部-一部部ナナ後部隆起 内: 口縁部-一部部ナナ	第Ⅱ区城 R22/S24270 片1) 残に歪む
191	土師器 小皿	口: 8.2 高: 2.0 深: 4.3	染: 良好 色: 褐色	磁砂粒 軟質 1/1	1) 胎部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 1) 胎部は丸く収める 胎部: 平直	外: 口縁部ヨココナテ/胎部-一部部後部隆起 内: 1) 胎部ヨココナテ/胎部ナナ	第Ⅱ区城 R36/S24270 片1) 残に歪む
192	土師器 小皿	口: 11.4 高: 2.0 深: 3.2	染: 良好 色: 白褐色	磁砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口縁部内側に段あり/口唇部は丸く収める 胎部: 平直	外: 1) 胎部ヨココナテ/胎部-一部部ナナ 内: 口縁部ヨココナテ/胎部ナナ	第Ⅱ区城 R40/S24270 片1) 残に歪む
193	土師器 小皿	口: 12.8 高: 2.4 深: 6.5	染: 良好 色: 褐色	磁砂粒 軟質 1/1	1) 胎部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 1) 胎部内側に段あり/1) 胎部は丸く収める 胎部: 平直	外: 口縁部ヨココナテ/胎部-一部部ナナ 内: 口縁部ヨココナテ/胎部ナナ	第Ⅱ区城 R36/S24270 片1) 残に歪む
194	土師器 小皿	口: 8.2 高: 1.6 深: 3.6	染: 良好 色: 白褐色	磁砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口縁部内側に段あり/口唇部は丸く収める 胎部: 平直	外: 口縁部ヨココナテ/胎部-一部部ナナ 内: 口縁部ヨココナテ/胎部ナナ	第Ⅱ区城 R33/S24272 片1) 残に歪む 外: 内: スズ部分割に 残る
195	土師器 小皿	口: 6.8 高: 1.5 深: 3.8	染: 良好 色: 白褐色	磁砂粒 軟質 1/1	1) 胎部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口縁部内側に段あり/1) 胎部は丸く収める 胎部: 丸直	外: 口縁部ヨココナテ/胎部-一部部ナナ 内: 口縁部-一部部ナナ	第Ⅱ区城 R33/S24272 片1) 残に歪む
196	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.9 深: 2.4	染: 良好 色: 褐色	磁砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口唇部は丸く収める 胎部: 平直	外: 口縁部-一部部ナナ後部隆起 内: 口縁部-一部部ナナ	第Ⅱ区城 R33/S24272 片1) 残に歪む
197	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.9 深: 2.4	染: 良好 色: 褐色	磁砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口唇部は丸く収める 胎部: 丸直	外: 口縁部-一部部ナナ後部隆起 内: 口縁部-一部部ナナ	第Ⅱ区城 R33/S24272 片1) 残に歪む
198	土師器 小皿	口: 9.0 高: 3.0 深: 4.3	染: 良好 色: 褐色	磁砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口唇部は丸く収める 胎部: 平直	外: 口縁部ヨココナテ/胎部-一部部ナナ後部隆起 内: 口縁部-一部部ココナテ	第Ⅱ区城 R32/S24272 外: 内: 口唇部3/4回 スズ付着
199	土師器 小皿	口: 8.6 高: 1.9 深: 4.3	染: 良好 色: 白褐色	磁砂粒 軟質 1/1	1) 胎部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口縁部内側に段あり/1) 胎部は丸く収める 胎部: 平直	外: 口縁部-一部部ヨココナテ/胎部ナナ後部隆起 内: 1) 胎部-一部部ヨココナテ/胎部ナナ	第Ⅱ区城 R29/S24271 R29/灰泥層褐色土 片1) 残に歪む 外: 内: 口唇部部分的 にスズ付着
200	土師器 小皿	口: 9.3 高: 2.0 深: 3.8	染: 良好 色: 褐色	磁砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口唇部は丸く収める 胎部: 平直	外: 1) 胎部-一部部ナナ後部隆起 内: 口縁部-一部部ヨココナテ	第Ⅱ区城 R30/S24271 片1) 残に歪む
201	青磁 壺	-	染: 良好 色: オリーブ	陶質 1/10以下	1) 胎部: 斜め外方へ立ち上る/1) 胎部部 に突状に膨らみ/1) 胎部は丸く収める	外: 口縁部下位に流筋 内: 胎部に凸文	第Ⅱ区城 R25-26/S24293

単位:cm/g

No	器種	長径	厚	残存	材質 水取り	特徴	出土地点
264	動物 底灰	22.7 3.4	0.9	1/10 以下	スズ 板目材	両端詰めケズリ/ 縁部のみ厚肉 刀研ぎ跡/縁部中央 全体厚肉	第1区域 P37/3E4276
265	木刀	50.8 3.8	2.5	1/2	コナク野 産材		第1区域 P42/3E4277
266	新灰 形板	22.5 2.2	0.5	1/1	ヒノキ 板目材	左端詰めのみ/右端 詰めのみ/本釘付/ 左端詰めのみ/右端 詰めのみ	第1区域 P37/3E4276
267	新灰 形板	21.2 2.2	0.5	1/1	ヒノキ 板目材	切込み/本釘付/ 左端詰めのみ/右端 詰めのみ	第1区域 P37/3E4276
268	新灰 形板	21.2 2.2	0.5	1/1	ヒノキ 板目材	左端詰めのみ/右端 詰めのみ/本釘付/ 本釘付	第1区域 P37/3E4276
269	新灰 形板	22.2 2.2	0.5	1/1	ヒノキ 板目材	左端詰めのみ/右端 詰めのみ/本釘付/ 本釘付	第1区域 P37/3E4276
270	新灰 形板	23.8 2.2	0.5	1/1	ヒノキ 板目材	左端詰めのみ/右端 詰めのみ/本釘付/ 本釘付	第1区域 P37/3E4276
271	新灰 形板	19.2 2.2	0.5	1/1	ヒノキ 板目材	左端詰めのみ/右端 詰めのみ/本釘付/ 右半分ケズリ	第1区域 P37/3E4276

単位:cm/g

No	器種	長径	厚	残存	材質 水取り	特徴	出土地点
272	新灰 形板	5.0 2.2	0.5	1/1	ヒノキ 板目材	右端詰めのみ/左端 詰めのみ	第1区域 P37/3E4276
273	新灰 形板	23.8 4.6	0.25	4/5	ヒノキ 板目材		第1区域 P37/3E4276
274	粘着土	12.4 0.6	0.3	1/1	ヒノコ 産材	2面削り/海苔 刃状	第1区域 P37/3E4276
275	新	17.6 0.7	0.5	1/1	ヒノキ 板目材	両端削りケズリ	第1区域 P37/3E4276
276	新	20.4 0.9	0.7	1/1	スズ 板目材		第1区域 P37/3E4276
277	新	20.4 0.6	0.5	4/5	ヒノキ 板目材	両端削りケズリ縁部 厚肉	第1区域 P37/3E4276
278	新	19.9 0.8	0.7	4/5	スズ 板目材	両端削りケズリ/ 両面厚肉	第1区域 P37/3E4276
279	新	21.7 0.8	0.6	4/5	スズ 板目材	両端削りケズリ/ 両面厚肉	第1区域 P37/3E4276
280	新	23.8 0.8	0.7	1/1	スズ 板目材	両端削りケズリ/ 両面厚肉	第1区域 P37/3E4276

鏡貨(PL-49・49 第 27・28 図)

単位:cm/g

No	種類 台帳番号	重量 (最大)	厚	残存	時期	出土地点
281	同元通貨 4861	2.4	0.09	3.0	1/1	第1区域 P23/3E4275
282	同元通貨 18478	2.4	0.10	2.0	1/1	第1区域 P23/3E4275
283	同元通貨 4862	2.4	0.13	1.0	1/1	第1区域 P23/3E4275
284	同元通貨 15477	2.4	0.10	1.0	1/1	第1区域 P23/3E4275
285	同元通貨 4292	2.4	0.08	1.6	1/1	第1区域 P23/3E4275
286	同元通貨 4357	2.4	0.10	2.0	5/6	第1区域 P23/3E4275
287	同元通貨 1633	2.5	0.11	2.1	1/1	第1区域 不明
288	同元通貨 1633	2.4	0.11	1.1	4/5	第1区域 不明
289	同元通貨 18787	2.4	0.08	1.5	1/1	第1区域 不明
290	同元通貨 27967	2.2	0.12	1.3	1/1	第1区域 不明
291	同元通貨 699	2.3	0.13	2.6	1/1	第1区域 不明
292	同元通貨 7894	2.4	0.11	2.5	1/1	第1区域 不明
293	同元通貨 14491	2.3	0.10	2.1	4/5	第1区域 不明
294	同元通貨 33259	2.4	0.10	3.1	1/1	第1区域 不明
295	同元通貨 30714	2.4	0.12	1.5	1/1	第1区域 不明
296	同元通貨 199	2.3	0.11	1.6	1/1	第1区域 不明
297	同元通貨 4883	2.4	0.10	1.4	1/1	第1区域 不明
298	同元通貨 2962	2.4	0.11	2.0	1/1	第1区域 不明
299	同元通貨 197	2.4	0.14	2.2	1/1	第1区域 不明
300	同元通貨 11222	2.3	0.14	2.0	1/1	第1区域 不明
301	同元通貨 14776	2.4	0.12	1.6	1/1	第1区域 不明
302	同元通貨 27190	2.4	0.11	1.4	3/4	第1区域 不明
303	同元通貨 33276	2.3	0.1	3.0	1/1	第1区域 不明
304	同元通貨 483	2.3	0.13	2.0	1/1	第1区域 不明
305	同元通貨 3160	2.4	0.12	2.4	1/1	第1区域 不明
306	同元通貨 4355	2.4	0.12	3.6	1/1	第1区域 不明
307	同元通貨 469	2.4	0.19	1.0	1/1	第1区域 不明
308	同元通貨 1658	2.5	0.11	3.1	1/1	不明
309	同元通貨 21848	2.4	0.11	2.0	1/1	第1区域 不明
310	同元通貨 7894	2.4	0.13	3.1	1/1	第1区域 不明

単位:cm/g

No	種類 台帳番号	重量 (最大)	厚	残存	時期	出土地点
312	同元通貨 7316	2.4	0.11	1.3	1/1	第1区域 不明
313	同元通貨 9424	2.3	0.12	2.3	1/1	第1区域 不明
314	同元通貨 29344	2.4	0.12	2.2	1/1	第1区域 不明
315	同元通貨 9175	2.5	0.11	2.5	1/1	第1区域 不明
316	同元通貨 33189	2.4	0.11	2.4	1/1	第1区域 不明
317	同元通貨 33259	2.3	0.10	1.8	1/1	第1区域 不明
318	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
319	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
320	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
321	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
322	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
323	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
324	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
325	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
326	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
327	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
328	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
329	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
330	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
331	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
332	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
333	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
334	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
335	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
336	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
337	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
338	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明
339	同元通貨 31189	2.4	0.11	2.3	1/1	第1区域 不明

IV. 第102・104次調査【城戸内町字齊藤】

1. 遺構の概要(PL.18~40 第29~40図 第3表)

第102・104次調査区は、城戸内町字齊藤に位置し、朝倉館跡から北東へ約95m隔てた一乗谷川右岸に立地している。調査前は畑地であった。前章で述べた第82次の武家屋敷跡の北方に位置し、第102次、104次調査の成果を照会した結果、西側の山裾において、土塁石垣と道路で区画された3つの武家屋敷跡を確認することができた。北東の月見山の尾根先端には、次章で述べる月見櫓跡が隣接しており、これらは一連の遺構と捉えることができる(第29図)。

3つの武家屋敷跡A・B・C(旧武家屋敷I・II・III)は、T字になって交差する南北道路SS260と東西道路SS4822で仕切られ、そのうち南北道路SS260の西側を占める大規模武家屋敷Aについては、「齊藤」の地名が「一乗谷古絵図」中の「斎藤兵部大輔跡」に由来する可能性が高いこと、立地・規模から見て、「齊藤」の主要部の様相を早していることから、5代朝倉義景の側室である少少符の父、「斎藤兵部少輔」の屋敷と有力視された。

第102次調査区は、大規模武家屋敷Aの南側に位置し、全体の約1/3の面積を占め、第104次調査区は北側に位置し、全体の2/3の面積を占める。地形的には、南に隣接する第82次調査区の武家屋敷跡から約1.5mの落差をもって急激に下り、標高は、第102次調査区で約50.2m、第104次調査区で約50.4mを測る。

第102次調査区は、調査面積2,300㎡を測り、南北道路SS260の西側と東側を対象とした。調査期間は平成10年(1998)4月1日~同年12月20日を要した(文7)。第104次調査区は、調査面積2,000㎡を測り、第102次調査区の北側を対象とした。調査期間は平成11年(1999)4月8日~同年12月24日を要した(文8)。ただ、第104次調査中に実施した第102次調査区の再調査分の記録に不十分な点があることや、調査中のグリッド番号の誤解等があり、遺物の注記や記録類に整合性がとれていない点の一部ある。

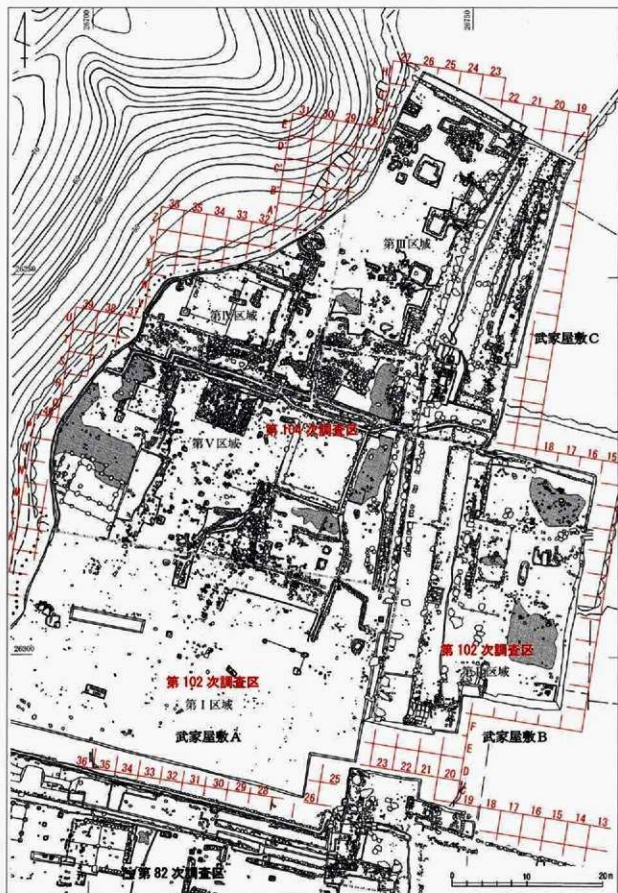
調査当時の水田畦畔を基にした区割りでは、第102次調査区は「9M1M-0地区」、第104次調査区は「9M1M-P地区」と称したが、本報告書では、武家屋敷全体の様相を把握するため、第102次調査区を西から第I・II区域、第104次調査区を北から第III~V区域に改めて整理・区分した。

調査の方法は、地形に沿って、1辺3mを測る任意方向の方形グリッドを設定し、東西方向に16~41、南北方向にC~Z、A'-H'の番号を付し、遺構の記録、遺物の採集に用いた(第29図)。また、遺構の分布・密度・前後関係を把握するため土層観察用のアゼを9本設定し、第I区域の東西方向にa-u'断面(H39~25)、第II区域の東西方向にh-h'断面(N21~16)、南北方向にc-c'断面(J-G20)を設定し(第31図)、第III~V区域の東西方向にd-d'断面(Z29~23)、c-c'断面(A'23~20)、f-f'断面(U36~24)、g-g'断面(P39~25)、南北方向にh-h'断面(L-X33)、i-i'断面(L-A'28)を設定して観察を行った(第32図)。

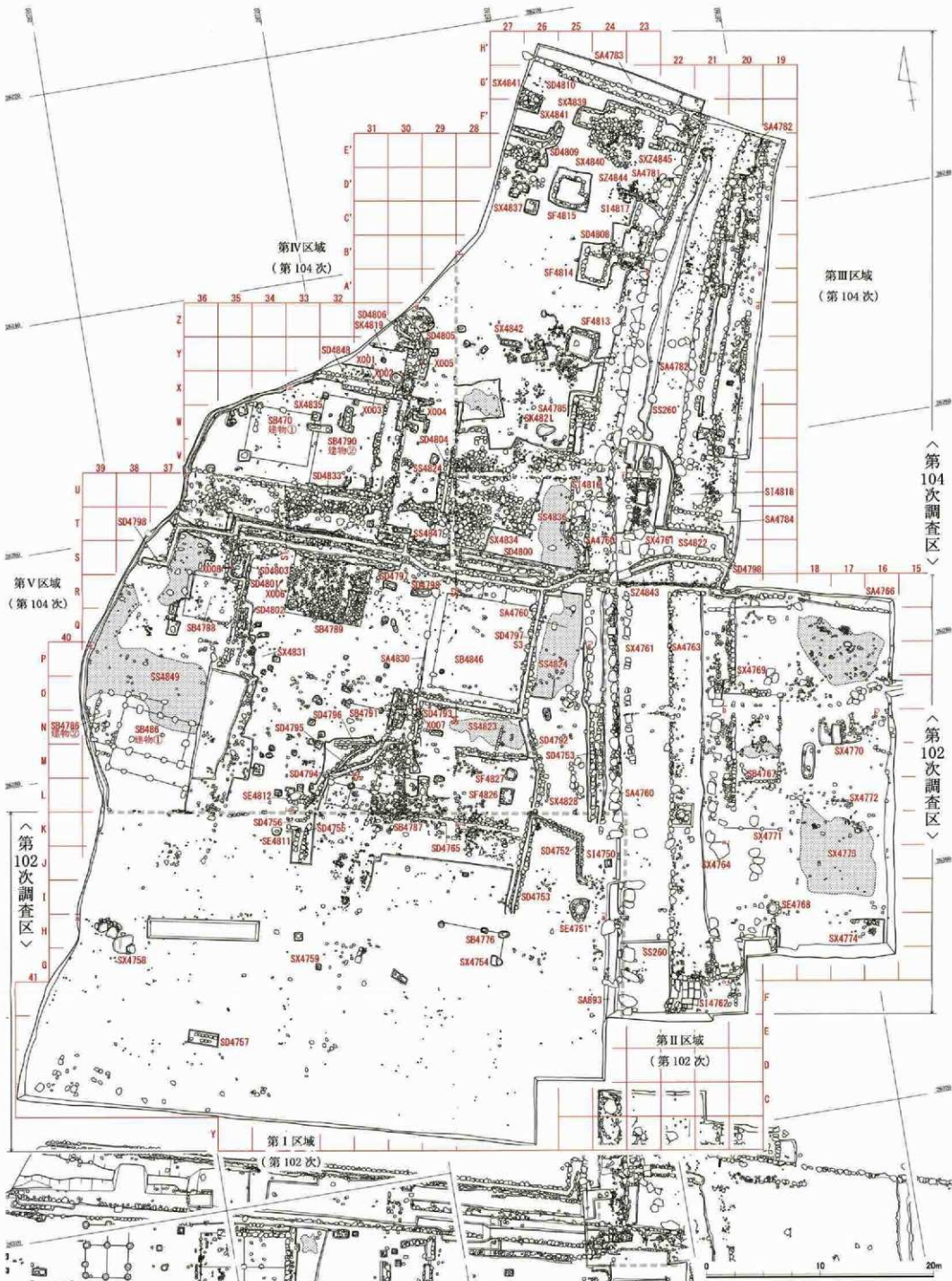
大規模武家屋敷Aは、外寸で北辺17m以上×東辺98m×南辺50m以上×西辺109m以上を測り、敷地面積約3,700㎡以上の規模をもつと推定される。主要な遺構は、第102次調査の第I・II区域において、土塁石垣2、門2、道路1、礎石建物1、溝5、井戸3、庭1、石敷遺構2等を検出し、第III~V区域において、土塁石垣7、門2、道路2、通路3、礎石建物6、溝18、暗渠2、井戸1、石礎施設5、石敷遺構4等を検出した。

大規模武家屋敷Aの東側に立地する二つの中規模屋敷跡は、敷地の全体規模は不明であるが、東西道路南側の武家屋敷Bに関連する主要遺構は、第II区域において土塁石垣1、門1、道路1を検出した。東西道路北側の武家屋敷Cに関連する主要遺構は、第III区域において土塁石垣2、門1、道路1を検出した。

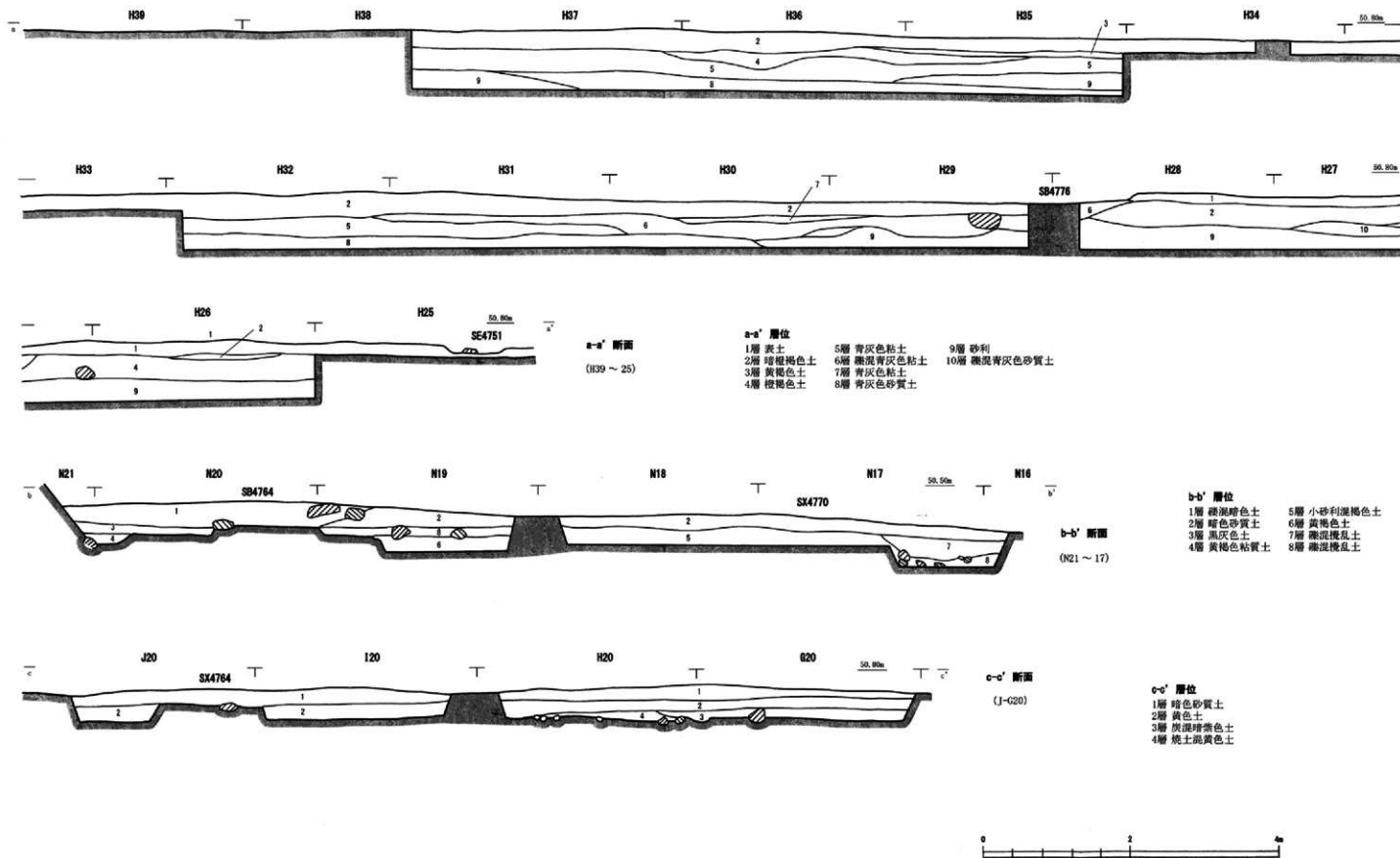
遺構の時期については、土塁石垣構築前がI期、土塁石垣構築後、町並み整備がされた時期がII期、朝倉氏滅亡期をIII期として第3表にまとめた。以下、主要な遺構の概要を述べる。



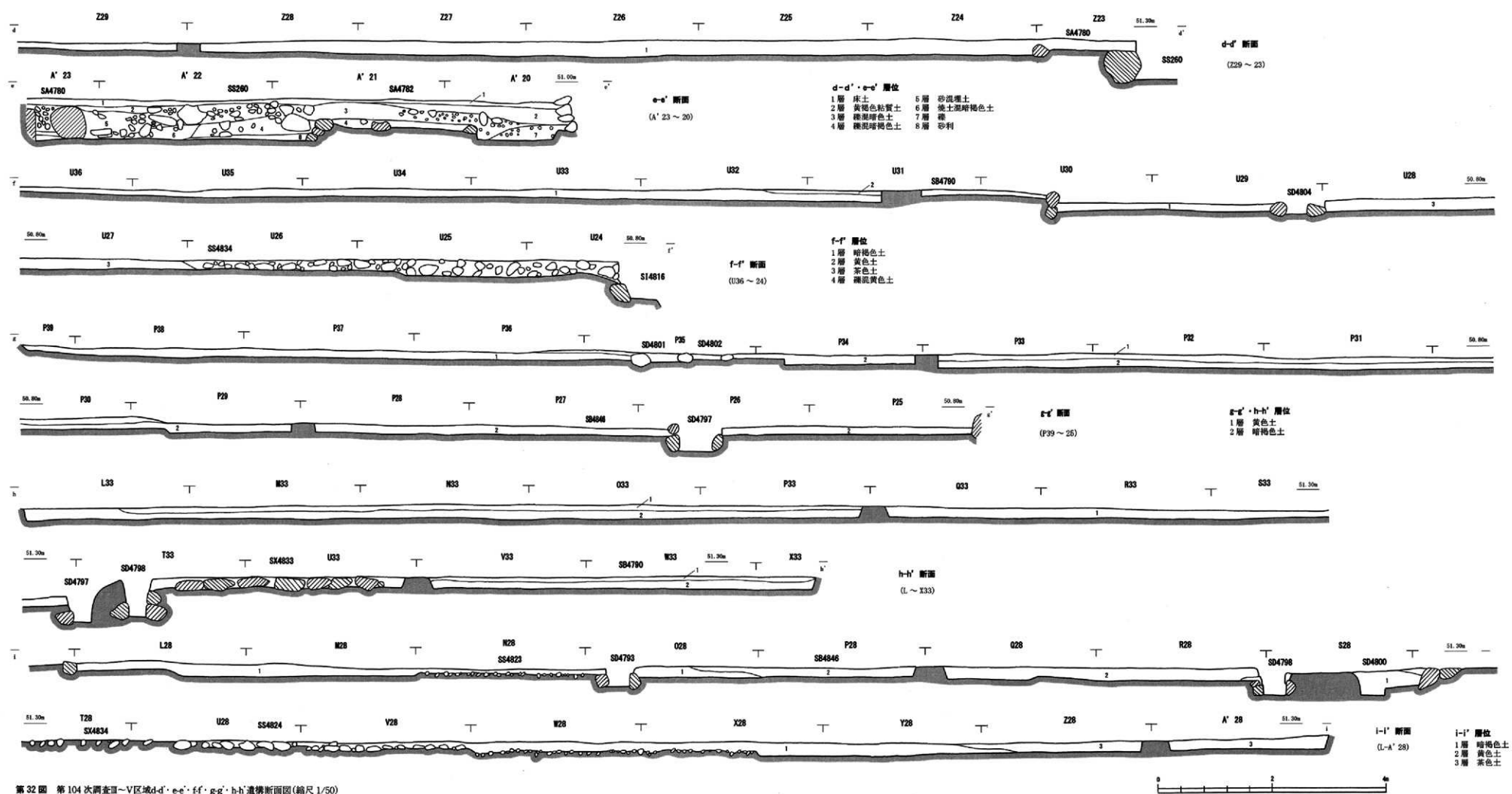
第29図 第102・104次調査位置図(縮尺1/500)



第30圖 第102・104次調査遺構全体図 (縮尺1/300)



第 31 圖 第 102 次調査第 I 区域 a-a'、第 II 区域 b-b'・c-c' 遺構断面図(縮尺 1/50)



第32圖 第104次調査Ⅲ-V区域d-d' · e-e' · f-f' · g-g' · h-h'遺構断面圖(縮尺1/50)

2. 第1区域(PL 18~23 第30・31・33区)

第1区域は第102次調査区の西側を占め、C-K24~41の範囲に相当する(第8図)。遺構の層位はa-a'断面、で観察した(第30図)。遺構の密度は希薄だが、全体に砂利面の広がりが確認され、この区域は大規模武家屋敷Aの広庭のような空間として利用された可能性がある。

【大規模武家屋敷A】

土塁石垣

SA893(PL 21 第30区) F-I24に位置。大規模武家屋敷Aの東側土塁石垣南端である。主軸はN9°Eに向き、全長約12m、基底幅1.3mを測る。大きく破壊を受けていたが、並行する南北道路SS260側に100~150cm以上の石が6石崩落していた。おそらく1.5m以上の比高差がある南側の矩折部に接続するため、高さを増す必要があり、下城戸跡に見られるような石の石垣が組まれていた可能性がある。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

門

SI4750(PL 23 第33区) J-K24に位置。大規模武家屋敷Aの南端に構えられた門である。主軸はN9°Eに向き、門の外側内寸幅3.8m、内側内寸幅3.6m、奥行き2.4mを測る。東側土塁石垣SA4760とSA893の間に構築され、南北道路SS260に向かって一定の幅で開門する。SS260の道路面より0.2m高い。北側の門柱石には120cm大の石が1石据えられていた。南側の門柱石は倒壊し、180cm大を測る。門の外側には、長さ180cm、幅30cm、高さ40cmを測る笏谷石製の暗渠を倒立させて2本並べ、門の中央から南寄り門扉を支える礎石と推定される40cm大の石が1石検出された。門の内側には砂利敷き面が検出された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

遺物は、土師器皿98・99、鉄輪広口壺100、青磁皿101・102、染付皿103・104が出土した。

区画溝

SD4752(PL 21・23 第30区) J-K25・26に位置。石組排水溝である。主軸はSI4750の開口と並行した後、N34°Wに向き、長さ8.5m、幅0.3m、深さ0.2mを測る。門SI4750から西進することを阻み、南北通路SS4824へ導くように区画する。30~50cm大の石を溝の両側に並べ、底石はない。砂利敷き面が広範囲に検出された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は、灰釉小皿105、越前焼捏鉢106、青磁棧花皿107、白磁皿108が出土した。

SD4753(PL 21・23 第30区) I-K26・27に位置。石組排水溝である。主軸は、L26までN20°E、M26でN11°Wに向き、長さ17.5m、幅0.3m、深さ0.2mを測る。SB4787の敷地の東側区画溝と考える。南端から3.5mまでは20~30cm大の石を溝の両側に並べ、SD4752と合流するK27付近までは40~50cm大の石を溝の両側に配置していた。底石はない。第V区域のM26で西にやや屈折し、最終的に東西道路SS4823を横断する部分は埋めてしまった可能性がある。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土師器皿109、青磁棧花皿110・皿111・碗112・香炉113、銭貨「祥符通寶」163が出土している。

SD4765(PL 21・23 第30区) H-SX4765である。K27~29に位置。石組排水溝である。主軸は、N71°Wに向き、長さ10.0m、幅0.4mを測る。SB4787の敷地の南側の区画溝と考える。30~40cm大の石を溝の両側に並べ、底石はない。南側に小規模の礎石建物または東西通路が存在した可能性がある。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SD4755・4756(PL 21~23 第30区) J-K33に位置。石組排水溝である。主軸は、N20°Eに向き、合流点まで長さ8.0m、幅0.4mを測る。SD4755は第V区域M32でSD4794と合流する。30~40cm大の石を溝の両側に並べ、底石はない。SD4756は、K33において、SE4811とSD4755の1.5m間を結んでいた。覆土は焼土・炭化物が多く含まれていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は、SD4755において越前焼壺114・壺115、土師器皿116~118、青磁杯119・花入120・皿121・輪花皿122、白磁棧花皿123・杯124、染付皿125に加え、和鉢150、銭貨「照寧元寶」170・「政」通寶」173が出土した。

井戸

SE4751 (PL. 23 第30回) I25に位置。石組の井戸である。20～40cm大の石を楕円形に配し、内寸長軸約1.0m、内寸短軸0.9mを測る。底面は不明である。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。南側に砂利敷面が検出された。

SE4811 (PL. 23 第30回) K43に位置。石組の井戸である。10～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.8m、内寸短軸0.8m、深さは0.4m掘削したが底面は不明である。SD4756を切って構築され、時期はⅢ期と考える。

庭

SG4758 (PL. 23 第33回) G・H38・39に位置。H SX4758である。100cm大の平石2石と210cm大の巨石が東西に直線状に並び、北辺に小礫が8石以上並べられていた。特殊な形状から庭と考える。時期はⅢ期と考える。

3. 第Ⅱ区域 (PL. 24～26 第30・31・33回)

第Ⅱ区域は第102次調査区の東側に相当し、F-R16～24の範囲に相当する(第30回)。遺構の層位はb-b'断面、c-c'断面で観察した(第31回)。調査の結果、土塁石垣で区画された中規模武家屋敷Bの西側を検出した。

【中規模武家屋敷B】

土塁石垣

SA4763 (PL. 24・25 第30回) G-R22に位置。中規模武家屋敷Bの西側土塁石垣である。主軸はN10°Eに向き、全長約34m分を検出した。幅は1.3mと推定される。北端はSD4798まで延び、南端の矩折部までを含めると、全長48m以上の規模になる。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は青磁碗127、灰釉挫鉢128が出土した。

門

SI4762 (PL. 26 第33回) F22に位置。中規模武家屋敷Bの南西に構えられた門である。主軸はN10°Eに向き、門の外側内寸幅2.5m、内側内寸幅2.4m、奥行き2.5mを測る。西側土塁石垣SA4763の南端に構築され、南北道路SS260に向かって両側に開門する。50～90cm大の11石の笏谷石の板石を石畳状に敷いて構築していた。11石の板石は笏谷石であった。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は染付皿129が出土した。

道路

SS260 (PL. 24・25 第30回) 第Ⅱ区域では、F-R22～24に位置。南側の矩折部から北上する南北道路である。区域内で全長38m、幅4.3mを測る。路面は砂利面だが下層遺構面は確認できなかった。遺物は越前焼壺130・131・壺132、鉄柱大海茶入133、青磁皿134・棧花碗135・皿136・碗137・香炉138、染付碗139が出土した。

石敷遺構

SX4761 (PL. 24・25 第30回) 第Ⅱ-R23に位置。SS260内の西寄り、全長15.0mにわたって、1辺30～50cm大の笏谷石の板石が飛石状に約20石配置されていた。機能については不明である。時期はⅢ期と考える。

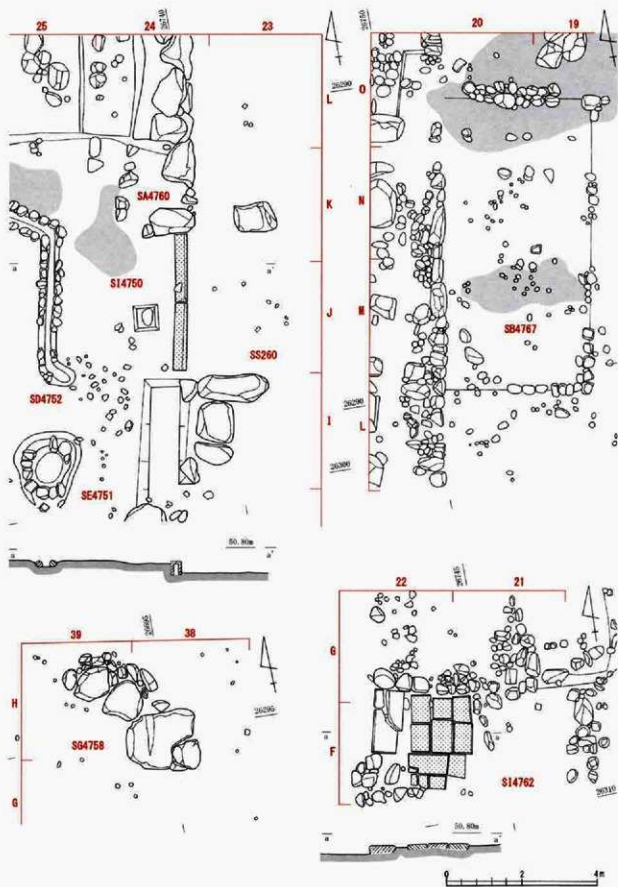
SX4764 (PL. 24 第30回) 第Ⅱ-K20・21に位置。下層で検出した石敷遺構である。100～150cm大の巨石が直線状に5石検出された。性格は不明である。時期はⅠ期と考える。遺物は中国製鉄輪四耳壺140が出土した。

建物

SB4767 (PL. 26 第33回) 第Ⅱ-O19・20に位置。中規模武家屋敷Bの北西隅寄りに構築された礎石建物である。建物西辺は近代の水田畔の石垣により破壊されていた。桁行4間、梁間2間と推定される。主軸はN10°Eに向き、桁行7.8m、桁間寸法1.5～2.4m、梁間は3.6m分が検出され、梁間寸法2.0mを測る。床面積は推定約40㎡を測る。建物中央付近で焼土が検出された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は青磁碗142が出土した。

井戸

SE4768 (第30回) I25に位置。石組の井戸である。20～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.9m、内寸短軸0.9mを測る。底面は不明である。時期はⅠ期と考える。遺物は越前焼挫鉢141が出土した。



第33图 第Ⅰ区域SI4750、SG4758、第Ⅱ区域SB4767、SI4762 (缩尺1/100)

4. 第Ⅲ区域(PL. 27~32 第30・34~37図)

第Ⅲ区域は、第104次調査区の南北道路の東側を含めた北東部に遺構のまとまりを見出し、S-H'19~28を範囲とする(第30図)。遺構の層位はd-d'断面、e-e'断面、f-f'断面、i-i'断面で観察した(第32頁)。調査の結果、中規模武家屋敷Cの西側土塁石垣と、大規模武家屋敷Aの北東部を検出した。

【中規模武家屋敷C】

上塁石垣

SA4782(PL. 27~29 第30図) V-E'20~22に位置。中規模武家屋敷Cの西側土塁石垣である。主軸はA'21まではN20°E、以北はN30°Eに向き、全長約29.5mを検出した。南北道路SS260に面した外側では、30~50cm大の石が基底石として検出され、W-X22付近では80~100cm大も散見される。内側の基底石はY-Z21、C'20で一部が残存し、外寸幅は1.3mと推定される。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。内側に1.5m隔てて石列が並行しており、武者走りのような段を設けていたと考える。調査区東壁の石列は近代の水田畦であった。

SA4784(第30図) T21・22に位置。中規模武家屋敷Cの南偏土塁石垣である。主軸はN76°Wに向き、全長約5.0mを検出し、幅1.6mを測る。基底部のみ検出された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土師器Ⅲ120、越前焼壺121・搦鉢122・鉢123、白磁皿124・125が出土した。

門

SI4818(第37頁) U22に位置。中規模武家屋敷Cの南西に構えられた門である。主軸はN20°Eに向き、門の外側内寸幅2.8m、内側内寸幅3.2m、奥行き2.5mを測る。西側土塁石垣SA4782の南端に構築され、南北道路SS260に向かって西側に開門する。SS260を挟んで、西側の大規模武家屋敷の門SI4816と相対する。SS260の道路面より0.1m高い。北側には50cm大の石を4石用い、南側は南側土塁石垣SA4784の内側で仕切られていた。外側には10~40cm人の石が10石据えられていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

道路

SS260(PL. 27 第30図) S-E'20~23に位置。中規模武家屋敷Cと大規模武家屋敷Aの境となる南北道路である。南端はSD4798で仕切られ、主軸はA'22まではN20°E、以北はN30°Eに向き、全長約41.0mを検出した。幅は中央付近で5.0mを測る。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物はバンドコ451・455が出土した。

SS4822(第30図) S・T21・22に位置。SS260とT字状に直交して接続する東西道路である。主軸はN76°Wに向き、全長約5.0mを検出した。幅は2.5mを測る。道路南側にはSD4798が側溝となっていた。

石敷遺構

SX4761(PL. 25・27 第30図) 第S-U23に位置。SD4798以北で、第Ⅱ区域から引き続き、SS260内の西寄りに全長9.0mにわたって、1辺30~50cm大の笄石の板石が飛石状に約8石配置されていた。東側には10~20cm大の石が長さ4.5m、幅2.0mの範囲で敷かれていた。機能については不明である。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

【大規模武家屋敷A】

土塁石垣

SA4783(PL. 28~29 第30図) F'-H'21~26に位置。大規模武家屋敷Aの北側土塁石垣である。主軸はN70°Wに向き、全長約15.5mを検出した。外寸幅は1.0mと推定される。外側は30~50cm大の石を用い、内側は20~40cm大の石を用いていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SA4781・4780・4785・4760(PL. 27~29 第30・35図) S-F'22~24に位置。第Ⅲ区域において北から大規模武家屋敷Aの東側上塁石垣を構成する。SA4760は主軸がN10°Eに向き、以降、SA4780はW24°N20°E、SA4781はC'23でN29°Eに向く。南端は暗渠SZ4843とすると、北端まで全長42.5mを測り、幅2.1~2.3mを測る。

知折部を構築する第I区域SA893の南端まで含めば、大規模武家屋敷Aの東側土塁石垣は全長98mとなる。

SA1781は、東側にSD4810を設け、外側の基底石には60～100cm大の大石を用いていた。内側の基底石はほぼ破壊されていた。E'22で暗渠SZ4845が横断する。

SA4780は、外側の基底石には40～90cm大の大石、内側の基底石には20～30cm大の石を用いていた。V-X25付近では土塁石垣内側に30～50cm大の石を用いて、長さ5.0m、幅2.0mの張出部SA4785を構築していた。SA4760は、第三区域ではSZ4843から北端の6.0m分までが含まれ、外側の基底石には50～80cm大の大石、内側の基底石には20～30cm大の石を用いていた。ここでも内側に30～50cm大の石を用いて、長さ3.5m、幅2.0mを測る長方形の張出部が構築されていた。SA4785と共に、門SI4816に伴う基礎と考える。

門

SI4817 (PL.30 第35図) B'23に位置。大規模武家屋敷Aの北東に構えられた門である。主軸はN29°Eに向き、門の外側内寸幅1.8m、内側内寸幅2.5m、奥行き2.5mを測る。SS260より3.0m高い。北端を東側土塁石垣SA4781、南端を東側土塁石垣SA4780に挟まれて構築され、南北道路SS260に向かって東側に開口する。

門の北端は、SA4781の南端幅から0.5m程内側へ拡張し、北へ1.8m隔てた位置に、敷地内の排水をする暗渠SZ4844はゆるやかに曲線状を呈して設けられていた。門の南端は、石組排水溝SI4808で区画されていた。門の規模は小規模だが、内側の拡張状況からSI4816と同様に南北に「袖塀」が設けられた可能性がある。

門の外側には笏谷石の板石が階段状に2段敷かれ、1段目には長さ140cm、幅30cm板石が1石、2段目には長さ55～65cm、幅40～50cm大の板石が2石据えられていた。各段の板石の下には10～20cm大の根石が10石前後据えられていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は越前焼釜鉢126・鉢鉢127・短頸壺128が出土した。

SI4816 (PL.30 第37図) U24に位置。大規模武家屋敷Aの東に構えられた正門と考える。主軸はN10°Eに向き、門の外側内寸幅3.0m、内側内寸幅3.4m、奥行き3.8mを測る。北端を東側土塁石垣SA4780、南端を東側土塁石垣SA4760に挟まれて構築され、南北道路SS260に向かって東側に開口する。SS260の道路面より0.4m高い。北端のSA4780と南端のSA4760の内側に張出部を設けることで門の奥行きを拡張し、北と南に袖塀が設けられた可能性が高い。北側のSA4780との間に不明瞭な石組排水溝が検出された。

門の外側には、石列が2段配置され、1段目には50cm大の石が中央に2石据えられ、それらを挟むように30cm大の石が2石据えられていた。2段目には門柱の礎石と考えられる40cm大の石が南北端に2.4m隔てて2石据えられ、中間にも30cm大の礎石が1石検出された。北端の礎石には榎の木根を嵌めた痕が残っていた。

門の内側には、石列が1段配置され、30cm大の石が張出部の面に合わせて8石以上据えられていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は白磁碗129、染付碗130が出土した。

溝

SD4809 (PL.31 第30図) E'26・27に位置。SX4841の南東隅の区画溝と考える。主軸は、南辺でN75°Wに向き、長さ3.5m、幅0.4mを測り、東辺でN40°Eに向き、長さ2.0m、幅0.4m、深さ0.4mを測る。30～50cm大の石をL字状に据え、石積は2～3段で底石はない。時期はⅢ期と考える。遺物は土師器Ⅲ131が出土した。

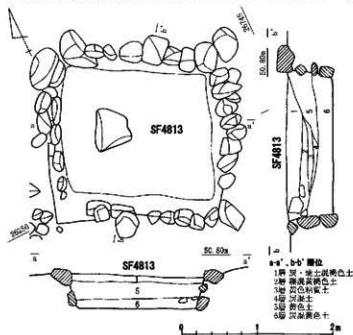
SD4808 (PL.31 第35図) B'24に位置。SI4817の南側を流れる石組排水溝である。主軸は、N70°Wに向き、長さ1.8m、幅0.4m、深さ0.3mを測る。30～50cm大の石をくの字状に据え、溝の両側に1段積んでいた。底石はない。上層の遺構であり、時期はⅢ期と考える。遺物は越前焼火櫃132、青磁碗133が出土した。

SD4810 (PL.31 第30図) C'-F'21・22に位置。門SI4817の北端からSA4781に沿って北流する石組排水溝である。主軸は、N30°Wに向き、長さ11.0m、幅0.3m、深さ0.3mを測る。SS260の西側側溝であり、30～50cm大の石を直線状に据え、溝の外側に1段積んでいた。底石はない。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

暗渠

SZ4845 (PL. 31 第30区) E'22・23に位置。西側のSX48401に関連する暗渠である。主軸は、 $N70^{\circ}W$ に向き、長さ3.0m、幅0.3m、深さ0.3を測る。30～50cm大の石を直線状に据え、溝の両側に1段積んでいた。天井部には、一部転用材を用い、50～60cm大の石を5石架構していた。底石はない。東側上墨石垣SA4781の下を通り、東端はSD48101に接続していたが、Ⅱ期の段階では塞がれていたと考える。西端は30cm大の石を2石用いて仕切りとっていた。時期はⅠ・Ⅱ期と考える。

SZ4844 (PL. 31 第35区) C'・D'23に位置。門S14817から北へ1.5m隔てて構築された暗渠である。主軸は、 $N70^{\circ}W$ に向き、長さ5.0m、幅0.3m、深さ0.3mを測る。石材の大部分が引き抜かれていたが、本渠は30～50cm大の石を溝の両側にやや弧状に据えていたと考える。天井部には50～60cm大の石が1石、底石には20～40cm大の石が6石残存していた。SZ4845と同様に、東側上墨石垣SA4781のドを通り、東端はSD48101に接続していたが、SZ4844と同様にⅡ期の段階では塞がれていたと考える。時期はⅠ・Ⅱ期と考える。



第34図 第Ⅲ区域SF4813(縮尺1/50)

SF4814 (PL. 32 第36区) A'・B'24・25に位置。大型石積施設である。20～40cm大の石を底面から約 11° の勾配をもって3段積み、方形を呈す。主軸は $N30^{\circ}E$ に向き、内寸南北長軸1.9m、内寸短軸1.5m、深さ0.4mを測る。SD4808が付属する。遺物は鉄軸大海茶入142、銭貨「永樂通寶」478が出土した。

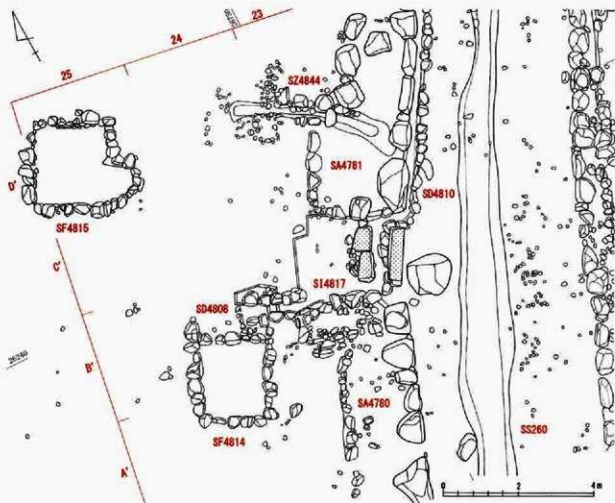
SF4815 (PL. 32 第35区) D'25に位置。大型石積施設である。主軸は $N30^{\circ}E$ に向き、内寸南北長軸2.0m、内寸東西短軸1.9m、深さ0.6mを測る。20～40cm大の石を底面から約 11° の勾配をもって3段積み、方形を呈すが、南東隅に半円形の突出部を有す。張出部は内寸短軸から東側へ0.7m張り出していた。SF4813・4814も含め、時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土師器皿146、青磁皿147、鉄軸四耳壺148、茶臼443が出土した。

石敷遺構

SX4834 (PL. 32 第37区) S-U26～28に位置。SI4816とSB4790の間に位置する石敷遺構である。主軸は $N20^{\circ}E$ に向き、南北長軸7.5m、東西短軸8.0mを測る。30～50cm大の石が方形に敷き詰められていた。西辺はSD4804で区画されていた。石敷中央に門S14816とSB4790を結ぶ、通路SS4824がある。石敷自体は南北に分かれるが、機能は不明である。時期はⅢ期と考える。遺物は白磁皿149、染付皿150、越前焼鉢151が出土した。

石積施設

SF4813 (PL. 32 第34区) Y25に位置。大規模武家屋敷Aの北東で検出された3つの大型石積施設のひとつである。主軸は $N30^{\circ}E$ に向き、内寸南北長軸2.0m、内寸短軸2.1m、深さ0.5mを測る。20～40cm大の石を底面から約 11° の勾配をつけて3段積み、平面形は歪んだ方形を呈す。底面で50cm大の板石が1つ検出された。覆土は、上層に炭化粒、焼土を含む褐色土、中層に黄色土、下層に炭化粒を多く含む黄色土が堆積していた。中層と下層の間には厚さ8cmの炭化層が挟まれていた。遺物は土師器皿134～141、青磁碗143、染付杯144・皿145が出土した。



第35図 第III区域SA4780・4781、SI4817、SZ4844、SD4808・4810、SF4814・4815(縮尺1/100)

5. 第IV区域(PL.33・34 第30・32・36・37図)

第IV区域は、第III区域の西側を対象とし、T-229～39を範囲とする。大規模武家屋敷Aの敷地を南北に二分するSD4798以北に遺構のまもりを見出した(第30図)。遺構の層位はf-f'断面、h-h'断面で観察した(第32図)。調査の結果、大規模武家屋敷Aの主殿と見られる建物と、建物北側で甲冑片を含む溝などを検出した。

【大規模武家屋敷A】

建物

SB4790(PL.33 第37図) T-X30～36に位置。大規模武家屋敷Aの主殿と見られる大型礎石建物である。建物西辺は山裾と接し、西半は大きな破壊を受けていた。全体の規模は不明である。わずかに残った礎石で推定すると、SB4790は西側の建物①と東側の建物②に区分された。

建物①は、桁行2間、梁間2間で長方形を呈し、主軸が $N21^{\circ}W$ に向き、桁行6.5m、桁間寸法3.2m、梁間5.0m、梁間寸法2.2～2.8mを測り、床面積約33㎡の建物と推定される。西側にまだ拡張する可能性が高い。

建物②は、桁行3間、梁間2間で長方形を呈し、主軸が $N20^{\circ}W$ に向き、桁行8.4m、桁間寸法2.2～2.8m、梁間5.5m、梁間寸法2.8mを測り、床面積約45㎡の建物と推定される。共に建物南辺が直線状に並ぶことから、同一の礎石建物と考えると、SB4790は床面積約78㎡以上を測る建物と推定される。

建物①・②は、長辺18.5m、短辺9.7mを測る基壇の中に建てられ、基壇の東に幅2.0m、北に幅1.0mの通路状の空間が認められた。基壇は、30～50cm大の石を直線状に1段並べて構築されており、基壇北辺は

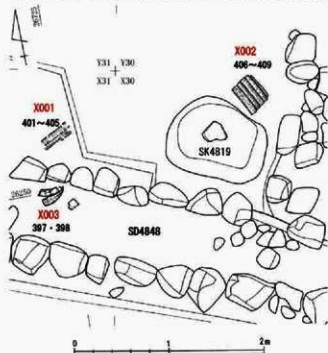
SD4847の外側の石と並行し、基壇南辺はSD4833の外側の石と並行する。基壇東辺はSD4833を遮るように1.5m程南下して構築されており、SD4798・4797を横断してSB4789へ至る通路があったことを想起させる。この通路はSD4798の手前で西側にも屈曲し、通路中央で50cm大の平石が飛石状に5石検出された。時期はII・III期と考える。遺物は、灰軸天目碗 165・三筋壺 166、青磁盤 167、白磁碗 168・171・皿 169、煙管 390が出土した。

石敷遺構

SX4835 (PL. 33 第37図) 第W32に位置。SB4796の建物②の北西より検出されたL字状の石敷遺構である。20～30cm大の石を南北に6石、東西に3石並べていた。建物との関連は不明である。時期はIII期と考える。

通路

SS4847 (PL. 33 第37図) IHSX4847である。T-228～30に位置。SB4790とSD4808の間で検出された、屋敷の敷地内中央を南北に通る道路である。砂利敷面が部分的に残り、第IV区域において長さ18.0m、幅4.6mを測る。南のN31まで延びることが確認された。時期はII・III期と考える。遺物は土師器皿 172・173が出土した。



第36図 第IV区域SD4848周辺甲冑X001～003(縮尺1/40)

9.5m、幅0.3mを測る。30cm大の石を溝の外側にのみ並べ、底石はない。時期はII・III期と考える。溝の外側には、障壁と考えられるSA4849が長さ8.0m、幅1.0～1.8mの規模で並行していた。

SD4804 (PL. 32 第37図) T-V29に位置。石敷遺構SX4834の西辺区画溝である。主軸は、N20°Eに向き、長さ11.0m、幅0.3mを測る。30～40cm大の石を溝の両側に直線状に並べていた。底石はない。SB4790東辺基壇と並行する。北端はSD4848へ接続する。時期はII・III期と考える。遺物は銭貨「元豊通寶」471が出土した。

SD4805 (PL. 33 第37図) X-V29に位置。石組排水溝である。主軸は、N20°Eに向き、長さ3.2m、幅0.3mを測る。30～40cm大の石を溝の両側に直線状に並べていた。底石はない。SD4806に後出する。北側は大きく破壊されていた。時期はIII期と考える。遺物は、溝中のX005地点で甕罎 399・400が出土した。

SD4806 (第37図) X-Z30に位置。石組排水溝である。主軸は、N20°Eに向き、長さ7.5m、幅0.3mを測る。30～40cm大の石を溝の両側に直線状に並べ、クランク状に屈曲する。底石はない。SD4805構築時に破壊され、時期はII・III期と考える。遺物は土師器皿 175～182、鉄軸壺 183、灰軸瓶子 184、染付皿 185が出土した。

区画溝

SD4848 (PL. 33・34 第36・37図) 本報告で新規に遺構番号を付した。X30～32に位置。SB4790の北辺を区画する石組排水溝である。30～50cm大の石を溝の外側にのみ並べ、底石はない。主軸はN68°Wに向き、長さ8.5m、幅0.3mを測る。時期はII・III期と考える。

遺物は、鉄軸湯茶入 174と溝の北側付近を中心に向背の破片が部分的に検出された(第36図)、X001地点で草摺 401～405、X002地点で大軸 406～409、溝の中のX003地点で甕罎 397・398、溝の東端付近X004地点で草摺 410～416が出土した。

SD4833 (PL. 32 第37図) IHSX4833である。X30～32に位置。SB4790の南辺を区画する石組排水溝である。主軸はN68°Wに向き、長さ



第37图 第III区(SA4780·4780·4785、SS260·SI4816·4818、SX4834·4836、第IV区(SB4790、SD4804~4806、SD4847、SX4833·4847)(缩尺1/100)

6. 第V区域(PL.35~40 第30・32・38~40図)

第V区域は、第Ⅲ・Ⅳ区域の南側を対象とし、大規模武家屋敷Aの敷地を南北に二分するSD4798以南の遺構にまとまりを見出した。L-T24~39を範囲とする(第30図)。遺構の層位はg-g'断面、h-h'断面i-i'断面で観察した(第32図)。調査の結果、大規模武家屋敷Aの南側で複数の礎石建物、土蔵、区画溝等を検出した。

【大規模武家屋敷A】

建物

SB4789(PL.36~40 第39図) Q-S31~33に位置。SB4790に付属する土蔵と考える。最大で桁行4間、梁間4間の規模を有していたと推定される。主軸はN75°Wに向き、桁行6.1m、桁間寸法1.2~1.8m、梁間5.2m、梁間寸法1.2~1.5mを測り、床面積約32㎡の建物と考える。北辺はSD4797と接し、西辺中央に幅1.3m、奥行き1.2mの入口を設けていたと考える。内部でも外壁に沿って、礎石列が南辺で4間、西辺で2間確認され、棚などの内部施設を支えた礎石の可能性が高い。石敷面は2面確認できたが、上層はほぼ破壊されていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物はX006 地点で竈門と共に板材が検出された。

SB4788(第39図) Q-S35・36に位置。SB4788から南西へ3.2m隔てて構築された礎石建物である。大きく破壊を受け、規模は不明だが、南辺に礎石列らしき石列がわずかに残り、東辺がSD4801の西辺と同一とすれば、小規模ながら桁行3間、梁間2間の規模を有し、主軸はN70°Wに向き、桁行5.5m、梁間3.9m、梁間寸法1.9mを測り、床面積約21㎡の建物と推定される。建物北西側には広く砂利敷が検出された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土器類187~196、金匙387・388、小柄393が出土した。

SB4786(PL.37 第39図) L-036~39に位置。SB4788から南へ9.0m隔てて構築された礎石建物である。建物西辺は山裾と接し、東辺は大きな破壊を受けていた。建物は、東西南北に小規模礎石建物が付属していたと考える。まず、中心となる建物①は、桁行5間、梁間2間を測り、長方形を呈す。主軸はN64°Wに向き、桁行6.3m、桁間寸法1.3~1.9m、梁間3.8m、梁間寸法1.9mを測り、床面積約24㎡と推定した。

建物①の西辺には、桁行2間、梁間1間の規模の建物②が接続し、北辺には桁行2間、梁間1間の階のような施設が付属したと考える。建物①の南辺には、桁行4間以上、梁間1間の規模の建物が接続し、東辺にも西辺と同規模の建物が接続していた可能性がある。単純にこれらを一つの建物と見た場合、SB4786は床面積65㎡以上の建物と推定される。時期はⅢ期と考える。SB4786の北辺では、長さ11.0m、幅4.2mの砂利敷面が検出され、南北通路SS4847と直交する東西通路SS4849が想定された。遺物は土器類197~199が出土した。

SB4846(PL.35・37 第38図) 第O-R26~29に位置。西側のSB4788と対称をなすように東側に9.0m隔てて構築された礎石建物である。敷地の北辺・東辺・南辺は区画溝SD4798・4797・4793で区画され、西辺は石列SV4830で区画されていた。SV4830は板塀と考える。

礎石の残存状況が悪く、建物全体の規模は不明である。石組排水溝で区画された礎石建物が敷地一杯まで占有する傾向があることを踏まえれば、SB4846は、桁行4間、梁間3間の規模と推定される。主軸はN20°Eに向き、桁行8.6m、梁間は6.0mを測り、床面積は約52㎡と推定する。

北東隅の区画溝の石組配列から、SB4846の北・東・南辺には幅1.5~1.8mを測る溝が設けられ、区画溝は屋根の雨落溝の役割も兼ねていたと考える。南辺東側に長さ2.2mの石列があり、入口と推定できる。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は染付碗203、朝鮮陶器鉢204が出土した。

SB4787(PL.37 第39図) 第K-N29~32に位置。西側のSB4846の南側に8.0m隔てて構築され、東西に長い総柱の礎石建物である。敷地の北辺・東辺・南辺は区画溝SD4793・4753・4765で区画され、北西部分は最終的にSD4794の構築によって破壊されていた。桁行4間、梁間2間の規模を測る。主軸はN69°Wに向き、桁行8.4m、

桁間寸法 2.1m、梁間 3.6m、梁間寸法 1.8mを測り、床面積約 30㎡と推定する。礎石は50cm大のものが多く、竈文が求められる倉庫または馬小屋などが想定される。東側にSD4792・4765で仕切られた空間を有し、L字状に屈曲する通路SS4823を介してSB4846と相互に関連した建物と考えられ、SB4846の礎石的な建物と想定される。時期はⅡ期と考える。遺物は土器類 200～202、銭貨「京宋通寶」462が出上した。

区画溝

SD4850 (Pl. 38 第38・39図) N-R26・27に位置。石組排水溝である。礎石建物SB4846の東辺を区画する。主軸はN20°Eに向き、長さ11.8m、幅0.3m、深さ0.2mを測る。30～50cm大の石を直線状に溝の両側に並べ、底石はない。北端はR26でSD4798と直交し、南端はN27でSD4793と直交する。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SD4797 (Pl. 38 第38・39図) S-T30～35に位置。大規模武家屋敷Aの敷地を南北に仕切る石組排水溝である。礎石建物SB4789の北辺を区画する。主軸はN70°Wに向き、長さ14.5m、幅0.4m、深さ0.2mを測る。構築時はSD4801と接続し、クランク状に屈曲した後、SD4800へ接続したと考える。30～50cm大の石を両岸に並べ、底石はない。時期はⅡ期と考える。遺物は土器類 209～227、木刀 432、鉄釘 383、資金具 385、炉壇 448、バンドコ452が出上した。

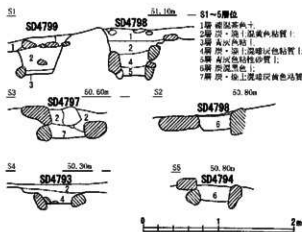
SD4798 (Pl. 38 第38・39図) S-T21～37に位置。大規模武家屋敷Aの敷地を南北に区画する石組排水溝である。所々で屈曲するが、全体的にSD4797に並行して構築されていた。SD4797と交差後、SB4846の北辺の区画溝となる。主軸はN20°Eに向き、長さ55.5m、幅0.4m、深さ0.2mを測る。30～50cm大の石を直線状に溝の両岸に並べ、底石はない。西端はS37でクランク状に屈曲する。主軸はN90°Eに向け、SD4800を切って、暗渠SZ4843を通り、東西道路SS4822の南側の低溝となって東へ流れていたと考える。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土器類 228～299、土錘 366、切刃 395、漆器椀蓋 417・椀 418、曲物 420、桶 422、箱 426、砥石 434・436・439、石硯 442、風炉 447、銭貨「元豊通寶」472が出上した。

SD4794・4795・4796 (Pl. 39 第38・39図) L-N31～32に位置。石組排水溝である。M31・32において小規模の溝の切り合いを検出した。いずれも30～50cm大の石を直線状に溝の両岸に並べ、底石はない。

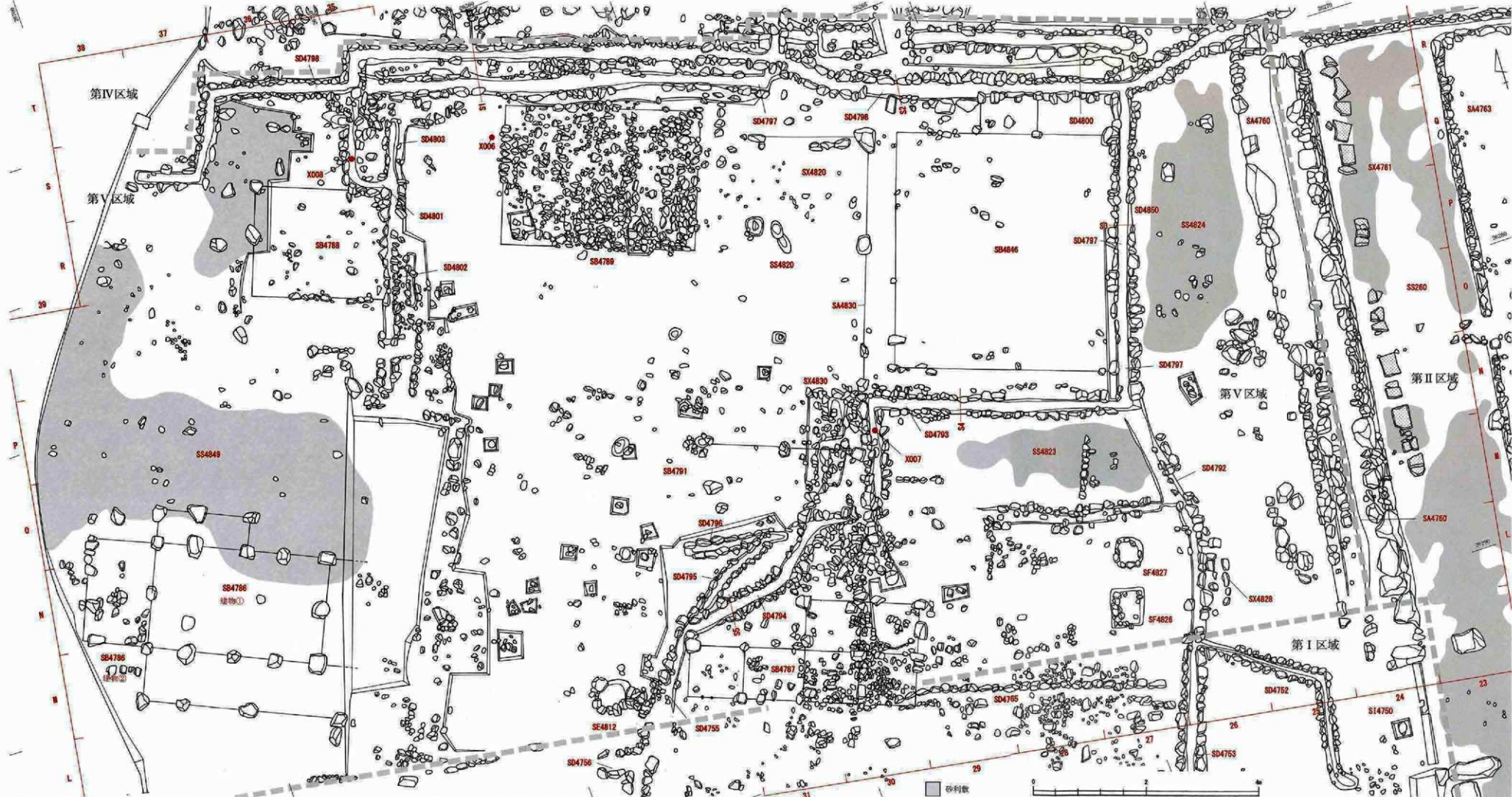
SD4794は、SD4795を切り、南端で主軸をN80°E、N30から主軸をN20°Eに向け、長さ10.0m、幅0.3mを測る。障壁SA4830の外側を通っていたと考える。SD4795は、第1区域SD4755の延長にあり、主軸がN60°Eに向き、長さ7.0m、幅0.3m、深さ0.2mを測る。北端はSD4796に切られていた。SD4796は、東半分が破壊されているが、本来はSD4793へ接続していたと考える。各溝の覆土には焼土、炭化物が多く含まれていた。これらの溝は2回改変を受けており、当初は、南側のSD4755・4795を構築して、左へゆるやかな曲線を描きながらSD4793・4850へ接続していたが、1回目の改変で、SD4796がSD4795の北端を切って直線状にSD4793へ接続し、2回目の改変で、SD4794を構築して、SD4796を破壊し、SD4793へ接続したと考える。

遺物は、SD4794から土師器皿 300～302、銭貨「元豊通寶」470・「成淳元寶」476、SD4795から土器類 303～305、SD4796から土器類 306～308が出上した。

SD4753 (Pl. 35・39 第39図) L-N26に位置。第1区域の126に南端をもち、北端はSD4793と合流する。SB4787の敷地の東側を区画する。主軸はN20°Eに向き、M25でやや屈曲し、主軸をN10°Wに向ける。



第38図 第V区域S1～5(縮尺1/50)



第39图 第V区(SB4789·4788·4786·4846·4787·SD4850·4797·4798·4794·4796·4753·4793·4792·4801·SS4823·4824·4849·SF4826·4827·SE4812·X006~008)(缩尺1/100)

全長 18.0m、幅 0.4m、深さ 0.2mを測る。30～50 cm大の石を直線状に両側に積む、時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は青磁瓶 309が出土した。

SD4793(PL.37・40 第39図) N-O27～29に位置。石組排水溝である。礎石建物SB4787の敷地と北側の礎石建物SB4846を区画する。主軸はN70°Wに向き、O29で直角に3.5m南下して屈曲する。長さ9.5m、幅0.5m、深さ0.2mを測る。30～50 cm大の石をL字状に溝の両側に並べ、底石はない。覆土に焼土、カヤ、炭化物が多く含まれていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土器類 311～315、土錘 368が出土した。

SD4792(PL.37 第39図) M27・28に位置。石組排水溝である。礎石建物SB4787の敷地の北東側に設けられた砂利敷の通路SS4823の南辺を区画する。主軸はN71°Wに向き、長さ7.0m、幅0.3m、深さ0.2mを測る。30～50 cm大の石を直線状に溝の両側に並べ、底石はない。溝の南辺は大きく破壊されていた。SD4765と並行することで、SB4787の東側に6.5m×6.0mの空間を形成し、空間内には東寄りに石積施設が2基、南北に並んで構築されていた。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。

SD4801(PL.38 第39・40図) P-S35に位置。SB4788の東辺を区画する石組排水溝である。主軸はN20°Eに向き、R35でSD4803を切り、クランク状に屈曲して北上し、北端はSD4797へ接続していたと考える。全長 12.8m、幅 0.4m、深さ 0.2mを測る。30～50 cm大の石を直線状に溝の両側に並べ、底石はない。当初は北端をSD4803として、長さ 10.0m、幅 0.4m、深さ 0.2mを測る直線状の溝として構築されたと考える。Q35においてSD4802が並行する。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物は土器類 326～364、羽物容器 423、障子棧 427～429が出土した。

通路

SS4823(PL.37 第39図) M・N27～29に位置。SB4846の南辺に面した東西通路である。砂利敷面が検出された。主軸はN70°Wに向き、N29で南下してL字状に屈曲する。全長 15.0m、幅 0.4mを測る。遺物は土器類 318～321が出土した。

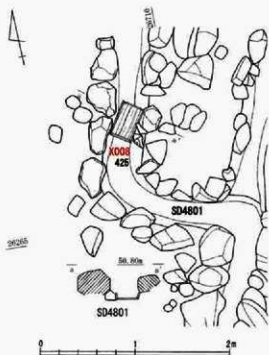
SS4824(PL.35 第39図) O-R25・26に位置。SA4760の内側に沿った砂利敷通路である。主軸はN10°Eに向き、長さ33.0m、幅3.5～5.5mの規模を測る。北上して第Ⅲ区域SS4836と接続し、第V区域SI4750と第Ⅲ区域SI4816間を結ぶ南北通路と考える。遺物は土器類 322～325、土錘 370が出土した。

石積施設

SF4826・4827(PL.39 第39図) 旧SX4826・4827である。L・M27に位置。基底石のみが残存していた。平面形は方形を呈す。SF4826は主軸がN20°Eに向き、内寸南北長軸 0.6m、内寸短軸 0.5m、深さ 0.1mを測る。SF4827は主軸がN20°Eに向き、内寸南北長軸 0.8m、内寸短軸 0.7m、深さ 0.1mを測る。周辺に焼土の広がりが確認された。時期はⅡ・Ⅲ期と考える。遺物はSF4814から銭貨「永楽通寶」478が出土した。

井戸

SE4812(PL.40 第39図) L33に位置。石組の井戸である。20～40 cm大の石を椀形に配し、内寸長軸約 1.1m、内寸短軸 0.8m、深さは崩壊が危惧され、0.4mほど掘削したが底面は不明である。時期はⅢ期と考える。



第40図 第V区域X008：SD4801現箱(縮尺1/40)

第3表 第102・104次調査主要遺構観察表(PL.21~40 第30・33~40図)

第I区域【武家屋敷A】

NO	グリッド	遺構	種類	上層 下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期		
1	F-124	SA893	土塁石垣				PL. 21	第30図
2	J・K 25・26	S14750	門				PL. 23	第33図
3	J・K 26・27	SD4752	区画溝				PL. 21 PL. 23	第30図
4	I-K 26・27	SD4753	区画溝				PL. 21 PL. 23	第30図
5	K27~29	SD4765	区画溝				PL. 21 PL. 23	第30図
6	J・K33	SD4755	区画溝				PL. 21 ~23	第30図
7	J・K33	SD4756	区画溝				PL. 21 ~23	第30図
8	T42	SE4751	井戸				PL. 23	第30図
9	K43	SE4811	井戸				PL. 23	第30図
10	G・H 38・39	SD4758	堀				PL. 23	第33図

第II区域【武家屋敷B】

NO	グリッド	遺構	種類	上層 下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期		
10	G-R22	SA4763	土塁石垣				PL. 24 PL. 25	第30図
11	F22	S14762	門				PL. 26	第33図
12	F-R 22~24	SS260	道路				PL. 24 PL. 25	第30図
13	M-R23	SX4761	石敷遺構				PL. 24 PL. 26	第30図
14	J・K 20・21	SX4764	石敷遺構				PL. 24	第30図
15	L-O 19・20	SB4767	礎石建物				PL. 26	第33図
16	L25	SE4768	井戸				PL. 23	第30図

第III区域【武家屋敷C】

NO	グリッド	遺構	種類	上層 下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期		
17	V-E 20~22	SA4782	土塁石垣				PL. 27 ~29	第30図
18	T 21・22	SA4784	土塁石垣					第30図
19	U22	S14818	門					第33図
20	S-E 20~23	SS260	道路				PL. 27	第30図
21	S・T 21・22	SS4822	道路					第30図
22	S-U23	SX4761	石敷遺構				PL. 25 PL. 27	第30図

第IV区域【武家屋敷A】

NO	グリッド	遺構	種類	上層 下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期		
23	F-H 21~26	SA4783	土塁石垣				PL. 28 PL. 29	第30図
24	S-F 22~24	SA4781	土塁石垣				PL. 27 ~29	第30図 第33図
25	S-F 22~24	SA4780	土塁石垣				PL. 27 ~29	第30図 第33図
26	S-F 22~24	SA4785	土塁石垣				PL. 27 ~29	第30図 第33図
27	S-F 22~24	SA4760	土塁石垣				PL. 27 ~29	第30図 第33図
28	B' 23	S14817	門				PL. 30	第33図
29	U24	S14816	門				PL. 30	第37図
30	E 28・27	SD4809	区画溝				PL. 31	第30図
31	B' 24	SD4808	区画溝				PL. 31	第35図
32	C-F 21・22	SD4810	区画溝				PL. 31	第30図

NO	グリッド	遺構	種類	上層 下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期		
33	E 22・23	SZ4846	暗渠				PL. 31	第30図
34	C・D 23	SZ4844	暗渠				PL. 31	第35図
35	Y25	SF4813	石積施設				PL. 32	第34図
36	A・B' 24・25	SF4814	石積施設				PL. 32	第35図
37	M50	SF4815	石積施設				PL. 32	第35図
38	S-U 28~29	SX4834	石敷遺構				PL. 32	第37図

第IV区域【武家屋敷A】

NO	グリッド	遺構	種類	上層 下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期		
39	T-X 30~36	SB4790	礎石建物				PL. 33	第37図
40	W32	SX4835	石敷遺構				PL. 33	第37図
41	T-Z 28~30	SS4847	道路				PL. 33	第37図
42	X 30~32	SD4848	区画溝				PL. 33 ~34	第37図
43	X 30~32	SD4833	区画溝				PL. 32	第37図
44	T-Y29	SD4804	区画溝				PL. 32	第37図
45	X・Y29	SD4805	区画溝				PL. 33	第37図
46	X-Z30	SD4806	区画溝					第37図

第V区域【武家屋敷A】

NO	グリッド	遺構	種類	上層 下層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期		
47	O-S31 ~33	SB4789	礎石建物				PL. 36 ~40	第39図
48	O-S 35・36	SB4788	礎石建物				PL. 35 PL. 36	第39図
49	L-O 38~39	SB4786	礎石建物				PL. 37	第39図
50	D-R 28~29	SB4746	礎石建物				PL. 35 PL. 37	第39図
51	K-N 29~32	SB4787	礎石建物				PL. 37	第39図
52	N-R 26・27	SD4850	区画溝				PL. 33	第38図 第39図
53	S・T 30~35	SD4797	区画溝				PL. 38	第38図 第39図
54	S・T 21~37	SD4798	区画溝				PL. 38	第38図 第39図
55	L-N 31~32	SD4794	区画溝				PL. 39	第38図 第39図
56	L-N 31~32	SD4795	区画溝				PL. 39	第38図 第39図
57	L-N 31~32	SD4796	区画溝				PL. 39	第38図 第39図
58	L-N26	SD4753	区画溝				PL. 35 PL. 39	第39図
59	N-O 27~29	SD4793	区画溝				PL. 37 PL. 40	第39図
60	M27・28	SD4792	区画溝				PL. 37	第39図
61	P-S35	SD4801	区画溝				PL. 38	第39図 第40図
62	N-N 27~29	SS4823	道路				PL. 37	第39図
63	D-R 25・26	SS4824	道路				PL. 35	第39図
64	L-M27	SF4826	石積施設				PL. 39	第39図
65	L-M27	SF4827	石積施設				PL. 39	第39図
66	L33	SE4812	井戸				PL. 40	第39図

7. 第102次調査遺物(PL.49～51 第41～47図、第4表)

第102次調査の遺物は、1～173を掲載した。ほとんどが第Ⅰ区域の包含層、遺構から出土したもので占められる。内訳は第Ⅰ・Ⅱ区域の土器(陶磁器類)1～144、土製品145～149、金属製品150～155、骨角製品156、石製品157～163、銭貨164～173である。詳細は第4表に記し、以下、特徴的なものの概要を述べる。

第Ⅰ区域包含層出土土器(PL.49 第41～43図)

第102次における包含層とは、表土から上層遺構の検出面に至るまでの複数層を指す。越前焼堯1～3・4・9は口縁部の無文帯の幅が狭く、口端部内側に段をもつ。Ⅲ群Cに分類される。挿鉢12は口端部が受口状に成形され、器厚も薄いつくりであることから最終末期のもたとされる。13～15は口端部内側に段をもち、14は体部上位に扇状に卸目を施している。挿鉢16は口径62.6cm、高さ15.0、底径21.4cmを測る大型品であり、内面は摩耗し、外面底部は未調整である。17は片口を備える。挿鉢18は口径34.3cmを測り、口端部内側に浅い凹線がめぐり、体部下位を回転ヘラケズリで調整するが底部周縁に縄目痕が残る。火鉢19・20は口縁部が直線状に上方へ立ち上がり、口端面は平坦である。口径38.2cmを測る火桶21より小型と考える。

土師器小皿は26～30は浅皿形C類、浅皿形C類(小型品)、杯形C類(文報告19)があり、盤形D類は見られない。28～30は口端部に強いヨコナアによる段をもつ。29・30には口端部にススが付着し、灯明皿として使用された痕跡を残す。鉄箱天目碗31～35はやや内湾して外方へ立ち上がり、口端部で上方に屈曲し/口唇部は短く外傾し丸く収める。体部下位～底部は露胎すると考える。広口壺38は割部上位に半環状の把手が2つ付く。内側の施釉は口端部にとどまる。瓦質土器42・43は香炉であり、42の口縁部は肩衝状に胴部上位で肩が張った後、内側と上方へ短く立ち上がる。43は寸割形を呈し、底部周縁に三角板の脚部を付ける。体部に列点円形文を施し、ミガキで調整する。風炉44は短く立ち上がる口縁部の上・下端に突帯をめぐらし、突帯内に押印文を施す。46は風炉の脚部であり、先端は丸く成形され外方へ屈曲する。青磁碗47・48には外面体部に、51・52は底面中央に陰刻花文が施される。杯55は白磁に多く見られる器種である。白磁杯57は鏝を入れ花形に成形している。底部に呉須の銘款をもつ。杯59の底部には「本」の墨書、60の底部には呉須の銘款が認められる。輪花皿67・68は体部に菊菊花文を入れ、67の外面底部には「口下太平」と陶線2、68の外面底部には呉須陶線2がある。72は口端部が外反し、切れ込みをいれて花卉状に成形している。76は青白磁碗であり、体部に陰刻花文が施される。77は白磁の梅瓶の底部と考える。染付皿79は口径16.0cmを測り、外面体部に変形唐草文、内面体部にアラベスク文を施している。Ⅲ86は内面に宝相華唐草文をもつ。

第Ⅱ区域包含層出土土器(第43・44図)

越前焼人薬89～92は口端部内側に段をもち、89は外面胴部上位にヘラ記号をもつ。挿鉢93は口径46.0cm、高さ12.5cmを測る。底部周縁に縄目痕が残る。内面は幅3.6cm・9条の卸目が施される。土師器羽釜94は体部がヘラナアで調整され、体部下位全面にスガが付着する。瓦質土器95は口端部上下に突帯がめぐり、突帯内に扁平十字形の透孔が入る。風炉と形状が似ているが、口径34.6cmあり、火鉢とした。

第Ⅰ・Ⅱ区域遺構出土土器(PL.50 第44・45図)

SI4750出土(PL.50 第44図) 青磁碗101は外面体部に陰刻蓮花文、内面底部に陰刻花文を施す。鉄鉢広口壺100は38のような口縁部をもつと考える。底部に回転糸切り痕が残る。

SD4752出土(PL.50 第44図) 青磁椀花皿107は口径15.4cmを測る。口端部を押圧し花卉状に成形する。内面体部に陰刻花文がめぐり、

SD4753出土(PL.50 第44図) 土師器小皿109は口端部全周にスガが付着する。青磁椀花皿110は内面体部に107と同様な陰刻花文をもつ。青磁碗111は外面体部に101と同様な陰刻蓮花文を施す。101より器高が1cm低

い。青磁 113は内面底部から体部下位にかけて板状の仕切りをもつ。香炉の破片と考える。

SD4755 出土 (PL. 50 第44図) 越前焼壺 114は口端部が厚く、口端部は平坦である。外面胴部上・中・下位に幅5cmのヨコハケが施される。内面胴部はナデ後指頭痕、ユビナデで仕上げている。土師器皿 116～118は外面がナデ後指頭痕で調整され、116・118は口端部内側に段をもつ。青磁杯 119は55と同様な八角杯である。花入 120は三角錐を倒立させた形状で、断面は楕円形である。体部上位に径0.5cmの円孔を穿つ。口端部は露胎して売げている。白磁花皿 123は口端部を押圧し、花卉状に成形している。染付皿 125は体部に呉須圏線2・変形唐草文を配し、体部下位に芭蕉文を施す。内面口端部には圏線1、底部中央に圏線2・シダの草花文を配す。

SA4763 出土 (PL. 50 第44・45図) 青磁碗 127は101と同様に同様の陰刻蓮花文を施す。灰粘土鉢 128は底部周縁に粘土塊を3つ張り付けた脚部をもつ。

SX4759 出土 (PL. 50 第45頁) 染付皿 126は外面体部には呉須草花文、内面底部に呉須圏線2、十字羯磨文を施す。

SS260 出土 (PL. 50 第45図) 越前焼 132は広口の口縁部に釣鐘形の割部をもつ。外面底部は未調整である。鉄粕大海茶入 133は体部上位で大きく張る。外面底部に回転糸切り痕が残る。青磁皿 134は外面体部に線刻蓮花文、内面底部に陰刻花文を施す。稜花皿 135は口径16.0cmを測り、口端部を押圧して花形に成形している。外・内体部に陰刻花文を施す。

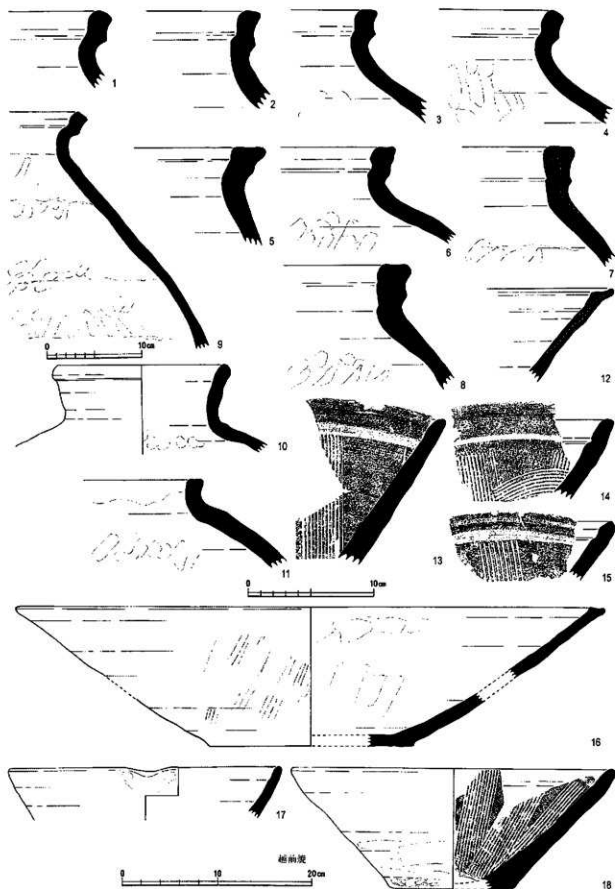
SB4767 出土 (PL. 50 第46図) 青磁碗 142は外面体部に線刻蓮花文をもつ。花卉先端の表現はない。

金属製品 (PL. 50 第46図) 和鉄 150は鉄製品であり、全長16.4cmを測る。第1区域SD4755から出土した。1/2が残存する。151は兜の飾金具であり、鉄製品である。全長18.0cmを測る。第1区域SX4759から出土した。兜の前面に付く篠簪または角立金具の一種と考える。下端は三葉文形に成形し、上端に方形孔を穿いている。下端を腰巻板の前面に押し付け、もう一枚の三葉文金具で前後から挟み、三葉文先端に3ヶ所、腰巻板より上部に1ヶ所の鉄留をして固定している。中央の断面は薄鋸形である。弾丸 152・153は発射後のものであり、いずれも圧潰している。銅鏡 155は双鶴亀菊花文鏡であり、径5.3cm、重さ34.2gを測る小型品である。鏡面は緑青に覆われているが、鏡背の保存状態は良好である。鏡背の内区は2重圏線で囲まれ、圏線内中央に亀を配置し、亀の甲羅を銚座とする。亀の左右には羽を広げた鶴を配し、亀の頭側に1ヶ所、後足側に菊花文を2ヶ所圏線上に配置する。第25次調査A地区SF908付近出土品(181)(文3)が類似する。

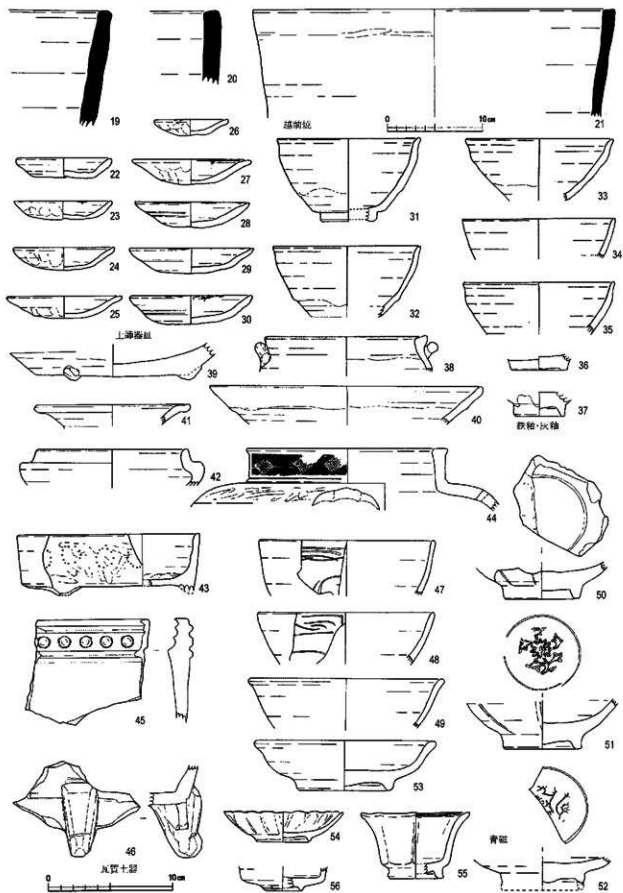
骨角製品、石製品 (PL. 50・51 第46・47図) 胸石 157は、半球形を呈し、中央にV字溝を入れた胸と考える。全体は平滑で黒漆が塗布されている。鹿角製と推定される。胸石 158半透明の蠟石製であり、小判形を呈し、表面中央に刺突を6つ入れている。茶臼 160は径11.3cmを測る小型品である。側面に付く柄穴の周りを3重菱形文で陽刻している。バンドコ161はD形の身部、バンドコ162はD形の身部である。容量も大きな差はない。共に筋谷石製だが、被熱している。

獅子・狛犬 163は筋谷石製である。台座と腰～後足を欠損しているが、高さ15.5cmを測る。開口、無角から阿形の獅子と見る。頭部は平坦で左右に小さな耳が付き、両眼は割目し鼻孔は前面に向く。口角は上上がり、上歯5、下葉2と舌を出す。両頬と後頭部に垂髪が線刻されている。向前足は太く直下へ踏ん張り、足の付け根に渦文が装飾される。

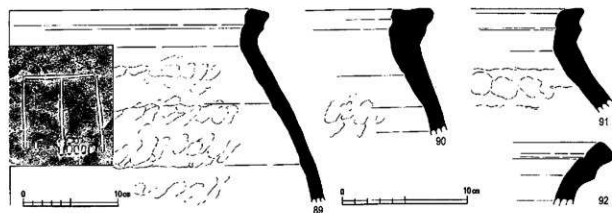
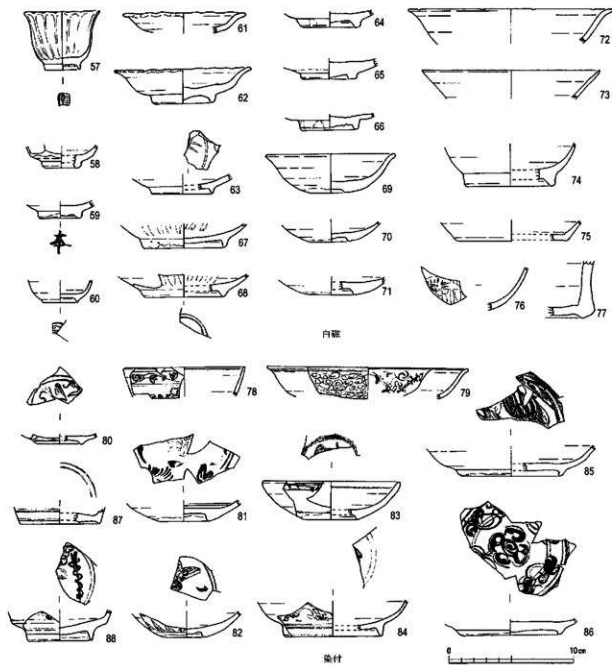
銭貨 (PL. 51 第47図) 銭貨 164～173が出土した。第1区域で出土したものが大半を占める。SD4753から出土した「祥符通寶」166、SD4755内から出土した「紹寧元寶」170・「政和通寶」173(政和通寶か?)以外は包含層からの出土にとどまる。



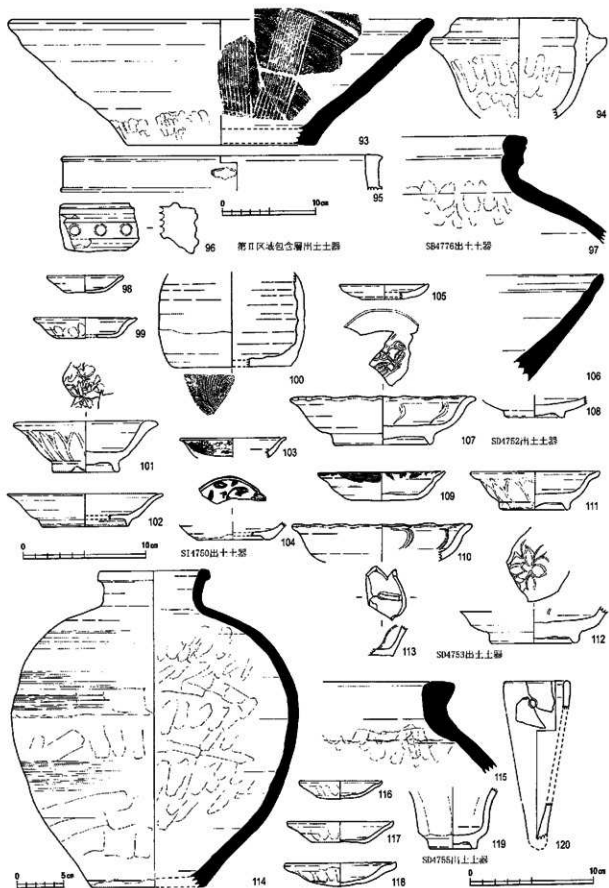
第41圖 第102次調査 第I区域遺包含器出土器(縮尺1/3、1/4)



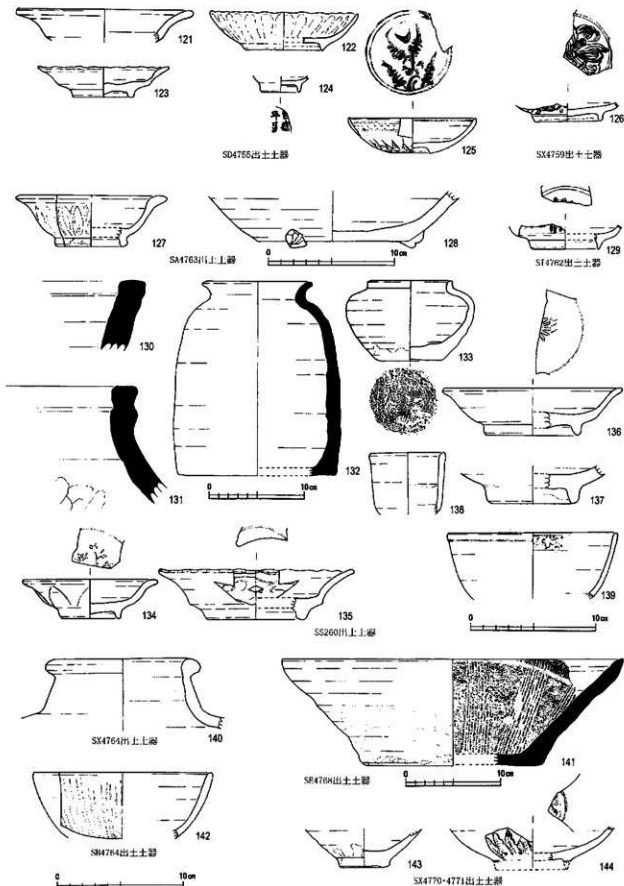
第42圖 第102次調査 第1区域包含層出土土器(縮尺1/3、1/4)



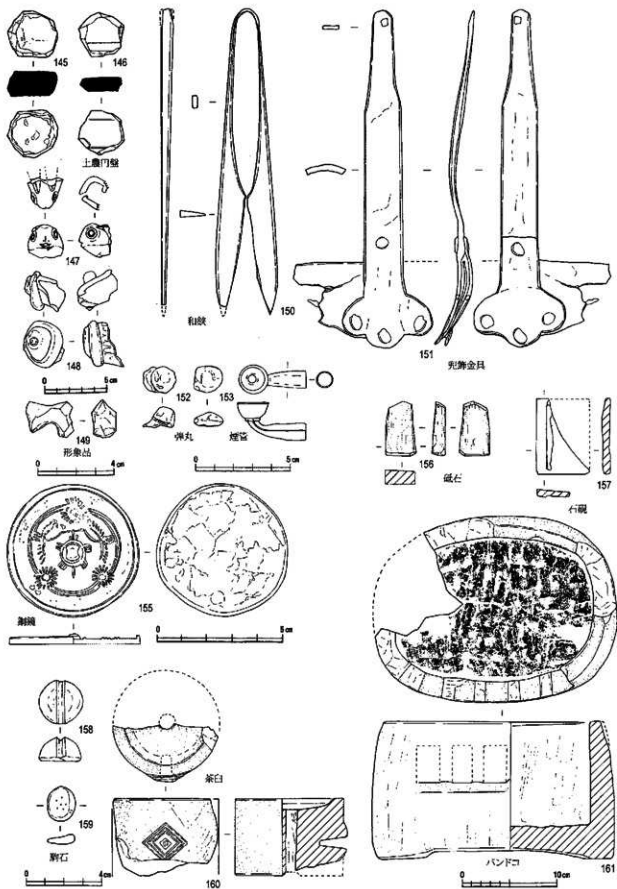
第43圖 第102次調査 第I・II区城包含層出土土器(縮尺1/3、1/4)



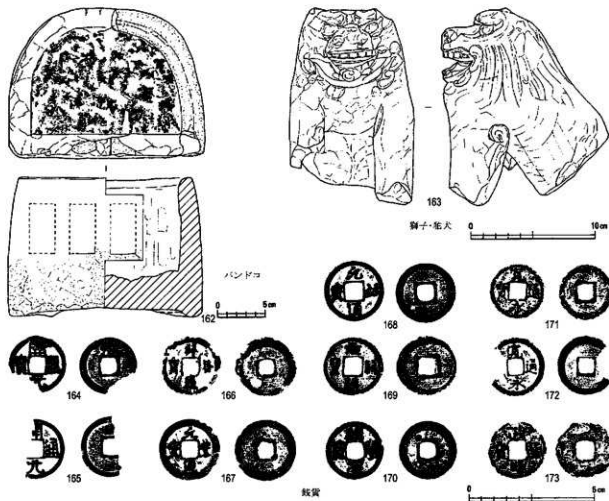
第44圖 第102次調査 第II区域包含層出土土器、第I区域遺構出土土器(縮尺1/3、1/4)



第45図 第102次調査 第I・II区域遺構出土土器(縮尺1/3、1/4)



第46図 第102次調査 土製品、金属製品、骨角製品、石製品(縮尺1/2、1/4、2/3)



第47図 第102次調査 石製品、銭貨(縮尺1/3、1/4、2/3)

第4表 第102次調査出土遺物観察表(PL.49~51 第41~44図)
第1区域包含層出土土器(PL.49~50 第41~44図)

単位:cm

No.	器種	法	量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
1	基壇焼 大壺	-	-	焼色: 灰青色	黒砂粒 白色粒子 残存 1/10以下	口縁部をやや外傾して立ち上がる/口 縁部は内傾/口縁部内側に段をもつ/口縁 部はよく取れる	外:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ 内:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ	第1区域 R29~30/土上
2	基壇焼 大壺	-	-	焼色: 灰青色	黒砂粒 白色粒子 残存 1/10以下	口縁部をやや外傾して立ち上がる/口縁部 は内傾/口縁部内側に段をもつ/口縁部は 平坦	外:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ 内:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ	第2区域 R05
3	基壇焼 大壺	-	-	焼色: 灰青色	黒砂粒 白色粒子 残存 1/10以下	口縁部:上方に立ち上がる/口縁部は内傾/ 口縁部内側に段をもつ/口縁部は平坦	外:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ 内:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ	第1区域 R29~30/砂利面上
4	基壇焼 大壺	-	-	焼色: 灰青色	黒砂粒 白色粒子 残存 1/10以下	口縁部をやや外傾して立ち上がる/口縁部 は内傾/口縁部内側に段をもつ/口縁部は 平坦	外:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ 内:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ後段 裏	第1区域 R29~30/砂利面土上
5	基壇焼 大壺	-	-	焼色: 赤褐色	黒砂粒 白色粒子 残存 1/10以下	口縁部をやや外傾して立ち上がる/口 縁部は内傾/口縁部内側に段をもつ/口縁部は 平坦	外:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ 内:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ	第1区域不明 土上 外:自然露
6	基壇焼 大壺	-	-	焼色: 灰青色	黒砂粒 白色粒子 残存 1/10以下	口縁部をやや外傾して立ち上がる/口縁部 は内傾/口縁部内側に段あり/口縁部は 平坦	外:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ 内:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ後段 裏	第1区域 R~R20 赤土区域 SS200 外:露出
7	基壇焼 大壺	-	-	焼色: 灰青色	黒砂粒 白色粒子 残存 1/10以下	口縁部:直立して立ち上がる/口縁部 は内傾/口縁部内側に段あり/口縁部は平 坦	外:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ 内:口縁部ヨコナデ/彫部上段ナデ後段 裏	第1区域不明 土上 外:自然露

単位:cm

No	器種	法 量	施成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
8	越前焼 大甕	-	施: 良好 色: 明茶色	胎土残存 白化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: 直立して立ち上がる/口縁部は内凹/口縁部内側に段あり/口縁部は平直	外: 1口部: ココナテ/胴部上位ナテ 内: 1口部: ココナテ/胴部上位ナテ後部直取	市土区域不明 表土 外: 陸沢
9	越前焼 大甕	-	施: 良好 色: 灰青色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/6	1口部: 外傾して立ち上がる/口縁部は内凹/口縁部内側に段あり/口縁部は平直	外: 1口部: ココナテ/胴部上位ナテ/ヘラ取 内: 1口部: ココナテ/胴部上位ナテ後部直取	市土区域 E24・E29・30/和色 外: 陸沢 内: 陸沢
10	越前焼 大甕	口: 24.0 高: 6.5	施: 良好 色: 茶褐色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: 頸部から縮出して外傾して立ち上がる/口縁部は丸く収める。	外: 1口部: 一部ココナテ/胴部上位ナテ 内: 1口部: 一部ココナテ/胴部上位ナテ後部直取	市土区域 E32/遺構跡 外: 陸沢
11	越前焼 大甕	-	施: 良好 色: 灰青色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: 頸部から縮出して立ち上がる/口縁部は丸く収める。	外: 1口部: 一部ココナテ/胴部上位ナテ 内: 1口部: 一部ココナテ/胴部上位ナテ後部直取	市土区域不明 表土 外: 陸沢 内: 1口部: 自然熱
12	越前焼 大甕	-	施: 良好 色: 明茶褐色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部内側に段あり/口縁部は平直	外: 1口部: 一部直線状ナテ/シャープな仕上がり 内: 1口部: 一部直線状ナテ	市土区域 E36/遺構跡
13	越前焼 大甕	-	施: 良好 色: 淡褐色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部内側に段あり/口縁部は平直	外: 1口部: 一部直線状ナテ/シャープな仕上がり 内: 1口部: 一部直線状ナテ	市土区域 E40/遺構跡 市土区域 E28・E・24/遺構跡
14	越前焼 大甕	-	施: 良好 色: 灰青色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部内側に段あり/口縁部は平直	外: 1口部: 一部直線状ナテ/シャープな仕上がり 内: 1口部: 一部直線状ナテ/胴部上位ナテの線目/厚化粧土質の線目	市土区域 E40/遺構跡 市土区域 E28・E・24/遺構跡
15	越前焼 大甕	-	施: 良好 色: 灰青色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部内側に段あり/口縁部は平直	外: 1口部: 一部直線状ナテ/胴部上位ナテの線目 内: 1口部: 一部直線状ナテ/胴部上位ナテの線目	市土区域 E40/遺構跡 市土区域 E28・E・24/遺構跡
16	越前焼 大甕	口: 25.0 高: 16.0 底: 21.4	施: 良好 色: 茶褐色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部内側に段あり/口縁部は平直	外: 1口部: 一部直線状ナテ/胴部上位ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ/胴部上位ナテ	市土区域 E30/遺構跡
17	越前焼 大甕	口: 26.0 高: 8.6	施: 良好 色: 淡褐色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: やや内傾して斜め外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める。	外: 1口部: 一部直線状ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ	市土区域 E29/遺構跡 市土区域 E17/陸沢
18	越前焼 大甕	口: 34.8 高: 12.3	施: 良好 色: 灰青色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部内側に段あり/口縁部は丸く収める。	外: 1口部: 一部直線状ナテ/胴部上位ナテの線目 内: 1口部: 一部直線状ナテ/胴部上位ナテの線目	市土区域 E35/遺構跡
19	越前焼 大甕	-	施: 良好 色: 明茶褐色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部は平直/口縁部内側にやや変色	外: 1口部: 一部直線状ナテ/胴部上位ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ	市土区域 E40/遺構跡
20	越前焼 大甕	-	施: 良好 色: 明茶褐色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部は平直	外: 1口部: 一部直線状ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ	市土区域 E40/遺構跡
21	越前焼 大甕	口: 38.2 高: 11.6	施: 良好 色: 赤褐色	胎土残存 白色化粧土 厚化粧 1/10以下	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部は平直	外: 1口部: 一部直線状ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ	市土区域 E40/遺構跡
22	土師器 小甕	口: 7.6 高: 1.5 底: 4.5	施: 良好 色: 淡褐色	胎土残存 赤化粧土 厚化粧 4/5	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める。	外: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ	市土区域 E32/遺構跡 市土区域 E17/陸沢
23	土師器 小甕	口: 7.6 高: 1.5 底: 4.6	施: 良好 色: 白褐色	胎土残存 赤化粧土 厚化粧 4/5	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める。	外: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ	市土区域 E32/遺構跡 市土区域 E17/陸沢
24	土師器 小甕	口: 8.0 高: 2.7	施: 良好 色: 白褐色	胎土残存 赤化粧土 厚化粧 1/1	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める。	外: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ	市土区域 E32/遺構跡 市土区域 E17/陸沢
25	土師器 小甕	口: 8.2 高: 1.8 底: 3.5	施: 良好 色: 淡褐色	胎土残存 赤化粧土 厚化粧 3/5	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める。	外: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ	市土区域 E32/遺構跡 市土区域 E17/陸沢
26	土師器 小甕	口: 5.4 高: 1.7 底: 2.6	施: 良好 色: 淡褐色	胎土残存 赤化粧土 厚化粧 1/1	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める。	外: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ	市土区域 E32/遺構跡 市土区域 E17/陸沢
27	土師器 小甕	口: 9.3 高: 2.0 底: 3.6	施: 良好 色: 灰青色	胎土残存 赤化粧土 厚化粧 1/1	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める。	外: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ	市土区域 E32/遺構跡 市土区域 E17/陸沢
28	土師器 小甕	口: 2.1 高: 2.0 底: 3.0	施: 良好 色: 灰青色	胎土残存 赤化粧土 厚化粧 4/5	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める。	外: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ	市土区域 E32/遺構跡 市土区域 E17/陸沢
29	土師器 小甕	口: 9.1 高: 2.1 底: 5.0	施: 良好 色: 白褐色	胎土残存 赤化粧土 厚化粧 1/1	1口部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める。	外: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ 内: 1口部: 一部直線状ナテ/底部ナテ	市土区域 E40/遺構跡 市土区域 E17/陸沢

7. 第102次調査遺物

単位:cm

No	器種	法	量	焼成/色調	胎土		形状	調整 / 文様	出土地点	
					層	跡			備考	備考
30	土師器 小皿	H:	3.6	焼色: 良好 胎色: 緑褐色	胎土: 微砂状 灰質 6/5	1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部でやや外方に凹入/口縁部に突起/ 口縁部は丸く収める 底面: 平直	外: 口縁部: コナテラ/体部: 底面ノケテ 内: 口縁部: 底面ノケテ	第1区画 C36/遺物前 内: 口縁部 1/口縁部/4層ノケテ等	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ
			2.2							
31	瀬戸式部 飯椀 大目録	H:	11.6	焼色: 良好 胎色: 黒色	胎土: 微砂状 1/6	1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部で上方に凹入/口縁部は丸く外側に 入る収める 底面: 傾出高台	外: 口縁部: 一部凹みノケテ 内: 口縁部: 一部凹みノケテ/体部ノケテ ヘラケツテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C32/遺物前 体部ノケテ
			6.7							
32	瀬戸式部 飯椀 天目録	H:	12.0	焼色: 良好 胎色: 黒褐色	胎土: 微砂状 1/6	1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部で上方に凹入/口縁部は丸く外側に 入る収める	外: 口縁部: 一部凹みノケテ 内: 口縁部: 一部凹みノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C32/遺物前 体部ノケテ
			5.9							
33	瀬戸式部 飯椀 天目録	H:	12.0	焼色: 良好 胎色: 黒褐色	胎土: 微砂状 1/6	1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部で上方に凹入/口縁部は丸く外側に 入る収める	外: 口縁部: 一部凹みノケテ 内: 口縁部: 一部凹みノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C32/遺物前 体部ノケテ
			5.9							
34	瀬戸式部 飯椀 大目録	H:	12.3	焼色: 良好 胎色: 黒褐色	胎土: 微砂状 1/10以下	1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口縁部 は丸く収める	外: 口縁部: 一部凹みノケテ 内: 口縁部: 一部凹みノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C32/遺物前 体部ノケテ
			3.3							
35	瀬戸式部 飯椀 大目録	H:	12.0	焼色: 良好 胎色: 黒色	胎土: 微砂状 1/6	1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口縁部 で上方に凹入/口縁部は丸く外側に立ち 上がる収める	外: 口縁部: 一部凹みノケテ 内: 口縁部: 一部凹みノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C32/遺物前 体部ノケテ
			4.6							
36	瀬戸式部 飯椀 天目録	H:	1.3	焼色: 良好 胎色: 暗褐色	胎土: 微砂状 1/6	1/10以下	底面: 傾出高台	外: 底面: 傾出高台 内: 底面: 傾出高台	第1区画 D35/遺物前 底面ノケテ	第1区画 C32/遺物前 底面ノケテ
			4.6							
37	瀬戸式部 飯椀 天目録	H:	2.0	焼色: 良好 胎色: 黒色	胎土: 微砂状 1/6	1/10以下	底面: 傾出高台	外: 底面: 傾出高台 内: 底面: 傾出高台	第1区画 C32/遺物前 底面ノケテ	第1区画 C32/遺物前 底面ノケテ
			4.0							
38	瀬戸式部 飯椀 底目録	H:	13.2	焼色: 良好 胎色: 黒色	胎土: 微砂状 1/10以下	1/10以下	口縁部: 内湾して立ち上がる/口縁部は平 直/口縁部は丸く収める 底面: 傾出高台	外: 口縁部: 傾出高台 内: 口縁部: 傾出高台	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C32/遺物前 体部ノケテ
			2.8							
39	灰土器 炊鉢	H:	2.8	焼色: 良好 胎色: 白色	胎土: 微砂状 1/10以下	1/10以下	底面: 平直/底面に鉄1層の跡が所	外: 底面: 傾出高台 内: 底面: 傾出高台	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C32/遺物前 体部ノケテ
			12.0							
40	灰土器 炊鉢	H:	21.6	焼色: 良好 胎色: 淡茶褐色	胎土: 微砂状 1/10以下	1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める	外: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ/体部 ノケテ 内: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ	第1区画 C39/遺物前 外: 内: 体部: 傾出高台	第1区画 C39/遺物前 外: 内: 体部: 傾出高台
			4.0							
41	灰土器 鉢	H:	12.4	焼色: 良好 胎色: 淡褐色	胎土: 微砂状 1/10以下	1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口縁部 で外方へ凹入して凹みを入る/口縁部 は丸く収める	外: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ 内: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C32/遺物前 体部ノケテ
			1.7							
42	瓦葺土器 甕	H:	12.4	焼色: 良好 胎色: 灰褐色	胎土: 微砂状 1/10以下	1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 底面: 傾出高台	外: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ 内: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C32/遺物前 体部ノケテ
			3.2							
43	瓦葺土器 甕	H:	14.2	焼色: 良好 胎色: 灰褐色	胎土: 微砂状 1/10以下	1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 底面: 傾出高台	外: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ 内: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C32/遺物前 体部ノケテ
			4.0							
44	瓦葺土器 甕	H:	26.4	焼色: 良好 胎色: 黒色	胎土: 微砂状 1/10以下	1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口縁部 は平直/口縁部は丸く収める 底面: 傾出高台	外: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ 内: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C32/遺物前 体部ノケテ
			4.7							
45	瓦葺土器 大鉢	H:	4.0	焼色: 良好 胎色: 黒色	胎土: 微砂状 1/10以下	1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口縁部 は平直/口縁部は丸く収める 底面: 傾出高台	外: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ 内: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ	第1区画 C39/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C39/遺物前 体部ノケテ
			4.0							
46	瓦葺土器 甕	H:	4.0	焼色: 良好 胎色: 黒色	胎土: 微砂状 1/10以下	1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口縁部 は平直/口縁部は丸く収める 底面: 傾出高台	外: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ 内: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ	第1区画 C39/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C39/遺物前 体部ノケテ
			4.0							
47	青磁 鉢	H:	4.0	焼色: 良好 胎色: オリーブ	胎土: 微砂状 1/10以下	1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる	外: 胎部: 傾出高台 内: 胎部: 傾出高台	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ
			4.5							
48	青磁 鉢	H:	4.4	焼色: 良好 胎色: オリーブ	胎土: 微砂状 1/10以下	1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる	外: 口縁部: 傾出高台/体部: 傾出高台 内: 胎部: 傾出高台	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ
			4.2							
49	青磁 鉢	H:	26.0	焼色: 良好 胎色: オリーブ	胎土: 微砂状 1/6	1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部でやや外方に	外: 胎部: 傾出高台 内: 胎部: 傾出高台	第1区画 C40/遺物前	第1区画 C40/遺物前
			4.0							
50	青磁 鉢	H:	2.5	焼色: 良好 胎色: オリーブ	胎土: 微砂状 1/4	1/4	底面: 傾出高台	外: 底面: 傾出高台 内: 底面: 傾出高台	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ
			8.0							
51	青磁 鉢	H:	4.1	焼色: 良好 胎色: オリーブ	胎土: 微砂状 1/4	1/4	底面: 傾出高台	外: 底面: 傾出高台 内: 底面: 傾出高台	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ
			6.0							
52	青磁 鉢	H:	2.7	焼色: 良好 胎色: オリーブ	胎土: 微砂状 1/6	1/6	底面: 傾出高台	外: 底面: 傾出高台 内: 底面: 傾出高台	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ
			6.6							
53	青磁 鉢	H:	14.8	焼色: 良好 胎色: オリーブ	胎土: 微砂状 1/3	1/3	口縁部: 外反して外方へ立ち上がる/口縁部 は丸く収める 底面: 傾出高台	外: 口縁部: 傾出高台 内: 口縁部: 傾出高台	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ
			4.9							
54	青磁 鉢	H:	9.4	焼色: 良好 胎色: オリーブ	胎土: 微砂状 1/3	1/3	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/底 面は丸く収める 底面: 傾出高台	外: 口縁部: 傾出高台 内: 口縁部: 傾出高台	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ
			2.4							
55	青磁 鉢	H:	4.4	焼色: 良好 胎色: オリーブ	胎土: 微砂状 1/3	1/3	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口縁部 は丸く収める 底面: 傾出高台	外: 口縁部: 傾出高台 内: 口縁部: 傾出高台	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ
			4.0							
56	青磁 鉢	H:	5.3	焼色: 良好 胎色: オリーブ	胎土: 微砂状 1/3	1/3	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口縁部 は丸く収める 底面: 傾出高台	外: 口縁部: 傾出高台 内: 口縁部: 傾出高台	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ
			4.0							
57	白磁 鉢	H:	5.9	焼色: 良好 胎色: 白色	胎土: 微砂状 1/2	1/2	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める	外: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ/底面: 傾出高台 内: 口縁部: 一部立ち上り同軸ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ	第1区画 C36/遺物前 体部ノケテ
			4.7							

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
58	白磁 白磁 白磁	高: 1.8 内: 2.6 底: 1.4 底: 3.2	焼色: 良好 白磁色	緑釉 1/4	体部: 外反して斜め外方へ立ち上がる/八角形 底部: 削出高台	外: 体部に花弁状の縁	山形事務所 外: 高台層部露出
59	白磁 白磁	高: 1.4 底: 3.2	焼色: 良好 透明白色	緑釉 3/8	底部: 削山高台	外: 底面に「本」の印章	第1区域 E36/遺構前 内: 底面 - 高台層部露出
60	白磁	高: 1.6 底: 2.6	焼色: 良好 白磁色	緑釉 1/2	底部: 削山成	外: 底面に具象的印文	第1区域 E36/遺構前 外: 高台層部露出
61	白磁 秋花瓦	口: 9.8 高: 1.7 底: 10.8 底: 2.8 底: 5.0	焼色: 良好 透明白色	緑釉 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口縁部を押し上げて底面に込める	外: 底面にヘラケズリ	第1区域 E36/遺構前 外: 高台層部露出
62	白磁 秋花瓦	高: 1.6 底: 5.9	焼色: 良好 白色	緑釉 1/10以下	底部: 削山高台	外: 底面にへらこぎ草花文	第1区域 不明 外: 高台層部露出
63	白磁 瓦	高: 1.3 底: 4.5	焼色: 良好 淡灰白色	緑釉 3/4	底部: 削山高台	第1区域 E35/遺構前 外: 底面 - 高台層部露出	
64	白磁 瓦	高: 1.4 底: 4.3	焼色: 良好 白磁色	緑釉 1/8	底部: 削山高台	第1区域 E35/遺構前 外: 底面 - 高台露出	
65	白磁 瓦	高: 1.2 底: 4.5	焼色: 良好 白色	緑釉 1/8	底部: 削山高台	第1区域 E36/遺構前 外: 底面 - 高台層部露出	
66	白磁 秋花瓦	高: 2.0 底: 6.3	焼色: 良好 白磁色	緑釉 1/6	体部: 緩やかに斜め外方へ立ち上がる 底部: 削山高台	外: 体部に草花文/底面中央に引込「日」下文字と印章 内: 体部に草花文	第1区域 E35/遺構前 外: 高台層部露出
67	白磁 秋花瓦	高: 1.9 底: 6.0	焼色: 良好 白色	緑釉 1/8	体部: 緩やかに斜め外方へ立ち上がる 底部: 削山高台	外: 体部に草花文/底面中央に引込緑釉 内: 体部に草花文	第1区域 E35/遺構前 外: 高台層部露出
68	白磁 瓦	口: 10.2 高: 3.0 底: 2.6 底: 1.8	焼色: 良好 淡灰白色	緑釉 3/8	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口縁部外反/口縁部は丸く収める 底部: 削山成	外: 口縁部に具象的印文	第1区域 E35/遺構前 外: 高台層部露出
69	白磁 瓦	高: 1.6 底: 2.6	焼色: 良好 透明白色	緑釉 1/6	体部: 内湾して外方へ立ち上がる 底部: 削山成	第1区域 E35/遺構前 外: 高台層部露出	
70	白磁 瓦	高: 1.5 底: 3.6	焼色: 良好 透明白色	緑釉 1/6	体部: 内湾して外方へ立ち上がる 底部: 削山成	第1区域 E39/遺構前 外: 高台層部露出	
71	白磁 瓦	口: 16.2 高: 2.8	焼色: 良好 焼灰白色	緑釉 1/8	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口縁部外反/口縁部は丸く収める/切れ込みを入れて花弁状にする	外: 口縁部 - 体部シャープ	第1区域 E36/遺構前
72	白磁 瓦	口: 13.9 高: 2.3	焼色: 良好 白色	緑釉 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 体部に草花文	第1区域 E35/遺構前 外: 1号遺構ハゲ
73	白磁 瓦	高: 3.4 底: 7.0	焼色: 良好 透明白色	緑釉 1/10以下	体部: 内湾して外方へ立ち上がる 底部: 削山高台	第1区域 E35/遺構前 外: 底面 - 高台層部露出	
74	白磁 瓦	高: 1.7 底: 8.6	焼色: 良好 透明白色	緑釉 1/10以下	体部: 直線状に外方へ立ち上がる 底部: ペタ形	内: 底面に文	第1区域 E37/遺構前 外: 土入多し
75	青白磁 瓦	-	焼色: 良好 透明白色	緑釉 1/10以下	体部: 内湾して外方へ立ち上がる	内: 底面に文	第1区域 E40/遺構前
76	白磁 瓦	-	焼色: 良好 白色	緑釉 1/10以下	体部: 内湾して外方へ立ち上がる	内: 底面に文	第1区域 表上 外: 底面露出
77	灰付 瓦	口: 9.4 高: 2.4	焼色: 良好 透明白色	緑釉 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部上に具象的の縁部・草花文/体部に具象的の草花文 内: 口縁部に具象的の縁部	第1区域 E35/遺構前
78	灰付 瓦	口: 16.0 高: 2.9	焼色: 良好 透明白色	緑釉 1/8	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口縁部外反/口縁部は丸く収める	外: 口縁部に具象的の縁部/体部に具象的の縁部 内: 口縁部に具象的の縁部/体部に具象的の縁部	第1区域 E36/遺構前
79	灰付 瓦	高: 0.8 底: 3.5	焼色: 良好 透明白色	緑釉 1/10以下	体部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削山高台	外: 高台に具象的の縁部 内: 底面中央に具象的の縁部・草花文・四角	所上区域不明 外: 高台層部露出
80	灰付 瓦	高: 1.7 底: 4.0	焼色: 良好 透明白色	緑釉 1/6	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削山成	外: 底面中央に具象的の縁部・草花文・四角	第1区域 E35/遺構前 外: 高台層部露出
81	灰付 瓦	高: 2.1 底: 3.0	焼色: 良好 透明白色	緑釉 1/8	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削山成	外: 体部下に底面文 内: 底面中央に具象的の縁部・草花文・四角	第1区域 E39/遺構前 E40/遺構前 外: 高台層部露出
82	灰付 瓦	口: 10.8 高: 3.0 底: 4.0	焼色: 良好 透明白色	緑釉 1/8	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める 底部: 削山成	外: 口縁部に具象的の縁部・草花文/体部に具象的の縁部 内: 口縁部に具象的の縁部/底面中央に具象的の縁部	第1区域 E35/遺構前 外: 底面 - 体部下部露出
83	灰付 瓦	高: 2.8 底: 7.6	焼色: 良好 白色	緑釉 1/8	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削山高台	外: 体部下に具象的の縁部 内: 底面中央に具象的の縁部・草花文・四角	第1区域 不明 外: 底面 - 高台層部露出

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
85	束付 皿	高: 2.4 底: 7.6	焼: 良好 色: 灰白色	残存 3/8	体部: やや内湾して斜の外方へ立ち上る 底部: 割出直行	内: 底面中央に呉漆五葉と野子文・圓縁	第1区域 K35/溝南遺 外: 底面中央に呉漆五葉
86	束付 皿	高: 1.2 底: 7.6	焼: 良好 色: 灰白色	残存 3/8	体部: やや内湾して斜の外方へ立ち上る 底部: 割出直行	内: 底面中央に呉漆五葉と野子文・圓縁	第1区域 K35/溝南遺 外: 底面中央に呉漆五葉
87	束付 鉢	高: 1.3 底: 2.9	焼: 良好 色: 濃青白色	残存 1/10以下	体部: 直縁状に斜の外方へ立ち上る 底部: ベタ台・中央部に片筒	外: 体部下面に呉漆五葉 内: 底面中央に呉漆五葉	第1区域 K35/溝南遺 外: 底面中央に呉漆五葉
88	束付 鉢	高: 2.3 底: 5.0	焼: 良好 色: 濃青白色	残存 2/8	体部: 直縁して直縁状に斜の外方へ立ち上る 底部: 割出直行	外: 体部下面に呉漆五葉 内: 底面中央に呉漆五葉	第1区域 K35/溝南遺 外: 底面中央に呉漆五葉

第II区域包含層出土土器(Pl. 49 - 50 第43回)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
89	地面焼 器		焼: 不良 色: 赤褐色	胎土 白色粉子 残存 1/10以下	1) 縁部: やや外傾して短く立ち上る/口縁部は内湾/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 1) 縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第2区域 219/溝南上
90	地面焼 器		焼: 不良 色: 赤褐色	胎土 白色粉子 残存 1/10以下	1) 縁部: やや外傾して短く立ち上る/口縁部は平直/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 1) 縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第2区域 K17-19/溝南上
91	地面焼 器		焼: 良好 色: 灰白色	胎土 白色粉子 残存 1/10以下	1) 縁部: やや外傾して短く立ち上る/口縁部は平直/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第2区域 022/溝南上
92	地面焼 器		焼: 良好 色: 灰褐色	胎土 白色粉子 残存 1/10以下	1) 縁部: やや外傾して短く立ち上る/口縁部は平直/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第2区域 022/溝南上
93	地面焼 器	口: 46.0 高: 12.5 底: 20.9	焼: 不良 色: 淡黄褐色	胎土 赤質 土質 残存 1/10以下	1) 縁部: 直縁状に斜の外方へ立ち上る/口縁部は丸く収める/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第2区域 018-19/溝南上
94	1) 地面 器	口: 10.0 高: 8.9	焼: 良好 色: 淡黄褐色	胎土 赤質 土質 残存 1/8	口縁部: 内傾して短く立ち上る/口縁部は平直/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第2区域 018-19/溝南上
95	瓦器 土器 大鉢	口: 34.6 高: 3.8	焼: 良好 色: 赤褐色	胎土 白粉子 残存 1/10以下	口縁部: 直縁状に上方へ立ち上る/口縁部は平直/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第2区域 P17/溝南上
96	瓦器 土器 大鉢		焼: 良好 色: 赤褐色	胎土 赤質 土質 残存 1/10以下	1) 縁部: 直縁状に上方へ立ち上る/口縁部は平直/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第2区域 Q18/溝南上

第I区域遺構出土土器(Pl. 49 - 50 第44回)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
97	地面焼 器		焼: 良好 色: 赤褐色	胎土 白粉子 残存 1/10以下	1) 縁部: やや外傾して短く立ち上る/口縁部は平直/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第1区域 J29/溝南上
98	土器 小皿	口: 6.0 高: 1.4 底: 2.6	焼: 良好 色: 淡黄褐色	胎土 赤質 土質 残存 4/1	口縁部: 直縁状に斜の外方へ立ち上る/口縁部は丸く収める/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第1区域 J24-25/14750 J23-24/赤褐色土
99	土器 小皿	口: 6.2 高: 1.7 底: 4.0	焼: 良好 色: 灰褐色	胎土 赤質 土質 残存 3/4	口縁部: 直縁状に斜の外方へ立ち上る/口縁部は丸く収める/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第1区域 J24-25/14750 K23-24/赤褐色土
100	瀬戸田遺 跡100	高: 8.0 底: 9.6	焼: 良好 色: 灰褐色	胎土 赤質 土質 残存 3/8	口縁部: 直縁状に斜の外方へ立ち上る/口縁部は丸く収める/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第1区域 J-125/14750 K35/溝南上
101	瓦器 土器	口: 12.0 高: 4.2 底: 5.6	焼: 良好 色: オリーブ	胎土 赤質 土質 残存 3/3	1) 縁部: やや内湾して斜の外方へ立ち上る/口縁部は平直/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第1区域 J-125/14750 F-123/52286 外: 底面中央に呉漆五葉
102	瓦器 土器	口: 13.0 高: 2.7 底: 2.0	焼: 良好 色: オリーブ	胎土 赤質 土質 残存 1/5	口縁部: やや外傾して斜の外方へ立ち上る/口縁部は丸く収める/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第1区域 J26/14750 K35/溝南上
103	束付 皿	口: 8.4 高: 1.6	焼: 良好 色: 灰褐色	胎土 赤質 土質 残存 1/10以下	1) 縁部: 直縁状に斜の外方へ立ち上る/口縁部は丸く収める/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第1区域 J-125/14750 F-123/52286
104	束付 皿	口: 1.4 高: 5.1	焼: 良好 色: 濃青白色	胎土 赤質 土質 残存 1/10以下	体部: 直縁して直縁状に斜の外方へ立ち上る 底部: 割出直行	内: 底面中央に呉漆五葉と野子文・圓縁	第1区域 J-125/14750 F-123/52286
105	束付 小皿	口: 2.0 高: 1.2 底: 3.6	焼: 良好 色: 赤褐色	胎土 赤質 土質 残存 1/10以下	1) 縁部: やや内湾して斜の外方へ立ち上る/口縁部は丸く収める/口縁部内側に浅い凹線/口縁部は平直	外: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直 内: 口縁部はコナテ/胴部は上ナテ/底面は平直	第1区域 J25/284752

単位:cm

No	器種	法 量	施成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出・地点 考
106	土師焼 鉢形	-	施: 良好 色: 緑青 色	無残 白色灰 1/10以下	1. 縁部: 笠縁状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部内側に段あり	外: 口縁部へ縁部傾斜ナ 内: 口縁部へ縁部傾斜ナ	第1区城 J27/S34752 K32/遺物部
107	青磁 椀花碗	口: 15.4 高: 4.9 底: 8.0	施: 良好 色: オリーブ	無残 1/2	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 縁部は丸く収める/ 口縁部を押し出し花弁状にする	内: 口縁部へ縁部に放射状のめぐる 裏面に放射状文	第1区城 J27/S34752 K32/遺物部
108	白磁 皿	口: 4.8 高: 1.8 底: 4.8	施: 良好 色: 淡緑白色	無残 1/5	縁部: 縁や内湾して外方へ立ち上がる 底部: 平坦		第1区城 J27/S34752 K32/遺物部 外: 底面へ一点白磁器片
109	土師焼 小皿	口: 16.1 高: 2.3 底: 5.5	施: 良好 色: 淡緑色	縁部残 敷灰 3/5	口縁部: 笠縁状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部やや外傾する/ 口縁部に段あり 底部: 平坦	外: 口縁部ヨコナテ/縁部へ放射状ナ 内: 口縁部へ縁部ヨコナテ/底部ナ	第1区城 J27/S34752 K32/遺物部 口縁部金剛スズ付
110	青磁 椀花碗	口: 15.4 高: 4.9 底: 8.0	施: 良好 色: オリーブ	無残 1/4	1. 縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部外方へ傾斜する/ 口縁部は丸く収める/ 口縁部を押し出し花弁状にする	内: 口縁部へ縁部に放射状のめぐる	第1区城 J27/S34753 K32/遺物部
111	青磁 小皿	口: 16.7 高: 3.2 底: 5.8	施: 良好 色: オリーブ	無残 3/4	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部外方へ傾斜する/ 口縁部は丸く収める 底部: 傾り出し台	外: 口縁部へ縁部に淡い菊文	第1区城 J27/S34753 外: 底面陶器片
112	青磁 鉢	口: 3.0 高: 7.0	施: 良好 色: オリーブ	無残 1/4	縁部: 底面して外方へ立ち上がる 底部: 平坦	内: 縁部へ放射状のめぐる 底面に放射状文	第1区城 J27/S34753 K32/遺物部 外: 底面陶器片
113	土師 者か?	高: 2.8	施: 良好 色: オリーブ	無残 1/10以下	縁部: 底面して外方へ立ち上がる 底部: ベタ台	外: 縁部へ放射状のめぐる 内: 底面へ縁部傾斜ナ 口縁部は丸く収める	第1区城 J27/S34753 K32/遺物部 128/青磁色上
114	土師焼 鉢	口: 12.0 高: 12.0 底: 12.0	施: 良好 色: 赤褐色	口縁部 白色灰 敷灰 2/3	口縁部: 縁部から内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める/ 口縁部は丸く収める	外: 口縁部へ縁部ヨコナテ/傾斜上段ヨコ ナテ/縁部中心ヨコナテ/製下段ヨコナ テ/ヘリイデ/シマツキ付 内: 口縁部へ縁部ヨコナテ/傾斜上段 下段ナ後傾	第1区城 K32/S34755 K35/遺物部
115	土師焼 鉢	-	施: 良好 色: 灰白色	口縁部 白色灰 敷灰 1/10以下	口縁部: やや外傾して丸く立ち上がる/ 口縁部は平直	外: 口縁部ヨコナテ/傾斜上段ナ後傾 裏	第1区城 J25/S34755 外: 傾斜上段傾
116	土師焼 小皿	口: 6.6 高: 1.5 底: 3.0	施: 良好 色: 淡青褐色	口縁部 敷灰 1/1	口縁部: 笠縁状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部やや外傾する/ 口縁部に段あり 底部: 平坦	外: 口縁部へ縁部ヨコナテ後傾 内: 口縁部へ縁部ヨコナテ/底部ナ	第1区城 K33/S34759
117	土師焼 小皿	口: 9.6 高: 1.7 底: 3.0	施: 良好 色: 淡青褐色	口縁部 敷灰 1/2	口縁部: 笠縁状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める	外: 口縁部へ縁部ナ後傾 内: 口縁部へ縁部ヨコナテ/底部ナ	第1区城 J33/S34759
118	土師焼 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 4.5	施: 良好 色: 褐色	口縁部 敷灰 1/2	口縁部: 笠縁状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部やや外傾する/ 口縁部に段あり 底部: 平坦	外: 口縁部へ縁部ナ後傾 内: 口縁部へ縁部ナ	第1区城 K33/S34759 外: 傾斜上段付
119	青磁 鉢	高: 6.5 底: 3.6	施: 良好 色: 黄オリーブ	無残 3/4	縁部: 外反して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 底部: 傾り出し台		第1区城 J33/S34755 外: 底面陶器片
120	青磁 花入	口: 15.7 高: 14.2	施: 良好 色: 青オリーブ	無残 1/10以下	口縁部: 丸く収める 縁部: 角柱部/縁部上段に径0.3cmの円孔		第1区城 K33/S34755 外: 口縁部陶器片
121	青磁 皿	口: 14.0 高: 3.0	施: 良好 色: オリーブ	無残 1/8	口縁部: 外反して立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 縁部: 縁部下段付		第1区城 K33/S34755
122	青磁 椀花碗	口: 12.0 高: 3.0 底: 8.2	施: 良好 色: 淡オリーブ	花碗 1/8	口縁部: やや内湾して立ち上がる/ 口縁部は丸く収める/ 口縁部を縁やかな段状にする 底部: 傾り出し台	外: 口縁部へ縁部傾斜花文 内: 口縁部へ縁部傾斜花文	第1区城 J25/S34755 第2区城 Y128 - 29 外: 一点白磁器片
123	口縁 椀花碗	口: 10.2 高: 2.5	施: 良好 色: オリーブ	花碗 1/4	口縁部: 外反して立ち上がる/ 口縁部は丸く収める/ 口縁部を押し出し花弁状にする 底部: 傾り出し台		第1区城 K33/S34755 K36/遺物部 外: 底面へ一点白磁器片
124	白磁 杯	高: 1.3 底: 3.0	施: 良好 色: 白色	花碗 1/5	底面: 傾り出し台	外: 底面中央に乳白 雲葉文	第1区城 J33/S34755 外: 一点白磁器片
125	白磁 碗	口: 10.1 高: 2.8	施: 良好 色: 透白褐色	花碗 3/4	口縁部: 縁や内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 底部: 平坦	外: 口縁部へ縁部傾斜2. 雲形乳白/縁部 に乳白青文 内: 口縁部へ縁部傾斜中央に草花文・傾 斜	第1区城 K33/S34755 第2区城 Y128 - 29 外: 一点白磁器片
126	白磁 鉢	高: 4.3 底: 5.2	施: 良好 色: 透白褐色	花碗 2/8	縁部: 縁や内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 傾り出し台	内: 縁部下段に傾斜花文・傾斜2 内: 底面中央に乳白十字陶器文・傾斜2	第1区城 J27/S34759 外: 一点白磁器片
127	青磁 鉢	口: 12.0 高: 5.2 底: 6.0	施: 良好 色: オリーブ	花碗 1/8	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部外方へ傾斜する/ 口縁部は丸く収める 底部: 傾り出し台	外: 口縁部へ縁部傾斜ナ 内: 口縁部へ縁部傾斜ナ	第1区城 J27/S34753 K32/遺物部 口縁部金剛スズ付 外: 底面陶器片
128	土師焼 鉢	高: 4.0 底: 12.0	施: 良好 色: 淡白褐色	口縁部 敷灰 1/10以下	底面: 平坦/縁部に粘土塊の埋め込み	外: 底面下段傾斜ナ 内: 縁部下段傾斜ナ	第2区城 J22 - 32/S34765 外: 縁部下段へ底面陶器片

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
129	発付 蓋	高: 1.9 底: 5.2	焼色: 良好 色: 透灰青色	緑織 1/6	体部: 縦やかに内湾して斜め外方へ立ち上る 底部: 側出高台	外: 体部下位に乳頭華文・圓網(高内) 内: 口縁中央に乳頭華文・圓網2	第1区域 P22-23/S34762 第V区域 K28-29/S3223 外: 高台内側面露出
130	磁甎焼 受		焼色: 良好 色: 灰黑色	胎砂粒 白色砂子 散布 1/15以下	口縁部: やや外湾して立ち上る/口縁部は 平円/口縁部に凹線1	外: 口縁部コナナブ 内: 口縁部コナナブ	第V区域 K23/S3260
131	磁甎焼 受		焼色: 良好 色: 明灰色	胎砂粒 白色砂子 散布 1/15以下	口縁部: 直立して立ち上る/口縁部は平 円/口縁部に凹面/口縁部内側に段あり	外: 口縁部コナナブ/胴部上位ナブ 内: 口縁部コナナブ/胴部上位ナブ後傾直 貫	第V区域 P23/S3290 外: 蓋挿入式付者
132	磁甎焼 受	口: 11.8 高: 23.6 底: 16.6	焼色: 良好 色: 暗灰色	緑織 胎砂粒 白色砂子 散布 2/3	口縁部: 胎部から強く外反して立ち上る /口縁部は丸く収める 体部: 直線状 底部: 平円	外: 口縁部一側部下位ナブ/先筒未露出 内: 口縁部一側部下位筒状ナブ	第II区域 グリッド不明/S3260 第I区域 S26-27/S3047d
133	赤口文様 磁甎焼 大海入	口: 6.3 高: 4.6 底: 4.6	焼色: 良好 色: 暗灰色	緑織 2/3	口縁部: 直立して斜め立ち上る/口縁 部は丸く収める 体部: 体部下位大きく出る 底部: 平円	外: 口縁部一側部下位筒状ナブ/体部下位 筒状ヘラズリ/底面筒状突起 内: 口縁部一側部下位筒状ナブ	第II区域 P23/S3250 外: 体部下位一側面露出
134	青磁 甕	口: 11.0 高: 3.2 底: 4.5	焼色: 良好 色: オリーブ	緑織 1/5	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上る/ 口縁部外方へ懸垂/口縁部は丸く収める 底部: 側出高台	外: 口縁部一側部に縦刺蓮花文 内: 底面中央に横刺蓮花文	第V区域 F・H23/S3290 第I区域 外: 体部下位一側面露出
135	古磁 緑花甕	口: 6.9 高: 4.0 底: 7.6	焼色: 良好 色: オリーブ	緑織 1/5	口縁部: 外反して立ち上る/口縁部は丸 く収める/口縁部を押し花弁状にする 体部: 底面より外反して 底部: 側出高台	内: 口縁部一側部に横刺蓮花文/底面に横刺 蓮花文	第V区域 F・H24/S3290 第V区域 K29-30/S3282c1
136	古磁 甕	口: 14.8 高: 3.9 底: 7.6	焼色: 良好 色: 青オリーブ	緑織 1/3	口縁部: やや内湾して立ち上る/口縁部 外反/口縁部は丸く収める 底部: 側出高台	内: 底面に横刺蓮花文	第V区域 F・H23/S3290 第I区域 露出
137	青磁 甕	口: 3.0 高: 6.8	焼色: 良好 色: 淡オリーブ	緑織 1/5	底部: 側出高台		第V区域 F・H23/S3290 外: 底面一高台内側面露出
138	青磁 古甕	口: 6.2 高: 3.0	焼色: 良好 色: オリーブ	緑織 1/6	口縁部: 直線状に上方へ立ち上る 体部: 直線状		第V区域 F・H22/S3260 第I区域 K25/S1476 外: 体部下位露出
139	発付 甕	口: 13.4 高: 11.3	焼色: 良好 色: 明白色	緑織 1/10以下	口縁部: 縦やかに内湾して斜め外方へ立ち 上る/口縁部は丸く収める	外: 口縁部1部に乳頭(露出) 内: 口縁部中央に乳頭(文様)	第V区域 F・H23/S3260
140	中割製 鉄胎 四耳瓶	口: 12.0 高: 5.8	焼色: 良好 色: 明灰色	緑織 1/10以下	口縁部: 内湾して短く立ち上る/口縁部 は厚ませ丸く収める	外: 口縁部アラベスク文 内: 口縁部同軸ナブ	第V区域 L19-22/S34764 K29-30/S34764
141	磁甎焼 四耳瓶	口: 36.0 高: 11.3 底: 29.0	焼色: 良好 色: 暗色	胎砂粒 白色砂子 散布 1/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口縁部は丸く収める 底部: 平円	外: 口縁部一側部下位筒状ナブ/体部下位 一で反斜ヘラズリ/体部下位横目表/ 底面土之巻 内: 口縁部一側部下位ナブ/底面9割 の部目が収めこめ/底面斜目	第V区域 L19/S34769 外: 蓋挿入式付者
142	青磁 甕	口: 14.0 高: 8.2	焼色: 良好 色: オリーブ	緑織 1/3	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上る/ 口縁部は丸く収める	外: 口縁部一側部に縦刺蓮花文	第V区域 K20/S34767
143	中割製 鉄胎 入耳瓶	口: 3.2 高: 4.3	焼色: 良好 色: 灰色	緑織 1/6	体部: 直線状に斜め外方へ立ち上る 底部: 底の両高台		第V区域 K10/S34772 外: 底面一高台内側面露出
144	赤口 甕	口: 3.9 高: 5.8	焼色: 良好 色: 透灰青色	緑織 1/4	体部: 縦やかに内湾して斜め外方へ立ち 上る 底部: 側出高台	外: 体部に乳頭(乳文)	第V区域 K20-23/S34771

土製品 (PL.50 第46区)

単位:cm/g

No	器種	長 径	厚 重	残 存	材質 色調	特 徴	出土地点
145	土製 四耳瓶	3.9 3.7	2.6 37.3	1/1	磁向焼 灰褐色	底の破片筒間を打 ち欠く	第1区域 K32/遺跡南
146	土製 四耳瓶	3.4 3.4	1.1 16.8	1/1	磁向焼 褐色色	底の破片筒間を打 ち欠く/自然剥離面	田舎塚 遺跡南
147	赤土製品	2.7 2.3	2.7	1/8	鉄胎 赤土色	胎土表面の注口/ 底の両高	第1区域 K29/S34765
148	赤土製品	3.3 3.6	3.1	-	灰胎 白色	突起に数十球が本 巻かかると/底面穿孔	第1区域 F40/遺跡南
149	赤土製品	1.9 2.3	1.2	-	青磁 オリーブ	胎部の底/胎部の 筒りか	第1区域 出土

金属製品 (PL.50 第46区)

単位:cm/g

No	器種	長 径	厚 重	残 存	材質	特 徴	出土地点
150	銅 銭	16.4 2.8	0.6 17.9	1/2	鉄製品	平倉文面/方眼1.3 cm, 厚径約6.4cm	第1区域 L31/S34769
151	金 銅金貨	18.0 7.4	1.4 1.3	-	鉄製品	下縁に「華部」印 海に方眼孔/胎部 裏を裏面から嵌 込みで4ヶ所釘止	第1区域 G32/S34759
152	銅 貨	1.6 1.4	1.9 11.7	1/1	鉛製品	底面による潰れ	区外小川 遺跡
153	銅 貨	1.5 1.5	6.8 6.8	1/1	鉛製品	使用による潰れ	第1区域 K31/遺跡南

単位:cm/g

No	器種	長径	幅	残存	材質	特徴	出土地点
154	神蓋	3.6 1.3	2.9 5.9	1/1	銅製品	厚径約0.9cm	江尾車馬
155	銅鏡	6.3 6.3	6.33 24.2	1/1	銅製品	私青梅花鳥文鏡 鏡背:直径2・2;弁の 単位式3・天蓋1 =部は配子/縦孔 半円形	第1区域 D28/遺構跡1.

骨角製品(PL.50 第46図)

単位:cm/g

No	器種	長径	幅	残存	材質	特徴	出土地点
156	削石	2.3 2.3	1.2 7.4	1/1	角角 黒色	中環形・中央に径 0.33cmのV字溝/全 体平滑/断面溝り/ 式四半円	第1区域 K31/埋溝跡上

石製品(PL.50 第46図)

単位:cm/g

No	器種	長径	厚	残存	材質	特徴	出土地点
157	削石	1.8 1.5	0.4	1/1	燧石 白色	表面中央に刺突/ 表面磨光	区域不明 表土
158	砥石	5.8 3.9	1.5	4/5	凝灰岩 灰色	環状/程度:やや楕 円形/断面 平縁/微凸	第1区域 F36/遺構跡
159	石鏡	8.1 5.8	1.9	1/2	凝灰岩 黄褐色	表面磨光	区域不明 表土
No	器種	上径 下径	高さ <th>残存</th> <th>材質</th> <th>特徴</th> <th>出土地点</th>	残存	材質	特徴	出土地点
160	黒石 土口	11.3 11.3	8.2 1.9	1/2	安山岩 褐色	1・2cmの円形穴/穴 穿孔/厚薄不均/断面 に3重彫文で装飾し た穿孔/全径下径	第1区域 K32/遺構跡
No	器種	縦 横径	高さ	残存	材質	特徴	出土地点
161	パン ドコ	25.7 20.0	14.7 2.5	4/5	磨石 黄褐色	D部・バンドの身部 方形穿孔5と断面/ 穿孔下にクワキ溝 1/クワキ溝彫/全 体磨光	区域不明 表土
162	パン ドコ	20.4 16.9	14.9 2.5	1/2	磨石 灰緑灰色	D部・バンドの身部 方形穿孔4と断面 花/クワキ溝彫/全 体磨光	第1区域 K40/遺構跡
163	獅子・ 頭入	9.8 13.0	15.0	2/3	磨石 灰緑灰色	両面彫像/断面・上 部5・下部2・舌を 配子/前後縁部に溝 文・彫刻の痕跡に式 不存/表面欠損	第1区域 K20/和水瓶石洞

銭貨(PL.50 第47図)

単位:cm/g

No	種類 内模番号	縦径	次量(輸入動)	残存	時期	出土地点
164	周光通寶 714	2.3	0.11	1.8	2/4 徳和621年	山土/区域不明 表土
165	周光通仁 1731	2.4	0.11	1.4	1/2 徳和621年	第1区域 K38・27/黄褐色K土
166	神符通寶 2626	2.4	0.13	2.1	1/1 北宋 初建1009年	第1区域 I・J27/SD1763
167	元祐通寶 21848	2.5	0.1	1.7	1/1 北宋 初建1078年	第1区域 J52/遺構跡
168	元祐通寶 2486	2.3	0.13	2.6	1/1 北宋 初建1078年	第1区域 J52/遺構跡
169	元祐通寶 1796	2.4	0.10	2.3	1/1 北宋 初建1078年	第1区域 K33/遺構跡
170	熙寧通寶 4265	2.3	0.11	2.4	1/1 北宋 初建1068年	第1区域 K33/SD4735
171	真永通寶 713	2.3	0.14	2.8	1/1 2銭背高直 1897~1947 1967~1981	区域不明 表土
172	寛永通仁 85	2.4	0.08	1.6	1/1	江尾車馬
173	河内通寶 4284	2.3	0.09	1.8	1/1 銭背高直 北宋 初建1111年	第1区域 K33/SD4755

8. 第104次調査遺物 (PL. 51~64 第48~70頁、第5表)

第104次調査の遺物は、1~488を掲載した。大半が第V区域の包含層、遺構から出土した。内訳は第Ⅲ~V区域の上器(陶磁器類)1~364、土製品365~380、金属製品381~395、甲冑396~416、木製品417~432、石製品433~458、ガラス玉459、銭貨460~488である。詳細は第5表に記し、以下、概要を述べる。

第Ⅲ~V区域包含層出土土器 (PL. 51~52 第48~51頁)

表土出土の青磁花瓶11は瓶284と同器種と考える。染付皿16は底部内面に褐釉の魚文が確認できる。染付扁壺17は胴部の形状から63・64のような玉壺春型の壺の可能性がある。交趾三彩18は輪花皿である。口径6.0cmを測り、色調は鈍い赤色を呈す。

第Ⅲ区域出土の越前焼播鉢23は内面体部上位に通常に卸目を施した後、原状に卸目を入れている。鉄鍋大海茶入43は外・内に茶黒色の鉄柱がかかる完形品である。鉄軸壺45は胴部上位で張り出し、突帯がめぐる。青白磁壺49は口径24.0cmを測り外・内に陰刻花文を施す。青磁台付瓶51は脚台部であり、蛭1状を呈し、端面は露胎している。青磁蓋52は酒会壺の蓋であり、笠部に陰刻花文を入れている。青白磁梅瓶53は胴部上位~下位に唐草文を陰刻し、胴部下位に呉須条線2条がめぐる。染付扁壺63・64は玉壺春型の壺である。中国では主に酒器、日本では花生として用いられた。63は外面胴部に呉須の圏線、玉抱き獅子文または風景文を描く。頸部側面に環状文をもつ破片が接合する可能性がある。64は胴部下位に呉須複弁蓮華文が横かれ、高台は梅門形を呈す。

第Ⅳ区域出土の越前焼火桶66・67は寸削形を呈し、66は外・内面に赤色化粧土が残る。第V区域出土の土師器皿81~83は口径13.8~15.6cmを測り、81・82は底部末調整である。瓦質土器手焙89は方形の火鉢であり、体部はミガキで調整され、四隅に脚部をもつ。染付碗105は外面底部に呉須「天祥年造」の銘款を施す。

第Ⅲ区域遺構出土土器 (PL. 53 第51~53頁)

SI4817 出土 (PL. 53 第52頁) 越前焼播鉢126は口径42.0cmを測り、内面体部に幅2.7cm×9条の卸目を密に入れる。底面にも卸目が入る。SD4808、SA4781出土破片と接合した。短頸壺128は胴部上位に突帯がめぐる。

SI4816 出土 (PL. 53 第52頁) 染付碗130は口径14.8cm、器高6.5cmを測り、外面体部に呉須圏線・草花文・芭蕉文を施し、内面底部に法螺貝を描く。

SF4813 出土 (PL. 53 第52頁) 土師器皿137~139・141は門端部にスガが付着し、灯明皿として使用されている。青磁碗143は体部に線刻蓮花文を施す。染付杯144は内面底部に太湖石を描く。

SF4814 出土 (PL. 53 第52頁) 鉄鍋大海茶入142は口径5.3cm、器高5.5cmを測り、完形品である。体部上位で張り出す。外面体部下位~底部は露胎する。

SF4815 出土 (PL. 53 第52頁) 鉄軸四耳壺148は胴部上位に4つの把手が付く。胴部下位は露胎している。

第Ⅳ区域遺構出土土器 (PL. 53~54 第53頁)

SB4790 出土 (PL. 53 第53頁) 大規模武家屋敷Aの上殿の遺物である。灰釉碗165は口径16.5cmを測り、鉄軸湯天日鏡を模している。灰釉三筋壺は最大径でも14.0cmを測る小型品である。青磁盤167は第V区域SB4786出土198と同様な法量と考える。白磁皿169は口径9.6cm、器高2.0cmを測る小型品である。

SD4806 出土 (PL. 54 第53頁) 土師器皿175~181は灯明皿である。壺182は口径17.0cmを測る。灰釉瓶子184は口縁部しか残存していないが、口径5.6cmを測り、大型品と考える

第V区域遺構出土土器 (PL. 54~58 第54~60頁)

SB4788 出土 (PL. 54 第54頁) 青磁盤195は口径46.0cm、器高10.0cmを測り、内面体部に鎮蓮花文、底部に陰刻花文を施す。

SB4786 出土(PL.54 第54図) 青磁盤 198は195より一回り小さく、口径38.6cm、器高8.2cmを測り、内面体部に鎮蓮花文を施す

SB4846 出土(PL.54 第54図) 染付碗 203は口縁部と体部下位に具須商線を施し、内面口縁部に具須商線、底部に「福」の文字を入れる。朝鮮鉢 204は扁平な器形であり、側面に注口をもつ。

SB4791 出土(PL.54 第54図) 青磁花托 206は口径9.0cm、器高21.1cmを測り、体部下位に円盤状の突起が付く。体部に陰刻花文、突起上下面に斜行文が陰刻される。稜花皿205の内面口端部には陰刻花文がめぐる。

SD4797 出土(PL.54・55 第55図) 越前焼控鉢 210は口径31.2cmを測り、内面体部はカキメを施す。土師器皿 211～221が出土し、218・219は上端部にススの付着はないが、底部内外面に黒塗をもつ。

SD4798 出土(PL.55～57 第55～58図) 土師器皿 236～262の半数は上端部にスガが付着する。浅鉢形B類、浅皿形C類、浅皿形C類(小型品)、杯形C類が主体をなすが、260～262のような盤形D類も含まれていた。青磁香炉 282は割り高台であり、283は底部周縁の胴部ではなく底面中央で接地している。瓶 284は胴部に牡丹・唐草文を彫刻し、胴部下位に交線・鎮蓮花文をめぐらす。染付碗 297は内面底部に具須魚文・唐草文・團線を描く。タイ製四耳壺 299は胴部上位に半環状の把手が付く。鉄軸は2度掛けしている。

SS4824 出土(PL.57 第58図) 染付双耳瓶 325は上縁部に具須芭蕉文・アラベスク文、胴部上位に鱗文、胴部中位～下位に牡丹・唐草文・宝相文を施す。双耳把手に魚文を描く。明代16世紀前半～中頃のものと考える。

SD4801 出土(PL.57・58 第58～60図) 越前焼短頸壺 326は胴部上位が張り、ヘラ記号を刻み、突帯がめぐる。瓶 328は下膨れの器形であり、外面胴部下位をヘラケズリで直整し、底部に回転糸切り痕が残る。鉄軸水滴 343は三葉文状の把手が体部上位に付き、注口部は断面八角形を呈す。青磁酒会盃 348は胴部に陽刻牡丹・唐草文を施す。52のような壺と組になる。白磁皿 356は口径17.5cmを測る中型品である。染付皿 363は内面底部に褐釉の魚文を描く。

土製品(PL.58 第61図) 土鍾 365～371は大塚品であり棒巻き付け技法で成形している。全体はナデ調整である。370・371には使用による紐ずれ痕が残る。土製円盤 372は越前焼甕、373は鉄軸天日碗の底部周囲を打ち欠いたものである。茶入蓋 374は径2.5cmを測り、5弁の梅花文を線刻している。青磁装飾の破片 375は第Ⅲ区域SX4836から出土し、板状の表面に円形浮文を7つ表現し、裏面に柱状装飾が付けられている。特殊な形状から筆架または花瓶の脚台の可能性がある。仏像 375はタイ製三彩陶器である。観音座像であり、光背は周縁は炎光で表現されている。葉研 377～379は葉研の舟部である。長方形の板状の底部に細長い舟部を接合させ、越前焼で製作されている。舟部の長さは不明だが、口縁部の幅は10.5～11.2cm、高さ6.6～7.4cmを測り、底部は摩耗している。380は葉研の円盤であり、越前焼で製作され、径14.5cm、厚さ3.4cmを測る。中央の軸孔は方形を呈す。

金属製品(PL.59 第61図) 鍍金具 384は金銅製の飾金具であり、中央に径1.0cmのツマミをもつ。ツマミの頂部には斜行格子文、側面には直線文を縦方向に毛彫りする。押付板の部分にも周囲に團線を入れ、内部に魚子打や文様を施している。鍍金具 385は径3.8cm、幅1.1cmを測る。全体に漆が施されている。紅皿 386は花卉状に成形された銅製の皿であり、菊皿、童子とも言われる化粧皿である。第Ⅴ区域SB4788で出土した。金匙 387・388は鉄製の匙である。匙面両辺はわずかに内側に反る。蓋 389は鉄製であり、浅い寸胴形を呈す。径8.6cm、高さ4.0cm、重量128.3gを測る。天井面中央に振じりをいれた鈕が付く。鉄鏝 392は征矢である。葉部が屈曲しているが、ほぼ完形であり、長さ15.3cm、重量20.6gを測る。切刃 394は銅製で、花形の形状を呈す。猪目、条線を施し、漆で仕上げられている。395は銅卵形の形状を呈し、片面を黒漆、片面を鍍金で仕上げている。

甲冑 (PL. 59~63 第61~66図)

甲冑は、第104次調査を代表する遺物であり、大規模武家屋敷Aの主殿SB4790の北東側に近接する第IV区域SD4848の溝内(X003・004地点)やその周辺(X001・002地点)とSD4805の溝内(X005地点)から出土した(第36・37頁)。ただし、これらを含めて全般的に出土状況の記録が乏しく、一定の形状をとどめながらも出土地点不明な小破片等については本報告から除外した。ここでは図化し得た396~416について述べる。

小札396はハート形をした札頭の形状から伊予札に分類される。鉄製で鍼の穴を6孔有す。兜髷は兜の後頭部から左右側頭部の下側に付属する甲冑である。兜髷397・398はSD4848内のX003地点から出土したものである。共に小札は鉄製であり、右上がりの札頭の上に鍼の穴が3、その下に毛立ての穴が2、中位から下位に下鍼の穴が8あり、本小札または平小札に分類される。札足6.8cm、札幅2.1cm、厚さ0.4cmを測る。397はこの小札を札板としてつなぎ合わせ、上段22枚、下段20枚で構成する。下鍼には細い糸紐を用いていたと考えられ。全体に厚く黒漆が塗られている。兜髷399・400はSD4805内のX005地点から出土したものである。共に小札は鉄製の本小札であり、札足6.8cm、札幅2.6cm、厚さ0.3cmを測る。399・400の札板も下鍼に細い糸紐を用いてつなぎ合わせられ、黒漆が塗られていた。

草摺は下半身を防御する甲冑であり、草摺401~405はSD4848の北側に近接したX001地点から出土した。検出中の写真(PL. 34)では、2~3段分が折り重なって出土しているようにうかがえる。全体的に漆の被膜だけが残存し、固い革ではなく、やわらかい革製の本小札で札板を構成したと考える。札頭の右上半部分は地の粉(陶器の粉)と漆を厚く盛り、いわゆる盛上小札にしている。鍼の穴の内面にも漆が認められることから、製作手順として、最初に一枚毎に漆を塗布した後、下鍼でつなぎ合わせ、仕上げに再度黒漆で仕上げたと考える。405は草摺の最下段であり、下鍼を絹糸の束で菱縫し、2段の菱縫を朱漆で×字に塗る。小札は札足6.6cm、札幅1.8cm、厚さ0.4cmを測る。札板の右端には耳札が残存し、左端は欠損しているもの、おそらく約30枚の本小札を札板とし、本木の札板の横長は21.5cm前後と推定できる。401と403、402と404を接合した値もこれと支持し、草摺1段分の寸法は横長約22.0cm、幅約6.6cmと復元でき、少なくともX001地点では最下段を含めて3段分の草摺が出土したと考える。

大袖は札板を4段緩状に重ねた、肩・腕を防御する甲冑である。大袖406~409はSD4848の北側に近接したX002地点から出土した。検出中の写真(PL. 34)では、札板4段分が裏面を上にして出土していることが確認できる。全体的な様相や製作手順は前述した草摺401~405と同様である。

409は大袖の最下段であり、約44枚の小札をつなぎ、横長38.8cm、高さ7.0cmを測る。下鍼を絹糸の束で菱縫し、2段の菱縫を朱漆で×字に塗る。小札は本小札であり、札足6.7cm、札幅1.8cm、厚さ0.3cmを測る。左端の耳札は、鍼の穴が1列だけであり、右上がりの札頭の上に鍼の穴が2、その下に毛立ての穴が1、中位から下位に下鍼の穴が4あり、札足6.0cm、札幅1.0cm、厚さ0.3cmを測る。

406の札板は、最上段の4段目で約48枚の小札をつなぎ、横長34.6cm、高さ6.8cm、408は3段目で約51枚の小札をつなぎ、横長36.0cm、高さ6.5cm、407は2段目で約47枚の小札をつなぎ、横長32.0cm、高さ6.5cmを測る。左右端に耳札が残る最上段の406と3段目の408の寸法から見ても、大袖1段分の札板は横長34.6~36.0cm、高さ約6.5~6.8cmを測ることがわかり、X002の大袖を復元すると横長35.0cm前後、高さ約25.0以上と復元できる。

草摺410~416はSD4848東堀の溝内X004地点から出土した。検出中の写真(PL. 34)では、410のみが撮影されており、他は厳密には周辺からの出土品の可能性もあるが、X004に含めて扱った。全体的な様相や製作手順は前述した草摺401~405と同様である。410は草摺の最下段であり、下鍼を絹糸の束で菱縫し、2段の菱縫を

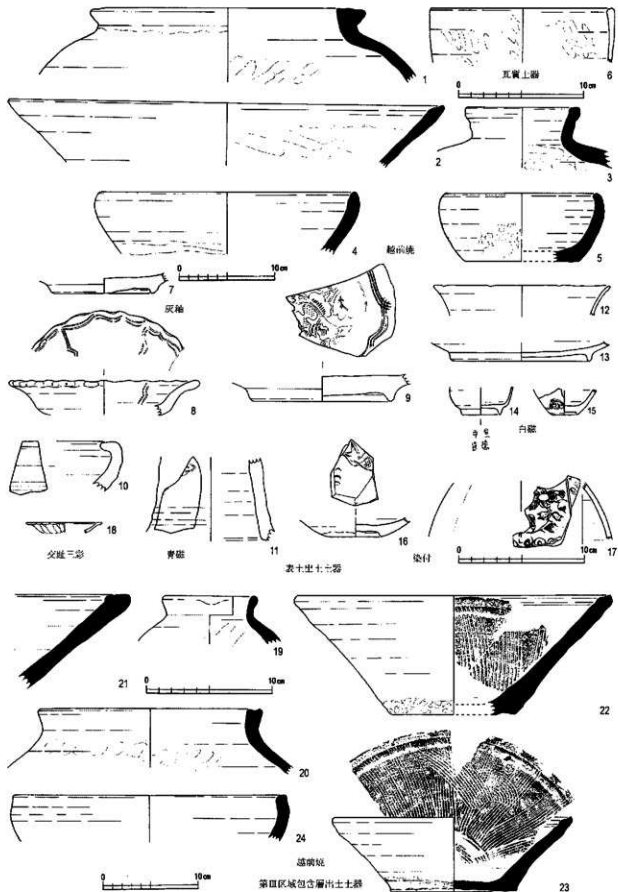
朱漆で×字に塗る。横長18.9cmを測る。札頭を含めた上部が欠損しているが、小札は札足6.8cm、札幅1.8cm、厚さ0.38cmを測ると推定する。札板の左右端には耳札が残存し、29枚の本小札を札板とし、草摺405と同工品と考える。414と416は接合して草摺最下段の札板になる可能性があり、X004付近では少なくとも草摺が2枚出土したことになる。

木製品 (PL.63 第66・67図) 漆器杓蓋417と碗身418と一組になり、儀札・祭祀で使用するミニチュア品と考える。第V区域SD479から出土した。共に口径4.0cm前後を測り、外面は黒漆、内面は朱漆で仕上げている。既に保存処理済みのため、材質は不明であるが、418は散孔材と観察された。曲物底板419は径5.6cmを測る小型品であり、「背腸(コノワタ)」の墨書が記される。刳物容器423はトナノキを縦木取りした製品である。第V区域SD4801から出土した。内外に黒漆の痕が残る。掛花生424はタケヤ科であり、体部中位に径0.7cmの円孔を2つ穿つ。内面は黒色に炭化している。手箱蓋425は長さ21.3cm、幅9.8cm、高さ2.3cmを測る。第V区域SD4801内のX008地点から出土した。未接合断片から樹種はヒノキと判別した。四辺の角は向取りし、黒漆塗布後、外面に金象嵌で瑞果・葛枝文を施している。箱の身部傷歪と考えられる部品も厚く黒漆を塗り、底部と接合する長辺にカギソコを設け、木釘穴が6ヶ所残る。障子棧427～429の樹種はヒノキ科である。第V区域SD4801から出土した。426は下端を合欠し、428は上端を印籠継のホノに加工している。429は下位にホソ穴を設けるが貫通はしない。木柄430は蒲鉾形の板材を2枚合わせて一組とする刀子の柄である。樹種はヒノキ科である。外面上端は段状に加工し、下端に凹線を彫り、樹皮等を巻いて固定したと考える。内面にはわずかなケズリの痕跡が残る。木刀431の樹種はスギである。刃部側と刀背部側に溝があり、柄頭は鈍角状に加工されている。432の樹種はヒノキ科であり、柄部に径0.4cmの円孔を穿つ。

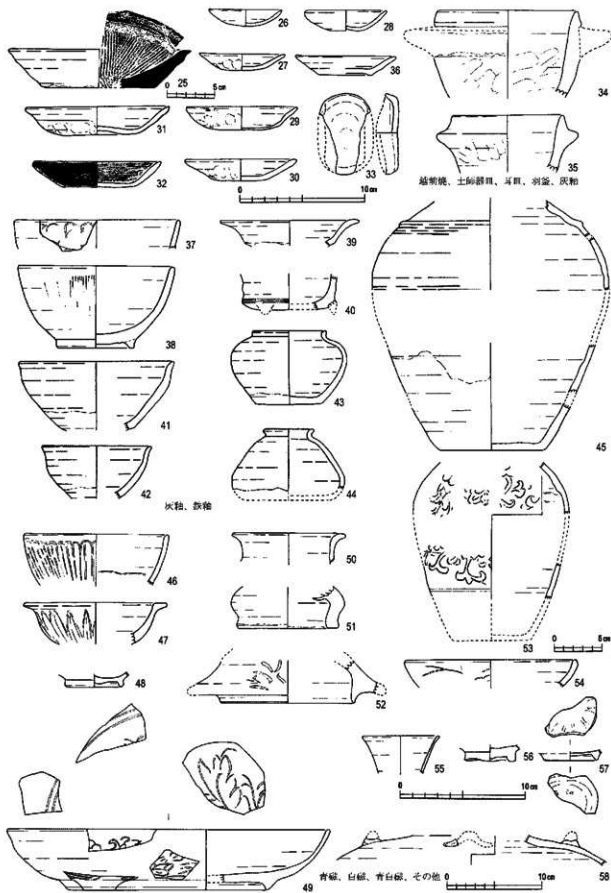
石製品 (PL.63・64 第67～69図) 砥石433～442は全て第V区域から出土した。中砥、中仕上げ砥石、仕上げ砥で占められる。SD4798から434・436・439が出土した。石硯440～442は頁岩製である。440は表面に雲形文が陽刻されている。441は長さ15.0cmを測り、海が小さく岡が細長い。442は長さ14.5cm、幅8.3cmを測り、表面は挿手処に成形されている。茶臼の小白443は斑品質安山石製である。中央に径1.7cmの軸受穴を穿ち、播面は主溝7分画、副溝9条である。播面周縁に径34.7cmの皿状の受部が付く。444は花崗岩製であり、播面は不明。播面周縁に径33.0cmの鉢状の受部が付く。廃棄時に意図的な打欠をしたと考える。石臼の小白445・446は笏谷石製である。445は小型品で径21.3cmを測り、播面は上溝8分画、副溝8条である。446は径31.0cmを測り、播面は上溝8分画、副溝4条である。炉壇448は笏谷石製で第V区域SD4797から出土した。幅49.5cm、奥行28.1cm、高さ23.5cmを測る。底面四隅に脚部が付く。全体は灰褐色に被熱している。バンドコ449～457は笏谷石製であり、全体は被熱している。0形は449・450・452～455であり、452・453の身部は幅15cm前後、器高10.0cm前後の小型品である。454・455の身部は幅25cm前後、器高14.5cmを測る。D形は蓋451のみである。長方形は蓋456・457が出土し、幅23.5～25.6cm、奥行15.6～16.5cmを測る。

ガラス製品 (PL.64 第69図) ガラス玉459は径0.75cm、高さ0.55cm、孔径0.18cm、重量0.4gを測る。第Ⅲ区域SF4814から出土した。透明なコバルトブルーの色調を呈す。第130次でガラス工工房が確認されているが、弥生時代後期～古墳時代前期のものとする。第100次調査では翡翠製勾玉(247)も出土しており、3～4世紀の集落の存在を示唆する。

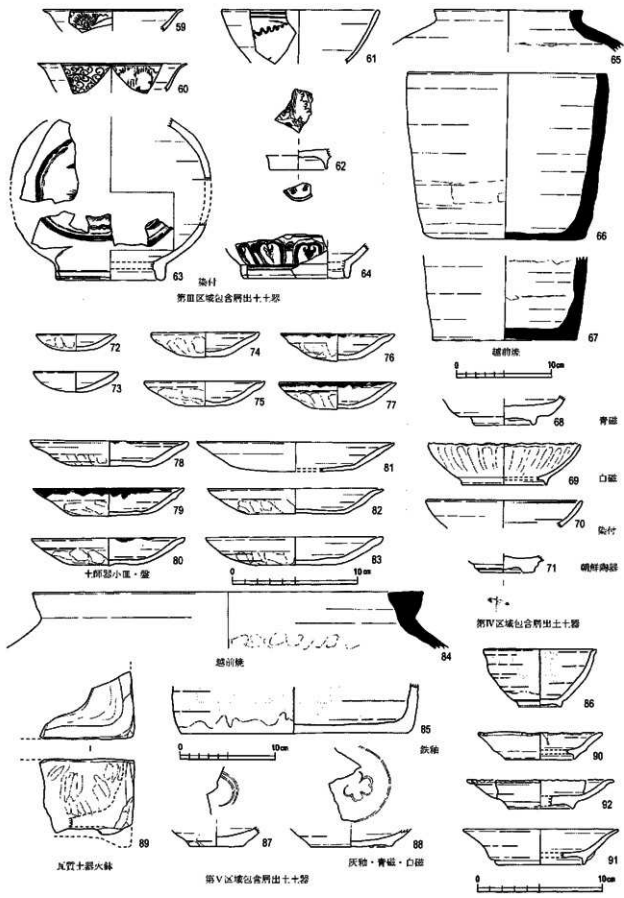
銭貨 (PL.64 第69・70図) 銭貨460～488が出土した。第5表中の第I・II区域の出土銭貨は、第104次調査時に再発掘して出土したものであり、第104次調査のものと便宜的に扱った。第IV区域SD4804から「元豊通寶」471、SD4798から「元豊通寶」472、第V区域SR4787から「皇宋通寶」462、SD4799から「紹寧元寶」468、SD4794から「元豊通寶」470・「咸淳元寶」476が出土した。



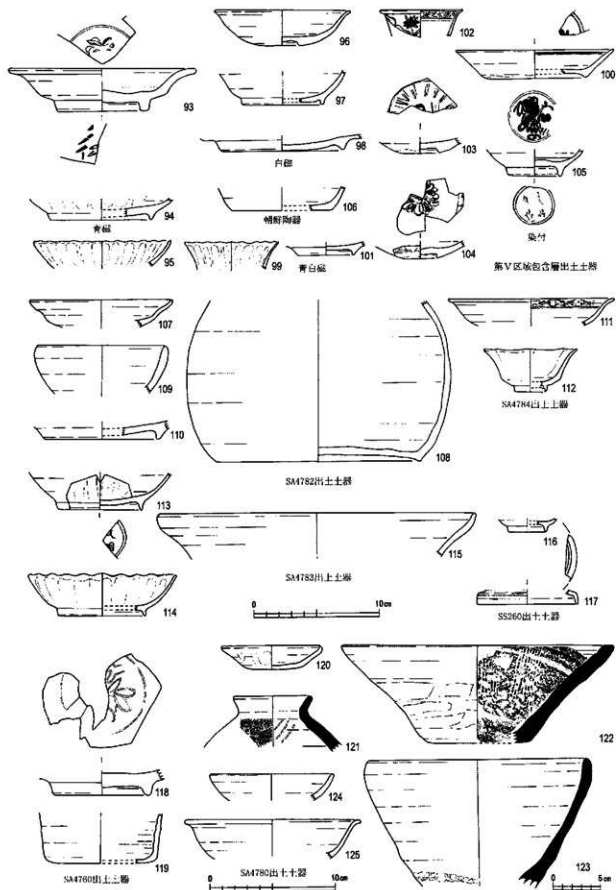
第48圖 第104次調査 表Ⅰ、第Ⅲ区域包含層出土土器(縮尺1/3、1/4)



第49図 第104次調査 第三区域包含層出土土器(縮尺1/3、1/4)



第50圖 第104次調査 第III~V区域包含層川土土器(縮尺1/3, 1/4)



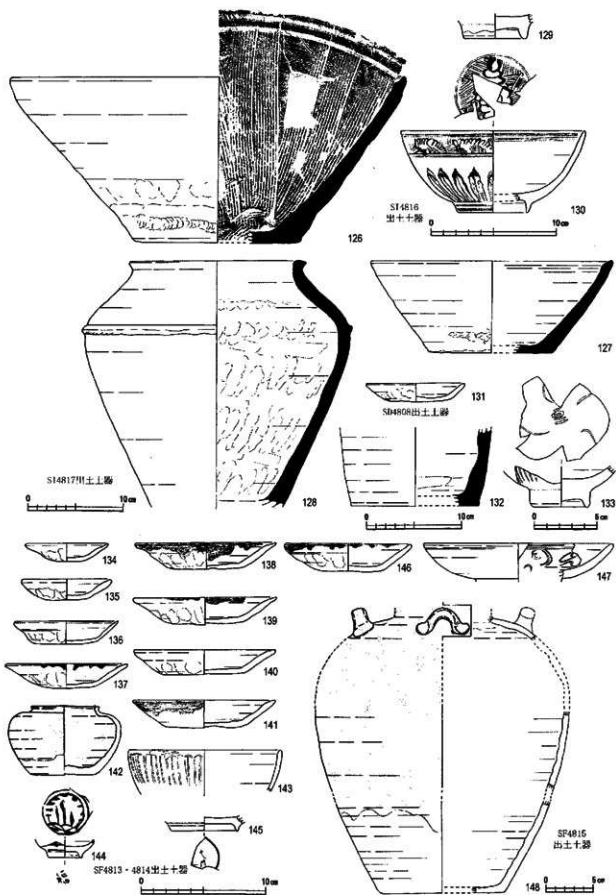
第V区域包含層出土土器

SM4782出土土器

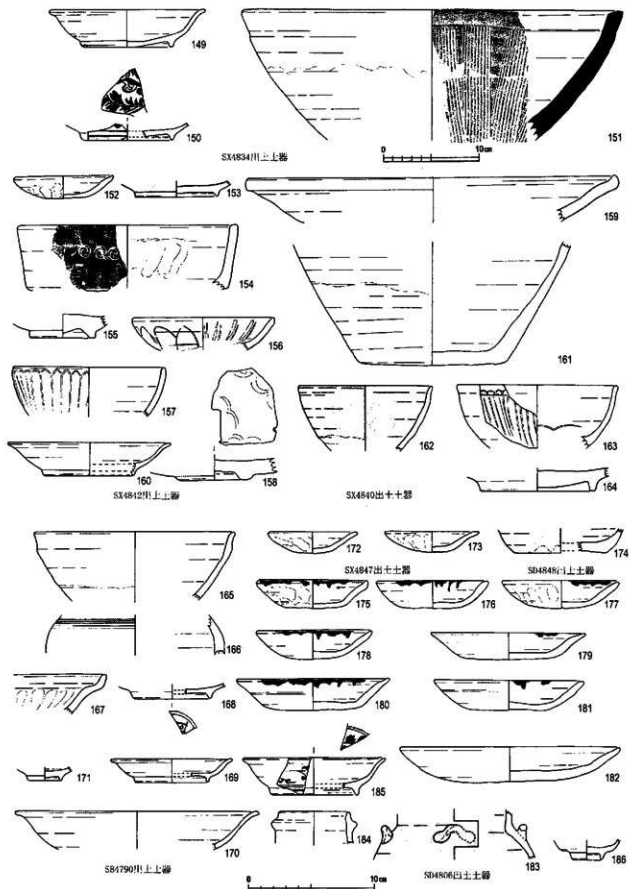
SM4783出土土器

SM4780出土土器

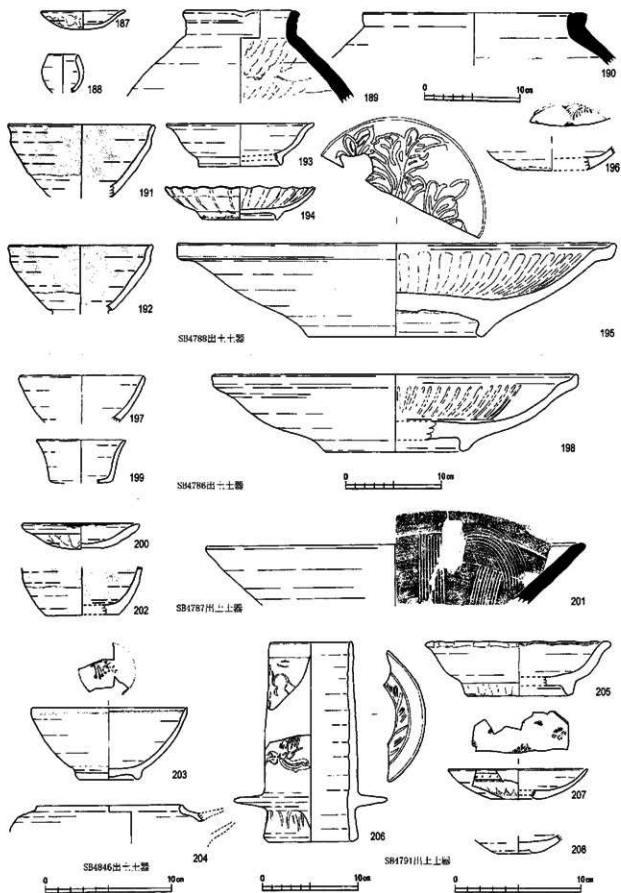
第51圖 第104次調査 第V区域包含層出土土器、第Ⅲ区域遺構出土土器(縮尺1/3、1/4)



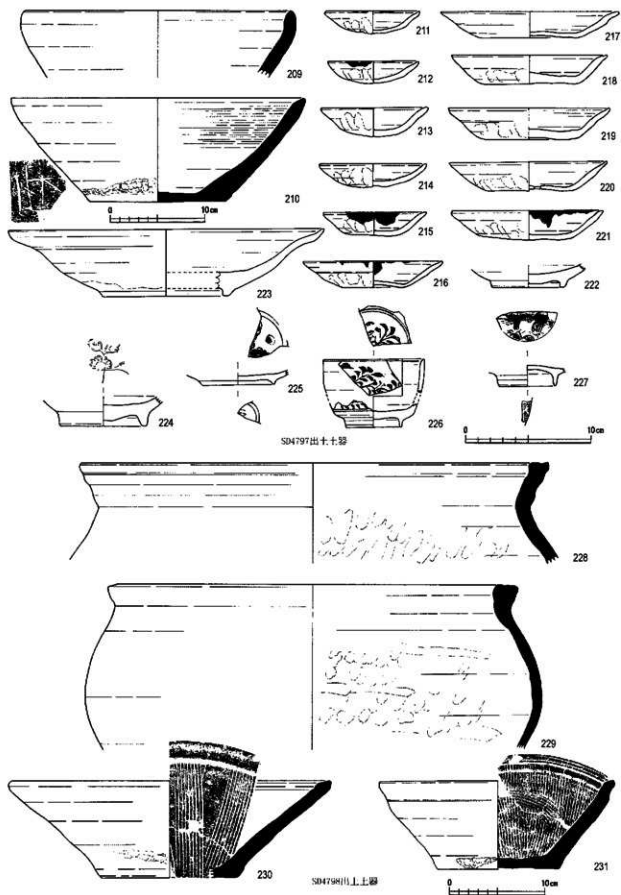
第52圖 第104次調査 第Ⅲ区域渡精川出土器(縮尺1/3、1/4)



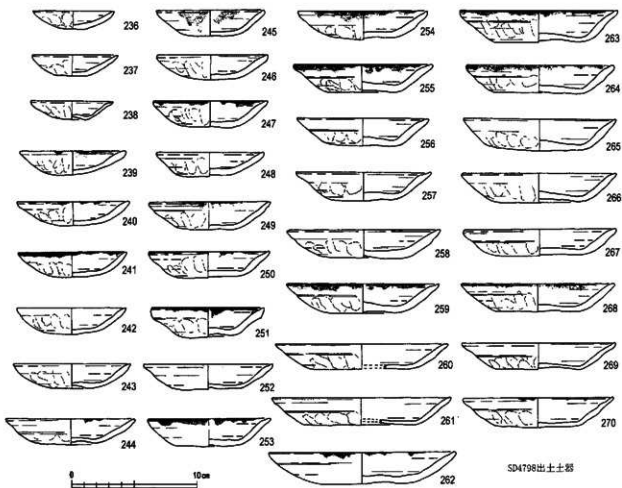
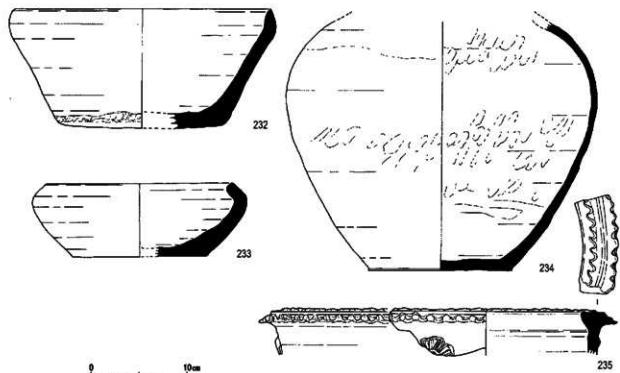
第53图 第104次調査 第三・IV区域遺構出土土器(縮尺1/3、1/4)



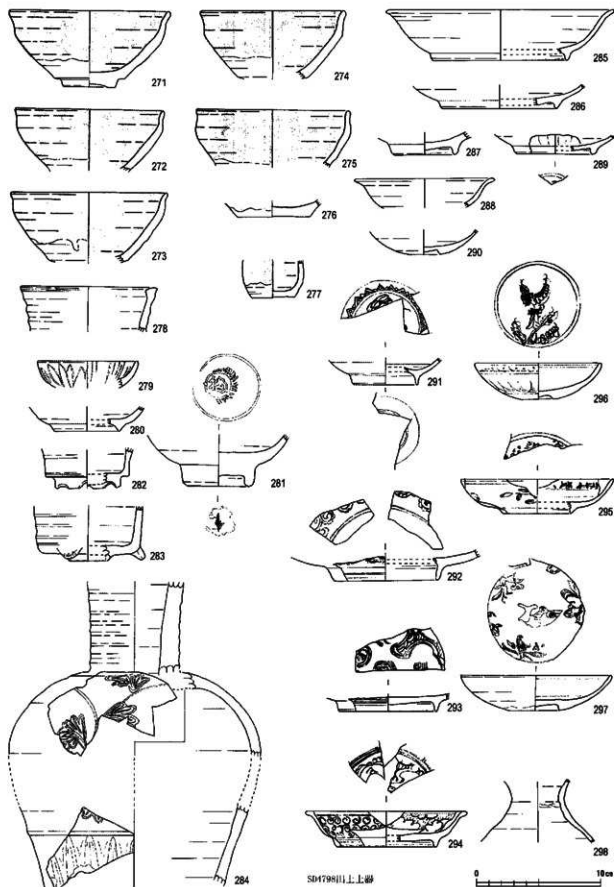
第54图 第104次調査 第V区域遺構出土土器(縮尺1/3、1/4)



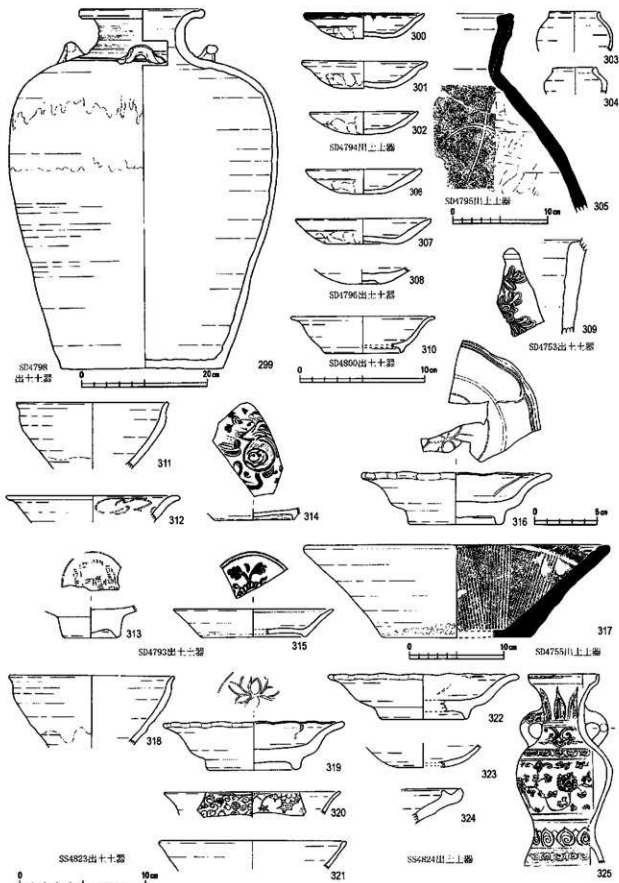
第55圖 第104次調査 第Ⅴ区域遺構出土土器(縮尺1/3、1/4)



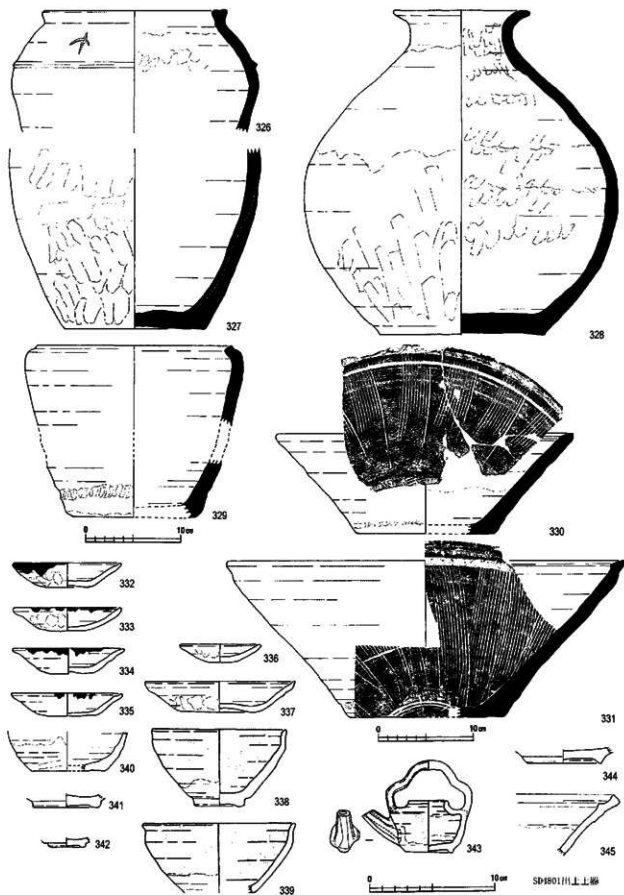
第 56 图 第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4)



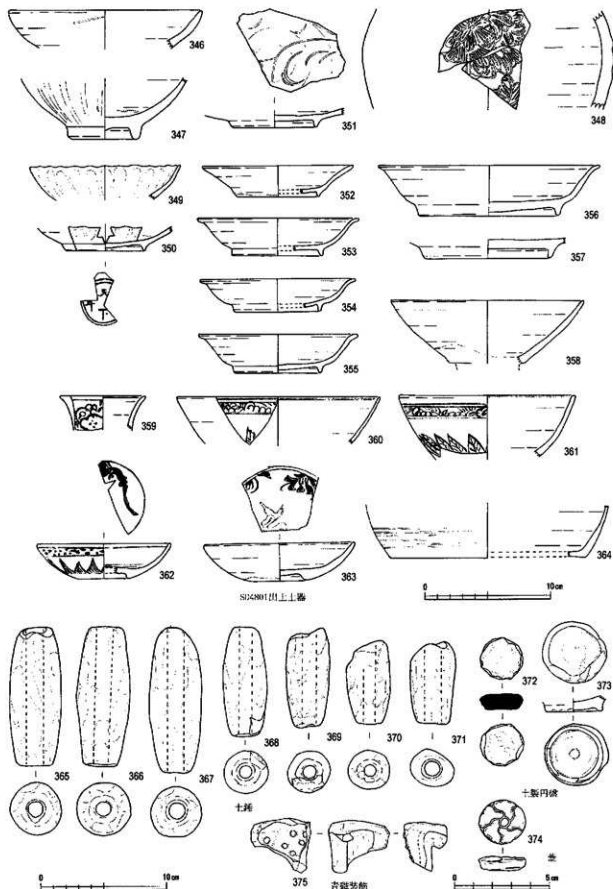
第 57 图 第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器(縮尺 1/3)



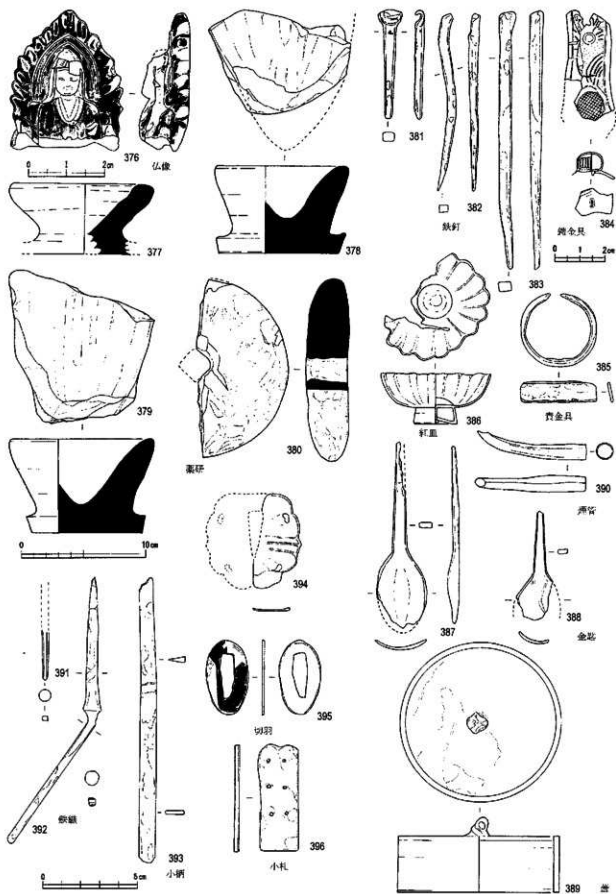
第 58 图 第 104 次調査 第 V 区域遺物出土土器(縮尺 1/3、1/4、1/6)



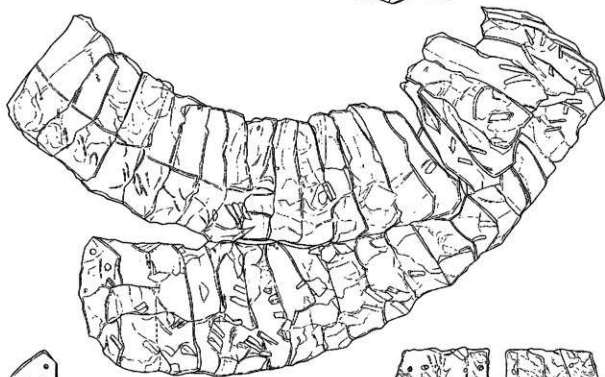
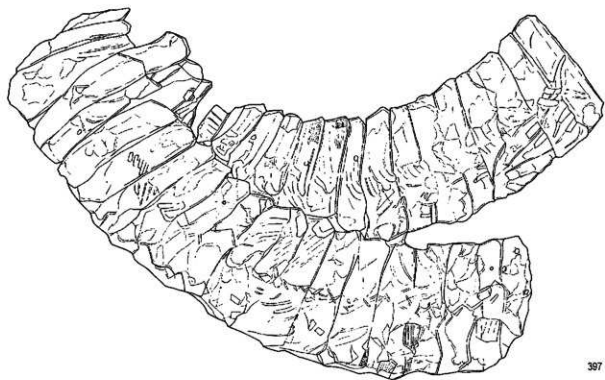
第 59 图 第 104 次調査 第 V 区域遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4)



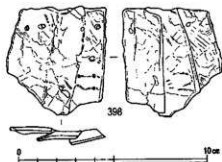
第60圖 第104次調査 第V区域遺構出土土器、土製品(縮尺1/2、1/3)



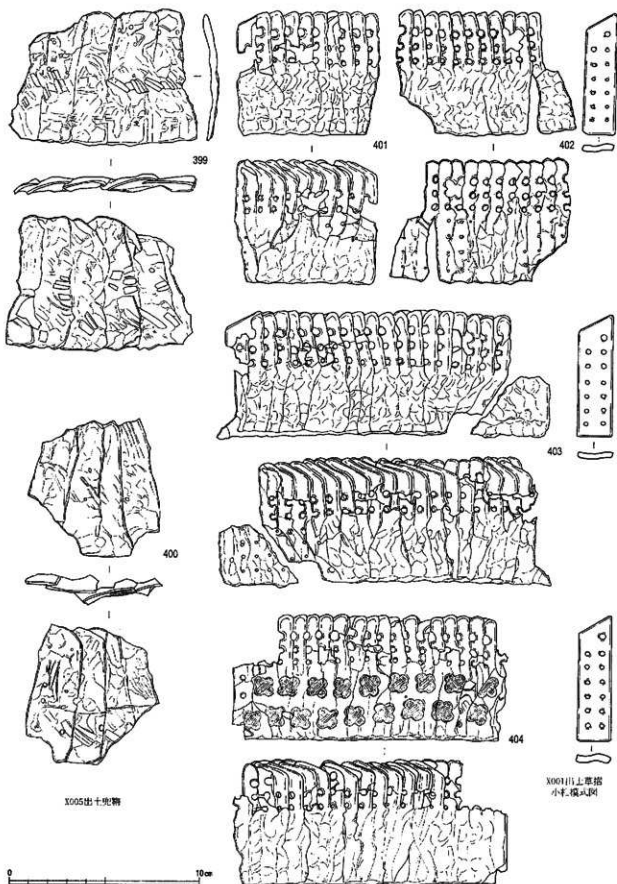
第61圖 第104次調査 土製品、金属製品、甲冑(縮尺 1/1、1/2、1/3、2/3)



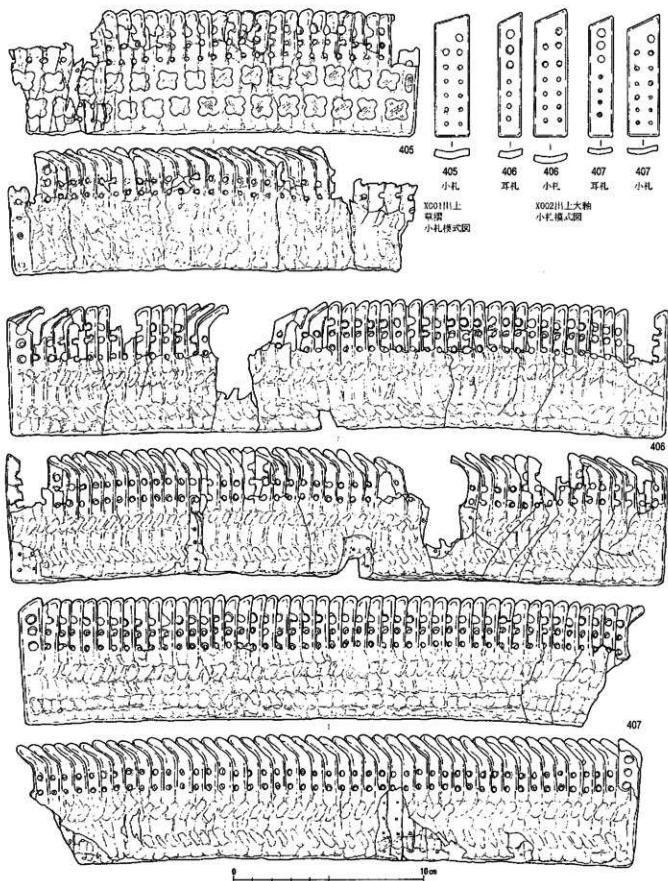
X003出土兜輪
小孔樣式図



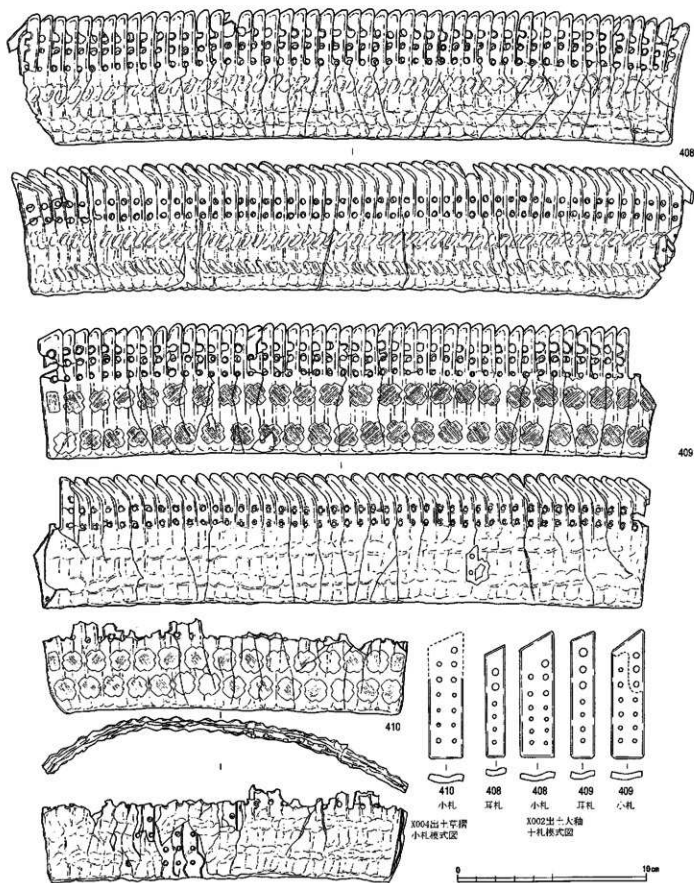
第 62 圖 第 104 次調査 甲冑X003 上出兜輪(縮尺 1/2)



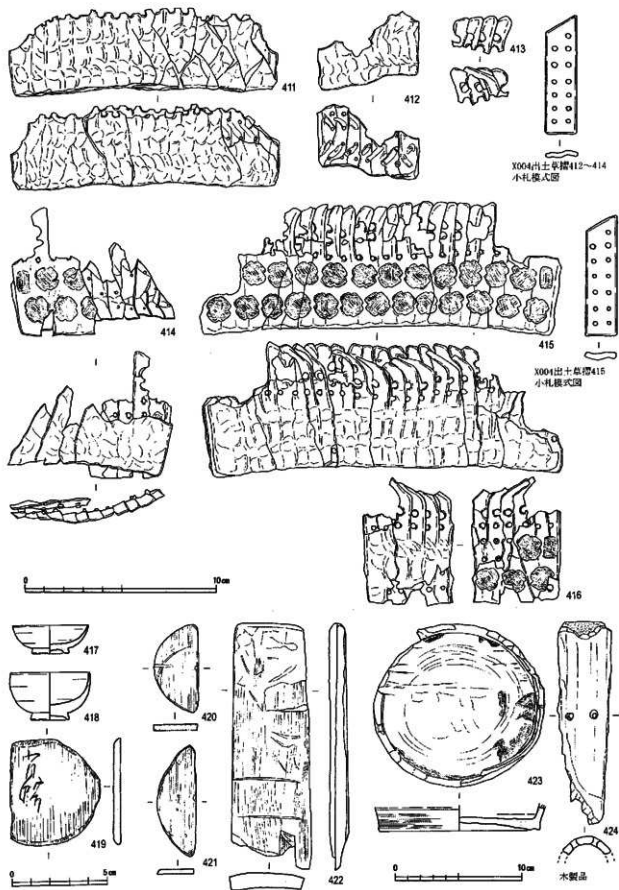
第63圖 第104次調査 甲冑X005出土兜鍪、X001出土草摺(縮尺1/2)



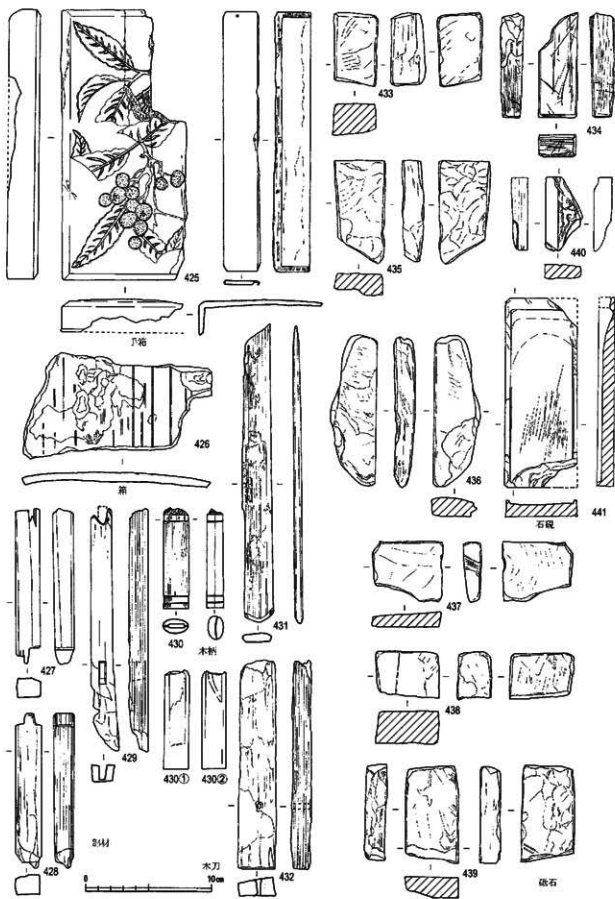
第64圖 第104次調査 甲冑X001出土半摺、X002出土大袖(縮尺1/2)



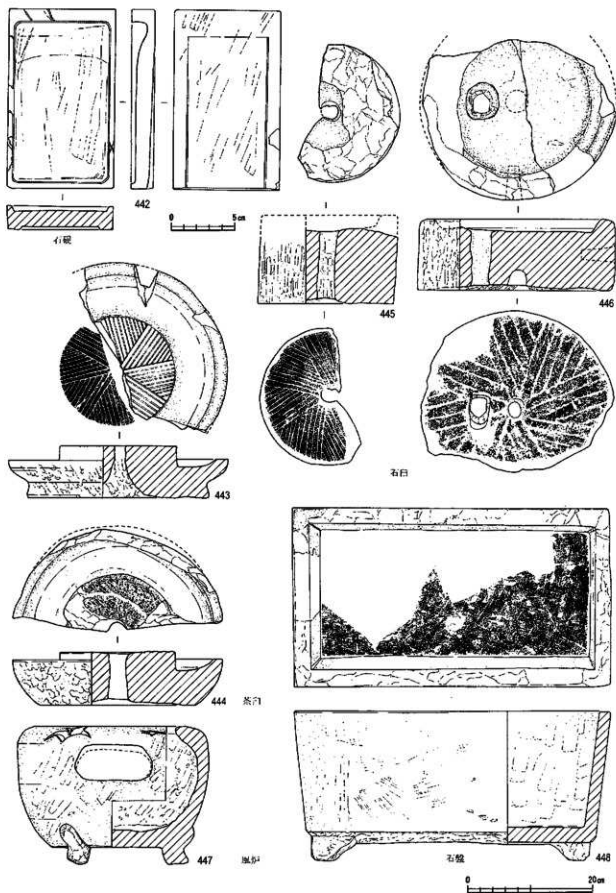
第65圖 第104次調査 甲冑X002出上大齒、X004出上草摺(縮尺1/2)



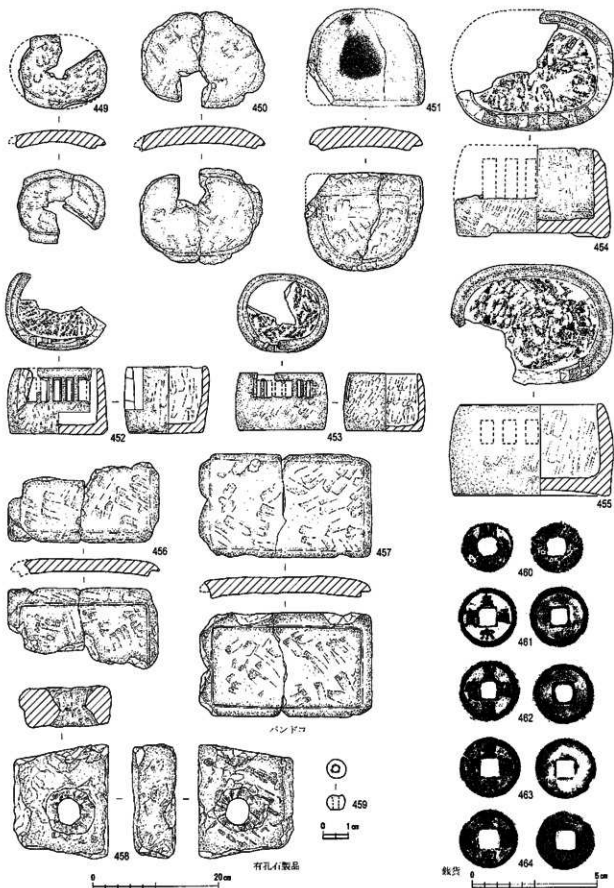
第66圖 第104次調査 甲冑X004他出土草摺、木製品(縮尺1/2、1/3)



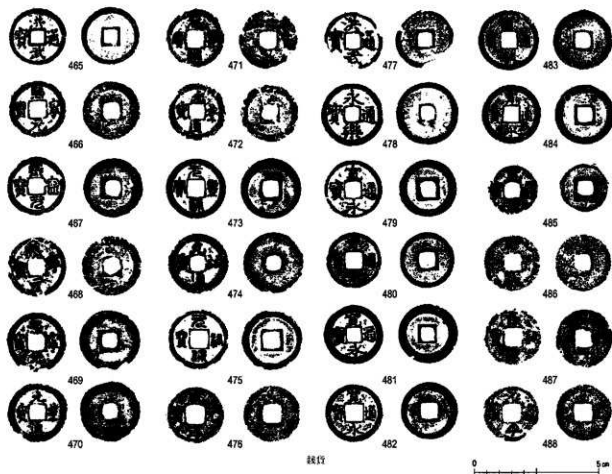
第 67 圖 第 104 次発掘 木製品、石製品(縮尺 1/3)



第68圖 第104次調査 石製品(縮尺1/3、1/6)



第69図 第104次調査 石製品、銭貨(縮尺2/3、1/6)



第70図 第104次調査 銭貨(縮尺2/3)

第5表 第104次調査出土遺物観察表(PL.51~64 第48~70図)
表十出土土器(PL.49・50 第48~50圖)

No	容積	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点
							備 考
1	磁器焼 罌	口: 29.6 高: 8.0	焼 色: 良好 明灰白色	胎土残 白色胎土 厚さ 1/10以下	口縁部: 頸部から起曲して短く立ち上るも 口縁部内側/口縁部に鋭角 割れ/上段で変る	外: 口縁部-頸部ヨコナテ/胴部上段ナテ 内: 口縁部-頸部ヨコナテ/胴部上段ナテ 後段直線	出土区域不明 表上 外: 口縁部-胴部上段 肩縁部
2	磁器焼 罌鉢	口: 40.0 高: 6.5	焼 色: 良好 古灰白色	胎土残 白色胎土 厚さ 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口縁部平坦/口縁部内側に鋭角あり	外: 口縁部ヨコナテ/胴部上段ナテ 内: 口縁部ヨコナテ/胴部上段ヘラナテ	出土区域不明 表上
3	磁器焼 罌	口: 12.0 高: 6.5	焼 色: 良好 明灰白色	胎土残 白色胎土 厚さ 1/10以下	口縁部: 頸部から起曲して外縮して短く立 ち上る/口縁部は肥厚/口縁部平坦/口縁 部直線あり	外: 口縁部-頸部ヨコナテ/胴部上段ナテ 内: 口縁部-頸部ヨコナテ/胴部上段ナテ ナテ-直線状	出土区域不明 表上 外: 胴部上段直線
4	磁器焼 罌	口: 27.0 高: 6.7	焼 色: 良好 灰白色	胎土残 白色胎土 厚さ 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口縁部内側/口縁部に鋭く収める	外: 口縁部ヨコナテ/胴部中段以下同様に ハテ 内: 口縁部-体部同様にナテ	出土区域不明 表上
5	磁器焼 鉢	口: 28.0 高: 7.3 深: 2.0	焼 色: 良好 淡灰白色	胎土残 白色胎土 厚さ 1/10以下	口縁部: 直線状/やや内凹して斜め外方へ 立ち上る/口縁部内側/口縁部鋭く収 める 胎土: 平坦	外: 口縁部-体部直線状ナテ/体部下段 ハテ 内: 口縁部-体部同様にナテ	出土区域不明 表上
6	瓦葺土器 壺形	口: 4.4 高: 4.2	焼 色: 良好 灰白色	胎土残 厚さ 1/10以下	口縁部: 直線状に上方へ立ち上る/口縁 部丸く収める	外: 直線状直 内: 直線状直	出土区域不明 表上

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
7	灰地 埴輪	口: 3.5 底: 7.0	焼色: 良好 色: 透紅色	胎土 残存 1/6	基部: 圓口高台/基部均等トラン状		出土区域不明 表土
8	青磁 枕花蓋	口: 5.0 高: 2.8	焼色: 良好 色: 透オリブ	胎土 残存 1/8	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口縁部外側/口縁部は丸く収める/口縁部を押し止す形状にする	内: 口縁部一部部に彫刻文	出土区域不明 表土
9	青磁 盥	高: 2.2 底: 11.0	焼色: 良好 色: オリブ	胎土 残存 1/8	基部: 削出高台	内: 基部同様に3条のヘラ抜き状扁平状線 基部中央にアラベスク文刻	出土区域不明 表土 外: 武蔵国藤原郡
10	青磁 盥		焼色: 良好 色: オリブ	胎土 残存 1/10以下	口縁部: 内湾して上方へ立ち上がる/ 基部内側/基部は丸く収める/口縁部 扁平	外: 口縁部一部均等トラン	出土区域不明 表土
11	白磁 花蓋	口: 9.2 高: 6.5	焼色: 良好 色: 透オリブ	胎土 残存 1/10以下	胎土: 剥離状に内湾して立ち上がる	外: 基部より内湾した基部/基部中央位に華文 内: 基部均等トラン	出土区域不明 表土
12	白磁 牡丹花	口: 14.9 高: 2.5	焼色: 良好 色: 透白色	胎土 残存 1/10以下	口縁部: 外湾して外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める/口縁部に丸み込みを内花 形状にする		出土区域不明 表土
13	白磁 盥	高: 3.6 底: 11.0	焼色: 良好 色: 透白色	胎土 残存 1/8	基部: 削出高台		出土区域不明 表土 外: 高台造面造
14	白磁 杯	高: 2.3 底: 2.8	焼色: 良好 色: 透白色	胎土 残存 1/4	外側: やや内湾して外方へ立ち上がる 基部: 削出高台	外: 基部に「寛徳年造」具印	出土区域不明 表土 外: 高台造面造
15	赤付 杯	高: 2.2 底: 2.0	焼色: 良好 色: 透白色	胎土 残存 1/8	外側: やや内湾して外方へ立ち上がる 基部: 赤付	外: 基部に只に具印	出土区域不明 表土 外: 高台造面造
16	赤付 盥	高: 1.5 底: 4.0	焼色: 良好 色: 白色	胎土 残存 1/10以下	外側: ゆるやかに内湾して外方へ立ち 上がる 基部: 赤付	内: 中央部に只に具印	出土区域不明 表土 外: 高台造面造
17	赤付 盥		焼色: 良好 色: 透白色	胎土 残存 1/10以下	基部: 下唇部を内湾して上方へ立ち上 がる/口縁部は平直な形状に成形	外: 基部より中央位に具印	出土区域不明 表土 外: 高台造面造
18	文土一彩 牡丹花	口: 6.0 高: 0.9	焼色: 良好 色: 茶色	胎土 残存 1/6	口縁部: やや内湾して立ち上がる/口縁部 は丸く収める/口縁部をゆるやかに湾状に する	外: 口縁部一部均等トラン	出土区域不明 表土

第Ⅲ又城包含層出土土器(PL.51・52 第48～51図)

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
19	磁器 碗	口: 7.6 高: 3.8	焼色: 良好 色: 明灰白色	胎土 残存 1/10以下	口縁部: 基部から鋭く外湾して立ち上がる/ 口縁部は丸く収める	外: 口縁部ヨコナテ/基部トランナテ 内: 口縁部ヨコナテ/基部トランナテ	第Ⅲ区域 B27/遺構面
20	磁器 碗	口: 23.6 高: 5.2	焼色: 良好 色: 灰白色	胎土 残存 1/10以下	口縁部: やや外湾して鋭く立ち上がる/口 縁部は円面	外: 口縁部ヨコナテ/基部トランナテ/シ ヤープ仕上げ 内: 口縁部ヨコナテ/基部トランナテ後 部剥離	第Ⅲ区域 B24/遺構面 外: 陶瓦
21	磁器 碗		焼色: 良好 色: 灰白色	胎土 残存 1/8	口縁部: 基部に鋭く外方へ立ち上がる/ 口縁部平直/口縁部内側突出	外: 口縁部一部トランナテ 内: 口縁部一部トランナテ	第Ⅲ区域 B22・23/遺構面
22	磁器 碗	口: 33.6 高: 12.7 底: 13.6	焼色: 良好 色: 透茶色	胎土 残存 1/4	口縁部: 平直状に鋭く外方へ立ち上がる/ 口縁部内側は円形、段あり 基部: 平直	外: 口縁部一部トランナテ/基部トランナテ 内: 口縁部一部トランナテ/基部トランナテ	第Ⅲ区域 B27/遺構面
23	磁器 碗	口: 25.8 高: 8.0 底: 17.0	焼色: 良好 色: 透茶色	胎土 残存 1/4	口縁部: 直線状に鋭く外方へ立ち上がる/ 口縁部内側は円形、段あり 基部: 平直	外: 口縁部一部トランナテ/基部トランナテ 内: 口縁部一部トランナテ/基部トランナテ	第Ⅲ区域 B25/遺構面
24	磁器 碗	口: 28.4 高: 5.0	焼色: 良好 色: 透茶色	胎土 残存 1/10以下	口縁部: 直線状に鋭く外方へ立ち上 がる/口縁部内側/口縁部平直	外: 口縁部一部トランナテ 内: 口縁部ヨコナテ	第Ⅲ区域 B27/遺構面
25	磁器 碗	口: 19.4 高: 1.3 底: 11.6	焼色: 良好 色: 透茶色	胎土 残存 1/8	口縁部: 平直状に鋭く外方へ立ち上 がる/口縁部平直 基部: 平直	外: 口縁部ヨコナテ/基部トランナテ/シ ヤープ仕上げ/基部トランナテ 内: 口縁部一部トランナテ/基部トランナテ	第Ⅲ区域 B24/遺構面
26	土師器 小皿	口: 6.0 高: 2.0	焼色: 良好 色: 茶色	胎土 残存 1/2	口縁部: 直線状に鋭く外方へ立ち上 がる/口縁部は丸く収める 基部: 丸状	外: 口縁部一部トランナテ 内: 口縁部一部トランナテ	第Ⅲ区域 B25/遺構面 外: 一次に塗布
27	土師器 小皿	口: 6.7 高: 1.3 底: 2.7	焼色: 良好 色: 透茶色	胎土 残存 1/4	口縁部: 直線状に鋭く外方へ立ち上 がる/口縁部は丸く収める 基部: 丸状	外: 口縁部一部トランナテ後部剥離 内: 口縁部一部トランナテ	第Ⅲ区域 B22/遺構面 外: 一次に塗布

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調査 / 文様	出土地点 備 考
28	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.6 底: 2.3	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1/10部内側に浅みちり/口縁部丸く収める 底型: 平底/中央凹む	外: 口縁部~底面ナ 内: 口縁部~底面ナ	第3区域 B25/遺構面 F11段に平凸
29	土師器 小皿	口: 8.9 高: 1.8 底: 5.3	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 3/4	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上る/ 口縁部外方へやや所置/1/10部内側に 段部: 平底	外: 口縁部ヨコナテ/底部~底面ナ後部 同型 内: 口縁部~体部ヨコナテ/底面ナ	第3区域 C24/遺構面 F11段に平凸 并: 手入スチ付 内: 1/10部/4側スチ付
30	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.7 底: 3.8	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 1/10部丸く収める 底型: 平底	外: 口縁部ヨコナテ/底部~底面ナ後部 同型 内: 口縁部~体部ヨコナテ/底面ナ	第3区域 A28/陶褐色土 F11段に平凸
31	土師器 小皿	口: 11.4 高: 2.2 底: 6.9	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 2/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口縁部丸く収める 底型: 平底/中央凹む	外: 口縁部ヨコナテ/底部~底面ナ後部 同型 内: 口縁部~体部ヨコナテ/底面ナ	第3区域 C26/遺構面 F11段に平凸
32	土師器 小皿	口: 10.1 高: 2.1 底: 6.9	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 2/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口縁部丸く収める 底型: 平底	外: 口縁部ヨコナテ/底部~底面ナ 内: 口縁部~体部ヨコナテ/底面ナ	第3区域 C24/遺構面 F11段に平凸 外: 内: スチ付
33	土師器 可蓋	口: 6.5 高: 1.8 底: 8.0	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 1/3	口縁部: 左右を内湾へ折ら込む 底型: 平底	外: 口縁部~底面ナ 内: 口縁部~底面ナ	第3区域 F25/遺構面
34	土師器 明蓋	口: 11.0 高: 7.0 底: 11.0	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 1/6	口縁部: 直上へ折立ち上る/口縁部は 丸く収める 底型: 欠損 外底: 下底平	外: 口縁部~受部ナ 内: 口縁部ヨコナテ/体部底面ナ	第3区域 F25/遺構面
35	土師器 羽蓋	口: 9.0 高: 11.9 底: 4.6	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 1/10以下	口縁部: 直上へ折立ち上る/口縁部は 丸く収める 底型: 平底/中央で外方に突出	外: 口縁部ヨコナテ/受部ナ 内: 口縁部~体部ナ	第3区域 C26/遺構面
36	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.5 底: 4.6	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 3/6	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 口縁部丸く収める 底型: ペタ台凸	外: 口縁部~底面ナ 内: 口縁部~底面ナ	第3区域 C27/遺構面
37	土師器 小皿	口: 13.0 高: 2.5 底: 12.0	焼: 良好 色: 濃灰褐色	胎砂粒 数箇 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上る/ 1/10部丸く収める 底型: 平底	外: 口縁部~底面ナ 内: 口縁部~底面ナ	第3区域 B24/遺構面
38	土師器 小皿	口: 12.2 高: 8.5 底: 8.8	焼: 良好 色: 濃灰褐色	胎砂粒 数箇 3/2	口縁部: 内湾して外方へ立ち上る/口縁 部は丸く収める 底型: 直出直入/遺面内側に輪トナ直	外: 口縁部~体部底面ナ 内: 口縁部~体部底面ナ	第3区域 C25/遺構面
39	土師器 小皿	口: 11.6 高: 2.0 底: 7.0	焼: 良好 色: 濃灰褐色	胎砂粒 数箇 1/10以下	口縁部: 外湾して外方へ立ち上る/口縁 部は丸く収める 底型: 平底	外: 口縁部~体部底面ナ 内: 口縁部~体部底面ナ	第3区域 C27/遺構面 外: 体部ナ F25段
40	土師器 小皿	口: 2.3 高: 7.4 底: 7.4	焼: 良好 色: 濃灰褐色	胎砂粒 数箇 1/10以下	口縁部: 三角形の溝が底面/底面は 平底	外: 体部底面ナ 内: 体部底面ナ	第3区域 C27/遺構面 外: 底面露筋
41	土師器 鉢	口: 12.2 高: 5.9 底: 5.9	焼: 良好 色: 濃灰褐色	胎砂粒 数箇 3/6	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上る/ 口縁部外方に所置/口縁部は丸く外側 丸く収める 底型: 平底	外: 口縁部~体部底面ナ 内: 口縁部~体部底面ナ	第3区域 C25/遺構面 外: 体部ナ 位一斜面露筋
42	土師器 鉢	口: 8.6 高: 4.2 底: 4.2	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 3/3	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上る/ 1/10部上方に所置/口縁部は丸く外側 丸く収める 底型: 平底	外: 口縁部~体部底面ナ 内: 口縁部~体部底面ナ	第3区域 C25/遺構面 外: 体部ナ 位一斜面露筋
43	土師器 鉢	口: 5.8 高: 9.1 底: 5.9	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 1/1	口縁部: 直上して短く立ち上る/口縁部 は丸く収める 底型: 体部底面ナ 外底: 平底	外: 口縁部~体部底面ナ 内: 口縁部~体部底面ナ	第3区域 C28/遺構面 外: 体部ナ 位一底面露筋
44	土師器 鉢	口: 4.6 高: 5.0 底: 5.0	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 1/6	口縁部: 直上して短く立ち上る/口縁部 は丸く収める 底型: 平底	外: 口縁部~体部底面ナ 内: 口縁部~体部底面ナ	第3区域 C27/遺構面 外: 体部ナ 位一底面露筋
45	土師器 鉢	口: 25.0 高: 28.7 底: 11.0	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 1/10以下	口縁部: 直上して短く立ち上る/口縁部 は丸く収める 底型: 平底	外: 口縁部~体部底面ナ 内: 口縁部~体部底面ナ	第3区域 C27/遺構面 外: 体部ナ 位一底面露筋
46	土師器 鉢	口: 11.6 高: 4.0 底: 4.0	焼: 良好 色: オリーブ	胎砂粒 数箇 1/4	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上る/ 口縁部は丸く収める 底型: 平底	外: 口縁部~体部底面ナ 内: 口縁部~体部底面ナ	第3区域 C28/遺構面 外: 体部ナ 位一底面露筋
47	土師器 鉢	口: 11.2 高: 2.5 底: 4.2	焼: 良好 色: オリーブ	胎砂粒 数箇 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ立ち上る/口縁 部外方に所置/口縁部は丸く収める 底型: 平底	外: 口縁部~体部底面ナ 内: 口縁部~体部底面ナ	第3区域 C27/遺構面 外: 体部ナ 位一底面露筋
48	土師器 鉢	口: 1.2 高: 4.2 底: 4.2	焼: 良好 色: オリーブ	胎砂粒 数箇 1/6	口縁部: 直上して短く立ち上る/口縁部 は丸く収める 底型: 平底	外: 口縁部~体部底面ナ 内: 口縁部~体部底面ナ	第3区域 C28/遺構面 外: 体部ナ 位一底面露筋
49	土師器 鉢	口: 26.4 高: 4.8 底: 15.5	焼: 良好 色: 灰褐色	胎砂粒 数箇 1/6	口縁部: 内湾して外方へ立ち上る/口縁 部は丸く収める 底型: 平底	外: 口縁部~体部底面ナ 内: 口縁部~体部底面ナ	第3区域 C27/遺構面 外: 体部ナ 位一底面露筋

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
50	古銅 香炉	口: 9.0 高: 2.6	焼: 良好 色: 濃ナリーブ	釉薬 1/10以下	口縁部: 外反して立ち上がる/口縁部は丸く収める		第5区域 E28/遺構面
51	青磁 白付碗	高: 3.3 底: 2.8	焼: 良好 色: 濃ナリーブ	釉薬 1/10以下	胴部: 胴部は縦に丸く収めて上方に立ち上がる		第5区域 E24/遺構面 外: 胴部内面露出
52	青磁 甕	高: 15.8 口: 10.3 底: 3.5	焼: 良好 色: 濃ナリーブ	釉薬 1/10以下	胴部: 等径/口位で外方へ立ち上がる/口位部は丸く収める	外: 胴部上部に横線花文/シヤ・女字1丁	第5区域 C24/遺構面 外: 台1/15露出
53	青白磁 湯碗	口: 12.2 高: 16.0 底: 6.9	焼: 良好 色: 青白色	釉薬 1/10以下	口縁部: 内折して外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 胴部上部に半位原形花文/胴部下部に横線花文 内: 胴部下部に半位原形花文	第5区域 E27/遺構面
54	内磁 皿	口: 13.9 高: 2.3	焼: 良好 色: 白色	釉薬 1/10以下	口縁部: 内折して外方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部上部に半位原形花文	第5区域 E27/遺構面
55	内磁 杯	口: 6.0 高: 3.1	焼: 良好 色: 淡白色	釉薬 1/5	口縁部: 縁やかに内折して立ち上がる/口縁部は丸く収める		第5区域 E25/遺構面
56	内磁 皿	高: 1.3 底: 4.0	焼: 良好 色: 白褐色	釉薬 1/5	底面: 張り立ち		第5区域 E25/遺構面
57	内磁 松花碗	高: 0.8 底: 4.0	焼: 良好 色: 透青色	釉薬 1/10以下	底面: 張り立ち/横凹形	外: 底面に横線花文/口位部の縁 内: 底面に横線花文	第5区域 E24/遺構面
58	中世製 磁器 四耳瓶	口: 11.0 高: 1.8	焼: 良好 色: 透青白色	釉薬 1/10以下	口縁部: 縁やかに内折して立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部に横線花文/遺構面・遺構面 内: 口縁部に横線花文	第5区域 E25/遺構面
59	磁付 皿	口: 2.0 高: 2.7	焼: 良好 色: 透青色	釉薬 1/10以下	口縁部: 縁やかに内折して立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部に横線花文/胴部に横線花文 内: 口縁部に横線花文	第5区域 E27/遺構面
60	磁付 皿	口: 2.4 高: 1.5 底: 4.2	焼: 良好 色: 透青白色	釉薬 1/10以下	口縁部: 縁やかに内折して立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部に横線花文/胴部に横線花文 内: 口縁部に横線花文	第5区域 E27/遺構面
61	磁付 皿	高: 1.5 底: 4.2	焼: 良好 色: 透青白色	釉薬 1/10以下	口縁部: 縁やかに内折して立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部に横線花文/胴部に横線花文 内: 口縁部に横線花文	第5区域 E27/遺構面
62	磁付 皿	高: 1.2 底: 8.4	焼: 良好 色: 透青白色	釉薬 1/5	口縁部: 縁やかに内折して立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部に横線花文/胴部に横線花文 内: 口縁部に横線花文	第5区域 E27/遺構面
63	磁付 湯碗	高: 3.2 底: 8.2	焼: 良好 色: 透青白色	釉薬 1/10以下	口縁部: 縁やかに内折して立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部に横線花文/胴部に横線花文 内: 口縁部に横線花文	第5区域 E27/遺構面 E25/遺構面 E24/遺構面
64	磁付 湯碗	高: 3.2 底: 8.2	焼: 良好 色: 透青白色	釉薬 1/10以下	口縁部: 縁やかに内折して立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部に横線花文/胴部に横線花文 内: 口縁部に横線花文	第5区域 E27/遺構面 E25/遺構面 E24/遺構面

第IV区域包含層出土土器(No. 51・52 第50号)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
65	地味砂 刻線甕	口: 16.8 高: 4.6	焼: 良好 色: 灰褐色	胎土 残存 1/10以下	口縁部: 縁部から傾斜して立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部上部に横線花文/胴部上部に横線花文	第5区域 E22/遺構面
66	磁器 湯碗	口: 21.0 高: 17.8 底: 15.5	焼: 良好 色: 灰褐色	胎土 残存 1/10以下	口縁部: 縁部から傾斜して立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部上部に横線花文/胴部上部に横線花文 内: 口縁部上部に横線花文	第5区域 E24/遺構面 外: 内面赤色土
67	地味砂 火鉢	高: 9.0 底: 15.1	焼: 良好 色: 灰褐色	胎土 残存 1/10以下	口縁部: 縁部から傾斜して立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部上部に横線花文/胴部上部に横線花文	第5区域 E24/遺構面
68	青磁 碗	高: 2.4 底: 4.6	焼: 良好 色: オリーブ	釉薬 1/10以下	底面: 張り立ち		第5区域 E26/遺構面 外: 底面赤褐色土
69	内磁 松花皿	口: 12.0 高: 15.1 底: 6.6	焼: 良好 色: 白色	釉薬 1/5	口縁部: 縁やかに内折して立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部上部に横線花文	第5区域 E24/遺構面 外: 内面赤褐色土
70	磁付 皿	口: 12.2 高: 2.2 底: 1.6	焼: 良好 色: 青白色	釉薬 1/10以下	口縁部: 縁やかに内折して立ち上がる/口縁部は丸く収める	内: 口縁部に横線花文/胴部に横線花文	第5区域 E26/遺構面
71	朝鮮 磁器	高: 1.6 底: 4.3	焼: 良好 色: 青褐色	胎土 残存 1/10以下	底面: 張り立ち	外: 底面に「十」の刻印	第5区域 E26/遺構面 外: 底面赤褐色土 内: 底面に赤褐色土

第V区域包含層出土土器(No. 50・51号)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
72	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.3	焼: 良好 色: 淡褐色	胎土 残存 1/5	口縁部: 縁部から傾斜して立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部上部に横線花文 内: 口縁部上部に横線花文	第5区域 E26/遺構面 口縁部に赤褐色土

No	品種	法	量	育成/色調	土 残存	形状	調整 / 文様	山上地点 備考
73	土俵苔 小皿	日: 6.5 高: 1.7	色: 良好 淡緑褐色	植物形 軟質 2/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部コナテ/体部-底部平坦/底 形:高脚型 内:口縁部-底部コナテ	第V区域 L34・35/遊歩道上 Y34・35/遊歩道上 5/1区に寄る	
74	土俵苔 小皿	日: 4.5 高: 2.0	色: 良好 暗緑色	植物形 軟質 2/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部内側に波あり/口唇部は丸く収める	外:口縁部コナテ/体部-底部平テ後部 高脚 内:口縁部-体部コナテ/底部テ	第V区域 E37/遊歩道 5/1区に寄る 口縁部高脚型/打穴1	
75	土俵苔 小皿	日: 9.4 高: 2.9 底: 2.6	色: 良好 淡緑褐色	植物形 軟質 2/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部で外方にやや傾斜/口唇部内側に波 あり/平テ	外:口縁部コナテ/体部-底部テ 内:口縁部-底部コナテ	第V区域 L34・35/遊歩道上 Y34・35/遊歩道上 1/1縁部凸出型/打穴2	
76	土俵苔 小皿	日: 9.4 高: 2.2	色: 良好 淡緑褐色	植物形 軟質 2/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部で外方にやや傾斜/口唇部内側に波 あり/底形:丸テ	外:口縁部コナテ/体部-底部テ後部 高脚 内:口縁部-体部コナテ/底平テ	第V区域 L34・35/遊歩道上 Y34・35/遊歩道上 1/1縁部全周スス付着	
77	土俵苔 小皿	日: 9.1 高: 2.1 底: 2.8	色: 良好 暗緑色	植物形 軟質 2/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部外反/口唇部は丸く収める 底形:平テ/中央凸出	外:口縁部コナテ/体部-底部テ後部 高脚 内:口縁部-底部コナテ	第V区域 L34・35/遊歩道上 Y34・35/遊歩道上 1/1縁部全周スス付着 1/1区に寄る	
78	土俵苔 小皿	日: 12.4 高: 2.0 底: 6.0	色: 良好 淡緑褐色	植物形 軟質 2/1	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部外反/口唇部に波あり/口唇部内 側に波あり 底形:平テ	外:口縁部コナテ/体部-底部平テ後部 高脚 内:口縁部-体部コナテ/底部テ	第V区域 L34・35/遊歩道上 Y34・35/遊歩道上 1/1縁部 部分スス付着	
79	土俵苔 小皿	日: 12.0 高: 2.2 底: 5.7	色: 良好 淡緑褐色	植物形 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部に波あり/口唇部は丸く収める	外:口縁部コナテ/体部-底部平テ後部 高脚 内:口縁部-体部コナテ/底部テ	第V区域 L34・35/遊歩道上 Y34・35/遊歩道上 1/1縁部全周スス付着	
80	土俵苔 小皿	日: 12.0 高: 2.1 底: 6.0	色: 良好 淡緑褐色	植物形 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部外反/口唇部は丸く収める/口唇部 に波あり 底形:平テ	外:口縁部コナテ/体部-底部ヘラテ 内:口縁部-体部コナテ/底高テ	第V区域 L34・35/遊歩道上 Y34・35/遊歩道上 1/1区に寄る 1/1縁部部分スス付着	
81	土俵苔 小皿	日: 15.8 高: 2.1 底: 3.4	色: 良好 淡緑褐色	植物形 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部に波あり/口唇部は丸く収める 底形:平テ	外:口縁部コナテ/体部平テ/底高脚型 /シマノ付上げ 内:口縁部-体部コナテ/底部テ	第V区域 L34・35/遊歩道上 Y34・35/遊歩道上 1/1区に寄る 外:高脚型	
82	土俵苔 小皿	日: 13.8 高: 2.3 底: 12.0	色: 良好 淡緑褐色	植物形 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部外反/口唇部は丸く収める/口唇 部に波あり 底形:平テ	外:口縁部コナテ/体部平テ後部高脚 型/高脚型 内:口縁部-体部コナテ/底部テ	第V区域 L34・35/遊歩道上 Y34・35/遊歩道上 1/1区に寄る 内:高脚型	
83	土俵苔 小皿	日: 14.0 高: 2.2 底: 7.2	色: 良好 淡緑褐色	植物形 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部やや外反/口唇部は丸く収める/口 唇部に波あり 底形:平テ	外:口縁部コナテ/体部-底部高脚テ後部 高脚 内:口縁部-体部コナテ/底部テ	第V区域 M04・35/遊歩道上 1/034・35/遊歩道上 1/1区に寄る 外:高脚型	
84	土俵苔 小皿	日: 41.6 高: 6.0	色: 良好 暗緑褐色	植物形 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部高脚型/平テ	外:口縁部-一部上位コナテ/シマノを 付上げ 内:口縁部コナテ/底部高脚型	第V区域 T33/遊歩道 外:高脚型	
85	土俵苔 小皿	日: 5.0 高: 24.6	色: 良好 暗茶色	植物形 軟質 1/8	口縁部:下動れ寸傾斜 底形:平テ	外:口縁部傾斜平テ/底部傾斜ヘラテ 内:傾斜下位傾斜テ	第V区域 S35・36/遊歩道上 外:傾斜下位高脚型	
86	土俵苔 小皿	日: 9.0 高: 3.7 底: 3.4	色: 良好 茶褐色	植物形 軟質 1/2	口縁部:やや内反して斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部で外方に傾斜/口唇部は丸く収める 底形:平テ	外:口縁部-体部中央位傾斜テ/体部下位 傾斜ヘラテ 内:口縁部-底部可動型テ	第V区域 S35・37/遊歩道上 外:傾斜下位高脚型	
87	土俵苔 小皿	日: 1.2 高: 4.5	色: 良好 暗緑色	植物形 軟質 1/8	口縁部:平テ	外:底部傾斜高脚型 内:底部中央に傾斜高脚型	第V区域 P06/遊歩道 外:傾斜下位高脚型	
88	土俵苔 小皿	日: 1.3 高: 6.2	色: 良好 暗緑色	植物形 軟質 1/4	口縁部:平テ高脚型	外:底部傾斜高脚型 内:底部中央に傾斜高脚型	第V区域 P06・T34/遊歩道 外:高脚型高脚型	
89	土俵苔 小皿	日: 11.6 高: 2.3 底: 3.0	色: 良好 暗緑色	植物形 軟質 2/10以下	口縁部:凸形 底形:凹形に波	外:体部傾斜高脚型	第V区域 Q25/遊歩道 外:口縁部高脚型	
90	土俵苔 小皿	日: 13.0 高: 1.5 底: 5.4	色: 良好 淡緑褐色	植物形 軟質 1/3	口縁部:外反して斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部に波あり 底形:平テ	外:口縁部コナテ/体部-底部高脚型 内:口縁部-底部高脚型	第V区域 S35/遊歩道 外:高脚型高脚型	
91	土俵苔 小皿	日: 12.2 高: 2.8 底: 7.0	色: 良好 淡緑褐色	植物形 軟質 1/6	口縁部:やや外反して斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底形:平テ	外:口縁部傾斜高脚型 内:傾斜下位高脚型	第V区域 S35・36/遊歩道上 外:高脚型高脚型	
92	土俵苔 小皿	日: 11.6 高: 2.3 底: 3.0	色: 良好 暗緑色	植物形 軟質 1/3	口縁部:内反して斜の外方へ立ち上がる/ 口唇部外反/口唇部は丸く収める/口唇部 に波あり/底形:平テ	外:底部傾斜ヘラテ	第V区域 S34・35/遊歩道上 Y34・35/遊歩道上 第I区域 E35/遊歩道 外:高脚型高脚型	

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
93	白磁 皿	口: 15.2 高: 3.4 径: 7.4	焼: 良好 色: オリーブ	胎土 1/8	1.縁部: 内反して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 縁部に華雲 内: 底面中央に彫刻花文/底面周囲に雲線	第V区城 I27・28/砂利混成褐色土 外: 底面~高台縁面露出
94	青磁 浅鉢	高: 1.7 径: 8.0	焼: やや不良 色: オリーブ	胎土 1/20以下	縁部: 内反して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	外: 縁部に蓮華花文 内: 外側に蓮華花文	第V区城 0・8・K34・35/濃褐色土 外: 高台縁面露出
95	白磁 碗花皿	口: 11.0 高: 2.2	焼: 良好 色: 白灰色	胎土 1/10以下	1.縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める/口唇部を割出し花弁状にする	外: 縁部に蓮華花文 内: 外側に蓮華花文	第V区城 F32/濃褐色
96	白磁 皿	口: 10.6 高: 2.5 径: 3.0	焼: 良好 色: 透白	胎土 1/8	1.縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部や外反/口唇部は丸く収める 底部: 凸凹底		第V区城 539・30/青褐色土 136/濃褐色 第1区城 1・25/青褐色土 外: 高台縁面露出
97	白磁 皿	高: 2.8 径: 9.7	焼: 良好 色: 白色	胎土 1/5	縁部: 内湾して外方へ立ち上がる 底部: 削出高台		第V区城 K33・35/濃褐色 外: 高台縁面露出
98	白磁 皿	高: 1.3 径: 9.8	焼: 良好 色: 白灰色	胎土 1/5	底部: 削出高台		第V区城 G17・18/赤褐色土 外: 高台縁面露出
99	白磁 杯	口: 7.4 高: 2.2	焼: 良好 色: 白灰色	胎土 1/10以下	口唇部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口唇部に外側に蓮華花文 内: 口唇部~縁部に蓮華花文	第V区城 K33/濃褐色
100	青磁 皿	口: 12.4 高: 2.2 径: 8.0	焼: 良好 色: オリーブ	胎土 1/20以下	口唇部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: ベテ高台	内: 口唇部に内側開線/底面に草花文・雲線	第V区城 I36/濃褐色 外: 底面~高台縁面露出
101	白磁 皿	高: 1.2 径: 4.4	焼: 良好 色: 黄白色	胎土 1/10以下	底部: 削出高台		第V区城 S35/淡・砂利混土 外: 高台縁面露出
102	青磁 杯	口: 6.6 高: 2.1	焼: 良好 色: 白色	胎土 1/10以下	口唇部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部外反/口唇部は丸く収める	外: 1.縁部に内側開線/外側に草花文 内: 口唇部に内側アラスタ文・雲線	第V区城 K34・35/濃褐色褐色土 K34・35/濃褐色褐色土
103	青磁 皿	高: 1.2 径: 3.0	焼: 良好 色: 透白	胎土 1/10以下	底部: 凸凹底	内: 底面中央に内側開線・雲線	第V区城 S36/濃褐色 外: 高台縁面露出
104	青磁 皿	高: 1.3 径: 2.0	焼: 良好 色: 透青灰色	胎土 1/8	底部: 凸凹底	外: 縁部下側に内側開線・雲線・草花文 内: 底面中央に内側開線・雲線	第V区城 K28・35/濃褐色 外: 高台縁面露出
105	青磁 碗	高: 2.5 径: 4.0	焼: 良好 色: 透白	胎土 1/4	縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 底部: 削出高台	外: 高台に内側の彫刻/底面に1.天祥年号の草文・彫刻 内: 底面中央に内側開線・雲線	第V区城 G24/濃褐色 外: 高台縁面露出
106	青磁 碗	高: 1.8 径: 3.0	焼: 良好 色: 褐色	胎土 1/10以下	縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 底部: 削出高台	外: 底面彫刻ヘラクレス	第V区城 G25/褐色土 外: 縁部下側に底面露出

第Ⅲ区域遺構出土土器(PL.53 第50~53図)

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
107	青磁 皿	口: 11.1 高: 2.1	焼: 良好 色: 灰褐色	胎土 1/8	1.縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部を内反して外方へ延縮/口唇部は丸く収める	外: 1.縁部~体部開線ナゲ 内: 口唇部~体部開線ナゲ	第Ⅲ区城 K21/S5A782
108	青磁 碗	高: 12.9 径: 20.4 径: 16.3	焼: 良好 色: 濃褐色	胎土 1/4	縁部: 下底に割刻 底部: 平底/中央に浮彫草文	外: 縁部開線ナゲ/底面縁線トナン 内: 縁部開線ナゲ/底部ナゲ	第Ⅲ区城 K21/S5A782 B'24・25/濃褐色
109	白磁 碗	口: 10.0 高: 4.2	焼: 良好 色: 透灰褐色	胎土 1/10以下	口唇部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 1.縁部~体部開線ナゲ 内: 1.縁部~体部開線ナゲ	第Ⅲ区城 A'21/S4A782
110	白磁 皿	高: 1.4 径: 9.0	焼: 良好 色: 透明灰色	胎土 1/8	底部: 削出高台		第Ⅲ区城 K21/S5A782 外: 高台縁面露出
111	青磁 皿	口: 13.0 高: 2.2	焼: 良好 色: 透白	胎土 1/10以下	口唇部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部外反/口唇部は丸く収める	外: 口唇部に内側開線 内: 口唇部に内側アラスタ文・雲線	第Ⅲ区城 I32/S5A784
112	白磁 杯	口: 7.2 高: 2.2	焼: 良好 色: 透白	胎土 1/3	口唇部: 湾やかた湾曲 縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/内側縁部: 削出高台	外: 縁部に輪を入れる	第Ⅲ区城 I29/S5A784 外: 高台縁面露出
113	白磁 碗花皿	高: 2.0 径: 6.6	焼: 良好 色: 白色	胎土 1/5	縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	外: 縁部に蓮華花文/底面中央に内側開線・雲線 内: 縁部に蓮華花文	第Ⅲ区城 G'25/S4A783 外: 高台縁面露出
114	白磁 碗花皿	口: 11.8 高: 2.1 径: 6.8	焼: 良好 色: 褐色	胎土 1/4	縁部: 湾やかた湾曲/口唇部は丸く収める 縁部: 内湾して外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	外: 縁部に蓮華花文 内: 縁部に蓮華花文	第Ⅲ区城 G'25/S4A783 外: 高台縁面露出
115	青磁 皿	口: 10.0 高: 3.6	焼: 良好 色: 透白	胎土 1/10以下	1.縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部内湾/口唇部は丸く収める		第Ⅲ区城 G'25/S4A783

単位:cm

No	器種	法	量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
116	白磁 鉢	裏: 底:	1.7 3.0	焼: 色:	良好 透白色	輪造 1/8	底彫: 側面高台	第Ⅱ区城 K22・23/S3260 外: 高台陶器露出
117	灰化 分土瓦	天: 高: 底:	7.9 1.1 8.0	焼: 色:	良好 透白色	輪造 1/10以下	口縁部: 短く上方へ立ち上がる/口縁部は丸く収める	外: 口縁部に外側面2/3・内側に1個縁1 第Ⅱ区城 Y23/S3260
118	青磁 壺	胴: 底:	2.0 7.4	焼: 色:	良好 透青アツ	輪造 1/5	底彫: 側面高台	内: 底面中央に彫刻花文/底面周縁に溝彫 第Ⅱ区城 O24/S4170 E29/S54823 外: 底面周縁露出
119	灰化 陶器 香炉	高: 底:	4.0 7.0	焼: 色:	良好 黒色	輪造 1/8	体形: 寸胴形 丸形: 平足	外: 体部刻線ナデ 内: 体部刻線ナデ 第Ⅱ区城 O26/S4160 外: 底面周縁露出

第Ⅲ区域遺構出土土器(Pl. 53 第51~53回)

単位:cm

No	器種	法	量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
120	土師器 小皿	口: 高: 底:	8.0 1.9 4.0	焼: 色:	良好 黄褐色	輪造 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部内側に段あり 底面: 平造	外: 口縁部へ体部ナデ後縁露出 内: 口縁部へ体部ナデ 第Ⅲ区城 A'23/S4170 外: 口縁に直付
121	磁器 碗	口: 高:	4.2 10.0	焼: 色:	良好 白色	輪造 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 断面: 中心で膨らむ	外: 口縁部へ体部ナデコナデ/断面直上位 にヘラ記号 内: 口縁部へ体部ナデコナデ/断面直上位 ナゲリ 第Ⅲ区城 Y24/S4170 外: 断面直上位
122	黒色 磁器 鉢	口: 高: 底:	28.8 10.5 10.0	焼: 色:	平白 白褐色	輪造 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部平足/口縁部内側に浅い凹溝1 底面: 平造	外: 口縁部へ体部中位刻線ナデ/体部直上 位へラズリ/全体厚縁 内: 口縁部へ体部刻線ナデ/径2.6cm・9条 の影1/体部直上位へ底面露出 第Ⅲ区城 K21/S4170
123	磁器 鉢	口: 高:	23.0 12.0	焼: 色:	良好 灰白	輪造 1/8	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部平足/口縁部内側に浅い凹溝1 底面: 平造	外: 口縁部へ体部直上位刻線ナデ/断面直上 位露出 内: 口縁部へ体部刻線ナデ 第Ⅲ区城 K23/S4170
124	白磁 鉢	口: 高:	9.0 2.2	焼: 色:	良好 白褐色	輪造 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める	第Ⅲ区城 Y24/S4170
125	白磁 鉢	口: 高:	14.0 3.0	焼: 色:	良好 透白色	輪造 1/10以下	口縁部: 内凹して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部や外縁1/10以下丸く収める	第Ⅲ区城 K23/S4170
126	磁器 鉢	口: 高: 底:	42.0 17.0 17.5	焼: 色:	良好 淡茶褐色	輪造 2/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部内側に浅い凹溝1 断面: 平足	外: 口縁部へ体部中位刻線ナデ/体部直上 位へラズリ/底面直上位/底面平造露出/シ ンク・ナゲリ 内: 口縁部へ体部刻線ナデ/径2.7cm・9条 の影1/断面直上位 第Ⅲ区城 E'23/S41817 C'24/S41800 C'23/S4178 J'24/遺構露出
127	磁器 鉢	口: 高: 底:	25.0 9.8 13.9	焼: 色:	良好 茶褐色	輪造 白色紋子 彫刻 2/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部内側に刻線して平足/口縁部内側に 浅い凹溝1 断面: 平足	外: 口縁部へ体部直上位刻線ナデ/断面直上 位露出/断面直上位ナゲリ・ナゲリ 内: 口縁部へ体部刻線ナデ 第Ⅲ区城 C'23/S41817 J'24/遺構露出
128	灰化 磁器 碗	口: 高:	18.8 26.4	焼: 色:	不良 灰赤褐色	輪造 白色紋子 彫刻 1/2	口縁部: やや外傾して短く立ち上がる/口 縁部平足 断面: 直上位で張り出し下位で窄まる	外: 口縁部へ体部直上位刻線ナデ/断面直上 位露出/断面直上位ナゲリ・ナゲリ 内: 口縁部へ体部刻線ナデ/断面直上位 ナゲリ 第Ⅲ区城 B'24/S1817 B'22/S3260 U27・28/S34854 C'23/S28941 C'24/遺構露出
129	白磁 碗	口: 高:	1.8 5.0	焼: 色:	良好 透白色	輪造 1/10以下	底彫: 側面高台	第Ⅲ区城 Y24/S1816 A'28/遺構露出 外: 底面へ高台陶器露出
130	灰化 碗	口: 高: 底:	14.8 6.5 5.4	焼: 色:	良好 透茶褐色	輪造 2/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 底面: 側面高台	外: 口縁部: 外側面直上・底面中央に露出ナ ゲリ・内文・横線1 内: 口縁部: 外側面直上/底面中央に露出ナ ゲリ・内文・横線1 第Ⅲ区城 U25・26/S1816 K28・K29・Y29/遺構露出 外: 高台陶器露出
131	土師器 小皿	口: 高: 底:	7.9 1.5 8.5	焼: 色:	良好 白褐色	輪造 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 底面: 平造	外: 口縁部直上位刻線ナデ/体部直上位ナゲ リ 内: 口縁部へ体部ナデ 第Ⅲ区城 E'25/S41816 B'26/S4160
132	灰化 陶器 火鉢	高: 底:	8.5 12.6	焼: 色:	不良 明茶褐色	輪造 1/10以下	体部: 寸胴形 丸形: 平足	外: 体部刻線ナデ/断面直上 位露出 内: 体部直上位刻線ナデ 第Ⅲ区城 B'24/S41816 外: 底面直上位露出
133	青磁 碗	高: 底:	3.3 4.3	焼: 色:	良好 透青アツ	輪造 1/2	体部: 内凹して斜め外方へ立ち上がる 底面: 側面高台	外: 体部直上位刻線直上文 内: 底面中央に文字・彫刻花文 第Ⅲ区城 B'26/S41816 B'25/遺構露出 外: 底面周縁露出
134	土師器 小皿	口: 高: 底:	6.5 1.6 2.0	焼: 色:	良好 白褐色	輪造 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部外縁1/10以下内側に段あり 底面: 平造	外: 口縁部直上位刻線ナデ/断面直上位 露出 内: 口縁部直上位刻線ナデ/底面直上位 露出 第Ⅲ区城 B'25/S41813 外: 口縁に直付
135	土師器 小皿	口: 高: 底:	7.0 1.7 1.7	焼: 色:	良好 黄褐色	輪造 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 断面: 平足	外: 口縁部直上位刻線ナデ/断面直上 位露出/断面直上位ナゲリ 内: 口縁部直上位刻線ナデ/断面直上位 露出 第Ⅲ区城 K23/S41813 外: 口縁に直付

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地 備 考
136	土師器 小皿	口: 8.9 高: 1.8 底: 4.3	焼色: 良好 白褐色	胎土残存 数粒 4/5	1 縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部や外方に折曲/口縁部に段あり 底部: 平底	外: 1 縁部コナナ/底部: 底部ナテ後部 折曲 内: 1 縁部-底部コナナ/底部ナテ	奈良区役 Z25/S24813 片口状に並む 外: 備考あり
137	土師器 小皿	口: 9.6 高: 2.9 底: 3.7	焼色: 良好 淡褐色	胎土残存 数粒 4/5	1 縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1 縁部に段あり 底部: 平底	外: 1 縁部コナナ/底部: 底部ナテ後部 折曲 内: 1 縁部-底部コナナ/底部ナテ	奈良区役 Z25/S24813 片口状に並む 口縁部下段スチ付有
138	土師器 小皿	口: 11.2 高: 2.1 底: 5.0	焼色: 良好 褐色	胎土残存 数粒 4/5	1 縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部や外方に折曲/口縁部に段あり 底部: 平底	外: 1 縁部コナナ/底部: 底部ナテ後部 折曲 内: 1 縁部-底部コナナ/底部ナテ	奈良区役 Z25/S24813 片口状に並む 外: 内スチ付有
139	土師器 小皿	口: 11.5 高: 2.1 底: 5.8	焼色: 良好 褐色	胎土残存 数粒 2/1	1 縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部や外方に折曲/口縁部に段あり 底部: 平底	外: 1 縁部コナナ/底部: 底部ナテ後部 折曲 内: 1 縁部-底部コナナ/底部ナテ	奈良区役 Z25/S24813 片口状に並む 1 縁部-底部スチ付有
140	土師器 小皿	口: 11.0 高: 2.0 底: 6.0	焼色: 良好 淡褐色	胎土残存 数粒 3/1	1 縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1 縁部は丸く収める 底部: 平底	外: 1 縁部コナナ/底部: 底部ナテ後部 折曲 内: 1 縁部-底部コナナ/底部ナテ	奈良区役 Z25/S24813 片口状に並む
141	土師器 小皿	口: 11.0 高: 2.1 底: 5.3	焼色: 良好 淡褐色	胎土残存 数粒 4/5	1 縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1 縁部は丸く収める 底部: 平底	外: 1 縁部コナナ/底部: 底部ナテ 内: 1 縁部-底部コナナ/底部ナテ	奈良区役 Z25/S24813 片口状に並む 口縁部下段スチ付有 外: 備考あり
142	弥生 土師器 大皿	口: 5.3 高: 3.0 底: 5.5	焼色: 良好 黒褐色	胎土 1/1	1 縁部: 円蓋して斜め外方へ立ち上がる/口縁部 は丸く収める 底部: 底部上段に大きく丸む 底部: 平底	外: 口縁部-底部中央に折曲/底部中央に 折曲 内: 口縁部-底部下段に折曲ナテ	奈良区役 Z25/S24811 外: 底部下段に底蓋面あり
143	青磁 碗	口: 12.0 高: 3.3	焼色: 良好 青オリーブ	胎土 1/10以下	1 縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める	外: 1 縁部-底部に銀彩蓮花文	奈良区役 Z25/S248.3 #27 - 28/青磁面
144	赤灰 杯	高: 1.3 底: 2.8	焼色: 良好 赤褐色	胎土 1/6	1 縁部: 中央に内湾して斜め外方へ立ち上 がる 底部: 側出高台	外: 底部中央に銀彩蓮花 内: 底部中央に銀彩蓮花文と蓮紋	奈良区役 Z25/S24813 外: 裏面備有蓋
145	赤灰 杯	高: 1.0 底: 5.0	焼色: 良好 赤褐色	胎土 1/10以下	1 縁部: 側出高台	外: 高台に銀彩蓮花 内: 高台中央に銀彩蓮花文・蓮紋	奈良区役 Z25/S24813 外: 高台備有蓋
146	土師器 小皿	口: 10.0 高: 2.2 底: 5.0	焼色: 良好 白褐色	胎土残存 数粒 1/1	1 縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める/口縁部に段あり 底部: 平底	外: 1 縁部コナナ/底部: 底部ナテ 内: 1 縁部-底部コナナ/底部ナテ	奈良区役 Z25/S24813 片口状に並む 1 縁部/4周スチ付有
147	青磁 碗	口: 15.2 高: 3.0	焼色: 良好 青オリーブ	胎土 1/8	1 縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める	外: 1 縁部中央 内: 1 縁部中央/底部に銀彩蓮花文	奈良区役 Z25/S24815 外: 真入多し
148	鉄血 四耳瓶	口: 29.3 高: 27.0 底: 3.0	焼色: 良好 黒色	胎土 1/6	胴部: 上段で直り下り/胴部上段に耳状流 し 底部: 平底	外: 胴部1 段に斜ナテ/胴部中央-底部中央 にヘラスリ/シャープな仕上げ 内: 胴部上段-下部に斜ナテ	奈良区役 Z25/S24815 #25 - 26/鉄血面 #30 - 230/鉄血面 外: 底部下段に胎 内: 底部中央
149	白磁 鉢	口: 12.2 高: 2.9 底: 7.0	焼色: 良好 透肉灰色	胎土 2/3	1 縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部や外方に段あり/口縁部に段あり 底部: 側出高台	外: 1 縁部中央に銀彩蓮花文 内: 1 縁部中央に銀彩蓮花文	奈良区役 Z25/S24804 #30/透肉面 外: 高台に備有蓋 内: 高台に備有蓋
150	赤灰 皿	高: 1.3 底: 7.0	焼色: 良好 赤褐色	胎土 1/10以下	1 縁部: 側出高台	外: 高台に銀彩蓮花 内: 高台中央に銀彩蓮花文	奈良区役 Z27/S34831 外: 高台に備有蓋 内: 高台に備有蓋
151	縄文晩 群	口: 40.0 高: 14.0	焼色: 不良 暗褐色	胎土残存 数粒 2/8	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部や外方に折曲/口縁部に段あり 底部: 平底	外: 1 縁部-底部下段に斜ナテ 内: 1 縁部-底部中央に斜ナテ/胎土・胎土 の多い部分	奈良区役 Z25/S24834 #25 - 26/縄文面 外: 口縁部スチ付有 内: 胎土
152	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.8 底: 3.6	焼色: 良好 褐色	胎土残存 数粒 1/1	1 縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部に段あり 底部: 平底	外: 1 縁部コナナ/底部: 底部ナテ後部 折曲 内: 1 縁部-底部コナナ/底部ナテ	奈良区役 Z27/S34842 片口状に並む
153	淡緑 缸	高: 1.2 底: 6.4	焼色: 良好 暗褐色	胎土 1/10以下	1 縁部: 側出高台	内: 底部に側出高台	奈良区役 #1 - 227 - 28/S34842
154	灰土器 香炉	口: 17.2 高: 5.2 底: 16.8	焼色: 不良 褐色	胎土残存 数粒 1/10以下	1 縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/1 縁 部はやや内湾 底部: 寸割形	外: 1 縁部-底部ナテ/底部中央に銀彩 ・金彩 内: 1 縁部-底部ナテ	奈良区役 Z26 - 27/S34842
155	青磁 碗	高: 1.9 底: 5.0	焼色: やや良好 青オリーブ	胎土 1/10以下	1 縁部: 側出高台	外: 高台に銀彩蓮花 内: 高台中央に銀彩蓮花文	奈良区役 Z25/S24842 外: 高台に備有蓋
156	青磁 碗	口: 11.0 高: 2.6	焼色: 良好 青オリーブ	胎土 1/10以下	1 縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 1 縁部は丸く収める	外: 1 縁部-底部に銀彩蓮花文 内: 1 縁部-底部に銀彩蓮花	奈良区役 Z27/S34842

単位:cc

No	器種	法 量	焼成/色調	胎上 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
157	白磁 碗	口: 12.0 高: 4.0	焼 色: 良好 淡緑灰色	胎線 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部-体部に縦刻蓮文 内:底面中央に刻花文	新井区 226/33642 横濱市の写し
158	青磁 碗	口: 2.0 高: 3.4	焼 色: 良好 濃オリーブ	胎線 1/10以下	底面:側出高台	内:底面中央に刻花文	新井区 226/33642
159	青磁 碗	口: 28.1 高: 3.6	焼 色: 良好 外:濃オリーブ	胎線 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部-体部に縦刻蓮文 内:底面中央に刻花文	新井区 226/33642
160	白磁 碗	口: 17.8 高: 2.6	焼 色: 良好 白色	胎線 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部はやや内湾し口唇部は丸く収める	外:口縁部-体部に縦刻蓮文 内:底面中央に刻花文	新井区 226/33642
161	中国製 磁器 壺	高: 8.0 底: 11.2	焼 色: 良好 褐色	胎線 1/10以下	頸部:上部で張り出す 底面:平底	外:頸部下に刻花文 内:底面中央に刻花文	新井区 226/33642 B・C23・24/遺構 内:兼部下位-伏拝遺跡 内:反瀬自然露出
162	瀬戸式 磁器 大目鉢	口: 10.4 高: 5.2	焼 色: 良好 明茶色	胎線 1/3	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方に膨出(口唇部は丸く外側へ 丸く収める)	外:口縁部-体部中央に刻花文/体部下位 刻花ヘラズリ/シャープな仕上げ/底面刻 花ヘラズリ 内:頸部下位刻花ナデ	新井区 E'24/33649 外:兼部下位露出
163	青磁 碗	口: 12.6 高: 3.0	焼 色: 良好 濃オリーブ	胎線 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部-体部に縦刻蓮文 内:体部下位に平花文	新井区 E'24/33649
164	青磁 碗	口: 1.8 高: 8.8	焼 色: 良好 濃オリーブ	胎線 1/10以下	底面:側出高台	外:口縁部-体部に縦刻蓮文 内:底面中央に刻花文	新井区 E'24/33649 C27/遺構 内:底面刻花露出

第IV区域遺構出土土器(PL.54 第53回)

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎上 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
165	灰胎 大目鉢	口: 16.0 高: 9.6	焼 色: 良好 赤褐色	胎線 3/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方に膨出(口唇部は丸く外側へ 丸く収める)	外:口縁部-体部中央に刻花ナデ 内:口唇部-体部中央に刻花ナデ	新井区 326・36/58479 外:体部下位露出
166	灰胎 一筋鉢	高: 3.1 底: 24.0	焼 色: 良好 灰褐色	胎線 1/3以下	体部:側出で盛り返す	外:頸部下位刻花ナデ/頸部1/5赤染 内:頸部下位刻花ナデ	新井区 E'24/33670
167	青磁 碗	口: 1.2 高: 6.0	焼 色: 良好 濃オリーブ	胎線 1/10以下	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	内:体部に刻花文	新井区 326/58479
168	白磁 碗	口: 1.2 高: 6.0	焼 色: 良好 透青白色	胎線 1/10以下	底面:側出高台	外:底面中央に刻花文-胎線	新井区 326/58479 外:底面刻花露出
169	白磁 皿	口: 9.6 高: 5.8	焼 色: 良好 白色	胎線 2/2	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方に膨出(口唇部は丸く収める) 底面:側出高台	外:口縁部-体部に縦刻蓮文 内:底面中央に刻花文	新井区 326/58479 外:口唇部露出
170	白磁 皿	口: 19.2 高: 3.2	焼 色: 良好 透白色	胎線 2/8	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方に膨出(口唇部は丸く収める) 底面:側出高台	外:口縁部-体部に縦刻蓮文 内:底面中央に刻花文	新井区 326/58479
171	白磁 碗	口: 2.1 高: 2.4	焼 色: 良好 透白色	胎線 1/10以下	底面:側出高台	外:口縁部-体部に縦刻蓮文 内:底面中央に刻花文	新井区 326/58479 内:底面刻花露出
172	土器製 小皿	口: 7.0 高: 1.7	焼 色: 良好 灰褐色	胎線 無残	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外:口縁部(口ナデ)/体部-底面ナデ後部露 出 内:口縁部-底面コナデ	新井区 E'24/33647 外:口唇部露出
173	土器製 小皿	口: 7.3 高: 1.6	焼 色: 良好 灰褐色	胎線 無残	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方に膨出(口唇部は丸く収める) 底面:平底	外:口縁部-底面ナデ後部露 出 内:口縁部-底面ナデ	新井区 E'24/33647 外:口唇部露出
174	瀬戸式 磁器 茶入	口: 1.9 高: 7.9	焼 色: 良好 赤色	胎線 1/10以下	体部:体部下位内湾して立ち上がる	外:体部下位刻花ヘラズリ/底面ナデ 外:体部刻花ナデ	新井区 E'24/33648 外:体部刻花露出/体部下位 ナデ付
175	土器製 小皿	口: 8.6 高: 2.3 底: 4.9	焼 色: 良好 赤褐色	胎線 無残	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方に膨出(口唇部は丸く収める) 底面:平底	外:口縁部コナデ/体部-底面ナデ後部露 出 内:口縁部-底面コナデ	新井区 230/59496 外:口唇部露出/体部下位 ナデ付
176	土器製 小皿	口: 6.8 高: 2.1 底: 4.5	焼 色: 良好 明褐色	胎線 無残	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方に膨出(口唇部は丸く収める) 底面:平底	外:口縁部コナデ/体部ナデ後部露出/底 面ナデ 内:口縁部コナデ/底面ナデ	新井区 230/59496 外:口唇部露出 内:口唇部コナデ付
177	土器製 小皿	口: 9.0 高: 2.1 底: 4.9	焼 色: 良好 赤褐色	胎線 無残	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方に膨出(口唇部は丸く収める) 底面:平底	外:口縁部コナデ/体部ナデ後部露出 内:口縁部-底面ナデ	新井区 230/59496 外:口唇部露出/体部下位 ナデ付
178	土器製 小皿	口: 9.0 高: 2.2 底: 3.4	焼 色: 良好 褐色	胎線 無残	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部で上方に膨出(口唇部は丸く収める) 底面:平底	外:口縁部コナデ/体部ナデ後部露出 内:口縁部コナデ/底面ナデ	新井区 230/59496 外:口唇部露出/体部下位 ナデ付

単位:cm

No	器種	法	量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考	
179	土師器 小皿	口: 高: 底:	12.0 2.1 6.8	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部:外方にやや傾斜/口唇部は丸く収 める 底部:平底	外:口縁部コナナク/体部~底部コナ/シ ャブな仕上げ 内:口縁部コナナク/底部ナク	第IV区域 Z30/S34806 I-1(部分)~紐ス付着 外:底面温湯遺構 内:底面遺構
180	土師器 小皿	口: 高: 底:	12.0 2.5 6.9	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部:内側に段あり/口唇部内側に段あり 底部:平底	外:口縁部コナナク/体部~底部ナク 内:口縁部コナナク/底部ナク	第IV区域 Z30/S34806 I-1(部分)~紐ス付着 片口以:重付 外:底面温湯遺構 内:底面遺構
181	土師器 小皿	口: 高: 底:	11.6 2.3 6.0	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部:内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底/中央やや凹む	外:口縁部コナナク/体部ナク/底面未調整 内:口縁部コナナク/底部ナク	第IV区域 Z30/S34806 I-1(部分)~紐ス付着 片口以:重付 外:底面遺構 内:底面遺構
182	土師器 小皿	口: 高: 底:	17.0 2.8 7.4	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部コナナク/体部~底部ナク 内:口縁部コナナク/底部ナク	第IV区域 Z30/S34806
183	土師器 小皿	口: 高: 底:	4.9 2.7 12.7	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/10以下	口縁部:やや傾斜して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第IV区域 Z30/S34806
184	土師器 小皿	口: 高: 底:	5.6 2.8 2.7	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/10以下	口縁部:やや内傾して上方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第IV区域 Z30/S34806
185	土師器 小皿	口: 高: 底:	10.0 2.9 6.0	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/10以下	口縁部:やや内傾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第IV区域 Z30/S34806
186	土師器 小皿	口: 高: 底:	1.6 2.2	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/8	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第IV区域 Z30/S34806 I-1(部分)~紐ス付着 外:底面温湯遺構 内:底面温湯遺構

第V区域溝溝出土土器(PL.54~58 第54~60図)

単位:cm

No	器種	法	量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考	
187	土師器 小皿	口: 高: 底:	6.5 1.5	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第V区域 Z36/S34788 方口以:重付 口唇部丸く収める
188	土師器 小皿	口: 高: 底:	2.2 3.0	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/2	口縁部:内傾して上方へ立ち上がる/口唇 部丸く収める	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第V区域 Z36/S34788 方口以:重付 口唇部丸く収める
189	土師器 小皿	口: 高: 底:	12.2 10.0	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/2	口縁部:やや傾斜して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第V区域 Z36/S34788 方口以:重付 口唇部丸く収める
190	土師器 小皿	口: 高: 底:	23.6 6.2	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/10以下	口縁部:やや傾斜して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第V区域 Z36/S34788
191	土師器 小皿	口: 高: 底:	11.6 5.9	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/6	口縁部:やや傾斜して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第V区域 Z36/S34788 方口以:重付 口唇部丸く収める
192	土師器 小皿	口: 高: 底:	11.4 3.5	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第V区域 Z36/S34788 方口以:重付 口唇部丸く収める
193	土師器 小皿	口: 高: 底:	11.4 3.7 6.4	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/10以下	口縁部:内傾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第V区域 Z36/S34788 方口以:重付 口唇部丸く収める
194	土師器 小皿	口: 高: 底:	11.8 2.5 6.0	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 4/5	口縁部:やや内傾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第V区域 Z36/S34788 方口以:重付 口唇部丸く収める
195	土師器 小皿	口: 高: 底:	46.0 20.0 28.1	焼: 色:	良好 茶褐色	胎土 残存 1/2	口縁部:やや内傾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める	外:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる 内:口縁部~直線状に斜め外方へ立ち上がる	第V区域 Z36/S34788 方口以:重付 口唇部丸く収める

8. 第104次調査遺物

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
196	発行皿	高: 1.6 径: 5.5	良好 色: 透青白色	輪織 1/10以下	底部: 多深型	内: 底面中央に乳頭型草文・調整	第V区成 R36/S34786 外: 裏面輪線跡
197	片輪 大貝類	口: 10.0 高: 3.9	良好 色: 透灰色	輪織 1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部-一部中位回転ナテ 内: 口縁部-一部中位回転ナテ	第V区成 3 - 039/S34786 目入多し
198	青磁 盃	口: 28.6 高: 8.2 底: 14.8	良好 色: オリーブ	輪織 1/6	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部外方へやや内湾/口唇部内側に 交互に絞めあり 底部: 漸出山台	外: 口縁部-やや内湾した文 内: 口縁部-一部輪線文	第V区成 R6 - 039/S34786 S35/S34801 T35 - 36/S34798 器重区域 V28 - 24/S34876 外: 裏面輪線跡
199	白磁 杯	口: 6.4 高: 3.4	良好 色: 白灰	輪織 1/10以下	口縁部: やや内湾して上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める		第V区成 2 - 327/S34786 外: 口唇部跡
200	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.6 底: 3.0	良好 色: 淡黄褐色	輪織跡 散在 1/7	口縁部: 漸出状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部内側に絞めあり/口唇部丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部-一部中位回転ナテ後部 深型 内: 口縁部-一部中位回転ナテ	第V区成 L31/S34787 F11/S34787 口唇部平底ス付着
201	緑青焼 杯類	口: 49.0 高: 7.0	良好 色: 黄褐色	輪織跡 散在 土師文 1/10以下	口縁部: 漸出状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部丸く収める	外: 口縁部-一部下位回転ヘラケスリ 内: 口唇部-一部中位回転ナテ/器重 の跡/口唇部/一部中位に絞め跡	第V区成 R50 - 31/S34787 R32/器重跡 器重区域 R27/器重跡
202	滑石焼 洗瓶 水入	高: 3.7 底: 6.0	良好 色: 青白色	輪織 1/10以下	底部: 平底	外: 底部下位-一部回転ヘラケスリ 内: 底部下位回転ナテ	第V区成 L29 - 30/S34787 外: 底部下位遺物
203	発行 皿	口: 2.0 高: 5.7 底: 4.0	良好 色: 透青白色	輪織 1/2	口縁部: 縁やかに内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 漸出山台	外: 口縁部に乳頭型草文/一部下位に乳頭 文/器重跡 内: 口縁部に乳頭型草文/中央に乳頭 文・調整	第V区成 R27/S34786 R36/S34788 R35/S34801 外: 底部-一角白濁 痕跡
204	朝鮮 鉢	口: 11.0 高: 3.9	良好 色: 暗赤褐色	輪織 1/10以下	口縁部: 上方に突起留面して立ち上がる 底部: 輪線跡/内湾して立ち上がる/器重跡 付く	外: 口縁部-一部中位回転ナテ 内: 口縁部-一部内湾ナテ	第V区成 R27/S34846 R36/S34824
205	石焼 桜花煎	口: 14.0 高: 4.9 底: 8.0	良好 色: オリーブ	輪織 1/8	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇 部外方/口唇部は丸く収める/口唇部を押し 圧し、花弁状にする	内: 口縁部に扇形花文がめぐる	第V区成 R32/S34781 R36/S34804 外: 底部輪線跡
206	青磁 花托	口: 9.0 高: 9.1 底: 10.3	良好 色: オリーブ	輪織 1/2	口縁部: やや内湾して或る程度上方へ立ち 上がる 底部: 凹形/下部に凹状の突起をもつ 底面/やや外方へ開く	外: 口縁部-一部中位回転ナテ/口唇部に乳 頭型草文/乳頭に草文文様跡/器重上・下部 に輪線跡・斜行輪線跡/底部草文花文跡 内: 口縁部-一部中位回転ナテ	第V区成 R32/S35781 R - 533/S34801 T35 - 36/S34798 外: 底部輪線跡
207	発行 皿	口: 11.0 高: 2.4 底: 4.0	良好 色: 青白色	輪織 1/8	底部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる /口唇部は丸く収める 底部: 多深型	外: 口縁部と底に乳頭型草文・斜交文/一部 下位に乳頭文 内: 口縁部に乳頭型草文/底部に乳頭文	第V区成 R32/S34791 第V区成 R23 - 24/S34785 外: 裏面輪線跡
208	白磁 皿	高: 1.4 底: 3.0	良好 色: 淡白灰	輪織 1/10以下	底部: 多深型		第V区成 R32/S34791 外: 裏面輪線跡
209	朝鮮焼 杯類	口: 28.0 高: 7.2	良好 色: 淡黄褐色	輪織跡 白色散在 厚底 1/8	口縁部: 弧線状/内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める	外: 口縁部-一部中位回転ナテ/シャープ 文付 内: 口縁部-一部中位回転ナテ	第V区成 0 - 531 - 32/S34797
210	朝鮮焼 杯類	口: 31.2 高: 11.0 底: 14.0	良好 色: 淡黄褐色	輪織跡 口唇部散在 厚底 7割目 1/2	口縁部: 弧線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部内側に横きず目 状形/厚底	外: 口縁部-一部下位回転ヘラケスリ 乳/底部ナテ/底部中心にヘラケ足 内: 口縁部-一部中位回転ナテ/一部下位 コナテ/底部平底	第V区成 S35/S34797 5 - T34 - 35/器重 跡
211	土師器 小皿	口: 7.8 高: 4.8	良好 色: 淡褐色	輪織跡 散在 1/7	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部で外方にやや内湾/口唇部内 側に絞め	外: 口縁部-一部下位後部深型 内: 口縁部-一部中位回転ナテ	第V区成 S32 - 33/S34797 R12/S34797 口唇部部分ス付着
212	土師器 小皿	口: 7.1 高: 4.7	良好 色: 淡黄褐色	輪織跡 散在 1/7	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部内側に絞め 痕跡/丸底	外: 口縁部-一部下位後部深型 内: 口縁部-一部中位コナテ	第V区成 S32 - 33/S34797 R12/S34797 口唇部部分ス付着

単位:cm

No	種群	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出上地点 備 考
213	土師器 小皿	口: 8.4 高: 3.3 底: 2.4	焼色: 良好 褐色	胎砂粒 数値 2/2	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口縁部外方にやや凹み/口縁部は丸 く収める 底部: 丸底	外: 口縁部~底縁上部後指 線部 内: 口縁部~底縁下部	帯V区域 134 - 35/SD4797 片口状に歪む
214	土師器 小皿	口: 8.4 高: 1.9 底: 2.0	焼色: 良好 白褐色	胎砂粒 数値 1/1	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口縁部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁上部後指 線部 内: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁下部	帯V区域 332 - 33/SD4797 片口状に歪む
215	土師器 小皿	口: 8.0 高: 2.0 底: 2.8	焼色: 良好 白褐色	胎砂粒 数値 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口縁部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁上部後指 線部 内: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁下部	帯V区域 332 - 33/SD4797 片口状に歪む 口縁部平断面ス付着
216	土師器 小皿	口: 11.0 高: 2.1 底: 2.5	焼色: 良好 白褐色	胎砂粒 数値 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上 がる/ 口縁部に段あり/口縁部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁上部後指 線部 内: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁下部	帯V区域 332 - 33/SD4797 片口状に歪む 口縁部~底縁中央 ス付着
217	土師器 小皿	口: 14.0 高: 2.0 底: 7.5	焼色: 良好 淡褐色	胎砂粒 数値 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上 がる/ 口縁部外方に段あり/口縁部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁上部後指 線部 内: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁下部	帯V区域 332 - 33/SD4797 片口状に歪む
218	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.3 底: 7.3	焼色: 良好 淡褐色	胎砂粒 数値 2/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上 がる/ 口縁部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁上部後指 線部 内: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁下部	帯V区域 332 - 33/SD4797 片口状に歪む 外: 底縁黒染 内: 底縁黒染
219	土師器 小皿	口: 12.6 高: 2.3 底: 7.8	焼色: 良好 褐色	胎砂粒 数値 2/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上 がる/ 口縁部に段あり/口縁部内側に段あり 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁上部後指 線部 内: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁下部	帯V区域 332 - 33/SD4797 外: 底縁黒染 内: 底縁黒染
220	土師器 小皿	口: 12.2 高: 2.3 底: 6.5	焼色: 良好 白褐色	胎砂粒 数値 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上 がる/ 口縁部に段あり/口縁部内側に段あり 底部: 平底/中央やや凹む/窪みの存在	外: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁上部後指 線部 内: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁下部	帯V区域 332 - 33/SD4797
221	土師器 小皿	口: 12.3 高: 2.4 底: 6.3	焼色: 良好 淡褐色	胎砂粒 数値 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上 がる/ 口縁部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁上部後指 線部 内: 口縁部ヨコナテ/底部~底縁下部	帯V区域 332 - 33/SD4797 口縁部/4角ス付着
222	灰釉 皿	高: 1.8 底: 5.8	焼色: 良好 緑黄色	胎砂 1/10以下	底縁: 削出高台	内: 底縁に黒染め文・黒染	帯V区域 332/SD4797 外: 底縁中央凸動
223	西田 鉢	口: 26.0 高: 5.0 底: 16.9	焼色: 良好 オリーブ	胎砂 1/2	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口縁部外方へやや凹み/口縁部内側に 受口状の段あり 底部: 削出高台	外: 口縁部シャープな仕上げ	帯V区域 332 T31/SD4797 036/SD4793 外: 口縁部~底縁下段 凸動
224	吉野 鉢	高: 2.3 底: 6.5	焼色: 良好 オリーブ	胎砂 1/10以下	底縁: 削出高台	内: 底縁に黒染め文・黒染	帯V区域 331 - 32/SD4797 031/032 322/SAC783 外: 底縁黒染線状
225	赤土 鉢	高: 1.0 底: 5.0	焼色: 良好 白色	胎砂 1/10以下	底縁: 削出高台	外: 口縁部~底縁に黒染め文・黒染 内: 底縁に黒染め文・黒染	帯V区域 732 - 33/SD4797 外: 底縁中央凸動
226	赤土 良茶碗	口: 8.4 高: 5.4 底: 5.2	焼色: 良好 透白色	胎砂 1/8	口縁部: やや内湾して上方へ立ち上 がる/口 縁部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部上位に凹線部/底部に赤土付 /底部下部に黒染め高台に黒染め 内: 口縁部~底縁中央凸動・黒染	帯V区域 735 - 36/SD4797 031/032 A'23/SD4780 外: 高台黒染線状
227	赤土 陶茶碗	高: 4.7 底: 4.2	焼色: 良好 透白色	胎砂 1/10以下	底縁: 削出高台	外: 底縁に凹線部/底縁に黒染 内: 底縁に黒染め文・黒染	帯V区域 R28/SD4797 外: 高台黒染線状
228	赤土 陶茶碗	口: 19.2 高: 13.5	焼色: 良好 褐色	胎砂粒 白色砂子 数値 1/10以下	口縁部: 底縁から外湾して斜め立ち上 がる/口縁部内側に凹み/口縁部内側に段あり 底部: 削出高台	外: 口縁部~底縁ヨコナテ/底縁上位ナ テ・凹線部 内: 口縁部ヨコナテ/底縁上位ナ テ・凹線部	帯V区域 124 - 26/SD4798 123 - 35/底縁黒 外: 底縁上位黒染
229	黒土 陶茶碗	口: 13.2 高: 17.5	焼色: 良好 黒色	胎砂粒 白色砂子 数値 1/10以下	口縁部: 底縁から外湾して斜め立ち上 がる/ 口縁部内側に段あり	外: 口縁部~底縁ヨコナテ/底縁上位ナ テ・凹線部 内: 口縁部~底縁ヨコナテ/底縁上位ナ テ・凹線部	帯V区域 735 - 36/SD4798 S36/底縁黒 外: 底縁上位黒染・ス ス付着 内: 底縁ス付着
230	黒土 陶茶碗	口: 34.0 高: 29.3 底: 15.0	焼色: 良好 褐色	胎砂粒 白色砂子 数値 1/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上 がる/ 口縁部は丸く収める/口縁部内側に凹み・凹線部 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナテ/底縁上位ナ テ・凹線部 内: 口縁部ヨコナテ/底縁上位ナ テ・凹線部 内: 口縁部ヨコナテ/底縁上位ナ テ・凹線部	帯V区域 134 - 35/SD4798 031/032 127/SD4804

単位:cc

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出上地点 考
250	土師器 小瓶	口: 9.2 高: 2.0 底: 5.2	色: 良好 褐色 底: 褐色	胎砂残 存量 3/1	口縁部: やや内凹して斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部や外反/口縁部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S30・31/S34798 片口部に凸心 I. 胎部全周スス付着 外: 胎部下位スス付着
251	土師器 小瓶	口: 9.0 高: 2.5 底: 4.8	色: 良好 褐色	胎砂残 存量 3/1	口縁部: やや内凹して斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部内側に段あり/口縁部や外反/平 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S30・31/S34798 片口部に凸心 I. 胎部全周スス付着
252	土師器 小瓶	口: 10.2 高: 2.1 底: 5.0	色: 良好 褐色 底: 褐色	胎砂残 存量 3/1	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部内側に段あり 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S31/S34798 片口部に凸心 外: スス付着
253	土師器 小瓶	口: 2.6 高: 2.2 底: 4.6	色: 良好 褐色	胎砂残 存量 3/1	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S31/S34798 I. 胎部全周スス付着 外: 胎部全周スス付着
254	土師器 小瓶	口: 10.0 高: 2.0 底: 5.3	色: 良好 褐色 底: 褐色	胎砂残 存量 3/4	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり/底面周縁部 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S31/S34798 片口部に凸心 I. 胎部全周スス付着
255	土師器 小瓶	口: 10.8 高: 2.2 底: 6.0	色: 良好 褐色 底: 褐色	胎砂残 存量 3/2	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S31/S34798 I. 胎部全周スス付着
256	土師器 小瓶	口: 10.2 高: 2.2 底: 5.2	色: 良好 褐色	胎砂残 存量 3/1	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S31/S34798 I. 胎部全周スス付着
257	土師器 小瓶	口: 10.5 高: 2.5 底: 5.9	色: 良好 褐色	胎砂残 存量 3/1	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部や外反/口縁部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり/シャープな凸心 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S28/S34798
258	土師器 小瓶	口: 12.0 高: 2.0 底: 6.5	色: 良好 褐色	胎砂残 存量 3/1	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部や外反/口縁部内側に段あり 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S28/S34798
259	土師器 小瓶	口: 12.0 高: 2.3 底: 7.3	色: 良好 褐色	胎砂残 存量 3/4	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部に段あり/口縁部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S28/S34798 口縁部全周スス付着 外: 胎部全周スス付着 内: 胎部全周スス付着
260	土師器 小瓶	口: 12.5 高: 2.0 底: 8.2	色: 良好 褐色 底: 褐色	胎砂残 存量 1/2	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部に段あり/口縁部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S31/S34798 外: 胎部全周スス付着 内: 胎部全周スス付着
261	土師器 小瓶	口: 14.0 高: 2.2 底: 8.0	色: 良好 褐色 底: 褐色	胎砂残 存量 1/4	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部に段あり/口縁部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S31/S34798 I. 胎部全周スス付着
262	土師器 小瓶	口: 14.9 高: 2.5 底: 8.5	色: 良好 褐色 底: 褐色	胎砂残 存量 1/2	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部に段あり/口縁部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S31/S34798 口縁部全周スス付着 外: 胎部全周スス付着 内: 胎部全周スス付着
263	土師器 小瓶	口: 12.0 高: 2.2 底: 7.0	色: 良好 褐色 底: 褐色	胎砂残 存量 1/1	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部や外反/口縁部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S30・31/S34798 I. 胎部全周スス付着
264	土師器 小瓶	口: 11.0 高: 2.2 底: 6.9	色: 良好 褐色	胎砂残 存量 1/1	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部に段あり/口縁部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S30・31/S34798 I. 胎部全周スス付着 外: 胎部全周スス付着
265	土師器 小瓶	口: 12.0 高: 2.5 底: 8.0	色: 良好 褐色 底: 褐色	胎砂残 存量 4/5	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部に段あり/口縁部内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり/胎部全周 内: 胎部全周スス付着	第V区城 S30・31/S34798 片口部に凸心 I. 胎部全周スス付着 外: 胎部全周スス付着 内: 胎部全周スス付着
266	土師器 小瓶	口: 12.0 高: 2.5 底: 6.4	色: 良好 褐色 底: 褐色	胎砂残 存量 3/2	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部は丸く収める 底部: 平底/中央やや凹む	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S30・31/S34798 外: 胎部全周スス付着 内: 胎部全周スス付着
267	土師器 小瓶	口: 12.0 高: 2.0 底: 6.5	色: 良好 褐色 底: 褐色	胎砂残 存量 3/1	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部や外反/口縁部に段あり/口縁部 は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり/シャープな凸心 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 S30・31/S34798
268	土師器 小瓶	口: 12.0 高: 2.2 底: 6.6	色: 良好 褐色	胎砂残 存量 3/1	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口縁部に段あり/口縁部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部コナナテ/体部-底部ナテ後指 痕あり 内: 口縁部-体部コナナテ/底部ナテ	第V区城 T31/S34798 片口部に凸心 I. 胎部全周スス付着 内: 胎部全周スス付着

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
269	土師器 小甕	口: 12.0 高: 2.6 底: 5.4	焼: 良好 色: 桜色	横切線 軟質 1/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部やや外反/口縁部に段あり/口縁部 内側に段あり 底部: 平底/丸み/中央やや凹む	外: 口縁部コナテ/底部~底部ナテ後部 段部 内: 口縁部~底部コナテ/直線ナテ/直線 溝線区画	第V区域 S31/S34799
270	土師器 小甕	口: 11.8 高: 2.3 底: 6.0	焼: 良好 色: 淡青褐色	横切線 軟質 2/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部やや外反/口縁部に段あり/口縁部 内側に段あり 底部: 平底	外: 口縁部コナテ/底部~底部ナテ後部 段部 内: 口縁部~底部コナテ/底部ナテ	第V区域 S41/S34799 口縁部部分的にス テ付
271	瀬戸赤塗 磁器 大日鏡	口: 13.0 高: 6.7 底: 4.0	焼: 良好 色: 茶褐色	縦 1/6	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口縁部上方に段部/口縁部は厚く外側に 丸く収める 底部: 船の目高台	外: 口縁部~底部中位段部ナテ/底部下位 段部へナテナテ 内: 口縁部~底部底面ナテナテ	第VI区域 T35~36/S34798 外: 底部~底部下位 段部
272	瀬戸赤塗 磁器 大日鏡	口: 11.8 高: 5.0 底: 5.8	焼: 良好 色: 茶褐色	横線 1/6	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口縁 部上方に段部/口縁部は厚く外側に丸く 収める	外: 口縁部~底部中位段部ナテ/底部下位 段部へナテナテ 内: 口縁部~底部中位段部ナテ	第VI区域 T35~36/S34798 外: 底部~底部下位 段部
273	瀬戸赤塗 磁器 大日鏡	口: 12.4 高: 5.7	焼: 良好 色: 茶褐色	横線 1/5	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口縁 部上方に段部/口縁部は厚く外側に丸く 収める	外: 口縁部~底部中位段部ナテ/底部下位 段部へナテナテ 内: 口縁部~底部下位段部ナテ	第VI区域 S30~31/S34798 外: 底部~底部下位 段部
274	瀬戸赤塗 磁器 大日鏡	口: 11.6 高: 5.7	焼: 良好 色: 褐色	横線 1/5	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口縁 部上方に段部/口縁部は厚く外側に丸く 収める	外: 口縁部~底部中位段部ナテ/底部下位 段部へナテナテ 内: 口縁部~底部下位段部ナテ	第VI区域 S32~33/S34798 外: 底部~底部下位 段部
275	瀬戸赤塗 磁器 大日鏡	口: 12.0 高: 4.7	焼: 良好 色: 褐色	横線 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口縁 部上方に段部/口縁部は厚く外側に丸く 収める	外: 口縁部~底部中位段部ナテ/底部下位 段部へナテナテ 内: 口縁部~底部下位段部ナテ	第VI区域 T35/S34798 外: 底部~底部下位 段部
276	瀬戸赤塗 磁器 茶入	口: 1.3 高: 5.8 底: 5.3	焼: 良好 色: 褐色	横線 1/10以下	底部: 平底	外: 底部段部へナテナテ 内: 底部下位段部ナテ/右側溝部	第VI区域 T35~36/S34798 外: 底部~底部下位 段部
277	瀬戸赤塗 磁器 茶入	口: 3.0 高: 3.2	焼: 良好 色: 褐色	横線 1/5	底部: 中位で直らむ 底部: 平底	外: 底部中位段部ナテ/底部中位段部直 内: 底部下位段部ナテ	第VI区域 T35/S34798 外: 底部~底部下位 段部
278	灰地 土師	口: 30.8 高: 3.6	焼: 不良 色: 淡青褐色	横切線 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に内湾して上方へ立ち上がる/ 口縁部中央に凹み/口縁部中央に凹み 底部: 平底	外: 口縁部~底部中位段部ナテ/口縁部直線 内: 口縁部~底部中位段部	第VI区域 T35/S34798
279	古磁 蓋	口: 8.0 高: 2.2	焼: 良好 色: 赤オリーブ	横線 1/8	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる	外: 口縁部~底部に段部直線 内: 口縁部~底部に段部直線	第VI区域 S29/S34798
280	古磁 蓋	口: 2.0 高: 5.0	焼: 良好 色: オリーブ	横線 1/10以下	底部: 内湾して外方へ立ち上がる 底部: 側面高台	外: 底部中位に中央に付付者 内: 底部中央に「寿」・鳥雲文様・團扇 区画	第VI区域 S29~30/S34798 外: 底部高台直線
281	古磁 蓋	口: 4.1 高: 5.3	焼: 良好 色: オリーブ	横線 1/5	底部: 内湾して外方へ立ち上がる 底部: 側面高台	外: 底部中央に中央に付付者 内: 底部中央に「寿」・鳥雲文様・團扇 区画	第VI区域 S29/S34798 外: 底部高台直線
282	古磁 蓋	口: 3.1 高: 5.1	焼: 良好 色: 赤オリーブ	横線 1/10以下	底部: 手動形/直線状に上方へ立ち上がる 底部: 側面高台	外: 底部中央に中央に付付者 内: 底部中央に「寿」・鳥雲文様・團扇 区画	第VI区域 S29/S34798 外: 底部高台直線
283	古磁 蓋	口: 4.6 高: 7.0	焼: 良好 色: 赤オリーブ	横線 1/6	底部: 手動形/直線状に上方へ立ち上がる 底部: 中央に側面高台/直線状に側面高台	外: 底部中央に中央に付付者 内: 底部中央に中央に付付者	第VI区域 T35/S34798 S32~33/S34797 外: 側面高台で段部
284	古磁 蓋	口: 24.7 高: 20.3	焼: 良好 色: 赤オリーブ	横線 1/4	底部: やや内湾して直線状に上方へ立ち上 がる 底部: 上位で直らむ/下位で直らむ	外: 底部中央に中央に付付者・横線7/7部直線1位 下に段部ナテ・直線文様/直線下に交差す 直線文様等 内: 底部中央に中央に付付者	第VI区域 T34~37/S34798 兼付区域 S32/S34848
285	白磁 蓋	口: 18.0 高: 4.6 底: 10.6	焼: 不良 色: 白灰色	横線 1/5	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部やや外反/口縁部は丸く収める 底部: 舟形高台	外: 口縁部~底部中位段部ナテ/底部下位 段部へナテナテ 内: 口縁部~底部中位段部ナテ	第VI区域 T35~36/S34798 S35区画・底部直線 外: 底部高台直線
286	白磁 皿	口: 2.9 高: 9.0	焼: 良好 色: 白灰色	横線 1/8	底部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 舟形高台	外: 口縁部~底部中位段部ナテ/底部下位 段部へナテナテ 内: 口縁部~底部中位段部ナテ	第VI区域 S30~31/S34798 外: 底部高台直線
287	白磁 皿	口: 1.3 高: 5.0	焼: 良好 色: 褐色	横線 1/5	底部: 側面高台	外: 底部高台直線	第VI区域 T35~36/S34798 外: 底部高台直線
288	白磁 蓋	口: 11.0 高: 2.4	焼: 良好 色: 白色	横線 1/10以下	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部やや外反/口縁部は丸く収める	外: 口縁部~底部中位段部ナテ/底部下位 段部へナテナテ 内: 口縁部~底部中位段部ナテ	第VI区域 T35/S34798 外: 底部高台直線
289	白磁 梅文皿	口: 1.6 高: 6.9	焼: 良好 色: 白色	横線 1/10以下	底部: やや内湾して立ち上がる 底部: 側面高台	外: 底部高台直線/底部に段部・横線2 内: 底部高台直線	第VI区域 T35/S34798 外: 底部高台直線
290	白磁 蓋	口: 1.9 高: 2.0	焼: 良好 色: 白色	横線 1/5	底部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 側面高台	外: 底部高台直線	第VI区域 S30~31/S34798 外: 底部高台直線

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地・考 考
291	金付皿	高: 2.2 底: 5.0	焼: 良好 色: 透白色	緑釉 1/8	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 側面高台	外: 高台に呉須陶繪/底部に呉須陶繪 内: 底面に呉須陶繪・文様・縦文・横文・ 陶繪	華V区域 S27・28/SD4798 華Ⅲ区域 K23/S54780 外: 高台陶器露出
292	金付皿	高: 2.1 底: 5.8	焼: 良好 色: 透白色	緑釉 1/10以下	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 側面高台	外: 体下部に呉須青花文/高台に陶繪 内: 底面に呉須陶繪2・横文	華V区域 S25/S54798 華Ⅰ区域 G25/遺構内 外: 高台陶器露出
293	金付皿	高: 1.5 底: 7.8	焼: 良好 色: 透白色	黄釉 1/10以下	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 側面高台	外: 高台に呉須陶繪 内: 底面中央に呉須アラベスク文	華V区域 S30・31/SD4798 外: 高台陶器露出
294	金付皿	口: 12.8 高: 2.8 底: 4.0	焼: 良好 色: 透白色	緑釉 1/3	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口縁部や外縁/口唇部は丸く収める 底部: 側面高台	外: 口縁部一体下に呉須青花文/高台/ 底面に文様 内: 口縁部一体下にアラベスク文/底部に: アラベスク文・陶繪	華V区域 T35・36/SD4798 T34/遺構内 外: 高台陶器露出
295	金付皿	口: 12.0 高: 2.8 底: 5.3	焼: 良好 色: 透青白色	緑釉 1/8	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 側面高台	外: 口縁部一体下に呉須青花文/高台に: 陶繪 内: 口縁部一体下に呉須青花文/底部に: 横文・陶繪	華V区域 S30・31/SD4798 外: 高台陶器露出
296	金付皿	口: 16.0 高: 3.0 底: 2.8	焼: 良好 色: 透青白色	緑釉 5/8	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 器底	外: 口縁部上に呉須陶繪1・横文文・横 文・各半下に器底文・陶繪 内: 口縁部に呉須陶繪2・底面中央に輪郭 青花文・陶繪	華V区域 T35・36/SD4798 T35/S54801 外: 高台陶器露出
297	金付皿	口: 12.0 高: 2.8 底: 4.0	焼: 良好 色: 透青白色	緑釉 3/4	体部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 器底	外: 口縁部に呉須陶繪1・底部中央に文 ・器底文・陶繪	華V区域 T34・35/SD4798 S35/遺構内 華Ⅱ区域 T38・033・34/遺構内 外: 高台陶器露出
298	銀付 水鉢	高: 4.8	焼: 良好 色: 濁灰色	緑釉 1/10以下	口縁部: 外反して上方に立ち上がる 体部: 胴部1段張り出す	外: 口縁部1段張り出す 内: 胴部1段張り出す	華V区域 T35・36/SD4798 遺構内 外: 内・白土露
299	タイ製 四角 皿	口: 19.0 高: 88.5 底: 42.4 裏: 25.9	焼: 良好 色: 墨黑色	黄釉 2/2	口縁部: 胴部から強く外反/口縁部内縁は 尖り/口唇部は丸く収める 胴部: 上段で張り出し、半環状の把手がつく 底部: 平皿	外: 口縁部一体上部に器底文・横文・ 半環状の把手/胴部中央に器底文/底 部ナテ 内: 口縁部一体上部に器底文/胴部中央 に器底文/底面ナテ 底部に: 器底文の再浮	華V区域 T35・36/SD4798 T35/S54801 M・K33/遺構内 外: 器底ナテ露出 横文
300	土加髷 小皿	口: 9.4 高: 2.1 底: 4.6	焼: 良好 色: 淡緑灰色	黄釉 1/2	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部や外縁/口唇部に丸く収め り/口唇部: 平縁/中央凹む	外: 口縁部コナテ/体部一体部ナテ露出 胴部 内: 口縁部一体部コナテ/底部ナテ	華V区域 T35・36/SD4798 T35/S54801 M・K33/遺構内 外: 器底ナテ露出 横文
301	土加髷 小皿	口: 20.0 高: 2.1 底: 5.0	焼: 良好 色: 粉紫色	黄釉 1/2	口縁部: 器底面に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部や外縁/口唇部に丸く収めり/口 唇部: 内凹みに収めり 底部: 平縁/中央凹む	外: 口縁部コナテ/体部一体部ナテ露出 胴部 内: 口縁部一体部コナテ/底部ナテ	華V区域 M1・32/SD4794 口1Rに器底
302	土加髷 小皿	口: 8.0 高: 1.8	焼: 良好 色: 桃紫色	黄釉 1/1	口縁部: 器底面に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部: 内凹みに収めり 底部: 丸縁	外: 口縁部コナテ/体部一体部ナテ露出 胴部 内: 口縁部一体部コナテ	華V区域 M1・32/SD4794 口1Rに器底
303	瀬戸式 飯碗 茶入	口: 4.0 高: 3.2 底: 6.0	焼: 良好 色: 茶紫色	黄釉 1/8	口縁部: 器底面/器底面立ち上がる 体部: 中央で凹む	外: 口縁部一体部中央凹みナテ 内: 口縁部一体部中央凹みナテ	華V区域 S22/S54796 外: 底面一体部下段 露出
304	瀬戸式 飯碗 茶入	口: 3.1 高: 2.2 底: 5.0	焼: 良好 色: 茶紫色	黄釉 1/8	口縁部: 器底面/器底面立ち上がる 体部: 中央で凹む	外: 口縁部一体部中央凹みナテ 内: 口縁部一体部中央凹みナテ	華V区域 S22/S54796
305	磁器 茶碗	口: 9.2 高: 2.0 底: 3.5	焼: 良好 色: 粉紫色	黄釉 1/10以下	口縁部: 胴部から外反して立ち上がる/ 口唇部平反/口唇部内縁あり 胴部: 上段で張り出す	外: 口縁部一体上部に器底文/胴部上段ナ テ 内: 口縁部一体上部に器底文/胴部上段ナ テ 器底文・器底文	華V区域 M2/S54796 S32/遺構内 外: 器底ナテ露出
306	土加髷 小皿	口: 9.2 高: 2.0 底: 3.5	焼: 良好 色: 黒色	黄釉 1/1	口縁部: 器底面に斜め外方へ立ち上 がる/ 口唇部: 丸く収めり/口唇部は丸く収める 底部: 平縁	外: 口縁部コナテ/体部一体部ナテ露出 胴部 内: 口縁部一体部コナテ/底部ナテ	華V区域 M1・32/SD4796 外: 内: 式底文ナテ露 出/口縁部: 器底面 丸く収め
307	土加髷 小皿	口: 10.6 高: 2.4 底: 6.0	焼: 良好 色: 粉紫色	黄釉 1/1	口縁部: 器底面に斜め外方へ立ち上 がる/ 口唇部: 丸く収めり/口唇部は丸く収める 底部: 平縁/中央凹む	外: 口縁部コナテ/体部一体部ナテ露出 胴部 内: 口縁部一体部コナテ/底部ナテ	華V区域 M1・32/SD4796 外: 内: 式底文ナテ露 出/口縁部: 器底面 丸く収め
308	青磁 皿	高: 1.3 底: 3.0	焼: 良好 色: オリーブ	緑釉 2/8	底部: 器底面		華V区域 M1/S54796 外: 高台陶器露出

8. 第104次調査遺物

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点
							備考
309	青磁 蓋		焼: 良好 色: 透オリブ	残痕 1/10以下	胎部: やや外傾して直線状に上方へ立ち上がる	外: 口縁部→頸部4枚ナデ・無割片ナ・無草文 内: 口縁部→頸部4枚ナデ	第V区域 L26/S04753
310	白磁 鉢	口: 11.4 高: 3.9 底: 6.0	焼: 良好 色: 白色	残痕 1/10以下	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部をやや反/口唇部は丸く収める 胎部: 引出高台	外: 口縁部→頸部4枚ナデ・無割片ナ・無草文 内: 口縁部→頸部4枚ナデ	第V区域 S29/S04600 外: 赤山園隣露出
311	白磁 飯椀 大目皿	口: 12.0 高: 8.3	焼: 良好 色: 黒色	残痕 1/5	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がり、口唇部で上方に屈曲/口唇部は丸く収める	外: 口縁部→体部中位凹転ナデ/体部→位凹転ヘラタズリ/シヤ・女仕上げ 内: 口縁部→体部下位凹転ナデ	第V区域 S29・30/S04793 外: 赤山園隣露出
312	青磁 鉢	口: 13.6 高: 2.2	焼: 良好 色: オリブ	残痕 1/8	口縁部: 外傾して立ち上がる	内: 口縁部→体部に無割片文	第V区域 S29/S04793
313	青磁 鉢	高: 2.6 底: 4.0	焼: 良好 色: 透オリブ	残痕 1/8	胎部: 引出高台	内: 胎部に無割片文・無割片	第V区域 S29/S04793 外: 赤山園隣露出
314	赤付 鉢	高: 1.9 底: 6.2	焼: 良好 色: 透赤色	残痕 1/8	胎部: 引出高台	外: 高台に外傾曲線1 内: 胎部中央に玉帯を斜す文	第V区域 S32/S04793 外: 赤山園隣露出
315	赤付 鉢	口: 12.8 高: 2.2 底: 8.0	焼: 良好 色: 透赤色	残痕 2/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 胎部: ベタコ台	内: 口縁部に無割片文/胎部に牡丹・草文・無割片	第V区域 S29/S04793 M33/遺構跡 外: 赤山園隣露出
316	青磁 椀 花目皿	口: 16.2 高: 4.2 底: 7.4	焼: 良好 色: 透オリブ	残痕 1/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部を押しし、底弁状にする 胎部: 引出高台	内: 口縁部→体部に無割片文・赤高文がめぐる/胎部に無割片文・無割片	第V区域 L33/S04755 M33/遺構跡 赤山園 S26・27/S04836 外: 赤山園隣露出
317	磁器 湯瓶 鉢	口: 32.6 高: 8.6 底: 15.6	焼: 良好 色: 透赤色	胎部 白磁粒子 多数 1/6	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部平直/口唇部内側に数あり 胎部: 平式	外: 口縁部→体部に無割片文/胎部無割片/胎部中央に玉帯を斜す文・赤高文の帯1	第V区域 L33/S04755 M33/遺構跡
318	赤付 湯瓶 鉢 大目皿	口: 12.0 高: 3.6	焼: 良好 色: 透赤色	残痕 1/6	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/ 口唇部内反/口唇部は丸く外傾し丸く収める	外: 口縁部→体部中位凹転ナデ/体部→位凹転ヘラタズリ/シヤ・女仕上げ 内: 口縁部→体部下位凹転ナデ	第V区域 M27・28/S04823
319	青磁 鉢 花目皿	口: 14.8 高: 2.6 底: 7.4	焼: 良好 色: オリブ	残痕 1/4	口縁部: 口縁部外反/口唇部は丸く収める/ 口唇部を押しし、底弁状にする 胎部: 引出高台	内: 口縁部→体部に無割片文・赤高文がめぐる/胎部に無割片文・無割片	第V区域 M33/S04423 M36・J36/遺構跡 外: 赤山園隣露出
320	赤付 鉢	口: 14.0 高: 1.8	焼: 良好 色: 透赤色	残痕 1/10以下	口縁部: 口縁部外反/口唇部は丸く収める	外: 口縁部→体部下位に無割片文・無割片 内: 口縁部→体部にアラベスク文	第V区域 M27・28/S04823
321	磁器 鉢	口: 15.0 高: 2.3	焼: 良好 色: 透赤色	残痕 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部→シヤ・女仕上げ	第V区域 M27・28/S04823
322	青磁 鉢 花目皿	口: 15.2 高: 3.6 底: 8.6	焼: 良好 色: オリブ	残痕 1/8	口縁部: 口縁部外反/口唇部は丸く収める/ 口唇部を押しし、底弁状にする 胎部: 引出高台	内: 口縁部→体部に無割片文・赤高文がめぐる/胎部に無割片文	第V区域 M1・65/S04824 外: 赤山園隣露出 赤山園 遺構跡
323	白磁 鉢	高: 1.6 底: 4.6	焼: 良好 色: 白色	残痕 1/10以下	胎部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる 胎部: 赤高文		第V区域 S25/S04824 外: 赤山園隣露出
324	白磁 鉢		焼: 良好 色: 黒緑色	残痕 1/10以下	口縁部: 口唇部内傾は凹面・交口状となる	外: 口縁部凹転ナデ 内: 口縁部凹転ナデ	第V区域 S25/S04824 赤山園 Y23/S0260
325	赤付 反耳 鉢	口: 5.5 高: 11.3 底: 7.6	焼: 良好 色: 透赤白色	残痕 1/4	口縁部: 丸く上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 胎部: 外反して上方へ立ち上がる 胎部: 中央に凹面/胎部で再び膨らみをもつ	外: 口縁部→胎部に無割片文・赤高文・無割片・アラベスク文・赤高文・胎部中央に牡丹・草文・無割片・胎部下位に玉帯文・無割片・胎部中央に玉帯文・無割片・胎部中央に玉帯文	第V区域 S27/S04824 赤山園 M27・28/遺構跡 外: 赤山園隣露出
326	磁器 湯瓶 鉢	口: 18.4 高: 13.4 底: 25.9	焼: 良好 色: 褐色	胎部 白磁粒子 多数 1/10以下	口縁部: やや外傾して立ち上がる/口唇部平直 胎部: 上段で張り出し下段で突まる	外: 口縁部→胎部下位凹転ナデ/胎部下位に赤高文・ヘラタズリ/胎部中央に下位凹転ナデ 内: 口縁部→胎部凹転ナデ/胎部下位に下位凹転ナデ	第V区域 Q1・R35/S04901 Q26/焼土
327	磁器 湯瓶 鉢	高: 18.7 底: 14.0	焼: 良好 色: 透赤色	胎部 白磁粒子 多数 1/4	胎部: 上段で張り出し下段で突まる 胎部: 平直	外: 胎部中央に下位凹転ナデ/胎部中央に胎部中央に下位凹転ナデ	第V区域 Q1・R35/S04901
328	磁器 湯瓶 鉢	口: 12.3 高: 34.3 底: 33.0 底: 17.5	焼: 良好 色: 透赤色	胎部 白磁粒子 多数 3/4	口縁部: 胎部から外反して開口唇部は丸く収める 胎部: 下段に中央で張り出す	外: 口縁部→胎部下位凹転ナデ/胎部下位に赤高文・ヘラタズリ/胎部中央に下位凹転ナデ 内: 口縁部→胎部下位凹転ナデ 胎部中央に胎部中央に下位凹転ナデ	第V区域 Q1・R35/S04901 S35/遺構跡

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出 土 地 点 備 考
329	埴輪 埴師	日: 20.8 高: 18.3 底: 22.8 底: 12.0	焼: 不点 色: 淡褐色	胎土 残存 数 少 白点 多 表面 土層 厚 1/3	1線部: 肥く内側に塗布する/1線部平直 2線部: 肥く内側に塗布する/1線部平直 割部: 寸割部/上位で張り出す 底部: 平直	外: 1線部-1線部上位にコナア/割部上位 に2線部ヘラケナリ/底面線部1線 内: 1線部-割部中間位にコナア/割部下位 に2線部ヘラケナリ	華V区域 R・S3/S24801 K36/遺構面
330	埴輪 埴師	日: 31.2 高: 10.5 底: 14.7	焼: 良好 色: 灰褐色	胎土 残存 数 少 白点 多 表面 土層 厚 1/4	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり 底部: 平直	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長/僅か下位-底面線部 内: 1線部-1線部下位にコナア/幅3.0cm・10cm の部目/底面線部	華V区域 M35/S248C1
331	埴輪 埴師	日: 41.7 高: 16.6 底: 18.4	焼: 良好 色: 灰褐色	胎土 残存 数 少 白点 多 表面 土層 厚 1/6	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長/底面線部 内: 1線部-1線部下位にコナア/幅3.4cm・11cm の部目/底面線部/底面線部	華V区域 Q・R35/S24801 S36/遺構面
332	土師器 小皿	口: 8.4 高: 2.0 底: 3.6	焼: 良好 色: 淡茶褐色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 4/8	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部内側に段あり 底部: 平直/中央凹む	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア	華V区域 K・R35/S24801 月11枚/土台 口調整:/4層ス入付着
333	土師器 小皿	日: 1.8 高: 8.2 底: 3.5	焼: 良好 色: 淡褐色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/1	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部内側に段あり 底部: 平直	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア	華V区域 S35/S24801 月11枚/土台 1線部:/4層ス入付着
334	土師器 小皿	日: 9.0 高: 2.0 底: 4.0	焼: 良好 色: 淡褐色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/2	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 R・S35/S248C1 1線部/4層ス入付着
335	土師器 小皿	日: 9.0 高: 1.4 底: 3.7	焼: 良好 色: 淡褐色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 3/4	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 R35/S24801 月11枚/土台 1線部-1線部下位付着
336	土師器 小皿	日: 6.3 高: 1.8 底: 2.1	焼: 良好 色: 暗褐色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/1	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部内側に段あり 底部: 平直	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア	華V区域 R35/S24801
337	土師器 小皿	日: 11.9 高: 2.4 底: 4.9	焼: 良好 色: 黄褐色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/3	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり 底部: 平直/中央凹む	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 R・S35/S24801 月11枚/土台
338	中国製 鉄胎 土師器	日: 10.6 高: 6.1 底: 3.8	焼: 良好 色: 褐色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/2	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 T35/S24801 各器底面-1線部下 位にコナア 外: 高台に付着
339	埴師 埴師	日: 12.0 高: 4.7	焼: 良好 色: 淡茶色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/5	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 Q・R35/S24801 1線部/4層ス入付着
340	埴師 埴師	高: 3.2 底: 6.0	焼: 良好 色: 濃赤褐色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/8	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 Q・R35/S24801 1線部-1線部下位に付着
341	埴師 埴師	高: 1.9 底: 8.0	焼: 良好 色: 暗褐色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/10以下	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 Q35/S24801 1線部-1線部下位に付着
342	埴師 埴師	高: 0.7 底: 2.8	焼: 良好 色: 暗褐色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/10以下	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 K35/S24801 1線部-1線部下位に付着
343	埴師 埴師	日: 3.0 高: 7.2 底: 6.5 底: 3.8	焼: 良好 色: 淡茶色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/1	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 R・S35/S24801 1線部-1線部下位に付着
344	埴師 埴師	高: 1.7 底: 5.8	焼: 良好 色: 淡茶色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/10以下	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 Q・R35/S24801 外: 底面線部トナ
345	埴師 埴師	高: 1.7 底: 5.8	焼: 良好 色: 淡茶色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/10以下	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 Q・R35/S24801 S36/遺構面 外: 1線部-1線部下位に付着
346	埴師 埴師	日: 15.2 高: 3.2	焼: 不点 色: 黄褐色	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/10以下	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 C・Z36/S248C1
347	埴師 埴師	高: 4.0 底: 5.0	焼: 良好 色: 濃オリーブ	胎土 残存 数 多 表面 土層 厚 1/8	1線部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 1線部平直/1線部内側に段あり/1線部 内側に段あり	外: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部 縦長 内: 1線部-1線部下位にコナア/底面線部	華V区域 Q・R35/S248C1 外: 底面線部線部

単位:cm

No	器種	法 量	焼成/色調	胎土 残存	形 状	調整 / 文様	出土地点 備 考
348	白磁 唐古壺		焼: 良好 色: 青白系	胎土 1/3以下	素面: 上位で取り出す	外: 胎前片付・唐草文 内: 胴部に紅土テ	第V区域 S35/S34801 新直区庫 Y27/S34842
349	白磁 椀花皿	口: 12.0 高: 2.7	焼: 良好 色: 白色	胎土 1/3以下	口縁部: 屈やかな湾弧/口唇部は丸く収める 体部: 内湾して外方へ立ち上がる	外: 体部に紅染文 内: 体部に紅染文	第V区域 Q・R35/S34801
350	白磁 椀花皿	高: 2.0 底: 6.0	焼: 良好 色: 造白色	胎土 1/6	体部: 屈やかな湾弧/内湾して外方へ立ち上がる	外: 体部に紅染文/底部中央に紅染1文字 口唇]の湾弧・湾弧2 内: 体部に紅染文	第V区域 Q・R35/S34801 外: 素台埋没露出
351	白磁 皿	高: 1.6 底: 6.5	焼: 良好 色: 造白色	胎土 1/6	体部: 素面上に斜め外方へ立ち上がる 底部: 削付露台	内: 底部に紅染文	第V区域 T35/S34801 外: 素台埋没露出
352	白磁 皿	口: 11.8 高: 2.5 底: 6.0	焼: 良好 色: 造白色	胎土 1/6	口縁部: やや外反して斜め外方へ立ち上がる 口唇部や外反/口唇部は丸く収める 底部: 削付露台		第V区域 T35/S34801 外: 素台埋没露出
353	白磁 皿	口: 11.8 高: 2.6 底: 6.0	焼: 良好 色: 白色	胎土 1/6	口縁部: 湾弧して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部や外反/口唇部は丸く収める 底部: 削付露台		第V区域 R・S35/S34801 外: 素台埋没露出
354	白磁 皿	口: 12.0 高: 3.0 底: 7.0	焼: 不良 色: 明白色	胎土 1/2	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部や外反/口唇部は丸く収める 底部: 削付露台		第V区域 Q・S35/S34801 外: 素台埋没露出
355	白磁 皿	口: 12.2 高: 3.1 底: 6.6	焼: 良好 色: 白色	胎土 1/4	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部や外反/口唇部は丸く収める 底部: 削付露台		第V区域 R・S35/S34801 外: 素台埋没露出
356	白磁 皿	口: 17.5 高: 4.3 底: 11.0	焼: 良好 色: 白色	胎土 4/5	口縁部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部や外反/口唇部は丸く収める 底部: 削付露台		第V区域 R・S35/S34801 外: 素台埋没露出
357	白磁 皿	高: 1.5 底: 10.0	焼: 良好 色: 白色	胎土 1/6	底部: 削付露台		第V区域 Q・R35/S34801 外: 素台埋没露出
358	中細型 茶碗	口: 15.0 高: 5.3	焼: 良好 色: 茶色	胎土 1/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部一部下位に紅土テ 内: 口縁部一部下に紅土テ	第V区域 T・S35/S34801 S35・36/砂質赤褐色土 外: 胎土埋没露出
359	赤付 杯	口: 6.9 高: 2.7	焼: 良好 色: 透青灰色	胎土 1/3以下	口縁部: やや外反して上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部上位に紅染細線1・体部に唐草文 内: 口唇部に紅染細線	第V区域 R・S35/S34801
360	赤付 碗	口: 16.0 高: 4.0	焼: 良好 色: 青白色	胎土 1/3以下	体部: やや内湾して斜め上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部上位に紅染細線1・唐草文/体部 下位に紅染文 内: 口縁部に紅染細線2	第V区域 T35/S34801
361	赤付 碗	口: 14.0 高: 5.0	焼: 良好 色: 透青白色	胎土 1/5	体部: やや内湾して斜め上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める	外: 口縁部上位に紅染細線1・唐草文/体部 下位に紅染文 内: 口縁部に紅染細線2	第V区域 T35/S34801
362	赤付 皿	口: 10.5 高: 2.8 底: 3.7	焼: 良好 色: 透青白色	胎土 1/5	体部: やや内湾して斜め上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 削付露台	外: 口縁部上位に紅染細線1/底部中央に唐草文・湾弧2 内: 口唇部に紅染細線1/底部中央に唐草文・湾弧2	第V区域 Q・R35/S34801 T36/灰白色粘質土 外: 素台埋没露出
363	赤付 皿	口: 12.0 高: 3.0 底: 4.4	焼: 良好 色: 透青白色	胎土 1/5	体部: やや内湾して斜め上方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 削付露台		第V区域 Q・R35/S34801 外: 素台埋没露出
364	赤付 壺	高: 4.3 底: 15.4	焼: 良好 色: 厚赤色	胎土 1/3以下	胴部: 体部]段で取り出す 底部: 平直	外: 体部下位に紅土テ 内: 体部下位に紅土テ	第V区域 S35/S34801 T31・33/S34797 杯・湯瓶

土製品(PL.38 第60図)

単位:cm/g

No	器種	長 径	孔 径	残 存	材質 色調	特 徴	出土地点
365	土罐	11.0 4.9	1.3 0.45:2	1/1	土質 黄褐色	上下端平削/ナア/ /棒巻き付付技法	第V区域不明 表土
366	土罐	11.4 4.3	1.1 0.48:6	1/1	土質 黄褐色	上下端平削/ナア/ /棒巻き付付技法	第V区域 T35・36/S34799
367	土罐	11.5 4.2	1.2 0.49:7	4/5	土質 黄褐色	上下端平削/ナア/ /棒巻き付付技法	第V区域不明 表土
368	土罐	8.7 3.6	1.1 0.39:2	1/1	土質 黄褐色	上下端平削/ナア/ /棒巻き付付技法/ /底削	第V区域 R36/S34793

単位:cm/g

No	器種	長 径	孔 径	残 存	材質 色調	特 徴	出土地点
369	土罐	8.0 3.6	1.1 0.6:2	3/4	土質 黄褐色	上下端平削/ナア/ /棒巻き付付技法	第V区域不明 表土
370	土罐	8.2 3.4	0.9 0.39:7	1/3	土質 黄褐色	上下端平削/ナア/ /棒巻き付付技法	第V区域 T36/S34801
371	土罐	8.0 3.8	1.4 0.51:7	1/1	土質 黄褐色	上下端平削/ナア/ /棒巻き付付技法	第V区域不明 表土

土製品(Pl. 58 - 第60・61回)

単位:cm/g

No	器種	長径	厚さ	残存	材質色調	特徴	出土地点
372	土製白磁	3.3 2.2	1.3 1.5	1/2	磁褐色 灰褐色	裏の器内面を打ち欠く	出土区域不明 表土
373	土製白磁	5.1 5.0	6.9 6.9	1/1	磁褐色	器口縁の器内面を打ち欠く	出土区域不明 表土
374	土製灰土	2.5 2.3	0.7 0.7	1/1	磁褐色	器口縁の器内面を打ち欠く	第V区域 Q40/S34820
375	青磁茶碗	2.6 3.2	2.5		青磁	板状の表面に打刺浮文/表面に打刺文飾/海貝文は底面の白	第IV区域 U25/S34830
376	タイ唐伝鉢	3.7 2.9	1.3	1/2	二色 青褐色	縦溝座	第V区域 S34-39/打刺 褐色土
No	器種	長径	高	残存	材質色調	特徴	出土地点
377	土製白磁	11.4	3.6	1/1	磁褐色 赤褐色	体部コノナア/底面コナア	出土区域不明 表土
378	土製白磁	6.4 10.9	6.0	1/5	磁褐色 灰色	体部コノナア/底面コナア/台座周面直線	B25/遺構面 Q25/遺構面 直線
379	土製白磁	11.2	7.4	1/4	磁褐色 赤褐色	体部コノナア/底面コナア/台座周面直線	出土区域不明 表土
380	土製白磁	14.3 14.9	3.4	1/2	磁褐色 赤褐色	横孔打刺/内/外打刺 横溝無糸・直線	出土区域不明 表土

金属製品(Pl. 59 - 第61回)

単位:cm/g

No	器種	長径	厚さ	残存	材質	特徴	出土地点
381	鉄釘	5.8 0.7	0.5 6.6	4/5	鉄製品	釘頭が湾曲した 後半部/両端方形	第V区域 R39/埋土褐色土
382	鉄釘	9.4 6.5	0.4 6.5	4/5	鉄製品	両端方形	第V区域 S35/S34901
383	鉄釘	13.7 0.9	0.5 18.8	4/5	鉄製品	両端方形	第V区域 S32/S34797
384	銅金具	4.1 2.0	1.1 2.0	1/2	金属製品	横溝に透子/穿孔/銅金具と毛部と/透子	第IV区域 Y30
385	銅金具	3.9 1.1	0.12 7.3	4/5	鉄製品	両端部	第V区域 S36/S34797
No	器種	口高	厚さ	残存	材質 <th>特徴</th> <th>出土地点</th>	特徴	出土地点
386	瓦皿	5.8 2.7	0.8 20.3	1/2	陶製品	1) 器部: 内面として 上方へ逆してたち がる/厚部12/5/底 面中央に直線 溝/長さ 2cm/径0.7 cm/重量24.3g	第V区域 R55/S34788
No	器種	長径	厚さ	残存	材質 <th>特徴</th> <th>出土地点</th>	特徴	出土地点
387	金釘	9.9 2.7	0.3	1/2	鉄製品	両端部	第V区域 S36/S34788
388	金釘	5.8 2.9	0.2	2/3	鉄製品	両端部	第V区域 S36/S34788
No	器種	口高	厚さ	残存	材質 <th>特徴</th> <th>出土地点</th>	特徴	出土地点
389	土	8.6 4.0	0.3 128.3	1/1	陶製品	浅い打刺/不定形 の透が付く	出土区域不明
No	器種	長径	高	残存	材質 <th>特徴</th> <th>出土地点</th>	特徴	出土地点
390	土製	5.4 6.9	1.4 6.3	4/5	銅製品	縦溝突起/厚さ0.8 mm/断面が平行し 合わず	第IV区域 V33/S34790
No	器種	長径	厚さ	残存	材質 <th>特徴</th> <th>出土地点</th>	特徴	出土地点
391	鉄鉢	5.3 0.3	0.3 2.6	1/5	鉄製品	地味本質/器内面 直線	出土区域不明 表土
392	鉄鉢	15.3 6.7	0.13 50.6	4/5	鉄製品	縦文/透付/長さ7.0 cm/断面が直線/器 内面直線	第IV区域 A25/遺構面 直線
393	土製	15.3 0.9	0.13 18.2	5/8	鉄製品	新調に木質	第V区域 R34/S34786
394	銅釘	5.0 2.5	0.15	1/2	銅製品	花形/横溝/透かし 糸部/断面直線	第IV区域 Y28/埋土
395	銅釘	4.0 2.0	0.05	1/1	銅製品	断面が直線/断面直 線/片直線	第V区域 T34/S34788

甲冑(Pl. 59 - 63 第61 - 66回)

単位:cm/g

No	器種	長さ	厚さ	残存	材質色調	特徴	出土地点
396	小札	5.7 2.6	0.24 3.7	1/1	鉄製品	伊予札/横溝	第IV区域 A'28/埋土褐色土
397	穴駒	32.6 15.6	0.4	1/4	鉄製品 褐色	本小札の札根: 上部 段2段/1段20枚/ /周溝 本小札: 札根6.8cm 、孔径1.0cm、厚 0.4cm	第IV区域 1003地点 S30/S34848
398	穴駒	5.7 3.2	0.4 15.4		鉄製品 褐色	本小札の札根: 3枚 /周溝 本小札: 札根5.7cm 、孔径1.7cm、厚0.4cm	第IV区域 1003地点 S30/S34849
399	穴駒	9.9 7.1	0.4 48.2		鉄製品 褐色	本小札の札根: 1枚 /周溝 本小札: 札根6.5cm 、孔径1.6cm、厚0.3cm	第V区域 1005地点 V29/S34905
400	穴駒	6.7 7.1	0.3 30.6		鉄製品 褐色	本小札の札根: 4枚 /周溝 本小札: 札根6.6cm 、孔径1.2cm、厚0.3cm	第V区域 1005地点 V29/S34905
401	穴駒	7.8 6.8	0.3 27.9	1/5	鉄製品 褐色	本小札の札根: 9枚 /周溝 本小札: 札根6.6cm 、孔径1.8cm、厚0.4cm	第IV区域 1007地点 S33/遺構面 出土小札
402	穴駒	9.0 6.8	0.35 27.9	1/5	鉄製品 褐色	本小札の札根: 11枚 /2段/1段直溝 本小札: 札根6.5cm 、孔径1.8cm、厚 0.3cm	第IV区域 1007地点 S33/遺構面 出土小札
403	穴駒	26.6 6.5	0.38	1/2	鉄製品 褐色	本小札の札根: 23枚 /2段/1段直溝 本小札: 札根5.5cm 、孔径1.7cm、厚 0.38cm	第IV区域 1007地点 S33/遺構面 出土小札
404	穴駒	24.9 6.8	0.4	1/2	鉄製品 褐色	本小札の札根: 19枚 /2段/1段直溝 本小札: 札根6.6cm 、孔径1.8cm、厚0.4cm	第IV区域 1007地点 S33/遺構面 出土小札
405	穴駒	21.5 6.8	0.4 27.9	4/5	鉄製品 褐色	本小札の札根: 30枚 /2段/1段直溝/横溝 本小札: 札根6.6cm 、孔径1.8cm、厚0.4cm	第IV区域 1007地点 S33/遺構面 出土小札
406	穴駒	34.6 6.8	0.3	4/5	鉄製品 褐色	本小札の札根: 48枚 /2段/1段直溝/横溝 本小札: 札根6.8cm 、孔径1.7cm、厚0.3cm	第IV区域 1002地点 S32/遺構面 出土小札
407	穴駒	32.0 6.6	0.3	4/5	鉄製品 褐色	本小札の札根: 47枚 /2段/1段直溝 本小札: 札根6.5cm 、孔径1.7cm、厚0.3cm 、孔径1.2cm、厚0.3cm	第IV区域 1002地点 S33/遺構面 出土小札
408	穴駒	36.0 6.7	0.3	4/5	鉄製品 褐色	本小札の札根: 51枚 /2段/1段直溝 本小札: 札根6.7cm 、孔径1.8cm、厚0.3cm 、孔径1.6cm、厚0.3cm	第IV区域 1002地点 S33/遺構面 出土小札
409	穴駒	38.8 7.0	0.3	4/5	鉄製品 褐色	本小札の札根: 44枚/1 段直溝/横溝/横溝 本小札: 札根5.7cm、 孔径1.8cm、厚0.3cm 、孔径1.8cm、厚 1.0cm、厚0.3cm	第IV区域 1009地点 S33/遺構面 出土小札
410	穴駒	18.9 4.7	0.4	1/2	鉄製品 褐色	本小札の札根: 29 枚/2段/1段直溝/横 溝 本小札: (透付) 6.8 cm、孔径1.8cm、 厚0.38cm	第IV区域 1004地点 R30/遺構面 出土小札
411	穴駒	14.6 4.2	0.4	1/3	鉄製品 褐色	本小札の札根: 18 枚/周溝 本小札: (透付) 6.4 cm、孔径1.7cm、 厚0.38cm	第IV区域 1004地点 R30/遺構面 出土小札

No	器種	横長	厚	残存	材質 色調	特徴	出土地点 備考
412	卓筒	8.3 3.8	6.4 1.2	1/2	磁器 黒色	本小丸の乳白(7枚) /黒漆/内面に下輪 痕あり 本小丸(幅)2:6.4 cm, 乳白1.7cm, 厚2.0, 38cm	第VI区域 3004地点 R-335/S34798 R-335/S34798 上半部欠損
413	卓筒	3.0 1.8	0.38 -	1/10 以下	磁器 黒色	本小丸の乳白(4枚) /乳白	第VI区域 3004地点 R-335/S34798 地上小丸
414	卓筒	8.5 8.7	6.4 -	1/4	磁器 黒色	本小丸の乳白(8枚) /段付/黒漆/黒漆 2枚 本小丸:乳白6.4cm 、乳黒1.7cm、厚 0.4cm/乳白あり	第VI区域 3004地点 R-335/S34798 R-335/S34798 地上小丸
415	卓筒	4.7 5.7	0.4 -	1/6	磁器 黒色	本小丸の乳白(4枚) /段付/黒漆/黒漆 2枚 本小丸:乳白6.4cm 、乳黒1.7cm、厚 0.4cm/乳白あり	第VI区域 3004地点 R-335/S34798 地上小丸
416	卓筒	18.7 6.5	0.4 -	1/8	磁器 黒色	本小丸の乳白(21 枚)/段付/黒漆/黒 漆2枚 本小丸:乳白6.1cm 、乳黒1.7cm、厚 0.4cm/乳白あり	第VI区域 3004地点 R-335/S34798 R-335/S34798 地上小丸

水製品(PL.63 第66~67区)

No	器種	口高	天底	残存	材質 水取	特徴	出土地点
417	唾壺 磁器	4.0 1.5	1.5	1/1	陶器 不明	外:黒漆/内:赤漆 2.ニオキアム(418 トセツト)	第VI区域 R-334/S34798
418	湯呑 陶器	4.1 2.5	2.0	1/1	磁器 水取	外:赤漆/内:赤漆 トセツト/平 面施門部	第VI区域 R-334/S34798
419	陶器 磁器	5.8 4.8	0.3	4/5	磁器 水取	【赤漆(マコ)】 の黒漆	第VI区域 R36/内底上
420	陶器 磁器	5.8 3.5	0.5	2/2	磁器 水取	陶器鉢のケズリ	第VI区域 R35/S34798
421	陶器 磁器	3.9 3.0	0.4	2/5	磁器 水取	陶器鉢のケズリ	出土区域不明 表土
422	陶器 磁器	6.1 6.1	1.5	4/5	磁器 水取	下輪欠損/全体赤化	第VI区域 R36/S34798
423	陶器 磁器	13.4 12.8	0.8	4/5	磁器 水取	復本取り/内外赤 化/円筒形	第VI区域 R-325/S34801
424	排水瓦	16.0 4.2	0.6	1/3	タテ板	体部中程に径0.7cm の円孔/内面赤化	第VI区域 R37/S34798
425	子皿	21.8 2.3	0.3	2/3	ヒノキ 板目材	洗車場裏文庫/外 -内面赤化/漆面に 漆痕・漆皮の 剥離/黒漆剥離	第VI区域 R-335/S34801
426	漆	15.0 12.2	0.3	1/8	漆	外壁:黒漆/内面赤化	第VI区域 R35-36/S34798
427	障子棧	8.5 2.0	1.9	-	ヒノキ 板目材	下輪部欠け/長さ 1.1cm	第VI区域 R-335/S34801
428	障子棧	12.3 2.0	1.5	-	ヒノキ 板目材	上輪部剥離/長 0.8cm/内面赤化	第VI区域 R-335/S34801
429	障子棧	10.3 1.7	1.9	-	ヒノキ 板目材	下輪部剥離/長 0.8cm/内面赤化	第VI区域 R-335/S34801
430	刀子 木製	8.0 2.0	0.6	1/2	ヒノキ 板目材	上輪部段状/下 輪部円筒状/L 1.1cm/内面赤 化/0.25cm/内面赤 化/ケズリ	第VI区域 R34-25/遺物類
431	刀子 木製	8.0 2.0	0.6	1/2	ヒノキ 板目材	上輪部段状/下 輪部円筒状/L 1.1cm/内面赤 化/0.25cm	第VI区域 R34-25/遺物類
432	木刀	23.7 2.4	0.7	1/2	スギ 板目材	下輪部欠損/内面 赤化/黒漆一掃	第VI区域 R35/表土上
433	木刀	16.6 3.0	1.5	1/3	ヒノキ 板目材	下輪部欠損/内面 赤化/黒漆一掃 0.4cmの孔	第VI区域 S33-34/S34797

石製品(PL.63~64 第67~69区)

No	器種	長	厚	残存	材質 色調	特徴	出土地点
433	砥石	5.7 3.4	2.8	1/2	磁器 灰色	砥石/段状/赤 小丸	第VI区域 R26/遺物類
434	砥石	3.0	1.9	4/5	磁器 灰色	砥石/赤漆/黒 漆/1.1cm/厚 4.0	第VI区域 R35/S34798
435	砥石	8.2 4.0	1.5	4/5	磁器 灰色	砥石/赤漆/黒 漆/4cm/厚 4.0	第VI区域 R31/表土
436	砥石	12.0 3.8	1.6	4/5	磁器 灰色	砥石/赤漆/黒 漆/4cm/厚 4.0	第VI区域 R36/S34798
437	砥石	4.5 5.8	1.2	2/4	磁器 灰色	砥石/赤漆/黒 漆/1cm	第VI区域 R38/S34798
438	砥石	5.0	2.6	1/5	磁器 灰色	砥石/赤漆/黒 漆/1cm	第VI区域 R37/表土上
439	砥石	7.6 5.9	1.6	1/2	磁器 灰色	砥石/赤漆/黒 漆/1.1cm	第VI区域 R31-33/S34798
440	石硯	3.0	1.2	1/3	磁器 灰色	砥石/赤漆/黒 漆/1.1cm	第VI区域 R35/表土上
441	石硯	15.0 5.7	1.9	4/5	磁器 灰色	砥石/赤漆/黒 漆/1.1cm	第VI区域 R32/S34798
442	石硯	14.3 8.3	1.9	4/5	磁器 灰色	砥石/赤漆/黒 漆/1.1cm	第VI区域 R32/S34798
No	器種	径	高	残存	材質 色調	特徴	出土地点
443	灰白 下皿	18.5 34.7	8.3 28.0	1/2	陶器 灰白	1.7cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	第VI区域 T27-28/S34804 第VI区域 R36/S34798 R36/S34798
444	灰白 下皿	18.0 33.0	8.5 24.4	1/2	陶器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	第VI区域 R37/S34798
No	器種	口径	高	残存	材質 色調	特徴	出土地点
445	灰白 下皿	21.3 21.3	11.0	1/2	陶器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	出土区域不明 表土
446	灰白 下皿	31.0 11.0	11.5	3/5	陶器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	出土区域不明 表土
No	器種	口径	高	残存	材質 水取	特徴	出土地点
447	黒鉛 下皿	22.0 22.0	18.5	3/5	陶器 黒鉛	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	第VI区域 S3-32/S34798 R34-36/S34798
No	器種	幅	高	残存	材質 色調	特徴	出土地点
448	木製 下皿	49.5 23.5	23.5 48.5	2/3	磁器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	第VI区域 S33/S34797
No	器種	幅	厚	残存	材質 色調	特徴	出土地点
449	パン ドコ	4.0 1.9	2.7 2.1	4/5	磁器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	第VI区域 R25/遺物類
450	パン ドコ	9.4 5.4	2.6	4/5	磁器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	出土区域不明 表土
451	パン ドコ	8.5 5.5	3.7 3.1	4/5	磁器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	第VI区域 R23/S34801
452	パン ドコ	15.0 13.5	10.5 1.5	2/2	磁器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	第VI区域 R32-33/S34797
453	パン ドコ	14.3 12.5	9.2 0.8	4/5	磁器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	第VI区域 R32/S34798
454	パン ドコ	24.4 19.0	4.5 2.3	1/2	磁器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	出土区域不明 表土
455	パン ドコ	25.0 14.5	2.0 2.8	1/2	磁器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	第VI区域 R23-25/S34801 R25/遺物類
456	パン ドコ	23.5 15.6	3.1 2.1	1/2	磁器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	第VI区域 R32/S34798
457	パン ドコ	27.5 16.3	3.1 2.6	4/5	磁器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	出土区域不明 表土
458	有孔 石製品	16.0 7.0	7.0 0.9	-	磁器 灰白	1.0cmの円形輪 穴/乳白/赤漆/黒 漆/分注・黒漆/赤 漆/内底赤化	出土区域不明 遺物類

錢貨 (Pl. 64 第 69-70 圖)

單位: cm/g

單位: cm/g

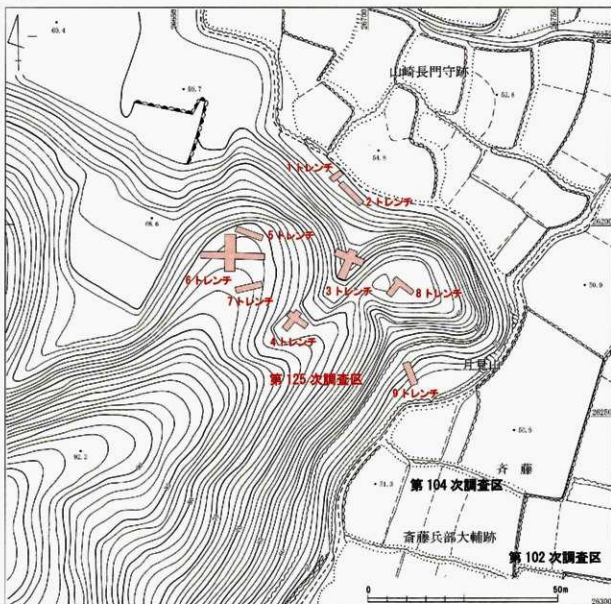
No	種類 台帳番号	法尺(個人編) 徑 厚 重	現存	時期	出土地点	No	種類 台帳番号	法尺(個人編) 徑 厚 重	現存	時期	出土地点
460	四孔通寶 1479	2.2 0.09 1.5	1/1	明 初編1021年	第 I 区域/西側溝 E55-36	475	六孔通寶 12381	2.4 0.12 2.4	1/1	北宋 初編1086年	第 III 区域 V33-24/SS260
461	皇宋通寶 1964	2.4 0.09 2.1	1/1	北宋 初編1058年	第 II 区域/西側溝 K19/埋藏土上	476	咸亨元寶 5999	2.5 0.13 2.7	1/1	唐末 初編1265年	第 V 区域 Q-826/S04794
462	崇寧通寶 2567	2.4 0.08 2.3	1/1	北宋 初編1038年	第 V 区域 L30-32/S04797	477	洪武通寶 14311	2.4 0.12 1.8	1/1	明 初編1368年	第 III 区域 Z28/遺構面
463	皇宋通寶 15781	2.4 0.12 1.7	1/1	北宋 初編1038年	第 III 区域 C7/S0-遺構面	478	永安通寶 14674	2.5 0.13 2.6	1/1	明 初編1308年	第 III 区域 A'24/S'4934
464	皇宋通寶 1968	2.3 0.07 1.7	1/1	北宋 初編1038年	第 II 区域/西側溝 K17/埋藏土上	479	寬永通寶 14667	2.4 0.13 2.4	1/1	1期/古寶水	第 III 区域 A'23/遺構面
465	洪武通寶 1477	2.0 0.17 3.8	1/1	明 初編1368年	第 I 区域/西側溝 E23-38	480	寬永通寶 3961	2.2 0.09 2.4	1/1	3期/新寶水	第 V 区域 R25/遺構面
466	熙寧元寶 1257	2.3 0.12 2.7	1/1	北宋 初編1068年	第 I 区域/不明 或土	481	寬永通寶 14668	2.4 0.12 1.7	1/1	1期/古寶水	第 III 区域 A'22/遺構面
467	熙寧元寶 1257	2.3 0.12 3.3	1/1	北宋 初編1068年	第 I 区域/西側溝 E33-36	482	寬永通寶 2965	2.3 0.08 2.0	1/1		第 V 区域 R25/遺構面
468	熙寧元寶 8252	2.4 0.11 2.5	1/1	北宋 初編1068年	第 V 区域 S31/S04799	483	寬永通寶 10716	2.4 0.09 2.4	1/1	1期/古寶水	第 V 区域 S35/遺構面
469	熙寧元寶 9876	2.4 0.12 3.4	1/1	北宋 初編1068年	第 V 区域 S28/砂粒埋藏土	484	寬永通寶 16395	2.4 0.11 2.7	1/1	3期/新寶水	跡上
470	元豐通寶 6955	2.4 0.11 2.7	1/1	北宋 初編1078年	第 V 区域 Q-826/S04794	485	寬永通寶 4971	1.9 0.09 0.8	1/1		第 III 区域/西側溝 P19/埋藏土
471	元豐通寶 7379	2.4 0.10 2.0	1/1	北宋 初編1078年	第 IV 区域 T29/S04804	486	□□□□ 4891	2.3 0.11 2.4	1/1		第 I 区域/不明 或土
472	元豐通寶 9533	2.3 0.11 2.3	1/1	北宋 初編1078年	第 IV 区域 S28/S04798	487	□□□□ 1258	2.4 0.11 2.1	1/1		第 I 区域/不明 或土
473	元豐通寶 16537	2.4 0.11 3.2	1/1	北宋 初編1078年	第 I 区域/不明	488	□□□□ 1482	2.3 0.07 1.6	1/1		第 I 区域/西側溝 K08-36
474	元祐通寶 2800	2.4 0.09 2.0	1/1	北宋 初編1038年	第 V 区域 W02/遺構面						

V. 第125次調査【城戸ノ内町字齊藤・八地谷・雲正寺（月見槽地区）】

1. 遺構の概要 (PL.41～44 第71・72図)

第125次調査区は、城戸ノ内町 23 字齊藤・35 字八地谷・17 字雲正寺にかかり、第104次調査区北西側の山林尾根先端部に立地している。標高は山裾で約55m、調査区内の最高所となる尾根で約77mを測る。北側には雲正寺の水田が扇状地を形成して東側に下降して広がり、復原整備した町屋や寺院を眺望する(第71図)。

「一乗谷古絵図」では「月見山」と記され、「一乗谷朝倉史跡・伝説」(文9)において「月見槽跡」と記述され、「月見槽跡、朝倉館跡西方前方三百米の地点にある。高さ二十米、頂上に巾七米長さ十米の槽跡があり北方に巾五米傾斜三十五度の堅堀によって、半島形の尾根の先端を利用して、峰の続きに人工を加え、空濠を以って南方の堅堀に続き、独立峰を構成、此処より二米-三米の道路は曲折四十五米台地に続いている。想像するに此地は、月見の節重臣達の集いの場でなかったか。」とあり、槽跡の規模や形状が具体的に述べられている。



第71図 第125次調査位置図(縮尺1/1,000)

調査前に現地踏査を行った結果では、尾根の先端は東西二又に分かれ、東側尾根上の標高約68m地点と西側尾根上の標高約77m地点、東西尾根谷部の標高約72m付近において小規模な平坦面が確認され、東側尾根の東辺に沿って、幅約1.5m、高さ約1.0mを測る土塁状の高まりを確認することができた。

月見山は、「一乗谷古絵図」にも記載されていること。第104次調査の大規模武家屋敷Aの背後に立地すること。現地踏査の結果、跡跡と見られる遺構が確認できたことから、まず、トレンチ調査によって遺構の密度・範囲を把握し、今後の保存・活用の検討資料を得る目的で調査が必要と判断された。

調査地点の設定については、調査区全域が全て民有地であるため、まず、町内会長、保存協会長、福井市文化課の協力を得て、事前に関係者の意向を確認し、平成18年(2006)9月から地元関係者を含めて本格的な協議を行った。地元の快諾・協力を得て、調査地点の選定については、テープを張って地権者に範囲を確認してもらった後に調査を実施することで承諾を得たが、植林や土地管理に影響を及ぼす場所については避けなければならず、調査範囲は限定的なものにとどまった。

調査の方法は、月見山の東西尾根の平坦部と谷部および山裾を対象として1～9トレンチを設定し、遺構の密度、範囲の記録作業を行った。調査区の総面積は500㎡を測る。調査期間は平成19年(2007)10月1日～同年12月20日である(文10)。

2. 遺構(PL.41～44 第72図)

1トレンチ(PL.41 第71・72図) 1トレンチは、月見山の北側の山裾斜面に設定した。トレンチは北東から南西に向けて直線状の形状をとり、規模は長さ5.6m×幅1.0mを測る。

遺構は、標高約55.1m付近で確認され、トレンチ南西端を斜めにかすめるような状態で、石組の遺構が検出された。石組は、板状の笏谷石の端面を上に向けて区画状に堆設し、区画内には礎石と考えられる50cm大の塊石1石を据え、周囲に砂利を充填するという極めて特殊な構造を呈していた。その稀少性から庭に関連する遺構ではないかと考える。その他の遺構としては、溝1・小穴1を検出した。遺物は越前焼壺、土師器皿、白磁杯、染付皿の細片などが出土したが、越前焼鉢1が図化できた。

2トレンチ(PL.41 第71・72図) 2トレンチは、1トレンチの南東側に隣接して設定した。トレンチは南東から北西に向けて直線状の形状をとり、規模は長さ8.0m×幅1.0mを測る。

遺構は、標高約55.1m付近で確認され、小穴3が検出された。小穴はいずれも径約0.3m、深さ約0.3mであり、掘立柱建物の柱穴と考える。

遺物は、越前焼壺、土師器皿、青磁皿、白磁皿、染付皿、青白磁梅瓶、褐釉壺の細片、石製品などが出土したが、越前焼壺2、播鉢3・4、花入5、染付皿6が図化できた。

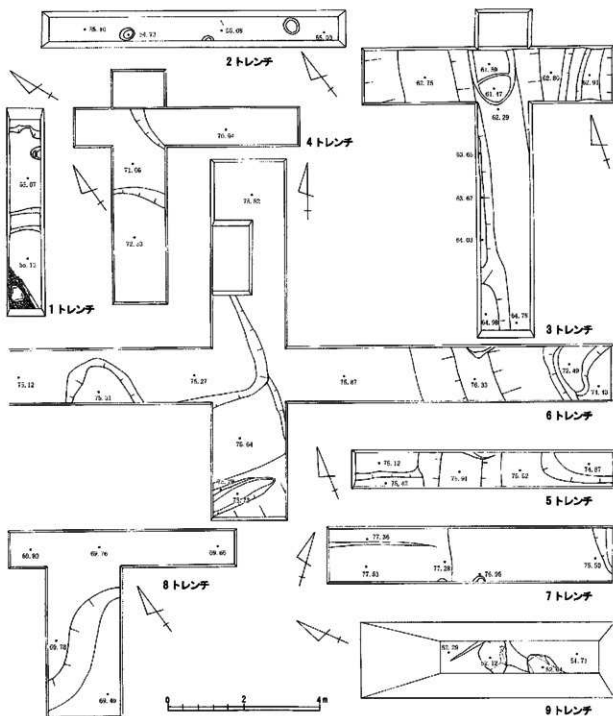
3トレンチ(PL.42 第71・72図) 3トレンチは、月見山の谷部下位の斜面に設定した。トレンチは傾斜に沿って、北東から南西に向けて長さ8.7m×幅1.4mのトレンチを設定した後、それと北側寄りで交差するように、南東から北西にかけて長さ6.6m×幅1.4mのトレンチを設定し、全体で十字状の形状を呈す。

遺構は、標高約62.5～65.5m付近で確認され、溝状遺構2・犬走状遺構2が検出された。傾斜に沿って検出された大型の溝状遺構の断面は逆台形を呈し、幅2.3m、深さ0.6mを測る。概報(文10)では山城に伴う塹壕と想定したが、再検討すると、溝底面が平坦であり焼土面が認められることや、その直上に厚さ約10cmの炭化層が堆積している点などを重視すれば、溝状遺構からは遺物は確認できなかったものの、8～9世紀代に見られる竈跡の窠体である可能性が高い。

北西端の犬走遺構は、上幅1.4mを測り、南東端のものは上幅1.6mを測り、その上に幅0.6mの溝状遺構が重複していた。これらも窠体に伴う付属施設と見る。遺物は表土から土師器皿の細片が出土した。

4トレンチ(PL.43 第71・72図) 4トレンチは、月見山の谷部上位の斜面に設定した。青山氏の記述「曲折四十五米」とされた道路の中間点である。トレンチは傾斜に沿って、北東から南西に向けて長さ6.3m×幅1.4mのトレンチを設定した後、それと交差するように、南東から北西にかけて長さ6.0m×幅1.0mのトレンチを設定し、全体でL字状の形状を呈す。遺構は標高約72.0m付近で確認され、0.8mの段差を2ヶ所で確認した。

5トレンチ(PL.43 第71・72図) 5トレンチは、月見山の東裾尾根上の平坦面先端に設定した。トレンチは東から西に向けて直線状の形状をとり、規模は長さ7.0m×幅1.0mを流る。遺構は、標高約76.0m付近で確認され、トレンチ中央で上幅1.0m、下幅2.2m、高さ約0.4mの土塁が検出された。遺物は上部器皿片が出上した。



第72図 第125次調査1-9トレンチ平面図(縮尺1/100)

6トレンチ(Pl. 43・44 第71・72図) 6トレンチは、月見山の東側尾根上の平坦面上に設定した。トレンチは東から西に向けて長さ17.7m×幅1.4mのトレンチを設定した後、それと中央で交差するように、南から北にかけて長さ9.5m×幅2.0mのトレンチを設定し、全体で十字状の形状を呈す。

遺構は、標高約75.8m付近で確認され、トレンチ東端で上幅1.0m、下幅3.5m、高さ約0.4mを測る土塁が検出された。

土塁は5トレンチの土塁と一連となる。トレンチ中央では、幅3.6m、高さ0.1mを図る階段状の武者走状遺構が検出された。トレンチ西端では、径0.3m、深さ0.5mの小穴と幅2.0m、高さ0.05mを測る土塁状の遺構が検出された。トレンチ南端では幅0.6m、深さ0.1mの溝を検出した。遺物は、越前焼壺、土師器皿、灰釉皿、釘が出土したが、図化不能であった。

7トレンチ(第71・72図) 7トレンチは、月見山の東側尾根上の平坦面南側に設定した。トレンチは北東から南西に向けて直線状の形状をとり、長さ7.6m×幅1.5mを測る。

遺構は、標高約77.5m付近で確認され、南西端で平坦面が検出された。中央から東側は約25°の傾斜面となる。中央南壁付近で径0.2m、深さ0.4mを測る小穴が2つ検出された。遺物は土師器皿が少量出土した。

8トレンチ(Pl. 44 第71・72図) 8トレンチは、月見山の西側尾根上の平坦面中央に設定した。青木氏が「月見槽跡」「独立峰」と呼称した部分に相当する。トレンチは、北東から南西に長さ5.0m×幅2.0mのトレンチを設定した後、北東端で交差するように、南東から北西にかけて長さ6.0m×幅1.0mのトレンチを設定し、全体でL字状の形状を呈す。

遺構は、標高約69.7m付近で確認され、平坦面中央に南西から北東に延びる土塁が検出された。また、土塁から南東側、104次の武家屋敷を見下ろす側には、土塁と0.4mの段差をもって広がる平坦面の一部が検出された。遺物は土師器皿が少量出土した。

9トレンチ(Pl. 44 第71・72図) 9トレンチは、月見山の南側の山裾斜面に設定した。トレンチは南東から北西に向けて直線状の形状をとり、長さ6.7m×幅2.0mを測る。

遺構は、地表下最大3.0m、標高約52.0m付近で確認され、礎石と考えられる80cm大の石と60cm大の石が検出された。石の周囲には焼土が広がり、土師器皿の破片が多く出土した。その様相から庭に関連する遺構と考える。遺物は、越前焼壺・壺・鉢、青磁皿、白磁皿、朝鮮製磁器、銅製品、石製品、炭化材などが出土したが、黄瀬戸皿7、土師器皿8～16、中国製天目茶碗17が図化できた。

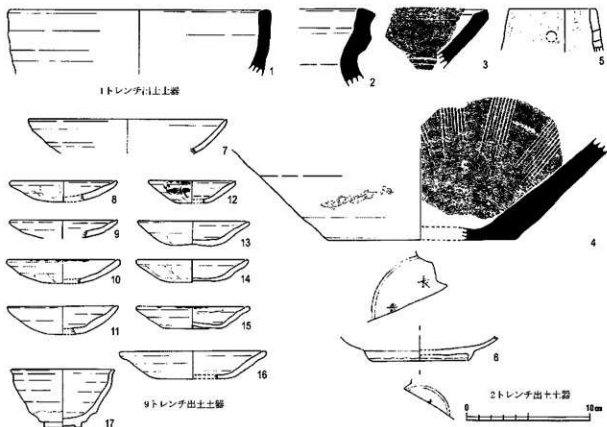
3. 遺物(第73図 表6表)

遺物は、4トレンチを除き、各トレンチから出土した。ほぼ土器類の粗片が占められるが、金属製品、石製品等を含めた総数は255点を数える。そのうち図化できたものは、1・2・9トレンチで出土した土器17点に限られた。詳細は第6表に記し、以下、特徴的なものについて概要を述べる。

1トレンチ出土(第73図) 越前焼鉢1は内湾して上方へ立ち上がる深鉢である。口径21.2cmを測り、底部は平底と推定される。

2トレンチ出土(第73図) 越前焼壺2は口端部内側に凹状の段をもつ。越前焼銅鉢3の外側はシャープに仕上げられ、内面に横方向の卸目が施されている。同銅鉢4は内面に幅2.6cm・8条の卸目が施され、底面は摩耗している。花入5は瓦質土器であり、内外面を黒色磨研で調整している。体部上位に径8mmの円孔を有す。

9トレンチ出土(第73図) 黄瀬戸皿7は口径16.0cmを測る。土師器小皿8～15は口径8.6～9.0cmを測り、8～10は丸底、11～15は平底である。10・12・13は灯明皿として使用され、スガが付着する。天目碗17は胎土が黒灰色で精緻であることから中国製と考える。



第73図 第125次調査 1・2・9トレンチ出土土器(縮尺1/3)

第6表 第125次調査出土遺物観察表(第73頁)

1・2・9トレンチ出土土器(第73頁)

単位:cm

No	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
1	新前期 水	口: 21.2 高: 5.2	焼: 良好 色: 明茶色	輪郭線 白色灰子 彫痕 1/10以下	口縁部:ゆるやかに内湾して上方へ立ち上がる。口縁部は平直	外: 凹部ナデ 内: 凹部ナデ	2トレンチ 内外器残片
2	新前期 大甕		焼: 良好 色: 淡茶色	輪郭線 白色灰子 彫痕 2/10以下	口縁部: 器底でやや外反して斜め外方へ開く。口縁部は平直。口縁部内側に凹状の段をもつ	外: ナデ 内: ナデ	2トレンチ2層
3	新前期 器底		焼: 良好 色: 暗茶灰色	輪郭線 白色灰子 彫痕 2/10以下	口縁部:ゆるやかに外方へ開く。口縁部は平直で内側に傾く	外: ナデ 内: ナデ 内面: 四方筒の線目 シャ・フタ付土器	2トレンチ3層
4	花入	口: 7.0 高: 3.5	焼: 良好 色: 黒色	輪郭線 白色灰子 彫痕 1/10以下	口縁部: やや内湾して上方へ立ち上がる。口縁部は平直。器底: 上段に径6mmの円孔	外: 凹部彫 内: 凹部彫	2トレンチ3層
5	新前期 器底	高: 8.0 径: 18.0	焼: 良好 色: 茶色	輪郭線 彫痕 1/8	体部: 斜め外方へ広がり立ち上がる	外: 体部凹部ナデ/底面内縁に縦目尻/底面 4層型 内: 体部凹部ナデ/底面ナデ・彫痕/径2.6 cm・8層の跡目	2トレンチ2層 遺物直上
6	舟形 甕	高: 2.1 径: 8.0	焼: 良好 色: 透明白色	滑らか	口縁部: 内湾して上方へ立ち上がる。底面: 舟形出し高台	外: 高台土上に引取線縁/底面に引取線縁/器底内に長文文字 内: 底面に引取線縁/器底内に長横で「目」 文を記す	2トレンチ3層 遺物直上 高台陶器ハゲ
7	黄銅 器	口: 16.0 径: 2.8	焼: 良好 色: 黄銅色	彫痕	口縁部: 内湾して上方へ立ち上がり、口縁部でやや外反して傾直。口縁部は広く外反し丸く収める	外: 口縁部一帯型ナデ/器底ナデ後部凹部 内: 口縁部一帯型ナデ	2トレンチ2層地層下 砂利面 9トレンチ出土
8	上層器 小瓶	口: 8.6 高: 1.7 径: 3.0	焼: 良好 色: 黄銅色	輪郭線 彫痕 1/10以下	口縁部: 前縁部に斜め外方へ立ち上がる。口縁部は丸く収めて内側に段をもつ。底面: 平直	外: 口縁部ヨコナデ/器底ナデ後部凹部 内: 口縁部ヨコナデ	9トレンチ2層地層下 砂利面
9	上層器 小瓶	口: 8.4 高: 1.6	焼: 良好 色: 黄銅色	輪郭線 彫痕 1/10以下	口縁部: 前縁部に斜め外方へ立ち上がる。口縁部は内湾へやや外湾する。口縁部は丸く収める	外: 口縁部ヨコナデ/器底ナデ後部凹部 内: 口縁部ヨコナデ	9トレンチ2層地層下 砂利面
10	上層器 小瓶	口: 9.0 高: 1.9 径: 3.0	焼: 良好 色: 黄銅色	輪郭線 彫痕 1/6	口縁部: 前縁部に斜め外方へ立ち上がる。口縁部は丸く収める。底面: 平直	外: 口縁部ヨコナデ/器底ナデ後部凹部 内: 口縁部ヨコナデ	9トレンチ2層地層下 砂利面 口縁部一帯スス付着

V. 第125次調査

単位:cm

No.	器種	法量	焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備 考
11	土師器 小皿	口: 8.8 高: 2.3 底: 2.0	焼: 良好 色: 橙褐色	灰砂粒 数箇 1/8	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ後部頸裏 内: 口縁部～底部ナデ	9トレンチ惣地層下 砂利面
12	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.8 底: 2.4	焼: 良好 色: 黒色	灰砂粒 数箇 1/8	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口部部は斜く外方へ屈曲する/口部部は上 方へ立ち上がり丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ後部頸裏 内: 口縁部～底部ナデ	9トレンチ惣地層下 砂利面 外: スス付着
13	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 4.2	焼: 良好 色: 橙褐色	灰砂粒 数箇 1/2	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口部部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ後部頸裏 内: 口縁部～底部ナデ	9トレンチ惣地層下 砂利面 外: スス付着
14	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 3.5	焼: 良好 色: 橙褐色	灰砂粒 数箇 1/4	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口部部は斜く外方へ屈曲する/口部部は上 方へ立ち上がり丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ後部頸裏 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	9トレンチ惣地層下 砂利面
15	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 4.3	焼: 良好 色: 橙褐色	灰砂粒 数箇 1/8	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口部部は斜く外反する/口部部は丸く収め る/小位に段をもつ 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ 内: 口縁部～底部ナデ	9トレンチ惣地層下 砂利面
16	土師器 小皿	口: 11.8 高: 2.3 底: 6.9	焼: 良好 色: 橙白色	灰砂粒 数箇 1/8	口縁部: 直線状に斜の外方へ立ち上がる/ 口部部は斜く外反する/口部部は丸く収め る/中位に段をもつ 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	9トレンチ惣地層下 砂利面
17	中腹輪 状物 灰目皿	口: 8.2 高: 4.7 底: 3.9	焼: 良好 色: 洗滌赤色	灰砂粒 数箇 1/8	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がり/口部 部で上方へ膨出。口部部は斜く外反し丸 く収める 底部: 能ノ目高台	外: 口縁部～体部下位凹部ナデ 内: 口縁部～体部下位凹部ナデ	9トレンチ惣地層下 砂利面 体部下位～底部輪ハダ

V. まとめ

1. 第82次調査 第82次調査は、「馬場」を備えた武家屋敷の全体像が明らかになった。第I区域の遺構を概観すると、掘立柱建物SB4274を中心とした鍛冶工房に関連する遺構が検出され、鍛冶がSX4313・4316から鉾や焼土が検出された。井戸SE4277の水は埋変遺構SK4309に供給されたと考えられ、工房稼働時の様相が明らかになった。SE4277はSX4311と対となり生産に関連する沈場として維持されたためか、若干の土器類が出土したのみであった。ただ、稀少な朝鮮象嵌壺164の破片がSE4277とSK4309から出土していることから、壺の所有者が鍛冶工房といかなる関連性があったのか関心がもたれる。「嘉定通寶」321～325が出土した小土坑SK4317や櫛の羽口212・213が出土したSX4316は鍛冶生産に関わる儀礼的側面を表象していると考えられる。井戸SE4276は、土器類は僅かだが、火箸、鉄釘等の金属製品と大量の木製品が出土し、曲物、折敷、箸は儀礼を伴う宴席で使用されたものが廃棄されたのかもしれない。カマドSX4280は複式炉の構造をもつが、つくりは簡素であり、大量の湯が一時的に必要とされる需要によって、屋外に構築された施設ではないかと考える。第II区域SX4279も同様であり、鍛冶生産や馬匹飼育だけでなく、儀礼や湯起請(文14)の需要も想定される。第III区域は、第25次調査区土塁石垣SA892・893からなる鉾折部が主体となる。鉾折部は敵からの見通しを遮り、内蔵した暗渠SZ914を介して北東隅から排水を行っていた。

第IV区域は礎石建物SB831・832・841と櫓SB836・846・840、掘立柱建物SB842が検出され、馬匹飼育に関連する遺構が主体を占める。土塁石垣構築以前のI期では、馬櫓が付属する厩舎として掘立柱建物SB842と櫓SA840が構築され、次に南側に大規模な馬櫓SA836・846が設けられたと考える。櫓内中央に構築された掘立柱建物SB869はI期の遺構であり、櫓の設置後に建てられた管理施設の可能性がある。II期では門SI821や井戸SE850、SB841などが馬匹飼育の付属施設として拡充が図られたと考える。門SI821は馬の出入りを想定し、門外側の内寸幅は4.0mを測る。III期に至り、山側に礎石建物SB831・832、櫓SB834が設けられ、厩舎を南側に備えた管理施設として機能していたと考える。この時期に、土塁石垣SA892とSA265の間に新たに門が構築され、井戸SE847・848・850、越前焼大甕の埋変遺構SK854などが馬匹飼育の付属施設として拡充し、馬匹の増加に伴う水の供給体制等が整えられたようである。馬匹の良し悪しや頭数がクニ、ひいては朝倉氏の権勢を暗喩していたと仮定すれば、馬櫓SA836の西側に隣接して構築された庭SG829や礎石建物SB837は、来訪者にとって庭越しに馬へ目線を向け、情報を吟味して、策略を練る場でもあったのではないかと考える。

2. 第102・104次調査 第82次の武家屋敷跡の北方に位置し、両調査の成果を照合した結果、3つの武家屋敷跡を確認することができた。そのうち、南北道路SS260の西側一帯を占める大規模武家屋敷Aについては、「齊藤」の地名が「一乗谷古絵図」中の「さいとうひょうぶ齊藤兵部人輔跡」に由来する可能性が高いこと、地形的に「齊藤」の主要部を占める点から、5代朝倉義景の側室であるさいしょうしょう少少將の父、「さいとうひょうぶ齊藤兵部少輔」の屋敷である可能性が格段に高まった。齊藤兵部少輔は、朝倉家臣団の一人でありながら、出自・実名は不明であり、実子に新三郎、義景の側室である少少將がいる。朝倉館南方に位置する、少少將が居住したと伝えられる諏訪館の庭園にある立石が美濃から運ばれたとする伝承があり、齊藤兵部少輔は美濃国の守護代齊藤氏に関連する人物とみる説もある。文献上では、元亀元年(1570)4月、織田信長の越前侵攻に際し、武田中務大輔とともに一乗谷を守護したことや、同年9月に朝倉軍が近江坂本に出陣した際に息子の新三郎も従軍し、義景から感状を受けている記録が残る。天正元年(1573)8月、刀禰坂の戦いで敗戦し、義景一族とともに齊藤兵部少輔、新三郎父子も大野郡へ同行している。大野賢松寺にて義景自害後は、少少將、愛玉丸と共に護送されたが、その後経緯は不明である。

武家屋敷Aは、第Ⅰ・Ⅲ～Ⅴ区域の遺構で構成され、外寸で北辺17m以上×東辺98m×南辺50m以上×西辺109m以上を測り、敷地面積は約3,700㎡以上の規模と推定された。第Ⅰ区域の遺構は武家屋敷Aの南側に位置し、東側土塁石垣SA4760内に門SI14750、礎石建物SB4787の区画溝SD4752・4753・4765等が検出された。第Ⅰ区域にかかるSD4755は溝の末端部にあり、陶磁器類114～125、銭貨「熙寧元寶」170、「政口通寶」173が出土した。E26では包含層中から双鶴亀菊梅花文鏡が出土した。西側のSG4758は庭と考えられる。全体的に後世の削平を受けていたものの、砂利敷面が所々に散見され、広場であった可能性がある。第Ⅲ区域の西側半分は武家屋敷Aにかかる遺構で構成され、主な遺構として大型の方形石積施設SF4815・第Ⅳ・4813が門SI14817周辺で検出された。SF4813ではほぼ方形の土師器皿137～139・141が出土し、SF4814では方形の鉄軸大海茶入142、銭貨「永樂通寶」1476が出土しており、石積施設は溜槽のような役割で構築されたのではないかと考える。青磁裝飾375は出土例が稀な笨架または花瓶の脚と考える。第Ⅳ区域は、主な遺構として礎石建物SB4790と区画溝SD4848・4805・4806が検出された。SB4790は建物①・②でなり、武家屋敷Aの主殿に相当し、北側はSD4808に区画されていた。さらに北側には屈曲するSD4806が検出された。この一帯から完粋397～400、草摺402～405、410～416、大袖406～409などの甲冑が散乱して出土し、金銅製の鎧金具384も含まれる。判断には慎重を要するが、この場所における戦闘行為は想像に難くない。第Ⅴ区域は屋敷の敷地を南北に区画するSD4797・4798を含めた以南に相当し、南端部は第Ⅰ区域と接する。遺構はⅡ期に西側の礎石建物SB4788・土蔵SB4789、東側にSB4846・4787がⅢ期に構築された後、Ⅲ期にSB4788の南側にSB4786を構築していることが明らかになった。遺物は豊富であり、大型の青磁盤195・198や青磁花托206・陽刺牡丹・唐草文をもつ瓶284・348、染付双耳瓶325など優品が出土した。SB4788の東側の区画溝SD4801からは、焼土や炭化物とともに大量の廃棄された土器類が出土し、X008地点から金象嵌沈金瑠果文硯箱が出土した。

3. 第125次調査 「一乗谷古絵図」で「月見山」と記され、武家屋敷Aだけでなく、北側の小扇状地にある町屋や寺院も眺望できる立地は、防衛施設を構える条件を満たし、武家屋敷Aに付随する槽跡と見られる。北側の山裾斜面に設定したトレンチの石組遺構は、庭と推定できる要素を備えていた。

参考文献

Ⅱ～Ⅴ区域

1. 安城晋春日神社編「一乗谷古絵図」『福井市史』資料編別巻絵図・地図 福井市 1989年3月
 2. 福井県立朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡。平成5年度発掘調査環境整備事業概要(25) 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 1994年3月
 3. 同編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡Ⅳ』-第15・25次、第24次-福井県立 一乗谷朝倉氏遺跡資料館 1993年3月
 4. 同編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡Ⅴ』-昭和49年度発掘調査事業概要 報 福井県教育委員会 朝倉氏遺跡調査研究所 1975年3月
 5. 同編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅱ』-第10・11次、第54次調査- 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 1998年3月
 6. 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅲ』-第68・74・75次調査- 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2021年3月
 7. 福井県立朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡』平成10年度発掘調査環境整備事業概要(50)-福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 1999年3月
 8. 同編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡』平成11年度発掘調査環境整備事業概要(31)-福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2000年3月
 9. 山崎作太郎「一乗谷朝倉史跡」伝説編田武、山本武平。1972年7月
 10. 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡』38-平成10年度発掘調査・環境整備事業概要-福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2008年3月
- その他
11. 小野止雄「戦国城下町の考古学」-乗谷乗谷からのメッセージ-』『讀史誌』1997年7月
 12. 近藤邦久「大谷の成立・有馬成求の足元から」『特別展兵の時代 古代末期の關東社会』平野幸治編 横浜市歴史博物館、(財)こまきふるさと歴史文化財団センター。1998年10月
 13. 堀口隆博 渡辺哲吾『図解武器と甲冑』株式会社ファン・パブリッシング 2021年6月
 14. 清水克行『日本中世史』中央公論新社。2020年5月
 15. 櫻井清治『小扇の考古学』築志書院。2010年10月
 16. 土屋山洋子「坂崎宮守 園村直樹編『大連路遺跡』本文・図版編 日本港湾東北自動車道関係発掘調査報告書X X X V 新潟県埋蔵文化財調査報告書第221巻 新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2011年3月
 17. 藤村邦雄 久田正弘編『七尾市 七尾城跡』『統一戦国遺跡470号発掘自動車道七尾城跡発掘調査報告書』石川県教育委員会 財団法人石川県埋蔵文化財センター。2021年3月
 18. 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『記念特別展戦国城下町一乗谷を歩く-発掘調査と環境整備のあゆみ』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2011年7月福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『第19回企画展 戦国一乗谷の園籠-伝統と革新の園籠デザイン』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2012年8月
 19. 松原淳之「朝倉美林孝景以後の歴史(1)名鑑」『越前 朝倉一族』新入社文化社 1996年11月
 20. 同『朝倉氏と越前村一乗谷』吉川弘文館 2017年2月
 21. 水野邦雄 佐藤上樹編『朝倉朝倉氏と一乗谷』築志書院 2002年11月
 22. 渡辺哲吾「イラストでわかる日本の甲冑」株式会社メール社 2021年2月

写 真 图 版



(1)第82次調査区遠景(南から)



(2)第82次調査区遠景(東から)



(1)第I区域遺構全景(西から)



(2)第I区域遺構全景(北東から)



(1) 第Ⅰ区域遺構全景(南から)



(2) 第Ⅰ区域遺構全景(北から)



(1)SA4260、SD4269、SX4315(西から)



(2)SB4274、SX4316、SK4317(東から)



3



5



4



6

(3)SX4316羽口(東から) (4)SX4316(東から)

(5)SX4303(北から) (6)SX4303南北断面(西から)



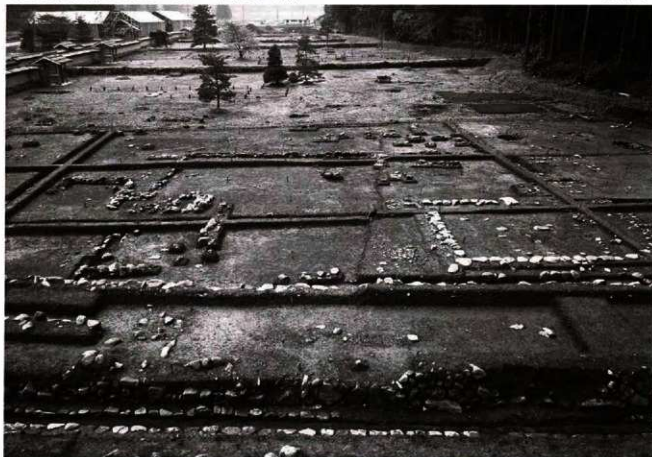
(1)SK4309・4313(東から) (2)SX4310～4313(東から) (3)SX4310・4311、SE4277(西から) (4)SE4276(西から)
 (5)SX4280(西から) (6)SX4281(西から)



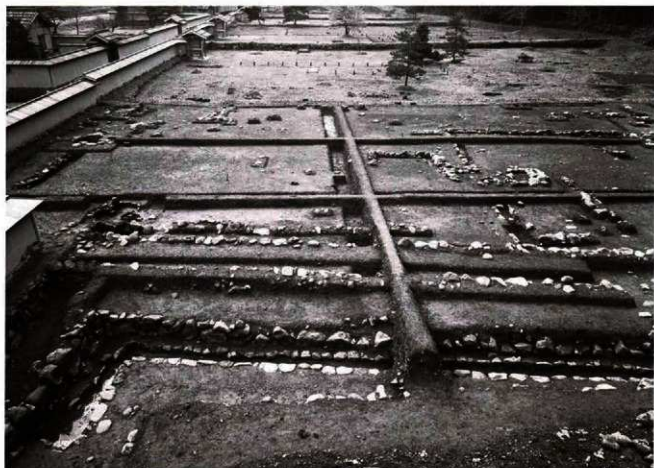
(1)第Ⅱ区域遺構全景(南から)



(2)第Ⅱ区域遺構全景(南から)



(1) 第Ⅱ区域遺構全景(北から)



(2) 第Ⅱ区域遺構全景(北から)



(1)SA4260, SV940, SD4268(東から)



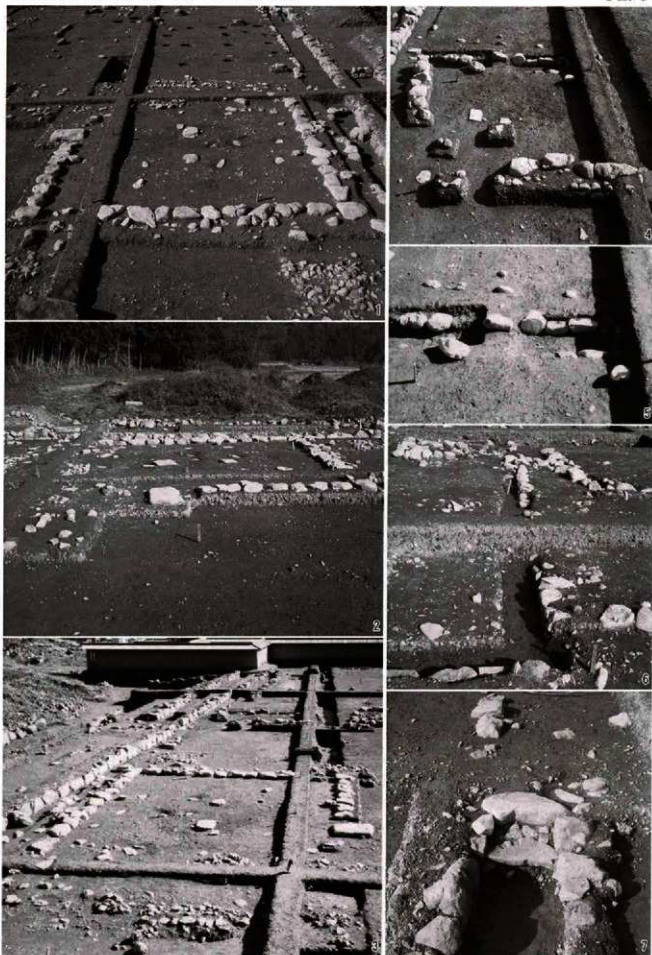
(2)SD4268, SZ4319(西から)



(3)SZ4319(西から)



(4)SD4268・4270, SV940・4263(北西から)



(1)SB4273(東から) (2)SB4273(南から) (3)SB4273(西から) (4)SX4291・4292、SD4271(西から)
 (5)SD4271(西から) (6)SD4271・4272(南から) (7)SD4272西端(東から)



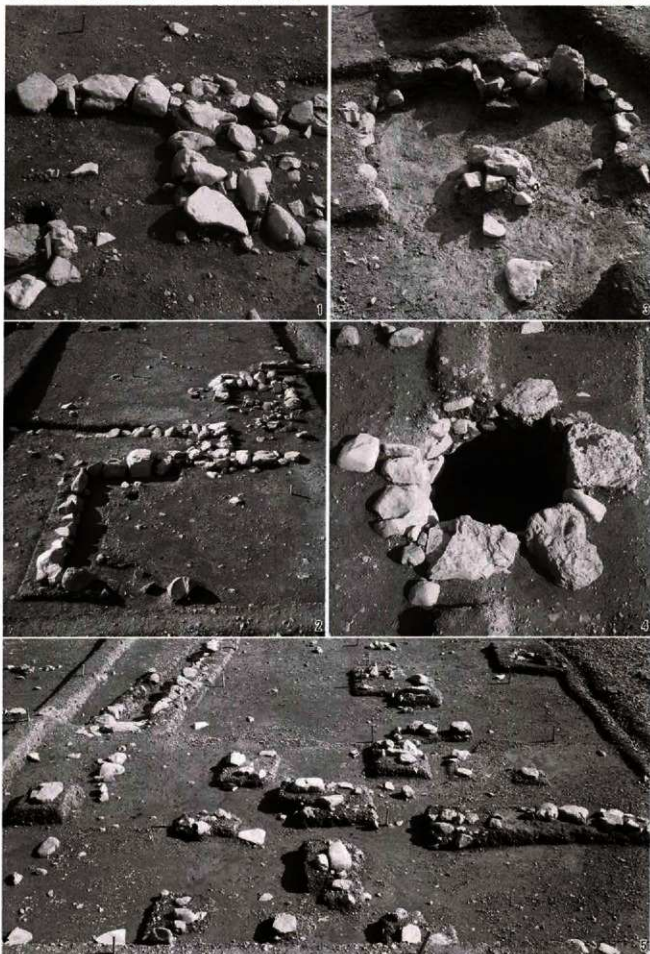
(1)SD4271・4272、SX4289・4290・4296・4302、SV4266(東から)



(2)SD4271・4272(東から)



(3)SD4272(西から)



(1)SX4290(北から) (2)SX4289・4266、SD4271(東から) (3)SX4279(南西から) (4)SE4275(西から)
(5)SX4299、SB4300(西から)



(1) X001: T28土師器皿(西から)



(2) X002: SB4273土師器皿(北から)



(3) 第Ⅲ区域遺構全景(北から)



(1) 矩折部SA892・893(北から) (2) 矩折部SA892・893(東から) (3) SD901、SZ4319(北東から)
 (4) SD901、SZ4319(東から) (5) 矩折部SA893(南から) (6) 矩折部SA893、SZ914(西から) (7) SZ914(南から)



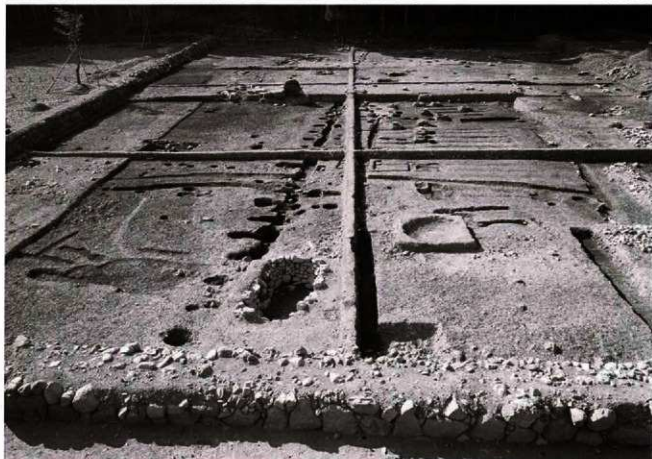
(1)第Ⅳ区域遺構全景(北東から)



(2)SA265、SS260(北から)



(3)SA265、SS260(南から)



(1) 第IV区域遺構全景(東から)



(2) 第IV区域遺構全景(北西から)



(1)SA857, SB831・832, SK886(南から) (2)SB831・832, SK886(東から) (3)SI821(東から) (4)SX854(南から)
 (5)SE849(北から) (6)SF851(南から)



(1)SB837・SG829(南から)



(2)SB837・SG829(西から)



(1)第102・104次調査区遠景(南から)



(2)第102・104次調査区遠景(南東から)



(1) 第102・104次調査区遠景(南東から)



(2) 第102・104次調査区遠景(東から)



(1) 第102・104次調査区遠景(南から)



(1) 第I区域遺構全景(北から)



(2) 第I区域遺構全景(北西から)



(1) 第Ⅰ区域遺構全景(北から)



(2) 第Ⅰ区域遺構全景(西から)



(1)SX4758(北東から) (2)SD4755・4756(北東から) (3)SE4811(北東から) (4)SE4751(西から)



(5)SA893・4760、SI4750、SD4752・4753、SX4765、SE4751(東から)



(1)第Ⅱ区域遺構全景(北から)



(2)第Ⅱ区域遺構全景(東から)



(1)SA4763、SS260(北西から)



(2)SA4760・4763、SS260、SX4761(北から)



(3)SA4760・4763、SS260、SX4761(南から)



(1)SB4767(北から)



(2)SI4762(西から)



(1) 第Ⅲ区域遺構全景(北東から)



(2) 第Ⅲ区域遺構全景(東から) (3)SS260, SA4780(南から)



(4)SS260, SA4780(北から)



(1)第Ⅲ区域遺構全景(北から)



(2)第Ⅲ区域遺構全景(北東から) (3)第Ⅲ区域遺構全景(南東から) (4)第Ⅲ区域遺構全景(東から)
 (5)第Ⅲ区域遺構全景(北東から)



(1)SA4783(南東から)



(2)SA4783(北西から)



(3)SA4781(北東から)



(1)SA4781・4782、SS260(南から)



(2)SI4817(東から) (3)SI4817(西から)



(4)SI4817(南から) (5)SI4816(西から)



(6)SI4816(東から)



(1)SD4809(南東から) (2)SD4808(東から) (3)SD4810(南西から) (4)SZ4845(北東から) (5)SZ4845(北西から)
(6)SZ4844(西から)



(1)SF4813(南西から) (2)SF4814(西から)

(3)SF4815(南西から) (4)SF4815(南西から)



(5)SX4834(東から)



(1)第Ⅳ区域遺構全景(北東から)



(2)SD4805・4848、SK4819(東から) (3)SD4848、SX4835(南東から) (4)SX4835(南から) (5)SB4790(南から)



(1) X001~003:SD4848甲冑出土状況(南西から) (2)同(北西から) (3) X001:草摺401~405(南東から) (4) X002:大袖406~409(東から)
 (5) X003:兜箱397・398(北東から) (6) X004:SD4848草摺416(北東から) (7) X005:SD4805兜箱399・400(西から)



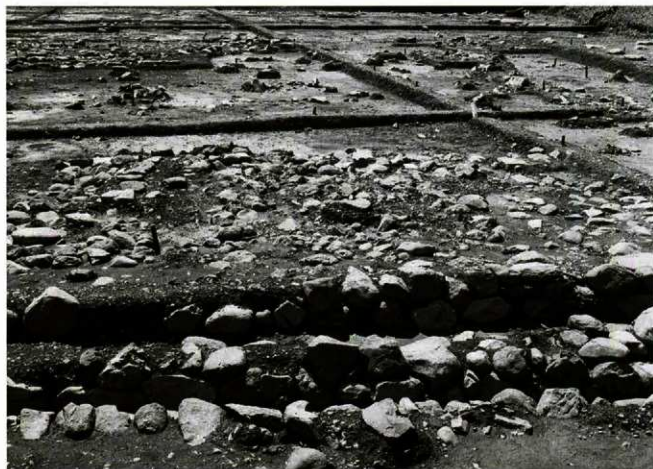
(1) 第V区域遺構全景(南東から)



(2) 第V区域遺構全景(東から)



(1)第V区域遺構全景(南西から)



(2)SB4789(北から)



(1)SB4786(南西から) (2)SB4786(南西から) (3)SB4786(南東から) (4)SB4846・4787、SD4792・4793・4765・4850(南西から)



(1)SD4797・4798・4801、SB4789(西から)



(1)SD4798、SZ4843(西から) (2)SD4794~4796(西から) (3)SD4794~4796(南から)



(4)SD4753・4792・4765、SF4826・4827(西から)



(1)SE4812(西から)



(2)X006:SB4789板材(北から)



(3)X007:SD4793土師器皿(北から)



(1) 第125次調査区遠景(南東から)



(2) 1トレンチ(北東から) (3) 1トレンチ南西端石組遺構(北から) (4) 2トレンチ(南から) (5) 2トレンチ(南東から)



(1)3トレンチ設定(北から) (2)3トレンチ北端断面(南から) (3)3トレンチ(北東から)



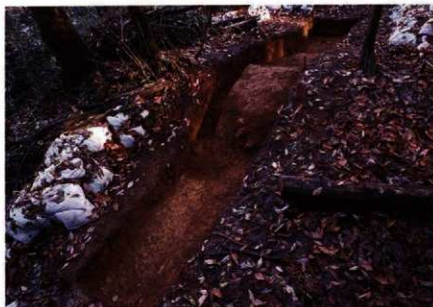
(4)3トレンチ(南から)



(1)4トレンチ設定(南西から)



(2)4トレンチ(南西から)



(3)5トレンチ西端(西から)



(4)5トレンチ東端(東から)



(5)6トレンチ設定(西から)



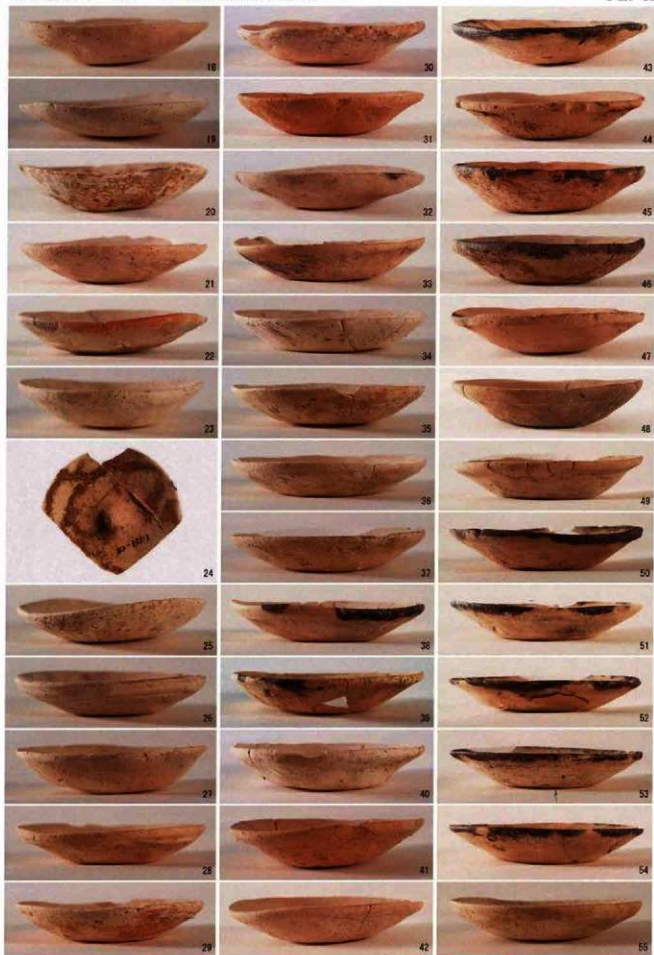
(6)6トレンチ東端(西から)



(1)6トレンチ(南東から) (2)6トレンチ(南から) (3)6トレンチ東端(東から) (4)6トレンチ東端(南から)



(5)8トレンチ(南東から) (6)9トレンチ東端(南東から) (7)9トレンチ(南西から)



(1) 第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器



(1)第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器



(2)SA4260出土土器

(3)SA4260, SB4274, SE4277出土土器

(4)SK4309出土土器



(1)SB4273、SX4303・4290出土土器

(2)SX4288、SF4278出土土器 (3)SE4275、SB4273出土土器



(4)SD4270出土土器



(5)SD4272出土土器

(6)SD4271、SA893出土土器



(7)土甌、土製円盤、輪羽口

(8)鉄錐、鉄釘、火箸、飾金具、釵、筭



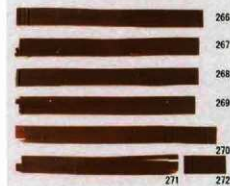
(1) 斧、鉄鏃、彈丸



(2) 小札



(5) 蓋、漆器碗、折敷



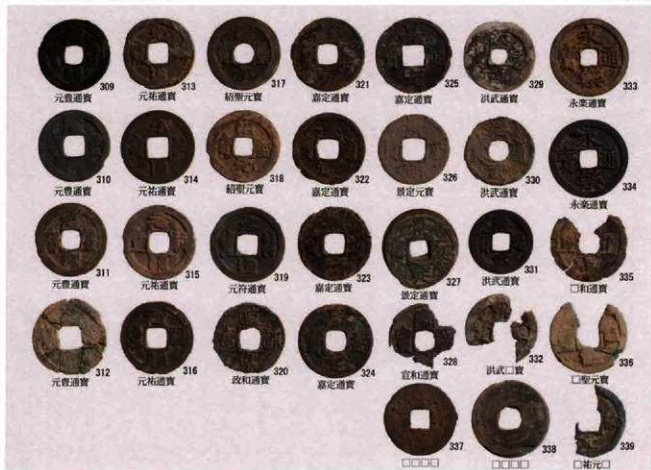
(6) 銭貨



(3) 砥石

(4) パンドコ、茶臼





(1) 銭貨

第102次調査 第Ⅰ・Ⅱ区域包含層出土土器



(2) 第Ⅰ区域包含層出土土器



(1)SB4776出土土器

(3)SD4752出土土器

(5)SD4755出土土器



(2)SI4750出土土器

(4)SD4753出土土器

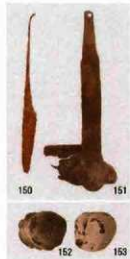
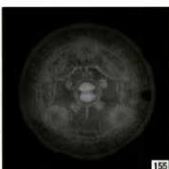
(7)SS260出土土器



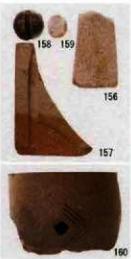
(8)土製円盤、形象品



(9)銅鏡

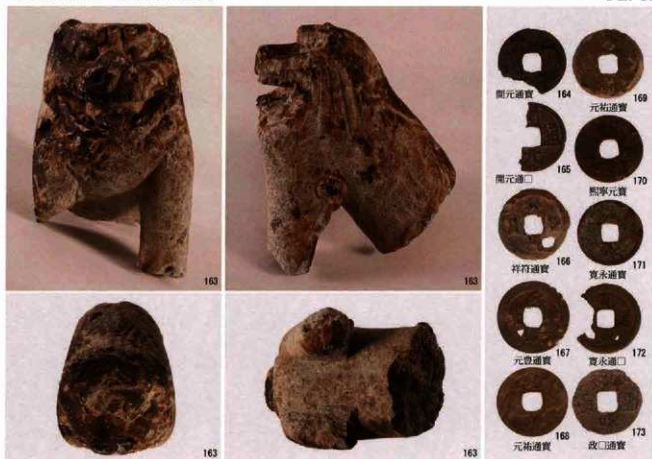


(10)和談、兜飾金具、彈丸



(11)駒石、砥石、石硯、茶臼、バンドコ

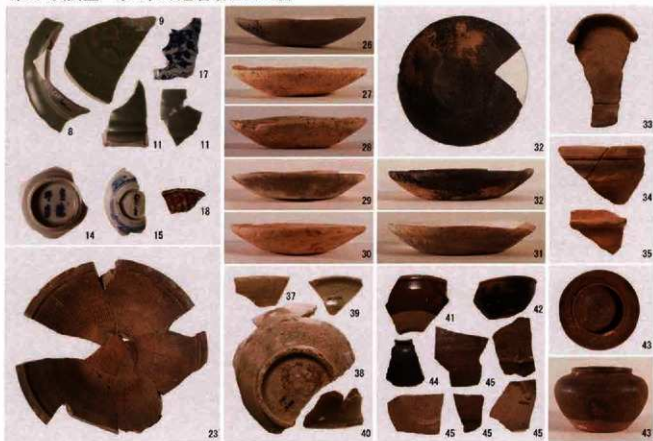




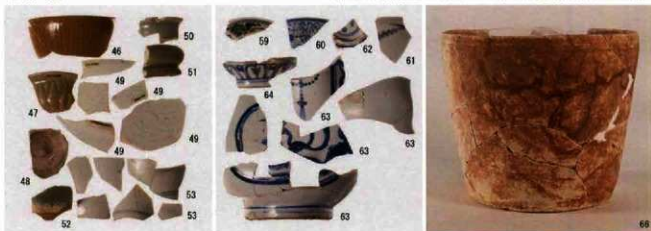
(1)獅子・狛犬

(2)錢貨

第104次調査 第Ⅲ区域包含層出土土器



(3)表土、第Ⅲ区域包含層出土土器

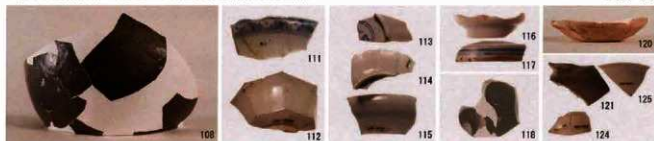


(1) 第Ⅲ区域包含層出土土器

(2) 第Ⅳ区域包含層出土土器



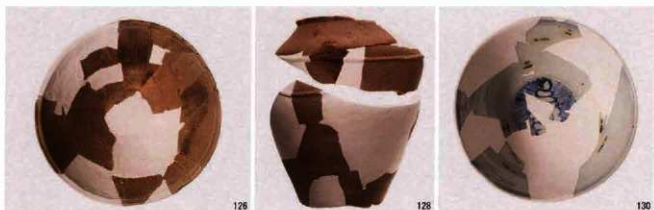
(3) 第Ⅴ区域包含層出土土器



(1)SA4782出土土器

(2)SA4784出土土器

(3)SA4783、SS260、SA4760・4780出土土器



128

128

130



126

131

130

(4)SI4817、SD4808出土土器

(5)SI4816出土土器



134

138

146

148

135

139

136

140

137

141

(6)SF4815出土土器



142

143

144

145

150

151

154

155

149

149

153

158

160

152

159

162

162

163

164

169

162

165

167

170

171

(6)SF4813出土土器

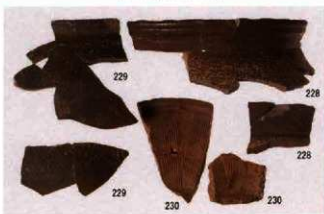
(7)SX4834・4842出土土器

(8)SX4840、SB4790出土土器

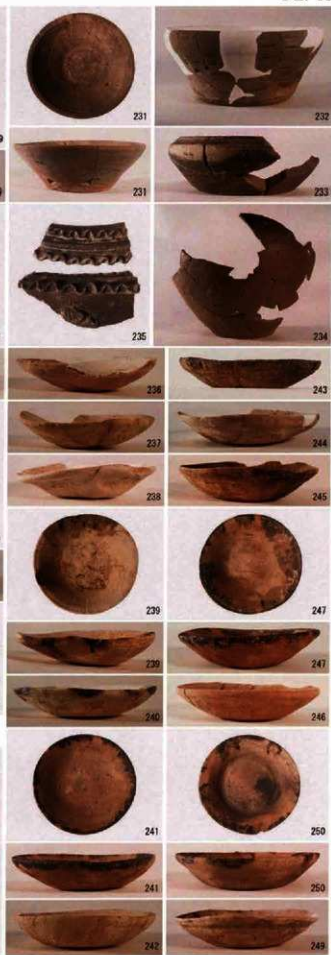




(1)SD4797出土土器



(2)SD4798出土土器



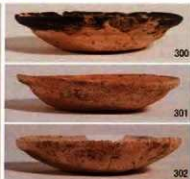
(3)SD4798出土土器



(1)SD4798出土土器



(1)SD4798出土土器



(2)SD4794出土土器



(3)SD4795・4796・4753出土土器



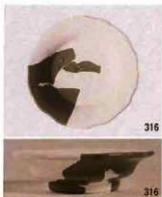
(4)SD4796出土土器



(5)SD4793出土土器



(7)SS4823出土土器



(6)SD4755出土土器



(8)SS4824出土土器



(9)SD4801出土土器



(1)SD4801出土土器



(2)土錘

(3)土製円盤、蓋、仏像

(4)青磁裝飾、薬研



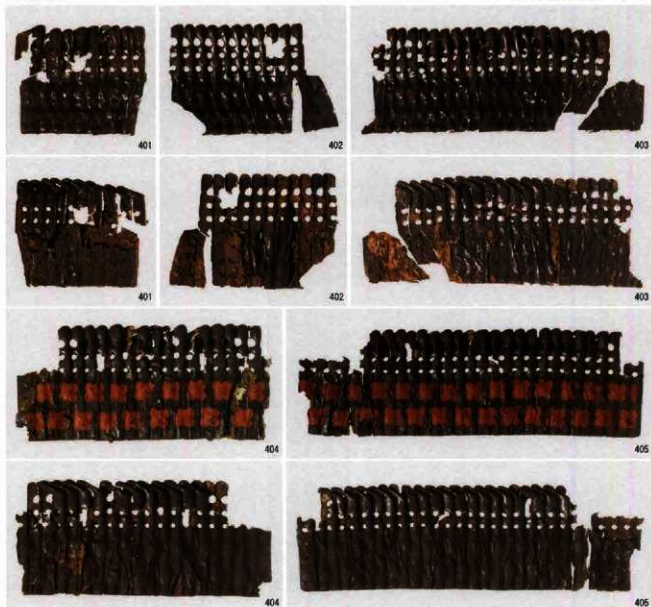
(1)小札、飾金具、紅皿、貴金具、煙管、金匙、鉄鎌、小柄

(2)鉄釘、切羽、蓋

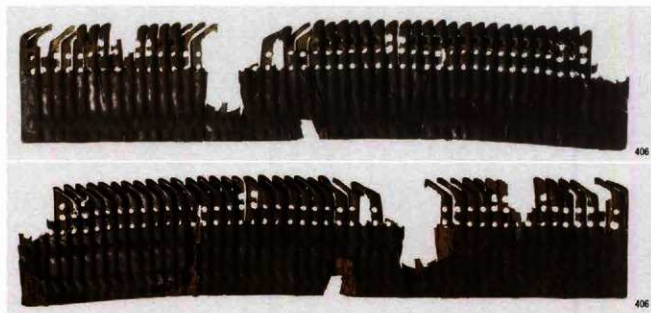


(3)X003出土兜鞆

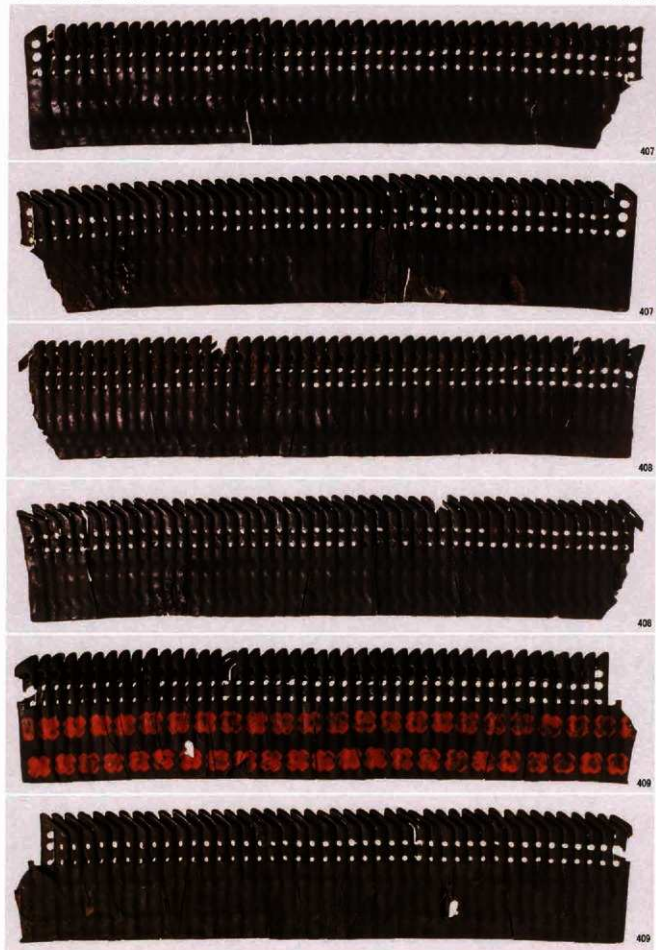
(4)X003・005出土兜鞆



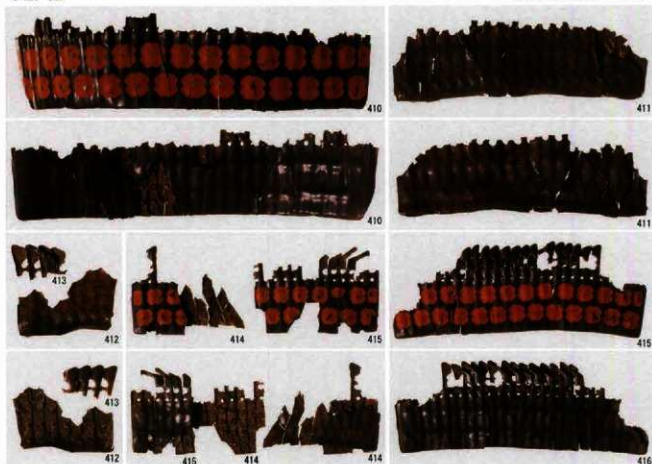
(1) X001出土草摺



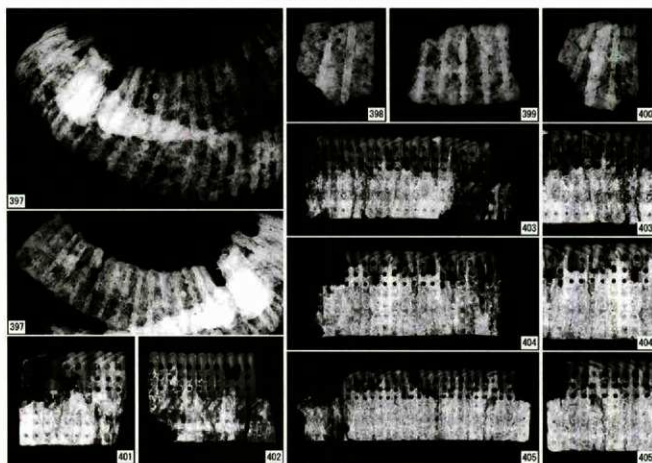
(2) X002出土大袖



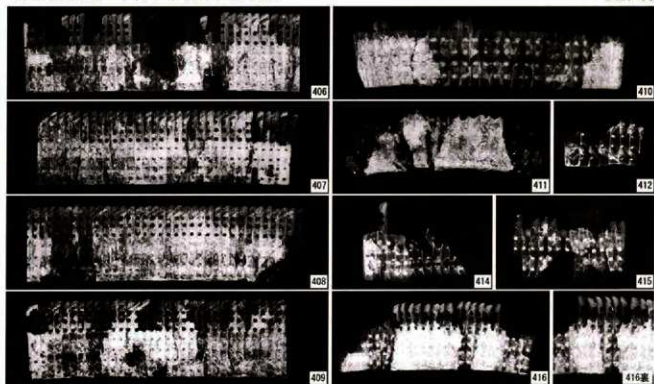
(1) X002出土大袖



(1) X004. その他出土草摺



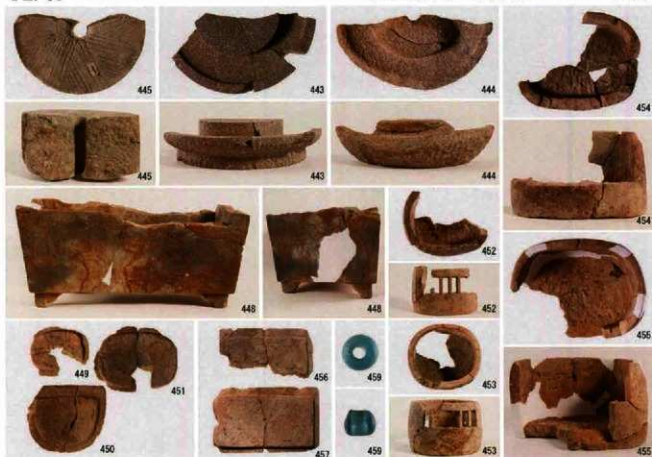
(2) X003出土兜衝、X001出土草摺X線写真



(1) X002出土大袖、X004出土草摺X線写真



(2) 漆器、曲物、刺物容器、花入、手箱、箱、障子棧、木柄、砥石、石硯



(1) 石臼、茶臼、石盤、バンドコ、ガラス玉



(2) 銭貨

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき いちじょうだにあさくらしいせきはつくつちようさほうこく
書名	特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 20
副書名	第82・102・104・125次発掘調査
シリーズ番号	20
編著者名	鈴木篤英
編集機関	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館
所在地	〒910-2152 福井県福井市安波賀町4-10 TEL. 0776-41-2301
発行年月日	令和4年3月24日

調査地区	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	道跡番号					
第82次 第Ⅰ区域 第Ⅱ区域	福井県福井市城戸ノ内町 宇斉藤	18210	史 31	36度 00分 0秒	136度 17分 36秒	19930401～ 19930822	1,920㎡	環境整備に伴う 発掘調査
第102次 第Ⅰ区域 第Ⅱ区域	福井県福井市城戸ノ内町 宇斉藤	＃	＃	36度 59分 37秒	136度 17分 44秒	19980401～ 199812200	2,300㎡	＃
第104次 第Ⅲ区域 第Ⅳ区域 第Ⅴ区域	福井県福井市城戸ノ内町 宇斉藤	＃	＃	36度 59分 37秒	136度 17分 44秒	19990401～ 199901220	2,000㎡	＃
第125次	福井県福井市城戸ノ内町 宇斉藤・八地谷・養正寺 (月見輪地区)	＃	＃	35度 59分 53秒	136度 00分 28秒	20081001～ 20081220	500㎡	＃

調査地区	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
第82次 第Ⅰ区域 第Ⅱ区域	屋敷跡	室町・織田 15・16世紀	土塁石垣2、道路1、礎石 建物2、榑立柱建物1、溝 3、運搬土坑群1、鍛冶炉2、 カマド3、石列4、井戸3	越前焼、土師器皿、鉄軸、灰軸、 瓦質土器、青磁、白磁、染付、 朝鮮象嵌漆、土埴、土製円燈、 羽口、鉄鏝、火箸、鉄釘、飾 金具、髹、笄、鉄鏝、彈丸、 小札、磁石、バンドコ、茶臼、 漆器碗、櫛、曲物、木刀、折 敷、箸、銭貨	概報：『特別史跡 一乗谷朝 倉氏遺跡』平成5年度発 掘調査環境整備事業概要 (25) 1994年3月
第102次 第Ⅰ区域 第Ⅱ区域	屋敷跡	＃	土塁石垣2、門2、道路1、 礎石建物1、溝5、井戸3、 庭1、石敷遺構2	越前焼、土師器皿、鉄軸、灰軸、 瓦質土器、青磁、白磁、染付、 土製円盤、形象品、和紙、充 飾金具、彈丸、煙管、銅鏝、 硝石、石硯、茶臼、バンドコ、 獅子・狛犬、銭貨	概報：『特別史跡 一乗谷朝 倉氏遺跡』平成10年度発 掘調査環境整備事業概要 (30) 1999年3月
第104次 第Ⅲ区域 第Ⅳ区域 第Ⅴ区域	＃	＃	土塁石垣7、門2、道路2、 通路3、礎石建物6、溝 18、暗渠2、井戸1、石積 施設5、石敷遺構4	越前焼、土師器皿、鉄軸、灰軸、 瓦質土器、青磁、青白磁、白 磁、染付、交趾三彩、朝鮮陶 器、タイ製四耳壺、土埴、土 製円盤、タイ製三彩仏像、青 磁裝飾品、栗研、鉄釘、鍍金具、 黄金具、紅玉、金匙、蒸、煙管、 鉄鏝、小柄、切羽、小札、兜懸、 草摺、大袖、漆器碗、曲物、福 引物容器、拵花生、履袴、編 子棧、木柄、木刀、磁石、石 硯、茶臼、石臼、風鈴、かま バンドコ、有孔土製品、銭貨	概報：『特別史跡 一乗谷朝 倉氏遺跡』平成11年度 発掘調査環境整備事業概要 (31) 2000年3月
第125次	櫛跡	＃	土塁、竈跡	越前焼、土師器皿、黄瀬戸、 青磁、白磁、染付、中国製天 目碗、朝鮮磁器、銅製品、石 製品、炭化材	概報：『特別史跡 一乗谷朝 倉氏遺跡』38 平成19年 度発掘調査・環境整備事業 概要 2008年3月

令和4年3月15日 印刷

令和4年3月24日 発行

特別史跡

一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告20

第82・102・104・125次調査

編 集 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

発 行 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

〒910-2152 福井市安波賀町4-10

印 刷 株式会社 竹下印刷所